

## 総合演習Ⅰ

〔担 当 者〕 杉能 道明 他 7 名  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

8名の教員が8グループ（1グループ15名程度の受講生で構成）を分担して行う本授業では、大学論、学問論を通して大学とは何か、学問とは何かを考えるとともに、視野を広げ、様々な考え方を身につけ、意識を高める。3～4名で構成される班は、与えられたテーマ（課題）に基づいて疑問や問題を見出し、資料を探し、考え、発表し、討論することを通して、自らを錬磨し、高めていく。

## ●到達目標：

この授業の目的は、(1) 演習形式の授業に慣れること、(2) 今後の研究に必要な基礎的方法（テーマ設定、資料収集、レポートの書き方など）を学ぶこと、(3) 自らが調べた内容を発表及びレポートを通して、論理的で分かり易く、説得力のある表現方法を身につけること、(4) 研究課題を通して問題点を見つけ、視野を広げること、(5) 相手の意見を聞き、自分の考えを表明することにある。

## ●成績評価の基準：

課題レポート（2回）：62%（到達目標 2, 3, 4）  
 グループ評価（準備、発表、討論のテーマ）：20%（到達目標 3, 4, 5）  
 授業への取組態度：10%（到達目標 1, 2, 3, 4, 5）  
 特別講演（2回）の課題：8%（到達目標 4）

## ●留意事項：

(1) この授業を通して、十分な論理的思考と表現力を身につけることができるよう、自ら積極的に授業に取り組むこと。自分で資料を探し、吟味することが重要である。  
 (2) 配布されるテキスト「アカデミック・ラーニング」と「大学の世界（抜粋）」を読んでおくこと。読んでいることを前提に授業を行う。  
 (3) 班単位での活動が多くなるので、班のメンバーとしての義務と責任を果たすこと。  
 (4) 各教員のオフィシアワーはオリエンテーションで指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

授業の方針、レポートの書き方、本の読み方に関するオリエンテーションを行った後、受講生は8グループに分けられ、各グループに1名の教員が配置される。特定の課題について、受講生は資料を収集し、発表・討論を行う。

- オリエンテーションⅠ（目的・概要・本の読み方）
- オリエンテーションⅡ（模擬演習・レポートの書き方）
- 特別講演（大学論）
- 大学論Ⅰ：大学の役割（リベラル・アーツとは）
- 大学論Ⅱ：大学で何を学ぶか
- 大学論Ⅲ：大学と余暇
- 大学論Ⅳ：自由選択
- オリエンテーションⅢ（レポートの書き方）
- オリエンテーションⅣ（授業とレポートの講評）
- 特別講演（学問論）
- 学問論Ⅰ
- 学問論Ⅱ
- 学問論Ⅲ
- 学問論Ⅳ
  - ※教育、心理、社会、芸術の観点から追求する。
- オリエンテーションⅤ
- オリエンテーションⅥ（総合演習Ⅱ及び夏期休暇課題の説明）
  - ※大学論のレポートは、添削して返却する。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業の準備・発表は班単位で行うので、資料の収集ではメンバーが分担し、発表内容の構成と吟味、討論テーマを決定する際には、メンバー間で十分に話し合うことが必要となる。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
 テキスト・資料を配布する。  
 ＜参考書等＞  
 特になし（自分で資料を探すことが重要）

## 総合演習Ⅱ

〔担 当 者〕 杉能 道明 他 8 名  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

8名の教員が8グループ（1グループ15名程度）を分担して行う本授業では、教育論、人間論を通して社会問題、生き方を扱い、社会及び世界への視野を広げ、意識を高める。3～4名で構成される班は、選択したテーマに基づいて資料を探し、考え、発表し、問題点を見出し、討論することを通して、自らを錬磨する。教育論では、予め設定したテーマに沿って附属幼稚園及び附属小学校で観察実習を体験し、資料収集を通して発表を行う。

## ●到達目標：

この授業の目的は、(1) 演習形式の授業に慣れること、(2) 研究に必要な基礎的方法（資料収集、レポートの書き方）を学ぶこと、(3) 自らが調べた内容を発表及びレポートを通して、論理的で分かり易く、説得力のある表現方法を身につけること、(4) 課題を通して問題点を見つけ、視野を広げること、(5) 相手の意見を聞き、自分の意見を表明することにある。

## ●成績評価の基準：

課題レポート（2回）：60%  
 グループ評価（準備、発表、討論のテーマ）：20%  
 授業への取組態度：10%  
 特別講演（2回）の課題：6%  
 夏期休業課題：4%

## ●留意事項：

総合演習Ⅰを参照。9月中の観察実習は全員参加とする。従って、この期間に行われる集中講義よりも優先されるので、履修の際に注意すること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

担当教員の中に幼稚園、小学校で勤務した経験をもつ者がいる。この実務経験をもとに、教育論の中で附属幼稚園と附属小学校で観察実習を行う際、実習を受け入れる学校園の視点・先輩教師としての視点から、学生に指導助言を行う。事前事後指導や観察実習中に、観察の視点・態度・身なり・留意点等について、どうあるべきかを自覚できるようにする。

## ●授業予定一覧：

9月中に観察実習を実施（附属幼稚園、附属小学校）する。予め設定したテーマ（例えば、遊び、ことば、授業、保育、教育環境、発達、教員の資質等）に沿って観察を行う。

- 観察実習（附属幼稚園・附属小学校） ※3日間を予定
- 観察実習（附属幼稚園・附属小学校）
- 観察実習（まとめ、保育士・教職の説明、ボランティアについて）
- 教育論Ⅰ
- 教育論Ⅱ
- 教育論Ⅲ
- 教育論Ⅳ
- 中間講評とオリエンテーション
- CCI 公開講演
- レポートの振り返り
- 特別講演
- 人間論Ⅰ：子どもについて
- 人間論Ⅱ：若者について
- 人間論Ⅲ：女性について
- 人間論Ⅳ：高齢者について
- まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

総合演習Ⅰを参照。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
 なし  
 ＜参考書等＞  
 自分で資料を探すことが重要

## 心理学概論

〔担 当 者〕 石原 金由  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330A1-1000-o2

### ●本授業の概要：

心理学の基礎的領域について最小限の基本的内容を解りやすく解説し、心理学とはどのような学問かを知ってもらう。2回ないし3回の課題及び質問はmanaba folio を介して行う。

### ●到達目標：

1. 心理学とはどのような学問かを理解することができる。
2. 取り上げる領域は心理学の基礎的領域なので、幅広く心理学に触れることができる。
3. 講義を通して科学的・論理的な考え方を身につけることができる。

### ●成績評価の基準：

試験：70％  
課題3回：30％

### ●留意事項：

1. 多くの1年生にとって、それまで思い描いていた心理学とは違和感をもつかもかもしれませんが、ヒトを理解する上で最も基本的・基礎的内容であることを意識してほしい。
2. 質問等は、授業中、電子メールまたはmanabaの掲示板で随時受け付けます。
3. 課題提出や受講生への連絡にはmanabaを利用しますので、リマインダ登録を忘れずに。
4. オフィスアワー：金曜日 9,10時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 心理学とは
- 2 行動の生物学的基礎（生得的行動）
- 3 行動の生物学的基礎（初期経験）
- 4 学習（条件付け）
- 5 学習（認知学習・知覚運動学習）
- 6 記憶（感覚記憶・短期記憶）
- 7 記憶（長期記憶・忘却）
- 8 脳の構造と機能
- 9 発達（ピアジェの発達理論）
- 10 発達（自我同一性）
- 11 発達（発達障害）
- 12 動機（欲求）
- 13 動機（ストレス）
- 14 感覚・知覚
- 15 人格
- 16 試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

とくに予習をする必要はありませんが、かなり幅広い範囲を扱うので（換言すればかなりの知識の習得が必要）、復習は必須です。興味のあるトピックについては、是非本を読んでほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
なし

<参考書等>  
興味を持った内容については、自主的に本を読んで欲しい。文献の検索も学習の一つです。また、担当者に尋ねれば参考図書を紹介します。

## 小児の健全育成

〔担 当 者〕 本保 恭子  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330A1-1000-o2

### ●本授業の概要：

小児と親の心身の健康を維持・増進させるために、保育・教育および養育上必要なことを学ぶ。

### ●到達目標：

1. 小児の健全育成に必要な事項について理解する。
2. 小児の健全育成に関する基本的知識を身につけ、日常的に親子を取り巻く話題に関心を持ち続ける。
3. 各回で取り上げられたテーマについて自分の考えを述べるができる。
4. 実習やボランティアの場面において、小児の健全な発達支援の観点から実践する姿勢を持つ。

### ●成績評価の基準：

小テストあるいはレポート 20％（到達目標1, 3, 4）  
筆記試験 80％（到達目標1, 2, 3, 4）

### ●留意事項：

小児は社会の一員であるという認識に立って、その健全な成長・発達を推進するよう家庭環境、社会環境を整備する必要があることを理解し、授業に臨んでほしい。

オフィスアワー 火曜日 7,8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 小児の健康の現状と健康・福祉の指標
- 2 少子高齢化と母子保健対策
- 3 少子高齢化と地域の取り組み
- 4 幼児・児童の体力
- 5 幼児・児童の運動能力
- 6 アレルギー性疾患（1）アレルギーのメカニズム
- 7 アレルギー性疾患（2）症状と対応
- 8 小児の食生活
- 9 食育,食文化
- 10 子どもの生活と環境
- 11 子どものけが,事故
- 12 安全対策と遊び場環境
- 13 愛着と歪む生命倫理
- 14 いのちの教育
- 15 子育て支援
- 16 筆記試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

期末の試験では、毎回の授業内容についてより発展的で実践につながる論述を求めるため、日ごろから新聞や関連図書に関心を持ち見識を深めておいてほしい。また、それぞれのテーマにおいて問題意識につながるポイントを示すので、そのことについて各自の考えを論述できるよう授業外学習を進めてほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
随時資料を配付する。

## 教育原理

〔担 当 者〕西井 麻美  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330A1-1000-x2

## ●本授業の概要：

教育の制度や思想に関する歴史的流れをふまえて、教育の意義・目的を考える。また、国内および国際社会両方に目を向けて、地域、家庭、学校に係る教育について学ぶとともに、これからの持続可能な社会に求められる教育のあり方について考察する。

## ●到達目標：

教育の理念や概念について、一般的に体系化された教育理論を理解するとともに、歴史や思想について把握し、これまでの教育や学校の営みを理解する。また、具体的な社会や人々の姿を反映させて教育課題を考えていき、これらの社会を切り拓く教育像を考える力を養うことを目標とする。

## ●成績評価の基準：

課題提出 50% レポート試験 50% により総合的に評価する。

## ●留意事項：

自らの意志を持って積極的に取り組んでもらいたい。  
 オフィスアワー：授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

第1回：オリエンテーション  
 第2回：教育とは何か（教育の本質、目標）  
 第3回：教育学についての基本的概念の理解  
 第4回：現代社会における教育の要素と相互関係  
 第5回：今日の国際社会における教育政策：ESD  
 第6回：教育の歴史にみる教育原理（家庭、社会を中心に）  
 第7回：近代における教育の制度・政策  
 第8回：現代社会における教育課題（歴史的視点をふまえて）  
 第9回：教育法規にみる教育原理（1）教育基本法  
 第10回：教育法規にみる教育原理（2）学校教育法 等  
 第11回：生涯学習社会に求められる教育  
 第12回：地域・家庭と子どもの教育思想  
 第13回：学校に関わる教育思想と教育家  
 第14回：学習に関わる教育思想と教育家  
 第15回：教育改革の動向からこれからの持続可能な社会に向けた教育を  
 探る  
 定期試験は実施しない（かわりに小テスト、課題レポートを課す）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

教育学を探究するためには、国内外の教育動向などに幅広く目配りすることと、教育研究から学ぶ必要がある。そのため、授業外学習でこれらについて自主的に学んでいってもらいたい。また、授業外学習についての課題も出すので、積極的に取り組んで欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

教育学キーワード、小澤周三編、有斐閣  
 持続可能な開発のための教育（ESD）の理論と実践、西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里、ミネルヴァ書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業中に適宜指示する。

## 児童文化論 I

〔担 当 者〕村中 李衣 他 2 名  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

子どもは本来、まわりの人たちとかかわり、五感を働かせるような体験をたっぷり行うことによって、知性、感性など、人間としての基本能力を身につけていくものである。わらべ歌、絵本、昔話などは、その補助として非常に有効な児童文化財だったが、いま、子どもたちの発達、メディアの急速な進化によって大きな危険にさらされている。この講義では、子ども本来の発達には何が必要かを学び、現在のメディア環境のなかでできることは何かを考えていく。

## ●到達目標：

1. 現代のメディア文化のなかで育ってきたことの意味とそこにひそむ問題について認識し、世間の風潮に流されることのない判断力を持つ  
 2. 子どもの本の現状を理解し、絵本や児童書についての深い洞察力を持つ  
 3. わらべうたや、様々な児童文化財についての基本的な理解ができる

## ●成績評価の基準：

各授業回ごとに、課題に沿ってテキストを完成させていく。最終的にそのテキストを授業担当者がチェックし、到達目標 1, 2, 3 を達成できているかどうかについて、採点する（80%）。特別講義終了時の感想シートによる理解度の確認（20%）

## ●留意事項：

現代児童文化の諸問題に関する報道、論説などに気を配り、メモや切り抜きを集めることを習慣づけてほしい。自分の育ってきた道のりで出会ったことなども整理していくので関係資料等の収集に心がけること。  
 オフィスアワー：授業中にそれぞれの担当が指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

村中は児童文学の実作者として到達目標 2 を達成するために、子どもの本の現状をわかりやすく具体的に解説していく  
 三宅は幼稚園、片平は保育園での実務経験を元に、到達目標 3 を達成するために、現場での子どもの文化環境について受講生に解説していく  
 特別講師吉村玲子・赤松百合子は家庭文庫等で行っている親子を対象としたわらべうた指導の経験を元に、到達目標 3 を達成するために、わらべうたの実践を通しその本質を伝える  
 特別講師脇明子は児童文学の翻訳家、岡山こどもの本の会代表として、到達目標 1 及び 2 を達成するために、メディア社会の現状と子どもが本を読むことの意味等について解説していく

## ●授業予定一覧：

① 児童文化とは何か（村中）  
 ② 子どもと世界（村中）  
 ③ 図書館との出会い（図書館ガイダンス）（三宅）  
 ④ 子どもと時間（村中）  
 ⑤ 自分ものがたり・その 1（村中）  
 ⑥ 自分ものがたり・その 2（村中）  
 ⑦ 声の文化・その 1（片平・特別講師 吉村玲子・赤松百合子）  
 ⑧ 声の文化・その 2（片平）  
 ⑨ 子どもと遊び・その 1（村中）  
 ⑩ 子どもと遊び・その 2（村中）  
 ⑪ 子どもと消費社会・その 1（村中）  
 ⑫ 子どもと消費社会・その 2（村中）  
 ⑬ 子どもとヒーロー（村中）  
 ⑭ 子どもと読書・その 1（片平）  
 ⑮ 子どもと読書・その 2（三宅・特別講師 脇明子）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

テキストの進行に沿って、毎回課題を指示します。

## 【必携書（教科書販売）】

感じあう 伝えあう ワークで学ぶ児童文化、村中李衣編著、金子書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

子どもと音楽

〔担 当 者〕熊澤 住子 他2名  
〔開 講 期〕2期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330A1-1000-o2

●本授業の概要：

子どもの音楽を感じる力を引き出すためには、保育者や教師自身の音楽の基礎力や表現力が必要である。本授業では、楽譜から音楽を読み取り歌う力や、音楽の仕組みを理解する力を身に付け、子どもの興味・関心や場面によって曲を変化させる応用力も養いたい。

●到達目標：

- 1. 基本的な楽譜の読み書きができる。
- 2. 楽譜を見て歌うことができる。
- 3. 音楽の諸要素を理解した上で、移調や旋律の和音付けを実施することができる。

●成績評価の基準：

小テスト 70%（到達目標1,3）  
定期試験 30%（到達目標2）

●留意事項：

学修の積み重ねが大事な授業なので、理解ができない時には授業の中で質問するか、オフィスアワーを活用すること。  
オフィスアワーは授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、楽典的な知識の習得のみを目指すのではなく、いかに教育・保育現場でその知識を活かすことができるかという点について実例を示しながら体験的に学ぶことを促す。

●授業予定一覧：

- 1 音楽実践の内容及方法（概要）・クラス分けテスト〈藤掛〉  
楽譜を読む
- 2 音の長さ（音符と休符・拍子）〈熊澤・池田〉
- 3 音の高さ（譜表・音名）〈熊澤・池田〉
- 4 演奏記号と用語〔小テスト1〕〈熊澤・池田〉  
音楽の仕組みを理解するー基礎編ー
- 5 音程（幹音同士の音程）〔小テスト2〕、2度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 6 音程（派生音を含む音程）、3度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 7 音階（長音階）〔小テスト3〕、4度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 8 音階（短音階）、4度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 9 音階（調）、5度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 10 音階（調・日本の音階）〔小テスト4〕、5度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 11 和音〔小テスト5〕、ハ長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉  
音楽の仕組みを理解するー応用編ー
- 12 移調〔小テスト6〕、ト長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉
- 13 移調、ヘ長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉
- 14 旋律の和音付け〔小テスト7〕、ニ長調・変ロ長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉
- 15 楽曲の仕組みの理解〔小テスト8〕、歌唱の復習〈熊澤・池田〉
- 16 定期試験〈熊澤・池田・藤掛〉

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・テキストの練習問題について、授業中に終わらない場合は授業外に実施すること。（問題数をこなすことによって理解が深まります）
- ・歌唱の課題については、譜読みをして授業に臨み、授業後繰り返し歌うこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜必携書＞  
『音楽基礎』熊澤住子著（授業中に販売）

＜参考書等＞  
必要に応じて紹介する。

音楽基礎

〔担 当 者〕熊澤 住子 他2名  
〔開 講 期〕2期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330A1-1000-o2

●本授業の概要：

子どもの音楽を感じる力を引き出すためには、保育者や教師自身の音楽の基礎力や表現力が必要である。本授業では、楽譜から音楽を読み取り歌う力や、音楽の仕組みを理解する力を身に付け、子どもの興味・関心や場面によって曲を変化させる応用力も養いたい。

●到達目標：

- 1. 基本的な楽譜の読み書きができる。
- 2. 楽譜を見て歌うことができる。
- 3. 音楽の諸要素を理解した上で、移調や旋律の和音付けを実施することができる。

●成績評価の基準：

小テスト 70%（到達目標1,3）  
定期試験 30%（到達目標2）

●留意事項：

学修の積み重ねが大事な授業なので、理解ができない時には授業の中で質問するか、オフィスアワーを活用すること。  
オフィスアワーは授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、楽典的な知識の習得のみを目指すのではなく、いかに教育・保育現場でその知識を活かすことができるかという点について実例を示しながら体験的に学ぶことを促す。

●授業予定一覧：

- 1 音楽実践の内容及方法（概要）・クラス分けテスト〈藤掛〉  
楽譜を読む
- 2 音の長さ（音符と休符・拍子）〈熊澤・池田〉
- 3 音の高さ（譜表・音名）〈熊澤・池田〉
- 4 演奏記号と用語〔小テスト1〕〈熊澤・池田〉  
音楽の仕組みを理解するー基礎編ー
- 5 音程（幹音同士の音程）〔小テスト2〕、2度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 6 音程（派生音を含む音程）、3度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 7 音階（長音階）〔小テスト3〕、4度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 8 音階（短音階）、4度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 9 音階（調）、5度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 10 音階（調・日本の音階）〔小テスト4〕、5度音程の歌唱〈熊澤・池田〉
- 11 和音〔小テスト5〕、ハ長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉  
音楽の仕組みを理解するー応用編ー
- 12 移調〔小テスト6〕、ト長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉
- 13 移調、ヘ長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉
- 14 旋律の和音付け〔小テスト7〕、ニ長調・変ロ長調の曲の歌唱〈熊澤・池田〉
- 15 楽曲の仕組みの理解〔小テスト8〕、歌唱の復習〈熊澤・池田〉
- 16 定期試験〈熊澤・池田・藤掛〉

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・テキストの練習問題について、授業中に終わらない場合は授業外に実施すること。（問題数をこなすことによって理解が深まります）
- ・歌唱の課題については、譜読みをして授業に臨み、授業後繰り返し歌うこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜必携書＞  
『音楽基礎』熊澤住子著（授業中に販売）

＜参考書等＞  
必要に応じて紹介する。



## 美術基礎 [a]

〔担 当 者〕 小田 久美子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

表現及び鑑賞の活動を通し、絵画・造形に関する基礎的な能力、知識を身につけるとともに各自の感性を養う。

## ●到達目標：

1. 美術の基礎を通して表現、鑑賞することの楽しさを味わう事が出来る。2. 基礎的な技術の向上をはかることが出来る。

## ●成績評価の基準：

課題に取り組む姿勢50%（到達目標1）、作品評価50%（到達目標1.2）による総合評定とする。

## ●留意事項：

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点はないので注意すること。

オフィスアワー 水曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術の獲得を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

## ●授業予定一覧：

- 1 授業の進め方と評価について
- 2 絵画『はらぺこあおむし』  
(by Eric Carle)
- 3 色彩表現①（感覚の色彩化）
- 4 色彩表現②（配置）
- 5 色彩表現③（着色）
- 6 形態表現①（雄型制作）
- 7 形態表現②（加工）
- 8 表現と鑑賞の関係《アルルの寝室》  
(by Vincent van Gogh)
- 9 コラージュ①（イメージとコンポジション）
- 10 コラージュ②（素材の集積）
- 11 コラージュ③（空間再構成）
- 12 デッサンからデフォルメへ①（スケッチ）
- 13 デッサンからデフォルメへ②（デザイン化）
- 14 デッサンからデフォルメへ③（着色）
- 15 美術館見学（大原・県立・林原・その他）
- 16 作品提出 レポート提出 総合批評会

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

必要に応じて講義の中で紹介する。

## 美術基礎 [b]

〔担 当 者〕 小田 久美子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330A1-1000-o2

## ●本授業の概要：

表現及び鑑賞の活動を通し、絵画・造形に関する基礎的な能力、知識を身につけるとともに各自の感性を養う。

## ●到達目標：

1. 美術の基礎を通して表現、鑑賞することの楽しさを味わうことが出来る。2. 基礎的な技術の向上をはかることが出来る。

## ●成績評価の基準：

課題に取り組む姿勢50%（到達目標1）、作品評価50%（到達目標1.2）による総合評定とする。

## ●留意事項：

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点はないので注意すること。

オフィスアワー 水曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術の獲得を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

## ●授業予定一覧：

- 1 授業の進め方と評価について
- 2 絵画『はらぺこあおむし』  
(by Eric Carle)
- 3 色彩表現①（感覚の色彩化）
- 4 色彩表現②（配置）
- 5 色彩表現③（着色）
- 6 形態表現①（雄型制作）
- 7 形態表現②（加工）
- 8 表現と鑑賞の関係《アルルの寝室》  
(by Vincent van Gogh)
- 9 コラージュ①（イメージとコンポジション）
- 10 コラージュ②（素材の集積）
- 11 コラージュ③（空間再構成）
- 12 デッサンからデフォルメへ①（スケッチ）
- 13 デッサンからデフォルメへ②（デザイン化）
- 14 デッサンからデフォルメへ③（着色）
- 15 美術館見学（大原・県立・林原・その他）
- 16 作品提出 レポート提出 総合批評会

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

必要に応じて講義の中で紹介する。

## 美術基礎 [c]

〔担 当 者〕 小田 久美子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330A1-1000-o2

### ●本授業の概要：

表現及び鑑賞の活動を通し、絵画・造形に関する基礎的な能力、知識を身につけるとともに各自の感性を養う。

### ●到達目標：

1. 美術の基礎を通して表現、鑑賞することの楽しさを味わうことが出来る。2. 基礎的な技術の向上をはかることが出来る。

### ●成績評価の基準：

課題に取り組む姿勢50%（到達目標1）、作品評価50%（到達目標1.2）による総合評定とする。

### ●留意事項：

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。

オフィスアワー 水曜日5・6時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術の獲得を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

### ●授業予定一覧：

- 1 授業の進め方と評価について
- 2 絵画『はらぺこあおむし』  
(by Eric Carle)
- 3 色彩表現①（感覚の色彩化）
- 4 色彩表現②（配置）
- 5 色彩表現③（着色）
- 6 形態表現①（雄型制作）
- 7 形態表現②（加工）
- 8 表現と鑑賞の関係《アルルの寝室》  
(by Vincent van Gogh)
- 9 コラージュ①（イメージとコンポジション）
- 10 コラージュ②（素材の集積）
- 11 コラージュ③（空間再構成）
- 12 デッサンからデフォルメへ①（スケッチ）
- 13 デッサンからデフォルメへ②（デザイン化）
- 14 デッサンからデフォルメへ③（着色）
- 15 美術館見学（大原・県立・林原・その他）
- 16 作品提出 レポート提出 総合批評会

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞

必要に応じて講義の中で紹介する。

## 児童学演習 I [a]

〔担 当 者〕 石原 金由・日下 紀子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

この演習は、児童学演習Ⅱ[a]とともに、心理学的研究で卒業論文を作成しようとする学生（心理学研究室所属の学生）のための授業である。2名の担当者が順次交代して授業を行う。この授業では、グループ単位で雑誌論文の発表を行ってもらう。この授業を通して、心理学領域の専門雑誌の講読に慣れること、また、心理学的な研究課題について、関連文献の講読・発表を通して、学生自身が卒業論文の研究テーマについて考え、文献を検索し、独自のテーマや仮説を考えられるように指導する。

### ●到達目標：

1. 心理学関連の卒業論文作成に必要とされる研究能力（文献検索、文献読解力、文献批判力等）の基礎能力を培うことができる。
2. 12本の雑誌論文を講読するので、心理学領域の幅広い研究テーマに触れることができる。
3. 授業を通して、各自の研究テーマの絞り込みができる。
4. 科学的・論理的な考え方を身につけることができる。

### ●成績評価の基準：

授業への取組態度：20%

文献発表：40%

レポート等の提出物：40%

### ●留意事項：

講義とは異なり、各自がより積極的に授業に参加しなければ効果は期待できない。また、雑誌論文の発表はグループ単位で実施するため、各自の授業への十分な準備が不可欠である。これらの点を受講生は意識してもらいたい。  
オフィスアワーは授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士として心理臨床業務に携わり、事例研究や観察研究を行った経験から、心理学的研究をすすめていくための先行研究の取り扱い、分析理解のプロセス、独自の研究課題や仮説を明確にしていけるプロセスの基盤構築を促す。

### ●授業予定一覧：

- 担当者の順序及び回数は以下の通りである。いずれの担当者においても、グループ単位（3～5名）で雑誌論文を選択し、それを発表し、質疑応答を行う。必要に応じて教員が解説する。また、授業時間外において、雑誌論文の検索の仕方を図書館で実施する。
- 1 オリエンテーション（石原、日下、平松、湯澤）
  - 2 雑誌論文の発表（石原）  
※論文は、「心理学研究」「教育心理学研究」「小児保健研究」から選択  
※石原の担当期間中に雑誌論文検索の講習会を図書館で実施（時間外）
  - 3 雑誌論文の発表（石原）
  - 4 雑誌論文の発表（石原）
  - 5 雑誌論文の発表（石原）
  - 6 雑誌論文の発表（石原）
  - 7 雑誌論文の発表（石原）
  - 8 雑誌論文の発表（石原）  
※論文は、「児童青年精神医学とその近接領域」「小児の精神と神経」「母性衛生」「保健の科学」「心理臨床学研究」から選択
  - 9 雑誌論文の発表（日下）
  - 10 雑誌論文の発表（日下）
  - 11 雑誌論文の発表（日下）
  - 12 雑誌論文の発表（日下）
  - 13 雑誌論文の発表（日下）
  - 14 雑誌論文の発表（日下）
  - 15 雑誌論文の発表（日下）
  - 16 雑誌論文の発表（日下）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

グループ単位で発表する雑誌論文を選択してもらうので、メンバーが分担し十分な準備（学術用語、統計など）をすることは不可欠である。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞

なし

＜参考書等＞

なし

## 児童学演習 I [b]

〔担 当 者〕 本保 恭子 他 3 名  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

小児保健、障害児保育、特別支援教育、児童福祉、障害者福祉に関する内外諸文献の講読を通して、文献の読み方や子どもの問題を総合的に把握する能力を養う。また、障害理解教育を幼稚園や小学校でどう実践すればよいかを模擬授業を通して考える。

### ●到達目標：

1. 母子保健、障害児保育、特別支援教育、児童福祉、障害者福祉の基本的事項について問題意識を持つ。
2. 各自が持った問題意識に関するテーマについて調べ、正確な根拠に基づいた発表ができる。
3. 演習により得た母子保健、障害児保育、特別支援教育、児童福祉、障害者福祉、障害理解教育に関する知識を日常生活や教育場面において活用するイメージを持つことができる。
4. 各テーマについて、演習で深まった内容を分析してレポートにまとめることができる。

### ●成績評価の基準：

- ① 発表のための作成資料  
あるいは模擬授業および討論 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ② 各テーマに基づくレポート 50%（到達目標 3, 4）

### ●留意事項：

1期は全員を対象とした演習を、2期は4グループ（ゼミ別）に分けて、5～10人の少人数演習を行う。  
 各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで提示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

4名の担当者うち2名が特別支援教育の実務経験者であることから、「インクルーシブ発想を基盤にした保育・教育」や「障害理解教育」について実践的構築を促す。

### ●授業予定一覧：

- 前期 テーマ 担当
- 1 オリエンテーション
  - 2 文研検索 調査
  - 3 「福祉ニュース障害福祉論」をもとに調査発表を行う 1) 担当：東
  - 4 「福祉ニュース障害福祉論」をもとに調査発表を行う 2)
  - 5 「福祉ニュース障害福祉論」をもとに調査発表を行う 3)
  - 6 「インクルーシブ発想を基盤にした保育・教育」をテーマに調査・発表を行う 1) 担当：青山
  - 7 「インクルーシブ発想を基盤にした保育・教育」をテーマに調査・発表を行う 2)
  - 8 「インクルーシブ発想を基盤にした保育・教育」をテーマに調査・発表を行う 3)
  - 9 文研検索 調査
  - 10 「障害理解教育」の模擬授業および討論を行う 1) 担当：中内
  - 11 「障害理解教育」の模擬授業および討論を行う 2)
  - 12 「障害理解教育」の模擬授業および討論を行う 3)
  - 13 「母子保健・子ども家庭福祉」をテーマに調査・発表を行う 1) 担当：本保
  - 14 「母子保健・子ども家庭福祉」をテーマに調査・発表を行う 2)
  - 15 「母子保健・子ども家庭福祉」をテーマに調査・発表を行う 3)
  - 16 まとめのディスカッション

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業では、レポート提出において manaba を利用することがある。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

適時、資料を配布し、参考文献を紹介する。

## 児童学演習 I [c]

〔担 当 者〕 赤木 雅宣 他 5 名  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

- 子どもの問題を総合的に把握するため、教育にかかわる主要なトピックについての研究討議を行う。
- 論文執筆方法を身に付けるため、論文作成の作業手順についても解説する。

### ●到達目標：

- 幼児・児童教育に関する問題を多面的・総合的に把握する。
- 研究・論文作成に必要な心構えと執筆方法を身に付ける。

### ●成績評価の基準：

- レポート 60%
  - ・各回のテーマについて = 12回
  - ・卒論に向けて = 3回
- 発表・討議への参加意欲と態度 40%

### ●留意事項：

積極的にゼミにかかわろうとする能動的学習態度が必要である。  
 オフィシアワー：初回の授業で指示する。  
 担当班については事前相談のための日時を毎回設定する（詳しくはオリエンテーション時に指示する）。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

【テキストを読み、演習を進める】

第1回

○オリエンテーション

第2～15回

○テキストの中から、子どもと教育にかかわる主要なトピックを取り上げ、討議する。

<トピック>

- ・教育とは何か
- ・大人が子どもにかかわること
- ・教える側、教わる側
- ・ところが育つ環境
- ・子ども学のはじまり
- ・教育観に関するトピック
- ・児童観に関するトピック
- ・初等教育に関するトピック
- ・小学校教育に関するトピック
- ・保育に関するトピック
- ・幼児教育に関するトピック
- ・家庭・家庭教育に関するトピック
- ・社会教育・生涯学習に関するトピック
- ・教育に関する心理的・臨床的トピック

第16回

○まとめ・課題等提出

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回、共通のテキストや文献が指定されるので、該当箇所をよく読み、A4用紙1枚程度に自分の考察をまとめてくること。演習後には、演習の成果や課題、感想などを記述し提出すること。（詳細な方策については、授業の中で知らせる）

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業の中で指示する

<参考書等>

授業の中で配布したり、紹介したりする。

## 児童学演習 I [d]

〔担 当 者〕 村中 李衣 他 2 名  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

児童文学，児童文化について専門的に研究するために必要な基礎的文献を概観するとともに，さまざまなジャンルの作品を読んで報告しあい，視野を広げていく。子どもの発達や児童文学，児童文化に関する文献の講読も行なう。

### ●到達目標：

- 1、自分の研究に必要な文献を探す力，研究書や文学作品を読んで，内容をわかりやすく紹介し，批評することができる
- 2、研究に値する問題を見出し，分析・考察を進める力や，その成果を正確でわかりやすい文章で述べることができる
- 3、耳でものがたりを聴き，その世界を豊かに味わうことができる

### ●成績評価の基準：

演習における発表40％，  
文献紹介レポート，自分の研究に関する中間レポート，期末レポート計60％

### ●留意事項：

オフィスアワーの曜日、時間帯についてはそれぞれの担当教員が授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

村中は児童文学の実作者として，三宅は幼稚園、片平は保育園での実務経験を元に，それぞれ児童文化財や現場での子どもの文化環境についてよりわかりやすく受講生に解説し，指導していく

### ●授業予定一覧：

- ① 児童文化へのまなざし
- ② 研究の動機をもつ
- ③ 先行論文をどうみつけ，どう読み進めるか
- ④ 各自の希望する研究テーマに即した先行研究の紹介1（作家論）
- ⑤ 各自の希望する研究テーマに即した先行研究の紹介2（読者論）
- ⑥ 希望する研究テーマに即した先行研究の紹介3（メディア論）
- ⑦ 希望する研究テーマに即した先行研究の紹介4（比較文化の視点から）
- ⑧ 昔話の朗読と鑑賞1（日本編）
- ⑨ 昔話の朗読と鑑賞2（海外編）
- ⑩ 児童文学作品の朗読と鑑賞1（日本編）
- ⑪ 児童文学作品の朗読と鑑賞2（海外編）
- ⑫ 長編児童文学へのアプローチ1（日本編）
- ⑬ 長編児童文学へのアプローチ2（海外編）
- ⑭ 4年ゼミ生の中間発表から学ぶ
- ⑮ 研究テーマ決定のための質疑応答と振り返り

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で紹介した参考図書、他の受講生が研究している作品等にも目を通し、自らの研究にかاشてほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

絵本ものがたり F I N D，今井由香・大島文志，朝倉書店

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞

脇 明子『読む力は生きる力』（岩波書店）

## 児童学演習 I [e]

〔担 当 者〕 片山 裕之・小田 久美子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

美術表現の基礎実技と美術鑑賞を通して美術を探究する者の基本的な姿勢を考える。

### ●到達目標：

美術を探究する基本的な姿勢を学ばせるとともに美術に関する専門的な知識を深め，技術の向上をはかる。

### ●成績評価の基準：

○作品提出

○美術鑑賞は，発表準備・発表内容を評価します。

西洋美術 発表用レポート・美術館研修レポート

授業態度は大切に扱います。 30点

提出物（作品，レポート） 70点 平均点で評価

### ●留意事項：

指定された美術全集・画集等は図書館又は，美術研究室のものを利用する。担当者の研究室へは積極的にたずねるようにすること。

片山 オフィスアワー 授業中に指示する

小田 オフィスアワー 金曜日7・8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。表現活動（絵画）、鑑賞指導を通して、観察力、描写力、鑑賞力を身につけるとともに美的感性も養う。

### ●授業予定一覧：

- 1 授業の進め方と心得・石膏デッサン①（片山）
- 2 石膏デッサン②（片山）
- 3 石膏デッサン③（片山）
- 4 石膏デッサン④（片山）
- 5 美術概論①（小田）
- 6 美術概論②（小田）
- 7 美術概論③（小田）
- 8 美術概論④（小田）
- 9 西洋美術の鑑賞①（片山）
- 10 西洋美術の鑑賞②（片山）
- 11 西洋美術の鑑賞③（片山）
- 12 西洋美術の鑑賞④（片山）
- 13 西洋美術の鑑賞⑤（片山）
- 14 西洋美術の鑑賞⑥（片山）
- 15 大塚国際美術館見学（9月上旬）（片山・小田）
- 16 作品提出 レポート提出 総合批評会（片山・小田）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために，十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は，授業時に通知する。

### 【必携書（教科書販売）】

西洋美術史，高階秀璽，美術出版社

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞

西洋美術史 高階秀璽

（美術出版社）



## 児童学演習Ⅰ [f]

〔担 当 者〕熊澤 住子 他 2 名  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

クリスマス・コンサートに向けての取組（企画、台本・劇中の音楽の創作、道具・衣装の制作）を通して、子どもに音楽の楽しさを伝える方法を探っていく。取組にあたっては、それぞれ係を決め、子どもの年齢や発達にふさわしい台本や音楽等の内容を考える（グループワーク）。そして、受講者全体でディスカッションを行い、全員で意見を出し合いながら仕上げていく。

### ●到達目標：

1. 子どもの視点で内容（台本）を検証し、自分の考えを述べることができる。
2. 場面に応じた音・音楽（効果音等）を作ることができる。
3. 場面に適した道具・衣装を作ることができる。
4. 演技や合唱・合奏等を通して、他人と協調しながら自分を表現することができる。

### ●成績評価の基準：

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| 発表・討論への参加   | 30%（到達目標1）          |
| コンサート練習への取組 | 50%（到達目標2, 3, 4）    |
| レポート課題      | 20%（到達目標1, 2, 3, 4） |

### ●留意事項：

各自が決められた役割を果たすだけでなく、積極的に良い舞台を追求する意識をもって取り組むこと。

オフィスアワー 授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、学生が、子どもたちとのかかわりの中で、教育的課題に向き合いながら、日々実践を作り上げていく過程について体験的に学ぶことを促す。具体的には、教育・保育現場において、子どもたちの音楽的な育ちを援助するために必要となる音楽に関する知識や技術を実践的に指導するとともに、調べ学習やディスカッション等を通して、関心を持ったテーマを自ら探求することを促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーションおよびクリスマス・コンサートの意義について
- 2 クリスマス・コンサートに向けての役割分担
- 3 クリスマス・コンサートの企画
- 4 台本の検討（世界観）
- 5 台本の検討（登場人物）
- 6 台本の検討（流れ）
- 7 台本の検討（台詞）
- 8 劇中の音楽の創作（効果音の楽器の選択）
- 9 劇中の音楽の創作（効果音の創作）
- 10 クリスマス・コンサートの練習（台詞の読み合わせ）
- 11 クリスマス・コンサートの練習（立ち稽古）
- 12 クリスマス・コンサートの練習（合唱）
- 13 クリスマス・コンサートの練習（合奏）
- 14 大道具の制作（特別講義講師）および衣装の制作
- 15 大道具の制作（特別講義講師）および小道具の制作
- 16 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

クリスマスコンサートは音楽劇です。劇中の音楽だけでなく、台本、大道具、小道具、衣装などのすべてがオリジナルの手作りです。各自が多様なアイデアを提案できるように、多方面からの情報収集に努めてください。その内容は、次回の授業時に発表してもらいます。また、本授業では、持ち寄ったアイデアを再構成し、より完成度の高い作品に仕上げていきます。毎回の授業で出された課題について、自分なりの考えをまとめてください。毎回、4時間程度の事前・事後学習が必要です。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 授業中に紹介する。

## 児童学演習Ⅱ [a]

〔担 当 者〕平松 清志・湯澤 美紀  
 〔開 講 期〕通年  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

この演習は、児童学演習Ⅰ [a] とともに、心理学的研究で卒業論文を作成しようとする学生のための授業である。2名の担当者が順次交代して授業を行う。この授業を通して、心理学的な研究課題について、関連文献の講読・発表を行うとともに、学生各自が卒業論文の研究テーマについて文献を検索し、問題・課題を見出し、独自のテーマや仮説を考えられるように指導する。

### ●到達目標：

心理学関連の卒業論文作成に必要なとされる研究能力、文献読解力等の基礎能力を培うとともに、各自の研究テーマの絞り込みを主眼としている。

### ●成績評価の基準：

|           |     |      |     |
|-----------|-----|------|-----|
| 授業への取組態度  | 20% | 文献発表 | 30% |
| レポート等の提出物 | 50% |      |     |

### ●留意事項：

オフィスアワー：平松 火曜日 9・10 限  
 オフィスアワー：湯澤 水曜日 5・6 限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

担当者の順序及び回数は以下の通りである。

- 第 1～8 回 雑誌論文の発表（湯澤）  
 ※論文は、担当者が指定する。
- 第 9～16 回 雑誌論文の発表（平松）  
 ※論文は、担当者が指定する。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

講義とは異なり、各自がより積極的に授業に参加しなければ効果は期待できない。

各自、指定された雑誌論文を事前に熟読し、概要をレジメとしてまとめる。また、発表時に質問を受けた内容について、その場で回答できない場合には、後日、追加報告することが求められる。発表の事前・事後の学習が本授業の要である。これらの点を受講生は意識してもらいたい。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 担当者が準備するプリントおよび心理学関連の学会誌から選出する。

## 児童学演習Ⅱ [b]

〔担当 者〕 本保 恭子 他 3 名

〔開 講 期〕 通年

〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2

〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

小児保健、障害児心理、障害児保育、特別支援教育、インクルーシブ教育、障害理解教育、児童福祉、障害者福祉に関する内外諸文献の講読を通して、文献の読み方や子どもの問題を総合的に把握する能力を身に付ける。加えて、卒業論文研究の基礎的知識の習得や研究方法論について理解する。

### ●到達目標：

1. 各受講生が関心を持っている小児保健、障害児心理、障害児保育、特別支援教育、インクルーシブ教育、障害理解教育、児童家庭福祉、障害者福祉に関する知識を習熟する。
2. 各自が持った問題意識に関するテーマについてのさまざまな研究方法について調べ説明できる。
3. 各自が持った問題意識に関するテーマについての学術論文の研究方法や分析方法について説明できる。
4. 各テーマについて、演習で深まった内容と各自の卒業論文作成に繋がった内容についてレポートにまとめることができる。

### ●成績評価の基準：

- ① 発表のための作成資料と発表状況 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ② 各テーマに基づくレポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

### ●留意事項：

2 期は、各ゼミに分かれての演習になるので、内容より専門的になる。  
また、到達目標は同一であるが、進め方においてはそれぞれのゼミで異なる。  
オフィスアワーは、各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで提示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

4 名の担当者のうち 2 名が特別支援教育の実務経験者であることから、「インクルーシブ発想を基盤にした保育・教育」や「障害理解教育」について実践的構築を促す。

### ●授業予定一覧：

後期

1 回～16 回

各ゼミに分かれ卒業論文作成に関連した文献を講読し、理解したことを発表する。

ゼミ間での質疑応答により、研究内容や研究方法についての理解をより深め、論文作成の準備に取りかかる。

2 月に行われる卒論発表会に主体的に参加し、多様な研究内容とプレゼンテーションの形について学ぶ。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

多くの学術図書と論文に触れ、多様な研究方法とその処理について、他者にわかりやすく説明をすることができるような周到な準備をしてほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

適時、資料を配布し、参考文献を紹介する。

## 児童学演習Ⅱ [c]

〔担当 者〕 赤木 雅宣 他 5 名

〔開 講 期〕 通年

〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2

〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

子どもの問題を総合的に把握するため、教育にかかわる主要なトピックについての研究討議を行う。また、論文執筆方法を身に付けるため、論文作成の作業手順についても解説する。

### ●到達目標：

- 幼児・児童教育に関する問題を多面的・総合的に把握する。
- 研究・論文作成に必要な心構えと執筆方法を身に付ける。

### ●成績評価の基準：

○研究に関するレポート 60%

○発表・討議への参加意欲と態度 40%

### ●留意事項：

積極的にゼミにかかわろうとする能動的学習態度が必要である。  
オフィスアワー：初回の授業で指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

【各研究室別に演習を行う】

1 オリエンテーション

2 卒業論文に取り組む心構え

○研究の進め方

○テーマの絞り方

○資料の収集

3 文献の整理

4 仮説の立て方

5 研究テーマの具体化

6 問題の限定化

7～12 各自のテーマの発表と検討

○各自のテーマ発表を聞く。発表を検討して話し合う。講評する。

13 論文執筆の練習

14 論文構成の練習

15 4 年生「卒業論文発表会」への参加

○先輩の卒論研究についての感想等発表

16 まとめ・課題等提出

以上の内容について、16 回の授業を通して学習していく。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

自分が卒業研究で取り上げようとするテーマについて、文献・資料等を自ら検索し、レポート等にまとめてくること。ゼミのメンバーの関連分野についても、関心をもち、いろいろな角度から積極的に演習に参加すること。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業の中で紹介する。

<参考書等>

授業の中で紹介する。

## 児童学演習Ⅱ [d]

〔担 当 者〕 村中 李衣 他 2 名  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

児童文化に関する諸問題などについて、先行文献を読み解きながら、各自の問題意識を高めていくとともに、さまざまな研究へのアプローチを学ぶ。

毎回2～3名が問題提起とそれに関する調査研究成果を発表し、卒業研究の基礎を固めていくとともに、絵本、児童文学についての幅広い知識を養い、よいものを選ぶ目を磨いていく。

### ●到達目標：

- 1、事例のなかに潜む問題を発見し、理論に照らし合わせながら論じる力や、絵本、児童文学などの児童文化財について、客観的に評価する力をもつ
- 2、研究成果を正確でわかりやすい文章で述べる力を身につける

### ●成績評価の基準：

演習における発表40％、文献紹介レポート、自分の研究に関する中間レポート、期末レポート計60％

### ●留意事項：

オフィスアワーの曜日・時間帯は、各担当教員が授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

村中は児童文学の実作者として、三宅は幼稚園、片平は保育園での実務経験を元に、それぞれ児童文化財や現場での子どもの文化環境についてよりわかりやすく受講生に解説し、指導していく

### ●授業予定一覧：

- ① さまざまな研究テーマの決め方
- ② 児童文化研究の技法
- ③ 研究テーマの発表1
- ④ 研究テーマの発表2
- ⑤ 研究テーマの発表3
- ⑥ 研究テーマの発表4
- ⑦ 問題提起と討論
- ⑧ 子どもと切り結ぶ方法論の模索
- ⑨ 実習観察の中から得た問題意識の確認
- ⑩ 文献資料の用い方：基本編
- ⑪ 文献検索の実際：応用編
- ⑫ 研究テーマの再考と発表1
- ⑬ 研究テーマの再考と発表2
- ⑭ 研究テーマの再考と発表3
- ⑮ 4年生の研究成果から学ぶ

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で紹介した参考図書、他の受講生が研究している作品等にも目を通し、自らの研究テーマ設定に活かすこと

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 児童学演習Ⅱ [e]

〔担 当 者〕 片山 裕之・小田 久美子  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

美術表現の基礎実技と美術鑑賞を通して美術を探究する者の基本的な姿勢を考える。

### ●到達目標：

美術を探究する基本的な姿勢を学ばせるとともに美術に関する専門的な知識を深め、技術の向上をはかる。

### ●成績評価の基準：

- 作品提出
- 美術鑑賞は、発表準備・発表内容を評価します。  
 日本美術 発表用レポート  
 授業態度は大切に扱います。 30点  
 提出物（作品、レポート） 70点 平均点で評価

### ●留意事項：

指定された美術全集・画集等は図書館又は、美術研究室のものを利用する。担当者の研究室へは積極的にたずねるようにすること。  
 片山 オフィスアワー 授業中に指示する  
 小田 オフィスアワー 金曜日7・8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。表現活動（絵画）、鑑賞活動を通して、観察力、描写力、鑑賞力を身につけるとともに、美的感性も養う。

### ●授業予定一覧：

- 1 授業の進め方と心得（片山・小田）
  - 2 木炭デッサン 美術概論 ①（片山・小田）
  - 3 木炭デッサン 美術概論 ②（片山・小田）
  - 4 木炭デッサン 美術概論 ③（片山・小田）
  - 5 木炭デッサン 美術概論 ④（片山・小田）
  - 6 木炭デッサン 美術概論 ⑤（片山・小田）
  - 7 木炭デッサン 美術概論 ⑥（片山・小田）
  - 8 木炭デッサン 美術概論 ⑦（片山・小田）
  - 9 日本美術の鑑賞①（小田）
  - 10 日本美術の鑑賞②（小田）
  - 11 日本美術の鑑賞③（小田）
  - 12 日本美術の鑑賞④（小田）
  - 13 日本美術の鑑賞⑤（小田）
  - 14 日本美術の鑑賞⑥（小田）
  - 15 日本美術の鑑賞⑦（小田）
  - 16 作品提出 レポート提出 総合批評会（片山・小田）
- ※日本美術の鑑賞は4年次4月 京都・奈良研修旅行につながるものである。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 画材

## 児童学演習Ⅱ [f]

[担 当 者] 熊澤 住子 他 2 名  
[開 講 期] 通年  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

クリスマス・コンサートに向けての取組（企画、台本・劇中の音楽の創作、道具・衣装の制作）を通して、子どもに音楽の楽しさを伝える方法を探っていく。取組にあたっては、それぞれ係を決め、子どもの年齢や発達にふさわしい台本や音楽等の内容を考える（グループワーク）。そして、受講者全体でディスカッションを行い、全員で意見を出し合いながら仕上げていく。

### ●到達目標：

1. 子どもの視点で内容（台本）を検証し、自分の考えを述べることができる。
2. 場面に応じた音・音楽（効果音等）を作ることができる。
3. 場面に適した道具・衣装等を作ることができる。
4. 演技や合唱・合奏を通して、他人と協調しながら自分を表現することができる。
5. 音楽的表現について、本番での子どもの反応により臨機応変に対応することができる。

### ●成績評価の基準：

|              |                        |
|--------------|------------------------|
| 発表・討論への参加    | 20%（到達目標1）             |
| コンサートの練習への取組 | 60%（到達目標2, 3, 4）       |
| レポート課題       | 20%（到達目標1, 2, 3, 4, 5） |

### ●留意事項：

各自が決められた役割を果たすだけでなく、積極的に良い舞台を追求する意識をもって取り組むこと。

オフィスアワー 授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、学生が、子どもたちとのかかわりの中で、教育的課題に向き合いながら、日々実践を作り上げていく過程について体験的に学ぶことを促す。具体的には、教育・保育現場において、子どもたちの音楽的な育ちを援助するために必要となる音楽に関する知識や技術を実践的に指導するとともに、調べ学習やディスカッション等を通して、関心を持ったテーマを自ら探求することを促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 台本・音楽・大道具・小道具・衣装の確認
- 2 大道具・小道具・衣装の直しとクリスマス・コンサートの練習（1幕）
- 3 クリスマス・コンサートの練習（2幕）
- 4 クリスマス・コンサートの練習（劇中音楽の合唱）
- 5 クリスマス・コンサートの練習（劇中音楽の合奏）
- 6 クリスマス・コンサートの練習（打楽器の演奏方法）特別講義講師
- 7 台本・音楽・大道具・小道具・衣装の確認（舞台上において）
- 8 中間発表・検討会
- 9 クリスマス・コンサートの練習（フィナーレの動き）
- 10 クリスマス・コンサートの練習（フィナーレの合唱）
- 11 クリスマス・コンサートの練習（メドレー合唱）
- 12 発表
- 13 クリスマス・コンサートの反省会
- 14 翌年のコンサートに向けて（全体の構成）
- 15 翌年のコンサートに向けて（世界観の検討）
- 16 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

クリスマスコンサートは音楽劇です。劇中の音楽だけでなく、台本、大道具、小道具、衣装などのすべてがオリジナルの手作りです。各自が多様なアイデアを提案できるように、多面からの情報収集に努めてください。その内容は、次の授業時に発表してもらいます。また、本授業では、持ち寄ったアイデアを再構成し、より完成度の高い作品に仕上げていきます。毎回の授業で出された課題について、自分なりの考えをまとめてください。

毎回、4時間程度の事前・事後学習が必要です。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜参考書等＞  
授業中に紹介する。

## 心理学実験演習Ⅰ

[担 当 者] 石原 金由・湯澤 美紀  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 演習・講義 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2000-o2

### ●本授業の概要：

一般的に心理学実験とは、実験や測定といった実証的手法によって、能動的に人間を理解する一つの方法である。心理学の入門的授業であり、受講者はグループに分かれ、基礎的な3種類の課題実験を体験し、レポートを書いてもらう。将来、心理学または教育学関係の卒業研究を目指す学生は、履習することが望ましい。提出されたレポートはすべて添削して個別に返却する。

### ●到達目標：

1. 心理学の実験的手法を通して、心理学研究法の基礎を学ぶことができる。
2. データの分析やレポートを通して、論理的思考力と論理的表現能力を習得することができる。
3. 実験レポート（論文）の書き方、データの処理方法についての基礎をも習得することができる。

### ●成績評価の基準：

授業への取組態度：10%  
レポート（3本）：90%

### ●留意事項：

- (1) 提出されたレポートは、すべて添削して返却される（書き直し有り）。
- (2) この授業を履修するものは、心理教育統計を必ず受講すること。
- (3) 質問等は、授業中、manaba または電子メールで随時受け付ける。
- (4) 各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーションⅠ（概要、目的の説明）
- 2 オリエンテーションⅡ（実験に関する基礎）
- 3 オリエンテーションⅢ（実験・研究レポートとは：レポートの書き方）
- 4 実験とレポートの体験Ⅰ（実験を体験）
- 5 実験とレポートの体験Ⅱ（データ整理を体験）
- 6 実験とレポートの体験Ⅲ（レポート執筆を体験）
- 7 実験Ⅰ ※レポート提出
- 8 実験Ⅰ
- 9 実験Ⅰ
- 10 レポートの返却と講評
- 11 実験Ⅱ ※実験Ⅰレポート提出
- 12 実験Ⅱ
- 13 実験Ⅱ
- 14 実験Ⅰレポートの返却と講評
- 15 データの処理と分析について ※実験Ⅱレポート提出
- 16 実験Ⅱレポートの返却と講評・まとめ・反省会

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

最低限の予習として、それぞれの実験課題について目的と方法を理解しておくこと。目的や実験に関わる用語を理解していないと、レポートを書くことができない。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
テキスト、資料類は manaba folio を介して配布する。  
＜参考書等＞  
なし



## 心理学実験演習Ⅱ

〔担当 者〕 石原 金由・湯澤 美紀  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 演習・講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

一般的に心理学実験とは、実験や測定といった実証的手法によって、能動的に人間を理解する一つの方法のことである。心理学の入門的授業であり、受講者はグループに分かれ、基礎的な課題実験を体験することによって、ものごとを論理的に考え、それをまとめ、発表する習慣を学生に身につけさせることを目標としている。将来、心理学または教育学関係の卒業研究を目指す学生は、履習することが望ましい。

提出されたレポートは添削し、個別に返却する。

心理学実験演習Ⅰを発展させた内容となる。

## ●到達目標：

1. 心理学の実験的手法を通して、心理学研究法の基礎を学ぶことができる。
2. データの分析やレポートを通して、論理的思考力と論理的表現能力を習得することができる。
3. 実験レポート（論文）の書き方、データの処理方法についての基礎をも習得することができる。

## ●成績評価の基準：

授業への取組態度：10%

レポート（4本）：70%

試験：20%

## ●留意事項：

- (1) 心理学実験演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。
- (2) 心理教育統計を必ず履修すること。
- (3) 4つの実験をこなすので、実験は授業時間外にも実施される場合もある。
- (4) 各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション
- 2 実験Ⅰ（要求水準・両側性転移・概念学習のいずれか）事前指導
- 3 実験Ⅰ 実験実施
- 4 実験Ⅱ（要求水準・両側性転移・概念学習のいずれか）事前指導
- 5 実験Ⅱ 実験実施
  - ※実験Ⅰレポート提出
- 6 実験Ⅰレポート返却と解説
- 7 発表会（実験Ⅰを口頭で発表、パワーポイント使用可）
- 8 実験Ⅲ（要求水準・両側性転移・概念学習のいずれか）事前指導
  - ※実験Ⅱレポート提出
- 9 実験Ⅲ 実験実施
- 10 実験Ⅱレポート返却と解説
- 11 実験Ⅳ（パーソナル・スペース）事前指導
- 12 実験Ⅳ（パーソナル・スペース）実験実施
  - ※実験Ⅲレポート提出
- 13 実験Ⅲレポート返却と解説
- 14 実験Ⅳ（パーソナル・スペース）
- 15 まとめ・反省会・実験室清掃
- 16 試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

心理学実験演習Ⅰと同様。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

テキスト・資料類はmanaba folioを介して配布する。

<参考書等>

なし

## 心理教育統計

〔担当 者〕 石原 金由  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

心理学、教育学、社会学において、収集されたデータを分析し結論を得る際に、統計は科学的で、有効かつ説得力のある手段（道具）である。

本授業では、統計的・科学的な考え方を理解し、初歩的な統計の解説をするとともに、基礎的な検定方法の使い方を習得する。

## ●到達目標：

1. 統計的なものの見方・考え方を身につけることができる。
2. 心理学研究法に関する基礎知識を身につけることができる。
3. どのような場合にどのような検定を使用すべきかを判断できるようになる。

## ●成績評価の基準：

小テスト（12回）：40%

試験：60%

## ●留意事項：

- (1) 心理学や教育学において調査・実験を志向する学生は、必須である。
- (2) 心理学実験演習Ⅰ・Ⅱを履修する者は、必ず受講すること。
- (3) はほぼ毎回、小テストを実施するので、復習は必須です。
- (4) オフィスアワー 金曜日 9.10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

授業において解説する主な内容と順序はおおよそ以下のとおりです。第3回以降の授業では、復習を兼ねて、授業開始時に小テストを実施します。

- 1 統計とは
- 2 数の持つ意味
- 3 代表値と散布度（平均、中央値）
- 4 代表値と散布度（標準偏差、四分偏差）
- 5 正規分布
- 6 正規分布とその他の分布
- 7 2変数の関係（相関の基礎）
- 8 2変数の関係（積率相関、順位相関）
- 9 独立変数と従属変数
- 10 統計的検定とは
- 11 t検定（使用法とt分布）
- 12 t検定
- 13  $\chi^2$ 検定（使用法と $\chi^2$ 2分布）
- 14  $\chi^2$ 検定（残差分析）
- 15 分散分析
- 16 試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

予習は必要ありませんが、復習は必須です。質問等は随時、授業中、電子メールまたはmanabaの掲示板で受け付けます。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

なし

<参考書等>

manabaを介して資料を配布します。

- (1) 初歩の統計法，ナカニシヤ
- (2) 心理・教育のための統計法，サイエンス社
- (3) よくわかる心理統計，ミネルヴァ書房

## 言語心理学

〔担 当 者〕永田 博  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2340-o2

### ●本授業の概要：

言語とその獲得に関わる心理現象を認知系のはたらきと関連づけて考察していく。授業は以下の6領域から構成される。

1. 言語を伴わない認知活動
2. 言語音（スピーチ）知覚
3. 語彙の意味の獲得
4. 手話による言語獲得
5. 書記言語による言語獲得
6. 統語法獲得への理論的アプローチ

### ●到達目標：

個々の知見の学習ではなく、

1. その知見がどのような方法で得られたのか、
  2. その方法が適切であったのか、
  3. そして結局は、その知見が心理現象のリアリティを反映したものであるか、
- について考え、探求する知的姿勢を育成する。

### ●成績評価の基準：

1. 授業への取り組み度 20%
2. 定期試験 80%

1. 「授業への取り組み度」は毎回提出する S-T シャトルカードによってチェックする。
2. 定期試験は資料持ち込み・記述式の問題とし、その内容は事前に通知する。
3. 成績評価の基準については「準備学習に必要な学修内容」欄の＜定期試験への構え＞に記載した事項に従う。

### ●留意事項：

連絡先 (kp252777@fg8so-net.ne.jp)

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 第1回 オリエンテーション：認知系と言語系
- 第2回 認知（思考）と言語の関係
- 第3回 言語を伴わない認知活動：動物の場合
- 第4回 言語を伴わない認知活動：ヘレン・ケラーの場合
- 第5回 言語音知覚（1）：新生児の母語への反応、カテゴリー知覚
- 第6回 言語音知覚（2）：母語への同化、言語音パターンの抽出
- 第7回 語彙の意味の獲得（1）：事物や事象のカテゴリー知覚
- 第8回 語彙の意味の獲得（2）：ガヴァイ問題と意味獲得への認知的制約
- 第9回 語彙の意味の獲得（3）：語彙知識再考
- 第10回 手話による言語獲得（1）：母語としての手話（事例の提示）
- 第11回 手話による言語獲得（2）：言語としての手話
- 第12回 書記言語による言語獲得：音声を伴わない読み
- 第13回 乳幼児の読み能力：音声を伴わない読みと伴う読み
- 第14回 統語法の獲得（1）「いつ覚えたの？」（プラトン問題の提示）
- 第15回 統語法の獲得（2）：3つの異なる理論的アプローチ
- 第16回 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

＜授業に必要とされる予備知識＞

1. 心理学の基礎知識と言語学概論等の知識があれば理解が容易になる。
2. 英語文献への言及を行う。それに食らい付く根拠が要る。

＜授業に要求される構え＞

1. 研究の論理に食らい付く知的エネルギーと集中力が要る。
2. 曖昧さに対する耐性が要る。

＜定期試験への構え＞

1. 授業内容を批判的に聴く・検討する。
2. その過程から自分の問題を見つける。
3. その問題の解決に必要な検討を自ら行う。
4. その検討結果を文章化し、試験中に表現できる水準にまで高める。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携参考文献（取得方法は後日通知する）＞  
永田博（2011）言語獲得の概念的・方法論的理解。熊倉勇美・種村純（編著）やさしく学べる言語聴覚障害入門（pp. 143-170）。永井書店。

＜参考書等＞

1. 心理言語学への招待。スタインパーク，D.D. 大修館書店。
2. Psycholinguistics: Language, Mind and World (2nd Edition). Steinberg, D.D., Nagata, H., & Aline, D.P. Pearson Education.
3. Patterns in the mind : Language and human nature. Jackendoff, R. Harvester.

## 基礎心理学特講

〔担 当 者〕石原 金由  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

心は脳の働きと密接に関連している。ヒトを理解していく上で、行動の背景にある生物学・生理学的な知識や研究方法を理解しておくことは重要である。本授業では、基礎心理学領域の一つである生理心理学・精神生理学について解説する。心理学的問題を生理反応（脳波、心拍、呼吸など）の測定を通して研究する分野である。本授業では、ニューロン、脳の構造と機能、生理反応に関する知識、研究トピック（睡眠とリズム、ストレス、視覚など）を講義する。また、復習を兼ねてニューロンに関する部分のみ、英書講読を行う。

### ●到達目標：

1. 生理心理学領域の研究を理解するための基礎知識を習得できる。
2. ヒトの心（行動）を生理心理学的な観点から追求することの面白さを知ることができる。
3. 英書講読を通して、英文雑誌に慣れることができる。

### ●成績評価の基準：

課題：30%

試験：70%

### ●留意事項：

- (1) 生理反応を用いて卒業研究をしたいと考えている者は、履修して下さい。
- (2) 質問等は随時、電子メールまたは manaba の掲示板で受け付けます。
- (3) オフィスアワー：金曜日 9,10時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション及び生理心理学とは
- 2 脳の構造と機能（神経細胞）
- 3 脳の構造と機能（神経伝達）
- 4 脳の構造と機能（脳の構造）
- 5 脳の構造と機能（脳の機能）
- 6 脳の発達
- 7 種々の生理指標（非侵襲的脳機能測定・呼吸・皮膚電気活動・筋電図）
- 8 英書講読
- 9 英書講読
- 10 英書講読
- 11 英書講読
- 12 睡眠とリズム
- 13 睡眠とリズム
- 14 ストレス
- 15 脳と視覚
- 16 試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

復習を重視してください。ただし、英書講読では予習が必要です。興味があれば、生理心理関連の書籍を読んでほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞

生理心理学と精神生理学 I～Ⅲ, 北大路書房

## 社会心理学

〔担 当 者〕 中山 ちなみ  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3400-o2

## ●本授業の概要：

本講義では、社会心理学における基礎概念や重要研究を解説・紹介し、具体的な事例と関連させながら、人間関係や社会事象について考察してゆく。この考察を通して、「社会的存在」としての人間の意識や行動が、どのように形成され、どのような社会的現象となって現れるのかというメカニズムを理解し、自己および人間・社会への洞察を深める。

## ●到達目標：

- ①社会心理学という学問の特徴と位置づけを述べることができる。
- ②社会心理学で扱われる諸概念を、具体的な事例と関連づけて説明することができる。
- ③社会心理学の研究方法の一つである実験について、その設計やデータの収集方法を説明することができ、また結果の図表を正しく読み取ることができる。
- ④社会心理学の知見を、現代社会に生起する具体的な事象の説明に応用することができる。
- ⑤個人の行為と社会現象との関係を説明することができる。

## ●成績評価の基準：

期末筆記試験：80%（到達目標①②③④⑤）  
 課題レポート：10%（到達目標②③④）  
 リアクションペーパー：10%（到達目標①②③④⑤）

## ●留意事項：

授業で紹介した概念や研究成果をただ覚えるのではなく、それらの概念や知見を援用することによって、身の周りのどのような問題が分析・説明できるのかということを考えながら、能動的・積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。質問等は、原則としてその授業の終了直後かオフィスアワーで対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。オフィスアワーについては、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション
  2. 社会の中の「私」
  3. 自己の2側面
  4. 行為と意識
  5. 行為の意図せざる帰結（1）
  6. 行為の意図せざる帰結（2）
  7. 欲求
  8. 態度の一貫性（1）
  9. 態度の一貫性（2）
  10. 対人魅力（1）
  11. 対人魅力（2）
  12. 援助行動
  13. リーダーシップ
  14. 社会的ジレンマ
  15. まとめ
- 期末筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

ほぼ毎回の授業でプリントを配付する。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにしていくとともに、授業で得た知見を実際の社会事象に適用し、説明しようとする姿勢をぜひ身につけてもらいたい。授業を振り返り、ノートをまとめるための時間として、毎回、1～2時間程度の復習を求める。授業中に紹介する参考図書等も積極的に読んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 講義時間中に随時紹介する。

## 心理学特講 I

〔担 当 者〕 堀内 孝  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

認知心理学は、教育心理学や発達心理学、社会心理学、臨床心理学などの基礎として重要な研究領域です。本授業では、認知心理学について、具体的な実験例を示しながら、わかりやすく解説します。

## ●到達目標：

1. 認知心理学の代表的な研究知見を知る
2. 認知心理学の理論や方法論を学ぶ
3. 認知心理学の基礎用語について説明できるようになる

## ●成績評価の基準：

講義における参加度 40%  
 小課題 20%  
 定期試験（レポート）40%

## ●留意事項：

授業時間の前後に相談してください。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. ガイダンス
2. 情報処理パラダイムと記憶
3. 感覚記憶
4. 短期記憶
5. 長期記憶1(意味記憶)
6. 長期記憶2(エピソード記憶)
7. 日常記憶（自伝的記憶）
8. 記憶研究の動向
9. 思考と問題解決
10. 演繹的推理
11. 帰納推理と創造的思考
12. 確率判断
13. 意思決定
14. 社会的推論
15. 思考研究の動向

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業のパワーポイント資料を配布するので、復習をしっかりとってください。参考図書に関しては随時紹介します。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

心理学特講Ⅱ

〔担 当 者〕石原 金由・日下 紀子  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2300-o2

●本授業の概要：

心理学研究法のうち、質的研究法・実験研究法・質問紙調査法の理論と研究の実践を学ぶ。実験研究については、心理学実験演習でも扱うので、主に質的研究法・質問紙調査法を中心に解説する。質問紙調査法では、受講生が研究テーマを設定し、実際に調査用紙を作成し、データを収集・分析してもらう。また、心理学的なデータの処理に関して、コンピュータの使用法や統計ソフトを用いた分析の方法についても学ぶ。

●到達目標：

1. 心理学における研究方法を学ぶことで、心理学についての理解を深めることができる。2. 科学的な考え方を身につける。

●成績評価の基準：

授業中の発表 20%  
課題 80%

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

日下紀子  
医療機関やその他相談機関にて臨床心理士として心理臨床業務に携わってきた経験より、事例研究・観察研究・ナラティブ分析について実践的に取り上げ、研究プロセスの実証的理解と構築を促す。

●授業予定一覧：

- 1 心理学研究に関わる基礎知識
- 2 各種研究法概説と倫理問題
- 3 質的研究法概説（インタビュー・エピソード記述・ナラティブ分析・観察研究）
- 4 質的研究法（研究計画とデータ収集）
- 5 質的研究法（ワークシートを用いたナラティブ分析）
- 6 質的研究法（ペアでの語り・半構造化面接）
- 7 質的研究法（半構造化面接での語りを用いたナラティブ分析）
- 8 質的研究法（ナラティブ分析を用いたコンセプト図作成）
- 9 実験法概説（実験計画）  
※質問紙調査法での研究テーマについて受講者間で相談（時間外）
- 10 実験法（分散分析を用いた統計処理）
- 11 質問紙調査法（概説とテーマ設定）
- 12 質問紙調査法（質問紙作成の手順）
- 13 質問紙調査法（質問紙の作成）
- 14 質問紙調査法（信頼性・妥当性）
- 15 質問紙調査法（因子分析を用いた統計処理）
- 16 質問紙調査法（多変量解析を用いた統計処理）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）次回授業に関しては、資料を配布します。熟読の上、参加するようにしてください。  
（復習）授業に際し、講述した内容を元に実践課題に取り組んでもらいます。次回授業時間までに、manabaを通して、提出してください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

参考資料は随時配布する。

子どもの観察研究法

〔担 当 者〕湯澤 美紀  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

●本授業の概要：

子どもを理解するための各種心理学的手法を学んだ上で、観察研究の基礎的知識と方法を習得する。また、観察実習を行い、実際に幼稚園で出会う子どもたちとの関わりやそこでの出来事をエピソードとして記述・考察していくことを通して、子どもを理解するための視点を育ていく。

●到達目標：

- ・子ども理解・支援を目的とした様々な心理学的手法を学び、具体的な場面で応用できる。
- ・子どもを理解するための確かな視点を身につけ、実際の保育場面で出会った出来事をエピソードとして記述し、他者に伝えることができる。

●成績評価の基準：

授業態度 20% 課題 80%

●留意事項：

オフィスアワー 水曜日12時限

●実務経験の授業への活用方法：

広島大学幼年教育研究施設助手として大学附属幼稚園と連携しながら、質的研究を進めてきた経験を生かして、実践の場で求められる子ども理解のための質的研究法の進め方を伝える。

●授業予定一覧：

- 第1回 オリエンテーション（科学と実証）
- 第2回 フィールドワークの技法
- 第3回 エピソード記録の方法（タイムサンプリング法、場面サンプリング法）
- 第4回 観察実習Ⅰ（フィールドワークの実際）
- 第5回 観察研究法概説
- 第6回 観察実習Ⅱ（子どもとの出会いに焦点をあてる）
- 第7回 観察実習Ⅲ（新たな問いをたてる）
- 第8回 エピソード記録の心理学的意味
- 第9回 子どもの語りの心理学的意味
- 第10回 観察実習Ⅳ（疑問と向き合う）
- 第11回 観察実習Ⅴ（子どもの内面にせまる）
- 第12回 エピソード記録の方法
- 第13回 エピソード記録の分析
- 第14回 観察実習Ⅵ（観察を通して考察をさらに深める）
- 第15回 子ども理解・支援に向けた議論
- 第16回 研究報告会

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習） フィールドワークやエピソード記述に関する参考図書を、授業初回時に配布する。また、各エピソードの意味を心理学的に分析するうえで、関連領域の論文・図書の講読は欠かせない。それらについては、適宜、指示する。主体的な学び（予習）を行い、子ども理解のための知見を広めてほしい。

（復習） 日々の学習内容を整理するとともに、観察した内容については、エピソード記述としてまとめる。提出はmanabaを通して行う。また、本授業に関しては、ドキュメンテーションとして総括を行い、研究報告会を実施する。質の高いドキュメンテーションの作成に向け、努力してほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

講義中に参考資料を随時配布する。



## 子どもをめぐる精神保健

〔担 当 者〕 日下 紀子  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

幼稚園教諭や保育士が、子どもの心の不健康に気付いたとき、保育場面で支援していくだけでなく、養育者と連絡や相談をしながら力を合わせて問題解決に関わっていかなくてはならない。そして地域専門家との連携も必須になる。乳幼児期のこうした精神保健上の課題を理解し、乳幼児期に起きる精神保健上の問題を養育者と連携しながら読み解き支援していく道筋を、当事者の心理に即しながら考えていく。

## ●到達目標：

1. 子どもの心の健康・不健康と発達課題のつながりを理解し、説明することができる。  
2. 問題を解決していくときの保育者と養育者の協力の在り方を考え、実行できる。  
3. 子どもをめぐる他の専門家と連携する場面や方法を理解し、提示し説明することができる。

## ●成績評価の基準：

受講中の積極的参加態度 20%  
リアクションシート 30%  
定期試験（レポート）50%

## ●留意事項：

心の問題は誰にでも起こりうる身近な問題であるので、経験と重ね合わせながら、実感を持って理解しつつ授業に参加されたい。そのためには予習・復習を各自の工夫をもって行うこと。

オフィスアワー 授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士として医療機関や心理相談専門機関にて心理臨床業務に携わっていた経験から、子どもの精神保健の問題を事例として臨床的に取り上げ、多角的、多面的に理解していく。さらに保育者と養育者、他の専門家との連携についても具体的・実践的に考え、それを実行できるような基盤を作っていく。

## ●授業予定一覧：

第1回 保育者と精神保健  
第2回 精神保健の歴史と偏見の形成  
第3回 乳幼児精神保健の展望  
第4回 児の問題をめぐる「保育者と養育者」による共有  
第5回 児の問題をめぐる保育者と養育者の共有：保育者による養育者への提言  
第6回 事例を通して考える  
第7回 事例理解のために－観察の視点－  
第8回 事例検討の振り返り  
第9回 児の問題をめぐる保育者と養育者の共有：養育者からの保育者への持ちかけ  
第10回 事例を通して考える  
第11回 事例理解のために－養育者と養育環境－  
第12回 事例検討の振り返り  
第13回 乳児期・幼児前期の子どもの臨床的問題例  
第14回 幼児期後期・学童期の子どもの臨床的問題例  
第15回 養育者と保育者、地域との協力・連携  
定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（復習と予習）この授業の中では、精神保健上の問題を抱えた子どもや保護者の事例を取り上げ、理解を進める。授業の中で自分の中に起きた実感を文章化するリアクションシートは、受講者に紹介する。これにより相互に授業内容や事例理解を深めていく。毎回の授業で取り上げるテーマについては、各自、問題意識をもって、授業内で紹介する参考文献や参考 URL にあたるなどして理解を深めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

乳幼児精神保健の基礎と実践－アセスメントと支援のためのガイドブック、青木豊・松本英夫、岩崎学術出版社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 児童教育学特講Ⅱ

〔担 当 者〕 赤木 雅宣 他 5 名  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

## ●本授業の概要：

○これまで学んできた教育理論が、実際に学校教育現場でどのように実践されているかの概略を理解するとともに、演習・実習等の体験を通して、実践できるようにする。  
○模擬授業（保育）・模擬学級経営体験等を通して、教育現場で通用する実践力を高める。  
○教員採用試験に向けて実践的な対策を講じる。

## ●到達目標：

○教育理論と実践とをつないで、「何をすべきか」「どのようにすべきか」を具体的に考えることができる。  
○模擬授業（保育）、模擬学級経営などの実践を通して、学校現場で担任になったときの方策を身に付けることができる。

## ●成績評価の基準：

・授業中の活動の様子（取り組み方・意欲等）50点  
・課題・レポート等 50点

## ●留意事項：

○学校現場での教育実践を演習・実習等の形態で体験することを主とする。積極的に体験活動に取り組もうとする姿勢が必要である。  
○幼稚園と小学校に分かれて実施する授業と、共通に実施する授業があるので、注意すること。  
○教員採用試験に関する内容を含んでいる。採用試験対策の一環に組み込み、特に実践力の形成に役立ててほしい。  
○各教員のオフィスアワーはオリエンテーションで指示する。

オフィスアワー 授業の中で伝える

## ●実務経験の授業への活用方法：

どの担当者も公立学校園に勤務して、学校園の運営・経営や学級経営、生徒指導や個別支援、特別支援教育等の経験をもつ。学校園の現場での指導体験とともに、学生の演習、活動等に実践に即した具体的なアドバイスを加えて、学生の実践的指導力を向上させる。

## ●授業予定一覧：

① オリエンテーション（教職を目指すための意識と方策）  
② 教職とはⅠ ー自らの教育観をもつー  
③ 教職とはⅡ ー学校現場が求める教師像ー  
④ 教員採用試験問題の傾向と対策Ⅰ「教職教養」  
⑤ 教員採用試験問題の傾向と対策Ⅱ「専門教養（幼・小）」  
⑥ 学級経営について  
⑦ 模擬授業・模擬保育  
⑧ 集団討論の実践  
⑨ 集団面接の実践  
⑩ 個人面接・口頭試問の実践  
⑪ 実技試験の傾向と対策Ⅰ ー音楽実技を中心にー  
⑫ 実技試験の傾向と対策Ⅱ ー体育実技を中心にー  
⑬ 小論文について  
⑭ 受験の心構えⅠ ー教職を目指す自分を見つめるー  
⑮ 受験の心構えⅡ ー求められる教師像との擦り合わせー  
⑯ まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

・実践力の育成に主眼を置いた授業である。グループで討論したり、ロールプレイをして評価し合ったりすることが多い。その授業で実施したこと、思考したことなどを想起して、ノート等にまとめていくこと。  
・課題が出された場合には、自分の考えをノート等に記述し、まとめていくこと。  
（このノートが、学校園現場での指導実践マニュアル集になり、また、採用試験対策の面接ノートにもなっていく。）

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

「小学校学習指導要領」

「幼稚園教育要領（解説）」「保育所保育指針（解説）」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領（解説）」

## 児童文化論Ⅱ

[担 当 者] 村中 李衣  
 [開 講 期] 2 期  
 [授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 330B1-1000-o2

### ●本授業の概要：

この講義では、子どもの発達にとって大きな意味を持つ絵本、昔話、幼年童話を、具体的に取り上げる。絵本については、子どもの発達、読みあい事例をふまえながら、多種多様な絵本を紹介する。

また、「読み聞かせ」と「読みあい」の違いを理解し、絵本の力・場の力を活かした児童文化の継承ができるよう、実際に読みあい体験をする。

また、簡単な手作り絵本を作成し、絵本の仕組みを解説する。

### ●到達目標：

子どもとのやわらかなコミュニケーションと子ども理解の手がかりとして「絵本の読みあい」が、受講者一人一人に見合ったかたちでできるようになる。

それぞれが手作り絵本を作成し実際に読み聞かせることによって、絵本の仕組みを把握でき、現場で子どもたちに指導できるようになる。

紙芝居やパネルシアターなどの実演技法を習得する

### ●成績評価の基準：

レポート60％，作成するミニ絵本20％，授業の参加態度態度20％

### ●留意事項：

絵本については解説をしながら、実際に受講生に読んでもらう。

また、手作り絵本は授業時間以外にも補助的に作成の時間が求められる場合がある。

オフィスアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

絵本の実作者として、手作り絵本やおはなしづくりの具体的指導にあたり、どこに問題点があるかを創作現場での基本ルールに則って解説する

### ●授業予定一覧：

- ① はじめに「子ども」という窓
- ② 赤ちゃん絵本について
- ③ 科学する絵本について
- ④ 2～3歳の絵本
- ⑤ 4～5歳の絵本
- ⑥ 大きい人の絵本
- ⑦ 手作り絵本の作成
- ⑧ 手作り絵本の作成
- ⑨ 手作り絵本の発表
- ⑩ さまざまな児童文化財・その1手づくりおもちゃ
- ⑪ さまざまな児童文化財・その2紙芝居・パネルシアター
- ⑫ おはなしづくりの文法・その1
- ⑬ おはなしづくりの文法・その2
- ⑭ 読みあいとさまざまな文化環境
- ⑮ まとめ

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

各授業に関連する参考図書を授業内で紹介するとともに、予習課題については、授業内で指示する。

### 【必携書（教科書販売）】

保育をゆたかに～絵本でコミュニケーション～，村中李衣，かもがわ出版

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 児童文化論Ⅲ

[担 当 者] 片平 朋世  
 [開 講 期] 2 期  
 [授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 330B1-1000-o2

### ●本授業の概要：

幼児期後半から学童期以上の子どもを対象に、読書の可能性について考える。大人にとっては、趣味の一つであるが、子どもにとって絵本や児童文学は、その育ちを支える重要な文化財である。保育園や幼稚園、小学校、家庭文庫等での子どもたちの事例を知ったり、読書会を行い仲間と語り合ったりする中で、読むことの喜びに気づき、子どもにとっての物語の意味、そして現場で子どもにかかわる大人のあり方などを探っていく。

### ●到達目標：

- ①子どもにとっての読書の必要性について記述できる
- ②読書会を通して、各児童文学作品を多面的に論じることができる
- ③保育・教育者の立場として、子どもに適切な絵本や児童文学作品を選ぶことができる

### ●成績評価の基準：

- ・受講態度（発表・事前シート・授業中の課題・感想等）50％（到達目標②③）
- ・期末レポート 50％（到達目標①）

### ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

保育園での保育経験を元に、その後の読書につながる読み聞かせのあり方を検討したり、実際の子どもと照らし合わせながら、児童文学作品の中の子ども像を多角的に読み解くよう促したりする。  
特別講師山本は、小学校教諭として担任による読み聞かせや読書支援の意義と方法を実践例を通して解説する。

### ●授業予定一覧：

- 1 読むことはなぜ必要なのか
- 2 話し言葉と書き言葉について
- 3 同じテーマの絵本を読み比べてみよう
- 4 物語への橋渡しとなる絵本
- 5 昔話について①
- 6 昔話について②
- 7 昔話絵本を読み比べてみよう
- 8 共通体験としての物語ー体験①ー
- 9 共通体験としての物語ー発表①ー
- 10 小学校での実践事例（特別講義）（特別講師 山本茉莉）
- 11 児童文学作品から「話すこと」「書くこと」を学ぶ
- 12 家庭文庫での実践事例ー小学生読書会の様子からー
- 13 共通体験としての物語ー体験②ー
- 14 共通体験としての物語ー発表②ー
- 15 子どもに手渡すには
- 16 まとめ・レポート

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・テキストの指示した箇所や配布資料、絵本・児童文学等を読み、概要や感想をシートにまとめておくこと。
- ・読書会で扱う児童文学（受講数決定後に指示）を期日までに繰り返し読み、事前シートに記入しておくこと。

### 【必携書（教科書販売）】

『読む力が未来をひらくー小学生への読書支援』，脇明子，岩波書店

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『読む力は生きる力』，脇明子，岩波書店

## 児童文学

〔担 当 者〕 村中 李衣  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2340-o2

### ●本授業の概要：

授業前半は対象児・対象場面を設定して、実際に受講生ひとりひとりに絵本の読み聞かせを実践してもらい、適切な技法を学んでいく。  
 授業後半は、1作ごとの読書会を設定し、国内外の児童文学作品を鑑賞することを通して、「物語」のもつ力とそれを受容する読者の間に生じる読みのダイナミクスを学ぶ。  
 さらに、絵本から読みものへと子どもの読書が発展していく過程について学ぶ。

### ●到達目標：

- 1、季節や年齢に即した読み聞かせの実践方法を体得する。
- 2、児童文学作品に関心を持ち、積極的に読書するとともに、それぞれの作品世界について自分なりの意見や世界観を持てるようになる。
- 3、テーマ別に児童文学作品の読書会を開く技法を習得する。
- 4、小学校での絵本から児童文学への橋渡しの方法を理解する

### ●成績評価の基準：

授業への参加態度（読みのプレゼンテーションも含む） 60%  
 振り返りシートの完成度 40%

### ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

養護施設や矯正施設での子どもたちへの読書指導の経験と児童文学の実作者としての経験を活かし、子どもと本を結ぶために必要なものを受講生自ら発見していく手助けをする。このことにより、到達目標1, 2, 3 がより深く達成されるようにする。

### ●授業予定一覧：

- ① 児童文学とは
- ② 絵本の構造
- ③ 童話の構造
- ④ 自分の声に気づく
- ⑤ さまざまな場所での読み聞かせ技法
- ⑥ 年齢別読み聞かせ技法
- ⑦ 児童文学作品を読むその1「白いぼうし」
- ⑧ 児童文学作品を読むその2「風と木の歌」
- ⑨ 児童文学作品を読むその3「チャーシューの月」
- ⑩ 児童文学作品を読むその4「ねずみ女房」
- ⑪ 児童文学作品を読むその5「クローディアの秘密」
- ⑫ 児童文学作品を読むその6「トムは真夜中の庭で」
- ⑬ 幼い人とのがたりを介してどう向き合うか（場面別）
- ⑭ 小学校での読みあい活動術（文学編）
- ⑮ 小学校での読みあい活動術（科学よみもの編）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

各授業に関連する参考図書を授業内で紹介するとともに、予習課題については、授業内で指示する。

### 【必携書（教科書販売）】

保育をゆたかに～絵本でコミュニケーション～、村中李衣、かもがわ出版

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 国語 I

〔担 当 者〕 赤木 雅宣  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

### ●本授業の概要：

○小学校国語科の目標と内容について、系統を踏まえて概説するとともに、具体的な教材を通して「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習指導のあり方について研究する。  
 ○小学校国語科の学習指導要領の概略を知り、目標に対応した教材研究の方策をつかむ。  
 ○就学前のことばの育ちと就学後の授業づくりをつなぎ、子どもが身に付けるべき学力について考えをもつ。

### ●到達目標：

○国語科の目標と内容の構成について、系統的に学んでいくことで、何を指す教科なのかを理解することができる。  
 ○教材研究の進め方を知り、実践することができる。  
 ○国語科の指導に必要な知識・技術と素養を身に付けることができる。

### ●成績評価の基準：

・授業中の活動の様子（取り組み方・意欲等） 40点  
 ・課題 30点  
 ・（授業後）小レポート、最終レポート 30点

### ●留意事項：

・教壇に立つことを意識して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの言語活動に積極的に取り組むこと。  
 ・授業で学んだ内容と、日常生活の中での言語活動のつながりを意識し、その充実を図ること。

オフィスアワー 授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

公立小学校の教員として国語科の授業を実践してきた経験をもとに、授業づくりの課題や留意点を実践に即して取り上げる。指導要領に記されていることを学校現場の授業ベースで伝えと共に、学生が児童が取り組む言語活動について考える際に、児童の実態を伝えていくことで、実践的な指導力を高めていく。

### ●授業予定一覧：

- 1 小学校教育における国語科の役割
- 2 国語科の目標と内容の概観（学習指導要領を読み解く）
- 3 「話すこと・聞くこと」の学習指導①（スピーチ系列）
- 4 「話すこと・聞くこと」の学習指導②（話し合い系列）
- 5 「書くこと」の学習指導①（生活系作文）
- 6 「書くこと」の学習指導②（伝達系作文）
- 7 「読むこと」の学習指導①（文学的文章の教材研究）
- 8 「読むこと」の学習指導②（文学的文章の授業構想）
- 9 「読むこと」の学習指導③（読書指導）
- 10 「読むこと」の学習指導④（説明的な文章の教材研究）
- 11 「読むこと」の学習指導⑤（説明的な文章の授業構想）
- 12 「言語事項」の学習指導①（言語に関する事項の授業構想）
- 13 「言語事項」の学習指導②（書写に関する事項の授業構想）
- 14 言語活動を核にした授業づくり①
- 15 言語活動を核にした授業づくり②
- 16 総括（最終レポートについて）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業の最後には、その時間に学んだことについて振り返り、自分の言葉でまとめて表現する時間をもつ。そこでまとめたことを核に復習をして、それぞれの領域の学習指導のあり方についての考えを明らかにしていくこと。各領域の学びが終わる度に課題を出す、毎回のまとめが蓄積していることで答えられる内容である。最終レポートも同様で、授業の中で体験し、明らかにしたことをもとに、自分の考えを構築して表現することを求める。

### 【必携書（教科書販売）】

○小学校国語教科書「2年下」「4年下」「6年」光村図書版  
 ○文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」（新指導要領版）

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 授業の中で紹介する。

| 330                     | 82100 |
|-------------------------|-------|
| 国語Ⅱ                     |       |
| 〔担当 者〕赤木 雅宣・片平 朋世       |       |
| 〔開 講 期〕2 期              |       |
| 〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2    |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-4000-o2 |       |

●本授業の概要：  
○国語Ⅰ（教材研究の方策と実践）、国語科指導法（授業づくりの実践的探求）で培ってきたことを確かめ、更に深めていく。  
○本時レベルを超え、単元全体の授業構想をしたり、漢字指導、ノート指導等、日々の指導の中で課題になるであろうことを想定して、指導のあり方を考えたりする。  
○具体的な実践を想定した内容を学んでいく中で、言語行為という視点から、国語科の指導のあり方を考察する。  
○就学前の言葉の育ちを入学後の授業づくりに活かすための理論と方法を身に付ける。

●到達目標：  
○国語科を学ぶこと（学力観）について、自分なりの考えをもつことができる。  
○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと（文学教材・説明文教材）」の単元を構想して、授業のつくりかたを身につけることができる。  
○漢字指導、ノート指導、音読指導など、日常の授業の中で出会うであろう諸問題について、具体的な指導の方策を身につけることができる。

●成績評価の基準：  
○授業中の態度（積極性、グループ活動への貢献度） … 50％  
○課題・小レポート … 25％  
○最終レポート … 25％  
※出席を重視する。

●留意事項：  
○小学校、特別支援学校の学校現場への就業を考えている人は、できるだけ履修することが望ましい。  
○「国語Ⅰ」「初等教育実習」を学んだ後の履修が望ましい。  
○学校現場で使える具体的な指導のあり方を求めているので、自分のこれまでの体験を踏まえ、積極的にグループ活動やロールプレイなどに取り組むこと。

○オフィスアワーは、講義の中で伝える。

●実務経験の授業への活用方法：  
赤木は公立小学校の教員として国語科の授業実践をした経験をもとに、授業づくりに関する課題を実践に即して取り上げる。学生がロールプレイをしたり話し合ったりする内容について、教室の児童の実態を踏まえたアドバイスをして、実践的指導力の向上に役立てる。  
片平は保育士の経験をもとに、就学前の子どものことばの発達のだ筋や、豊かなことばを育てるための保育環境や保育者の役割等を、実例を示しながら解説する。

●授業予定一覧：  
①国語科教育が求めるもの  
②「話すこと・聞くこと」の授業づくり  
③話し合い学習のあり方  
④「書くこと」の授業づくり  
⑤作文の評価（赤ペン指導）のあり方  
⑥「読むこと（文学教材）」の授業づくり  
⑦「読むこと（説明文教材）」の授業づくり  
⑧就学前の子どものことばの育ち（片平）  
⑨就学前の子どものことばの指導（片平）  
⑩国語科入門期（新1年生）の授業作り  
⑪ノート指導の進め方  
⑫漢字指導のあり方  
⑬音読（朗読）指導の進め方  
⑭グループを活用した指導の進め方  
⑮国語科指導の諸問題  
⑯まとめ、レポート作成

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
「国語科指導法」で作成したノートを継続して利用し、充実させていく。レジュメ、資料などをもとにして、毎回の内容について、きちんとまとめや振り返りを記述していくこと。このノートを、国語の授業作りについて考えたいときにすぐに取り出せる「オリジナルの参考書」に仕上げていってほしい。最終のレポートでは、毎回の蓄積を発揮して、授業を構想することになる。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜必携書＞  
文科省「小学校学習指導要領解説」国語編  
「基本を大切にした国語科授業づくり」赤木雅宣 大学教育出版

| 330                     | 82150 |
|-------------------------|-------|
| 書道                      |       |
| 〔担 当 者〕山根 一郎            |       |
| 〔開 講 期〕1 期              |       |
| 〔授 業 形 態〕講義・演習・実技 〔単位〕2 |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-3400-o2 |       |

●本授業の概要：  
小学校書写教育の演習・実技を通して、書写教育の基礎・基本を理解し、文字指導の技能を修得し、文字指導場面で活用できるようにすることを目的とする。  
指導場面でのほめ方（認め方）の重要性について理解し、実践できるように自己評価・相互評価の実践をする。  
文字・書写教育について考察することで、文字に関する視野を広げるとともに知性・感情・意思における自立性を培う。

●到達目標：  
1 文字教育の必要性が説明できる。  
2 正しい姿勢・執筆法が実行できる。  
3 字形の整え方を理解し、演習・実技を通して用筆法を体得する。  
4 実技の結果について、自己評価・相互評価を実行できる。

●成績評価の基準：  
・演習・実技での実践や技能 5 0％（到達目標1, 2, 3, 4）  
・実技提出物 5 0％（到達目標3, 4）

●留意事項：  
質問がある場合は、授業中、授業終了時に受け付ける。  
履修内容を充実させるために、実技の練習を重ねることが大切である。更に受講内容を充実させるために、児童生徒の書道展や一般の書道展また古典の作品などを鑑賞し、確かな技能と高い見識を身につける努力が望まれる。

●実務経験の授業への活用方法：  
小学校教員教諭・管理職として授業・学校管理に携わった経験から、教育観や書写授業さらに文字学習についての基礎・基本を踏まえながら、受講学生に教育者としての文字教育についての実践的な技能の習得を促す。

●授業予定一覧：  
1. 学習について 文字・書写教育について  
2. 姿勢・執筆法・用具について  
3. 1・2年書写の演習（姿勢や筆記用具の持ち方、ひらがな）  
4. 1・2年書写の演習（文字の形に注意しながら丁寧に書く）  
5. 1・2年書写の演習（点画の長短や方向）  
6. 1・2年書写の演習（接筆や交わり方、筆順）  
7. 3・4年書写の演習（文字の組み立て方）  
8. 3・4年書写の演習（形を整えて書く 漢字や仮名の大きさと配列）  
9. 3・4年書写の演習（漢字や仮名の大きさと配列）  
10. 3・4年書写の演習（点画の種類と毛筆の筆圧）  
11. 5・6年書写の演習（用紙と文字の配列）  
12. 5・6年書写の演習（書く速さ）  
13. 5・6年書写の演習（目的に合わせた筆記用具）  
14. 5・6年書写の演習（穂先の動きと点画のつながり）  
15. 指導法のまとめ（演習レポート発表、相互評価）  
16. 指導法のまとめ（演習レポート発表、相互評価）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
・事前に学習計画を示すので、通読しておくことが望ましい。  
・実技の時間が十分に採れないことも予想されるので、日常的に実践しておくことが望まれる。

【必携書（教科書販売）】  
小学書写（1年～6年）、日本文教出版社  
小学校学習指導要領解説 国語編、文部科学省  
小学校学習指導要領解説 総則編、文部科学省

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜必携書＞  
硬筆用具：漢字ノート、鉛筆（2 B以上）、下敷き  
毛筆用具：筆、墨液、文鎮、毛筆下敷き、半紙（授業中に販売可）、ふき取り用紙  
くりかえし漢字ドリル6年、教育同人社（授業中に販売）

＜参考書等＞  
無気力の心理学、波多野諠与夫・稲垣佳代子、中公新書  
知的好奇心、波多野諠与夫・稲垣佳代子、中公新書  
人はいかに学ぶか、波多野諠与夫・稲垣佳代子、中公新書  
ほめて伸ばす！叱って育てる、三川俊樹、東京書籍



## 社会

〔担 当 者〕 浅井 宏史  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

小学校社会科の目標・内容について理解する。小学校第3学年から第6学年の社会科の授業のあり方について、基礎的な知識や技能を習得する。

## ●到達目標：

小学校社会科の目標・内容について理解することができる。小学校第3学年から第6学年の社会科の授業のあり方について、基礎的な知識や技能を習得することができる。

## ●成績評価の基準：

・毎回提出のレポート及び試験 7 0 %  
 ・教材研究 3 0 %

## ●留意事項：

・小学校学習指導要領解説社会編と教科書を事前に読んで受講すること。  
 ・事後もそれらを活用して学習内容の理解に努めること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

岡山市立の小学校教諭、教頭、校長職として小学校教育に携わっていた経験から、学生に小学生に対する社会科教育の本質を知らせ、社会科指導のあり方について、基礎的な知識や技能の習得を促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 社会科の目標と内容
- 2 第3学年及び第4学年の目標と内容（1）単元構成
- 3 第3学年及び第4学年の目標と内容（2）観察・見学
- 4 第3学年及び第4学年の目標と内容（3）副読本の扱い
- 5 第5学年の目標と内容（1）学習過程
- 6 第5学年の目標と内容（2）学習活動の工夫
- 7 第5学年の目標と内容（3）発問と板書
- 8 第6学年の目標と内容（1）学習ノート
- 9 第6学年の目標と内容（2）資料活用
- 10 第6学年の目標と内容（3）学習シート
- 11 社会科の評価
- 12 教材研究（1）指導案の作成
- 13 教材研究（2）指導細案の作成
- 14 教材研究（3）学習シート等の作成
- 15 教材研究（4）模擬授業検討会
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）小学校社会科の目標・内容、授業のあり方について具体的に学ぶので、該当学年・単元の小学校学習指導要領解説社会編と教科書を事前に読んで受講すること。

（復習）毎回提出するレポートが返却された後、指導要領解説と教科書を参考にして内容が一層充実するよう補足し、基礎的な知識や技能の習得に役立てる。

## 【必携書（教科書販売）】

文部科学省検定「小学校教科書3・4年、5年、6年」、東京書籍  
 文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月）」、東洋館出版

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 算数

〔担 当 者〕 杉能 道明  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

小学校算数科の目標と内容について、系統を踏まえて概説するとともに、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」各領域の具体的な教材を通して、学習指導のあり方について研究する。

## ●到達目標：

・算数科の目標と内容の構成について系統的に学んでいくことで、何を目指す教科なのかを理解することができる。  
 ・算数科の指導に必要な教材研究の方法を身につけることができる。

## ●成績評価の基準：

・定期試験およびレポート 7 0 %  
 ・授業中の態度 3 0 %

## ●留意事項：

オフィシアワー 金曜日 1・2時限 3・4時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年の現場経験、小1～中3までの算数・数学の指導経験を持つ。この実務経験を活かし、義務教育9年間の算数・数学の指導内容の系統をもとに教材を具体的に解説したり、学習する子どもの具体的な姿を伝えたりすることで理解を助ける。

## ●授業予定一覧：

1. 算数教育の目標 教育の目標・教科の目標・学年の目標
  2. 算数科の内容 内容構成、各領域の内容
  3. 「数と計算」領域 1, 2, 3学年の内容
  4. 「数と計算」領域 4, 5, 6学年の内容
  5. 「図形」領域 1, 2, 3学年の内容
  6. 「図形」領域 4, 5, 6学年の内容
  7. 「測定」領域 1, 2, 3学年の内容
  8. 「変化と関係」領域 4, 5, 6学年の内容
  9. 「データの活用」領域 1, 2, 3学年の内容
  10. 「データの活用」領域 4, 5, 6学年の内容
  11. 数学的活動 意義と内容
  12. 指導計画の作成と内容の取り扱い
  13. 文章題と問題解決
  14. 評価 指導と評価の一体化
  15. 算数教育の現状と課題
- 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

講義の内容を元に自分の考えをまとめてA4・1枚程度のレポートを作成し、翌週の授業の際に提出していただきます。

## 【必携書（教科書販売）】

○小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編、文部科学省  
 ○小学校算数教科書「1年」「2年上下」「3年上下」、啓林館

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 小学校学習指導要領（平成29年告示）

<参考書等>  
 プリント等を配布

理科 [a]

[担 当 者] 大木 進  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 講義・実験 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2000-o2

●本授業の概要：  
身近な現象や小学校理科の教材から題材を選び、8つの班で観察、実験を行う。さらに、その過程で生じた疑問や問題を解決する観察、実験の方法を班内で話し合い、工夫することにより、科学的に調べる能力や態度を育み、児童とともに授業を創造する基礎を習得する。

●到達目標：  
1 学習指導要領の理科の目標や内容について読み解き、学年ごとの観察、実験の特色や学年間の系統性について考えることができる。  
2 めあてに対する予想やその根拠を考えた後、班内で協力して観察、実験を行い、考察を書くことができる。  
3 観察、実験の基礎となる測定機器や観察・実験器具を安全かつ正確に操作することができる。  
4 観察や実験をした後、教える立場の教師目線で考えたことを小レポートにまとめることができる。

●成績評価の基準：  
観察、実験への関心・意欲・態度 30% 到達目標1、2、3  
講義後に提出する感想や小レポート・宿題 30% 到達目標2、4  
定期試験 40% 到達目標1、2、3、4

●留意事項：  
・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）を繰り返し読むこと。  
・班編成による学習を実施するので、進んで観察、実験に取り組み、質問や意見等の発表が積極的に行えるようにすること。  
・観察、実験中は、安全で作業しやすい服装に留意し、準備や後かたづけも細心の留意をすること。

●実務経験の授業への活用方法：  
小学校で担任や理科専科（現在も附属小学校6年生の理科専科）を通して理科を教えていた経験から、教材教具の工夫や実験器具の使い方を取り上げ、観察、実験の準備や実践、後かたづけを通して、教材教具の作り方や観察・実験器具の安全かつ正確な操作の仕方を実感させる。

●授業予定一覧：  
1 学習指導要領の理科の目標や内容の特色を読み解き、目指す方向について考える。  
2 各学年の目標や内容の特色を読み解き、児童の実態や安全指導についても考える。  
3 光の性質や光電池の働きの実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
4 でんぶんのでき方や水の通り道等の観察、実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
5 実験用ガスこんろ、アルコールランプ、ガスバーナー等の操作の技能を身に付ける。  
6 顕微鏡の使い方とプレパラート（微生物等）の作り方及び観察を通して、操作の技能を身に付ける。  
7 風やゴムの働き、空気と水の性質の実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
8 物の重さや物の溶け方の実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
9 地層のでき方の実験と岩石等の観察を通して、操作の技能を身に付ける。  
10 月や太陽の形、星や星座の動き方の観察を通して、操作の技能を身に付ける。  
11 もののあたたまり方や燃焼の仕組みの実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
12 電気や電流の働きと電気の利用の実験及び電磁石等の製作を通して、操作の技能を身に付ける。  
13 ふりこのきまりとてこの働きの実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
14 水溶液の性質の調べ方の実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
15 各学年の観察、実験を安全に実施するポイントについて、学習指導要領や教科書の内容と照合し、安全のあり方について考える。  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
・前の週に予告した学年の観察、実験の内容を、小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）や教科書を読み解くなど予習をしてきましょう。  
・観察、実験を通して身に付いた操作技能を、日常生活の中で活かすようにしましょう。

【必携書（教科書販売）】  
・小学校教科書 理科3年4年5年6年 文部科学省検定（東京書籍）、東京書籍  
・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）、東洋館出版社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

理科 [b]

[担 当 者] 大木 進  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 講義・実験 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2000-o2

●本授業の概要：  
身近な現象や小学校理科の教材から題材を選び、8つの班で観察、実験を行う。さらに、その過程で生じた疑問や問題を解決する観察、実験の方法を班内で話し合い、工夫することにより、科学的に調べる能力や態度を育み、児童とともに授業を創造する基礎を習得する。

●到達目標：  
1 学習指導要領の理科の目標や内容について読み解き、学年ごとの観察、実験の特色や学年間の系統性について考えることができる。  
2 めあてに対する予想やその根拠を考えた後、班内で協力して観察、実験を行い、考察を書くことができる。  
3 観察、実験の基礎となる測定機器や観察・実験器具を安全かつ正確に操作することができる。  
4 観察や実験をした後、教える立場の教師目線で考えたことを小レポートにまとめることができる。

●成績評価の基準：  
授業への関心・意欲・態度・礼儀 30% 到達目標1、2、3  
授業後に提出する感想や小レポート・宿題 30% 到達目標2、4  
定期試験 40% 到達目標1、2、3、4

●留意事項：  
・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）を繰り返し読むこと。  
・班編成による学習を実施するので、進んで観察、実験に取り組み、質問や意見等の発表が積極的に行えるようにすること。  
・観察、実験中は、安全で作業がしやすい服装に留意し、準備や後かたづけも細心の留意をすること。

●実務経験の授業への活用方法：  
小学校で担任や理科専科（現在も附属小学校6年生の理科専科）を通して理科を教えていた経験から、教材教具の工夫や実験器具の使い方を取り上げ、観察、実験の準備や実践、後かたづけを通して、教材教具の作り方や観察・実験器具の安全かつ正確な操作の仕方を実感させる。

●授業予定一覧：  
1 学習指導要領の理科の目標や内容の特色を読み解き、目指す方向について考える。  
2 各学年の目標や内容の特色を読み解き、児童の実態や安全指導についても考える。  
3 光の性質や光電池の働きの実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
4 でんぶんのでき方や水の通り道等の観察、実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
5 実験用ガスこんろ、アルコールランプ、ガスバーナー等の操作の技能を身に付ける。  
6 顕微鏡の使い方とプレパラート（微生物等）の作り方及び観察を通して、操作の技能を身に付ける。  
7 風やゴムの働き、空気と水の性質の実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
8 物の重さや物の溶け方の実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
9 地層のでき方の実験と岩石等の観察を通して、操作の技能を身に付ける。  
10 月や太陽の形、星や星座の動き方の観察を通して、操作の技能を身に付ける。  
11 もののあたたまり方や燃焼の仕組みの実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
12 電気や電流の働きと電気の利用の実験及び電磁石等の製作を通して、操作の技能を身に付ける。  
13 ふりこのきまりとてこの働きの実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
14 水溶液の性質の調べ方の実験を通して、操作の技能を身に付ける。  
15 各学年の観察、実験を安全に実施するポイントについて、学習指導要領や教科書の内容と照合し、安全のあり方について考える。  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
・前の週に予告した学年の観察、実験の内容を、小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年3月 文部科学省）や教科書を読み解くなど予習をしてきましょう。  
・観察、実験を通して身に付いた操作技能を、日常生活の中で活かすようにしましょう。

【必携書（教科書販売）】  
・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）、東洋館出版社  
・学校教科書 理科3年4年5年6年 文部科学省検定（東京書籍）、東京書籍

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 生活

〔担 当 者〕杉能 道明  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-1000-o2

## ●本授業の概要：

生活科創設の趣旨、目標、内容の理解を通し、学習の成立を図る授業のあり方を実際の活動を通して探る。また、生活科のもつ可能性と教師の支援のあり方を考える。

## ●到達目標：

・生活科創設の趣旨、目標、内容の構成について学んでいくことで、何を指す教科なのかを理解することができる。  
・生活科の内容に関わる具体的な活動や体験を行う演習を通して、生活科の指導に必要な教材研究の方法を身に付けることができる。

## ●成績評価の基準：

・定期試験およびレポート 7 0 %  
・授業中の態度 3 0 %

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜日 1・2 時限 3・4 時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立大学附属小学校、公立小学校の勤務経験と小1・小2の担任経験を持つ。この実務経験を活かし、生活科の学習内容や学習する子どもの具体的な姿を分かりやすく伝え、具体的な活動や体験を行う演習の中で気付きの質を高める助言を行う。

## ●授業予定一覧：

1. 生活科創設の趣旨と目標
  2. 内容構成の考え方
  3. 内容（1）学校と生活
  4. 内容（2）家庭と生活
  5. 内容（3）地域と生活
  6. 内容（4）公共物や公共施設の利用
  7. 内容（5）季節の変化と生活
  8. 内容（6）自然や物を使った遊び
  9. 内容（7）動植物の飼育・栽培
  10. 内容（8）生活や出来事の伝え合い
  11. 内容（9）自分の成長
  12. 指導計画の作成と内容の取扱い
  13. 指導計画の作成と学習指導
  14. 他教科、総合的な学習の時間との関連
  15. 生活科の現状と課題
- 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業の初回までに、野菜または花の栽培・観察・記録を行い、提出することを課題とします。詳細は掲示板でお知らせします。

## 【必携書（教科書販売）】

○小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編，文部科学省  
○小学校生活科教科書「上」「下」東京書籍

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

小学校学習指導要領（平成29年告示）

<参考書等>

自作プリント

## 音楽 I [a]

〔担 当 者〕熊澤 住子 他 6 名  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。正しい発声やピアノの基礎技能についての演習とともに、合唱や合奏の活動も取り入れる。

## ●到達目標：

1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに歌うことができる。
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて、基本的な演奏方法を理解した上で合奏することができる。
3. 音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき、表現することができる。

## ●成績評価の基準：

|        |               |
|--------|---------------|
| 定期試験   | 70% (到達目標1,3) |
| 課題の達成度 | 10% (到達目標1,3) |
| レポート   | 20% (到達目標2)   |

## ●留意事項：

・原則として「子どもと音楽」の単位を修得済であること。  
・オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、事例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 授業内容の説明  
歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」
- 2 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
歌唱「夕やけこやけ」「春の小川」「サッチャン」「かわいいかくれんぼ」
- 3 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
合奏 特別講師講義
- 4 弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」パート練習
- 5 弾き歌い「夕やけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」全体練習
- 6 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「かたつむり」「茶つみ」「おかあさん」「あめふりくまのこ」
- 7 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」
- 8 弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」パート練習
- 9 弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習
- 10 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習
- 11 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
歌唱「とんび」「エーデルワイス」「たなばたさま」「南の島のはめはめハ大王」
- 12 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
歌唱「まきばの朝」「夢路より」「いぬのおまわりさん」「ほくのミックスジュース」
- 13 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」パート練習
- 14 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習
- 15 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習・まとめ
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社（授業中に販売）

<参考書等>

学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領

| 330                     | 82460 |
|-------------------------|-------|
| 音楽 I [b]                |       |
| 〔担当 者〕熊澤 住子 他 6 名       |       |
| 〔開 講 期〕1 期              |       |
| 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2       |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2 |       |

●**本授業の概要：**  
保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。正しい発声やピアノの基礎技能についての演習とともに、合唱や合奏の活動も取り入れる。

●**到達目標：**  
1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに歌うことができる。  
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて、基本的な演奏方法を理解した上で合奏することができる。  
3. 音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき、表現することができる。

●**成績評価の基準：**  
定期試験 70% (到達目標1,3)  
課題の達成度 10% (到達目標1,3)  
レポート 20% (到達目標2)

●**留意事項：**  
・原則として「子どもと音楽」の単位を修得済であること。  
・オフィスアワー 授業中に指示する。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、実例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

●**授業予定一覧：**  
1 授業内容の説明  
歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」  
2 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
歌唱「タヤけこやけ」「春の小川」「サッチャン」「かわいいかくれんぼ」  
3 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
合奏 特別講師講義  
4 弾き歌い「タヤけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」パート練習  
5 弾き歌い「タヤけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」全体練習  
6 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「かたつむり」「茶つみ」「おかあさん」「あめふりくまのこ」  
7 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」  
8 弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」パート練習  
9 弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習  
10 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習  
11 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
歌唱「とんび」「エーデルワイス」「たなばたさま」「南の島のハメハメハ大王」  
12 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
歌唱「まきばの朝」「夢路より」「いぬのおまわりさん」「はくのミックスジュース」  
13 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」パート練習  
14 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習  
15 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習・まとめ  
16 定期試験

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
<必携書>  
『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社（授業中に販売）

<参考書等>  
学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領

| 330                     | 82470 |
|-------------------------|-------|
| 音楽 I [c]                |       |
| 〔担当 者〕熊澤 住子 他 6 名       |       |
| 〔開 講 期〕1 期              |       |
| 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2       |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2 |       |

●**本授業の概要：**  
保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。正しい発声やピアノの基礎技能についての演習とともに、合唱や合奏の活動も取り入れる。

●**到達目標：**  
1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに歌うことができる。  
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて、基本的な演奏方法を理解した上で合奏することができる。  
3. 音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき、表現することができる。

●**成績評価の基準：**  
定期試験 70% (到達目標1,3)  
課題の達成度 10% (到達目標1,3)  
レポート 20% (到達目標2)

●**留意事項：**  
・原則として「子どもと音楽」の単位を修得済であること。  
・オフィスアワー 授業中に指示する。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、実例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

●**授業予定一覧：**  
1 授業内容の説明  
歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」  
2 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
歌唱「タヤけこやけ」「春の小川」「サッチャン」「かわいいかくれんぼ」  
3 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
合奏 特別講師講義  
4 弾き歌い「タヤけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」パート練習  
5 弾き歌い「タヤけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」全体練習  
6 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「かたつむり」「茶つみ」「おかあさん」「あめふりくまのこ」  
7 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」  
8 弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」パート練習  
9 弾き歌い「茶つみ」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習  
10 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習  
11 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
歌唱「とんび」「エーデルワイス」「たなばたさま」「南の島のハメハメハ大王」  
12 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
歌唱「まきばの朝」「夢路より」「いぬのおまわりさん」「はくのミックスジュース」  
13 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」パート練習  
14 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習  
15 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習・まとめ  
16 定期試験

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
<必携書>  
『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社（授業中に販売）

<参考書等>  
学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領



音楽Ⅰ [d]

〔担 当 者〕熊澤 住子 他 6 名

〔開 講 期〕1 期

〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

保育士や幼稚園・小学校教員を目指している人を対象とした授業である。音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。正しい発声やピアノの基礎技能についての演習とともに、合唱や合奏の活動も取り入れる。

●到達目標：

1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに歌うことができる。
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器を用いて、基本的な演奏方法を理解した上で合奏することができる。
3. 音の違い（強弱・リズム・音色等）に気づき、表現することができる。

●成績評価の基準：

|        |               |
|--------|---------------|
| 定期試験   | 70% (到達目標1,3) |
| 課題の達成度 | 10% (到達目標1,3) |
| レポート   | 20% (到達目標2)   |

●留意事項：

- ・原則として「子どもと音楽」の単位を修得済であること。
- ・オフィスアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、実例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

●授業予定一覧：

- 1 授業内容の説明  
歌唱「うみ」「春が来た」「めだかの学校」「しゃぼん玉」
- 2 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
歌唱「タヤけこやけ」「春の小川」「サッチャン」「かわいいかくれんぼ」
- 3 弾き歌い「春が来た」「めだかの学校」  
合奏 特別講師講義
- 4 弾き歌い「タヤけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」パート練習
- 5 弾き歌い「タヤけこやけ」「しゃぼん玉」  
合奏「山の音楽家」全体練習
- 6 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「かたつむり」「茶つき」「おかあさん」「あめふりくまのこ」
- 7 弾き歌い「春の小川」「サッチャン」  
歌唱「虫の声」「ふじ山」「七つの子」「アイアイ」
- 8 弾き歌い「茶つき」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」パート練習
- 9 弾き歌い「茶つき」「おかあさん」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習
- 10 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
合奏「ミッキーマウスマーチ」全体練習
- 11 弾き歌い「ふじ山」「七つの子」  
歌唱「とんび」「エーテルワイス」「たなばたさま」「南の島のハメハメハ大王」
- 12 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
歌唱「まきばの朝」「夢路より」「いぬのおまわりさん」「はくのみックスジュース」
- 13 弾き歌い「とんび」「たなばたさま」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」パート練習
- 14 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習
- 15 弾き歌い「まきばの朝」「いぬのおまわりさん」  
合奏「おもちゃのチャチャチャ」全体練習・まとめ
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社（授業中に販売）

<参考書等>

学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領

音楽Ⅱ [a]

〔担 当 者〕熊澤 住子 他 6 名

〔開 講 期〕2 期

〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

「音楽Ⅰ」に引き続き、保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに、合唱や合奏の活動も取り入れ、指導法についても触れる。

●到達目標：

1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器について、特性を理解した上で楽曲の中でふさわしい用い方ができる。
3. 音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき、各課題曲の音楽的要素についても深く理解した上で表現することができる。

●成績評価の基準：

|        |               |
|--------|---------------|
| 定期試験   | 70% (到達目標1,3) |
| 課題の達成度 | 10% (到達目標1,3) |
| レポート   | 20% (到達目標2,3) |

●留意事項：

- ・「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。
- ・オフィスアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、実例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

●授業予定一覧：

- 1 歌唱「もみじ」「バスごっこ」
- 2 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「こいのほり」「おつかいあいさん」
- 3 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「冬げしき」「たきび」
- 4 弾き歌い「こいのほり」「おつかいあいさん」  
歌唱「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」
- 5 弾き歌い「こいのほり」「おつかいあいさん」  
歌唱「おほろ月夜」「とんぼのめがね」
- 6 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「われは海の子」「ドロップスの歌」
- 7 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「ふるさと」「お正月」「うれしいひなまつり」
- 8 弾き歌い「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」パート練習
- 9 弾き歌い「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」全体練習
- 10 弾き歌い「おほろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
- 11 弾き歌い「おほろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「夏の思い出」「一年生になったら」
- 12 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
歌唱「アニーローリー」「手のひらを太陽に」
- 13 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
合奏「おばけなんてないさ」楽器選択
- 14 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」パート練習
- 15 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」全体練習・まとめ
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社

<参考書等>

学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領

音楽Ⅱ [b]

〔担 当 者〕熊澤 住子 他 6 名  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

「音楽Ⅰ」に引き続き、保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱・合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに、合唱や合奏の活動も取り入れ、指導法についても触れる。

●到達目標：

1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器について、特性を理解した上で楽曲の中でふさわしい用い方ができる。
3. 音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき、各課題曲の音楽的要素についても深く理解した上で表現することができる。

●成績評価の基準：

|        |               |
|--------|---------------|
| 定期試験   | 70% (到達目標1,3) |
| 課題の達成度 | 10% (到達目標1,3) |
| レポート   | 20% (到達目標2,3) |

●留意事項：

- ・「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。
- ・オフィスアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、事例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

●授業予定一覧：

- 1 歌唱「もみじ」「バスごっこ」
- 2 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「こいのぼり」「おつかいあいさん」
- 3 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「冬げしき」「たきび」
- 4 弾き歌い「こいのぼり」「おつかいあいさん」  
歌唱「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」
- 5 弾き歌い「こいのぼり」「おつかいあいさん」  
歌唱「おぼろ月夜」「とんぼのめがね」
- 6 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「われは海の子」「ドロップスの歌」
- 7 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「ふるさと」「お正月」「うれしいひなまつり」
- 8 弾き歌い「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」パート練習
- 9 弾き歌い「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」全体練習
- 10 弾き歌い「おぼろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
- 11 弾き歌い「おぼろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「夏の思い出」「一年生になったら」
- 12 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
歌唱「アニーローリー」「手のひらを太陽に」
- 13 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
合奏「おばけなんてないさ」楽器選択
- 14 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」パート練習
- 15 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」全体練習・まとめ
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社

<参考書等>  
学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領

音楽Ⅱ [c]

〔担 当 者〕熊澤 住子 他 5 名  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

「音楽Ⅰ」に引き続き、保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱。合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに、合唱や合奏の活動も取り入れ、指導法についても触れる。

●到達目標：

1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器について、特性を理解した上で楽曲の中でふさわしい用い方ができる。
3. 音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき、各課題曲の音楽的要素についても深く理解した上で表現することができる。

●成績評価の基準：

|        |               |
|--------|---------------|
| 定期試験   | 70% (到達目標1,3) |
| 課題の達成度 | 10% (到達目標1,3) |
| レポート   | 20% (到達目標2,3) |

●留意事項：

- ・「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。
- ・オフィスアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、事例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

●授業予定一覧：

- 1 歌唱「もみじ」「バスごっこ」
- 2 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「こいのぼり」「おつかいあいさん」
- 3 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「冬げしき」「たきび」
- 4 弾き歌い「こいのぼり」「おつかいあいさん」  
歌唱「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」
- 5 弾き歌い「こいのぼり」「おつかいあいさん」  
歌唱「おぼろ月夜」「とんぼのめがね」
- 6 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「われは海の子」「ドロップスの歌」
- 7 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「ふるさと」「お正月」「うれしいひなまつり」
- 8 弾き歌い「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」パート練習
- 9 弾き歌い「スキーの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」全体練習
- 10 弾き歌い「おぼろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
- 11 弾き歌い「おぼろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「夏の思い出」「一年生になったら」
- 12 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
歌唱「アニーローリー」「手のひらを太陽に」
- 13 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
合奏「おばけなんてないさ」楽器選択
- 14 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」パート練習
- 15 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」全体練習・まとめ
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社

<参考書等>  
学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領

## 音楽Ⅱ [d]

〔担当者〕熊澤 住子 他5名  
〔開講期〕2期  
〔授業形態〕演習 [単位] 2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

「音楽Ⅰ」に引き続き、保育士や幼稚園・小学校教員に必要な音楽の技能と知識の習得を目的とし、弾き歌いと歌唱。合奏の演習をそれぞれ45分ずつ行う。乳幼児・児童期に歌われる歌唱曲の基本構造の理解や表現力の向上を目指すとともに、合唱や合奏の活動も取り入れ、指導法についても触れる。

## ●到達目標：

1. 保育所・幼稚園や小学校で扱われることの多い歌唱教材について、ピアノ伴奏とともに音楽的な表現ができる。
2. 保育所・幼稚園や小学校で使用する楽器について、特性を理解した上で楽曲の中でふさわしい使い方ができる。
3. 音の違い（強弱・リズム・音色・ニュアンス等）に気づき、各課題曲の音楽的要素についても深く理解した上で表現することができる。

## ●成績評価の基準：

|        |               |
|--------|---------------|
| 定期試験   | 70% (到達目標1,3) |
| 課題の達成度 | 10% (到達目標1,3) |
| レポート   | 20% (到達目標2,3) |

## ●留意事項：

- ・「音楽Ⅰ」の単位を修得済であること。
- ・オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

音楽に関する基本的な知識や演奏技術を指導するとともに、幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、それらを教育・保育現場における音楽表現実践とのつながりの中でとらえることができるように、事例を示しつつ、学生が自ら課題を見つけ、探求することを促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 歌唱「もみじ」「バスごっこ」
- 2 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「こいのぼり」「おつかいありさん」
- 3 弾き歌い「もみじ」「バスごっこ」  
歌唱「冬げしき」「たきび」
- 4 弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」  
歌唱「スキューの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」
- 5 弾き歌い「こいのぼり」「おつかいありさん」  
歌唱「おぼろ月夜」「とんぼのめがね」
- 6 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「われは海の子」「ドロップスの歌」
- 7 弾き歌い「冬げしき」「たきび」  
歌唱「ふるさと」「お正月」「うれしいひなまつり」
- 8 弾き歌い「スキューの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」パート練習
- 9 弾き歌い「スキューの歌」「あわてんぼうのサンタクロース」  
合奏「たのしいね」全体練習
- 10 弾き歌い「おぼろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「きのこ」「思い出のアルバム」
- 11 弾き歌い「おぼろ月夜」「うれしいひなまつり」  
歌唱「夏の思い出」「一年生になったら」
- 12 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
歌唱「アニーローリー」「手のひらを太陽に」
- 13 弾き歌い「われは海の子」「思い出のアルバム」  
合奏「おばけなんてないさ」楽器選択
- 14 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」パート練習
- 15 弾き歌い「ふるさと」「一年生になったら」  
合奏「おばけなんてないさ」全体練習・まとめ
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

課題曲について、必ず譜読みをして授業に臨み、授業後は繰り返し弾き歌いをする。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『聴く・表現する 音楽力を育む！』熊澤住子・池田尚子著、マザーアース株式会社

<参考書等>

学習指導要領（音楽）・幼稚園教育要領

## ピアノ演習Ⅰ [a]

〔担当者〕熊澤 住子  
〔開講期〕2期  
〔授業形態〕演習 [単位] 2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、表現の可能性について述べるができる。

## ●成績評価の基準：

|        |                |
|--------|----------------|
| 課題の達成度 | 50% (到達目標1, 2) |
| 定期試験   | 50% (到達目標1)    |

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲1－譜読み
- 2 課題曲1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲1－表現の可能性を探る。
- 4 課題曲2－譜読み
- 5 課題曲2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲2－表現の可能性を探る。
- 7 課題曲3－譜読み
- 8 課題曲3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲3－表現の可能性を探る。
- 10 課題曲4－譜読み
- 11 課題曲4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲4－表現の可能性を探る。
- 13 課題曲5－譜読み
- 14 課題曲5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲5－表現の可能性を探る。
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

<参考書等>

授業中に指示

ピアノ演習 I [b]

[担 当 者] 荻野 美穂  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2000-o2

●本授業の概要：

ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、表現の可能性について述べることができる。

●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1, 2）  
定期試験 50%（到達目標1）

●留意事項：

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲 1－譜読み
- 2 課題曲 1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲 1－表現の可能性を探る。
- 4 課題曲 2－譜読み
- 5 課題曲 2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲 2－表現の可能性を探る。
- 7 課題曲 3－譜読み
- 8 課題曲 3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲 3－表現の可能性を探る。
- 10 課題曲 4－譜読み
- 11 課題曲 4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲 4－表現の可能性を探る。
- 13 課題曲 5－譜読み
- 14 課題曲 5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲 5－表現の可能性を探る。
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
各自の進度に応じて随時指定する。

<参考書等>  
授業中に指示

ピアノ演習 I [c]

[担 当 者] 笹岡 あおい  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2000-o2

●本授業の概要：

ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、表現の可能性について述べることができる。

●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1, 2）  
定期試験 50%（到達目標1）

●留意事項：

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲 1－譜読み
- 2 課題曲 1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲 1－表現の可能性を探る。
- 4 課題曲 2－譜読み
- 5 課題曲 2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲 2－表現の可能性を探る。
- 7 課題曲 3－譜読み
- 8 課題曲 3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲 3－表現の可能性を探る。
- 10 課題曲 4－譜読み
- 11 課題曲 4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲 4－表現の可能性を探る。
- 13 課題曲 5－譜読み
- 14 課題曲 5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲 5－表現の可能性を探る。
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
各自の進度に応じて随時指定する。

<参考書等>  
授業中に指示



## ピアノ演習Ⅰ [d]

〔担当 者〕 佐藤 恵美子  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、表現の可能性について述べることができる。

## ●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1, 2）  
 定期試験 50%（到達目標1）

## ●留意事項：

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲 1－譜読み
- 2 課題曲 1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲 1－表現の可能性を探る。
- 4 課題曲 2－譜読み
- 5 課題曲 2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲 2－表現の可能性を探る。
- 7 課題曲 3－譜読み
- 8 課題曲 3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲 3－表現の可能性を探る。
- 10 課題曲 4－譜読み
- 11 課題曲 4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲 4－表現の可能性を探る。
- 13 課題曲 5－譜読み
- 14 課題曲 5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲 5－表現の可能性を探る。
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 各自の進度に応じて随時指定する。

<参考書等>  
 授業中に指示

## ピアノ演習Ⅱ [a]

〔担当 者〕 荻野 美穂  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

「ピアノ演習Ⅰ」に引き続き、ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、練習曲や古典派の作品を中心として各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、作品にふさわしい表現ができる。

## ●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1）  
 定期試験 50%（到達目標1, 2）

## ●留意事項：

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲 1－譜読み
- 2 課題曲 1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲 1－作品にふさわしい表現
- 4 課題曲 2－譜読み
- 5 課題曲 2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲 2－作品にふさわしい表現
- 7 課題曲 3－譜読み
- 8 課題曲 3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲 3－作品にふさわしい表現
- 10 課題曲 4－譜読み
- 11 課題曲 4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲 4－作品にふさわしい表現
- 13 課題曲 5－譜読み
- 14 課題曲 5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲 5－作品にふさわしい表現
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 各自の進度に応じて随時指定する。

<参考書等>  
 授業中に指示

ピアノ演習Ⅱ [b]

〔担 当 者〕 笹岡 あおい  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

●本授業の概要：

「ピアノ演習Ⅰ」に引き続き、ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、練習曲や古典派の作品を中心として各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、作品にふさわしい表現ができる。

●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1）  
定期試験 50%（到達目標1, 2）

●留意事項：

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲1－譜読み
- 2 課題曲1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲1－作品にふさわしい表現
- 4 課題曲2－譜読み
- 5 課題曲2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲2－作品にふさわしい表現
- 7 課題曲3－譜読み
- 8 課題曲3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲3－作品にふさわしい表現
- 10 課題曲4－譜読み
- 11 課題曲4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲4－作品にふさわしい表現
- 13 課題曲5－譜読み
- 14 課題曲5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲5－作品にふさわしい表現
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
各自の進度に応じて随時指定する。

＜参考書等＞  
授業中に指示

ピアノ演習Ⅱ [c]

〔担 当 者〕 佐藤 恵美子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

●本授業の概要：

「ピアノ演習Ⅰ」に引き続き、ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、練習曲や古典派の作品を中心として各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、作品にふさわしい表現ができる。

●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1）  
定期試験 50%（到達目標1, 2）

●留意事項：

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲1－譜読み
- 2 課題曲1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲1－作品にふさわしい表現
- 4 課題曲2－譜読み
- 5 課題曲2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲2－作品にふさわしい表現
- 7 課題曲3－譜読み
- 8 課題曲3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲3－作品にふさわしい表現
- 10 課題曲4－譜読み
- 11 課題曲4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲4－作品にふさわしい表現
- 13 課題曲5－譜読み
- 14 課題曲5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲5－作品にふさわしい表現
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
各自の進度に応じて随時指定する。

＜参考書等＞  
授業中に指示

## ピアノ演習Ⅱ [d]

〔担 当 者〕熊澤 住子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

「ピアノ演習Ⅰ」に引き続き、ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、練習曲や古典派の作品を中心として各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、作品にふさわしい表現ができる。

## ●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1,2）  
定期試験 50%（到達目標1,2）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲1－譜読み
- 2 課題曲1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲1－作品にふさわしい表現
- 4 課題曲2－譜読み
- 5 課題曲2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲2－作品にふさわしい表現
- 7 課題曲3－譜読み
- 8 課題曲3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲3－作品にふさわしい表現
- 10 課題曲4－譜読み
- 11 課題曲4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲4－作品にふさわしい表現
- 13 課題曲5－譜読み
- 14 課題曲5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲5－作品にふさわしい表現
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
各自の進度に応じて随時指定する。

## ＜参考書等＞

授業中に指示

## ピアノ演習Ⅱ [e]

〔担 当 者〕加藤 順子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

「ピアノ演習Ⅰ」に引き続き、ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、練習曲や古典派の作品を中心として各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、作品にふさわしい表現ができる。

## ●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1）  
定期試験 50%（到達目標1,2）

## ●留意事項：

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲1－譜読み
- 2 課題曲1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲1－作品にふさわしい表現
- 4 課題曲2－譜読み
- 5 課題曲2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲2－作品にふさわしい表現
- 7 課題曲3－譜読み
- 8 課題曲3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲3－作品にふさわしい表現
- 10 課題曲4－譜読み
- 11 課題曲4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲4－作品にふさわしい表現
- 13 課題曲5－譜読み
- 14 課題曲5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲5－作品にふさわしい表現
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
各自の進度に応じて随時指定する。

## ＜参考書等＞

授業中に指示

ピアノ演習Ⅱ [f]

〔担 当 者〕熊澤 住子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 [単位] 2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

●本授業の概要：

「ピアノ演習Ⅰ」に引き続き、ピアノ演奏の基礎的なスキルと豊かな表現力の獲得を目指す。ピアノの基礎的な奏法を習得するために、練習曲や古典派の作品を中心として各自のレベルに適した教材を使用する。また、少人数のグループでのレッスンの中で、音楽的な表現や作品の解釈について議論をすることもある。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽譜から様々な要素を読み取り、作品にふさわしい表現ができる。

●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1, 2）  
定期試験 50%（到達目標1, 2）

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション（個人計画の作成）課題曲1－譜読み
- 2 課題曲1－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 3 課題曲1－作品にふさわしい表現
- 4 課題曲2－譜読み
- 5 課題曲2－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 6 課題曲2－作品にふさわしい表現
- 7 課題曲3－譜読み
- 8 課題曲3－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 9 課題曲3－作品にふさわしい表現
- 10 課題曲4－譜読み
- 11 課題曲4－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 12 課題曲4－作品にふさわしい表現
- 13 課題曲5－譜読み
- 14 課題曲5－強弱、アーティキュレーション等、楽譜に書かれていることの表現
- 15 課題曲5－作品にふさわしい表現
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をした上で次の授業に臨むこと。
- ・日頃から、優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけて欲しい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
各自の進度に応じて随時指定する。

＜参考書等＞  
授業中に指示

声楽演習Ⅰ

〔担 当 者〕池田 尚子  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 [単位] 2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

児童の教育に携わる者として必要な歌唱力の基礎となるソルフェージュ能力を高める。教材としては、コールユーブンゲンを使う。また、発声法の基礎を学び、日本の名歌を実際に歌唱表現していく。本授業は基本的にクラス単位で行うが、ここでは初歩的な独唱の力もつけていく。

●到達目標：

1. 歌唱法の基礎となる正しい呼吸法や発声法を学び、実行できる。
2. 音程やリズムなど、楽譜を正確に読み、正しく歌唱できる。
3. 正確な日本語の発声法を学び、表現することができる。

●成績評価の基準：

・課題の達成度 50%（到達目標1, 2）  
・定期試験 50%（到達目標1, 2, 3）

●留意事項：

オフィスアワー 金曜日7,8時限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション 授業内容の確認等
2. 声楽の基礎（姿勢・呼吸法・発声法等）
3. 課題曲① 譜読み、音程・リズムに注意して歌う
4. 課題曲① 表現を工夫して歌う
5. 課題曲② 譜読み、音程・リズムに注意して歌う
6. 課題曲② 表現を工夫して歌う
7. 課題曲③ 譜読み、音程・リズムに注意して歌う
8. 課題曲③ 表現を工夫して歌う
9. 課題曲④ 譜読み、音程・リズムに注意して歌う
10. 課題曲④ 表現を工夫して歌う
11. 課題曲⑤ 譜読み、音程・リズムに注意して歌う
12. 課題曲⑤ 表現を工夫して歌う
13. 課題曲⑥ 譜読み、音程・リズムに注意して歌う
14. 課題曲⑥ 表現を工夫して歌う
15. リハーサル（ピアノ伴奏者と共に、伴奏あわせ及びワンポイントレッスン）
16. 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をしたうえで次の授業に臨むこと。
- ・日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

【必携書（教科書販売）】

コールユーブンゲン、大阪開成館

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
プリント配布



## 声楽演習Ⅱ

〔担 当 者〕 池田 尚子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

声楽演習Ⅰに引き続き発声法を更に深め、美しい発音で歌うことを目指す。それを通して豊かな表現力を養う。外国の名歌を取り上げ、いろいろな国の文化を知る。本授業は基本的にクラス単位で行うが、ここでは独唱の力もつけていく。

### ●到達目標：

1. 美しい声を出すための正しい呼吸法、発声法を深め、実行できる。
2. 音程やリズムなど、楽譜を正確に読み、正しく歌唱できる。
3. 外国語の意味を理解し、発音に気をつけながら歌うことができる。
4. 楽譜・詩から内容を深く読み取ることができ、音楽的な表現ができる。

### ●成績評価の基準：

- ・課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

### ●留意事項：

オフィスアワー 金曜日7,8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. オリエンテーション 課題① 発音について学ぶ 単語・歌詞の意味を理解する
2. 課題曲① 譜読み リズム・音程などに注意して歌う
3. 課題曲① 表現を工夫して歌う
4. 課題曲② 発音について学ぶ 単語・歌詞の意味を理解する
5. 課題曲② 譜読み リズム・音程などに注意して歌う
6. 課題曲② 表現を工夫して歌う
7. 課題曲③ 発音について学ぶ 単語・歌詞の意味を理解する
8. 課題曲③ 譜読み リズム・音程などに注意して歌う
9. 課題曲③ 表現を工夫して歌う
10. 課題曲④ 発音について学ぶ 単語・歌詞の意味を理解する
11. 課題曲④ 譜読み リズム・音程などに注意して歌う
12. 課題曲④ 表現を工夫して歌う
13. 舞台演奏における心構え
14. 舞台演奏における実践練習
15. リハーサル（ピアノ伴奏者と共に、伴奏あわせ及びワンポイントレッスン）
16. 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業で指摘された課題について、各々繰り返し練習をしたうえで次の授業に臨むこと。
- ・日頃から優れた音楽に注意深く耳を傾けるように心がけてほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

コンコーネ50番中声用、畑中良輔、全音楽譜出版社

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 プリント配布

## 作曲演習Ⅰ

〔担 当 者〕 熊澤 住子  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

### ●本授業の概要：

作曲の基本理論である和声学に基づいた鍵盤楽器による伴奏法を学習する。またその知識と技術を活用し、歌曲を作曲する。

### ●到達目標：

1. 与えられた旋律にふさわしい和音やバスを選択し、伴奏音型を用いて演奏することができる。
2. 与えられた詩に旋律および伴奏をつけることができる。

### ●成績評価の基準：

- 課題の達成度 50%（到達目標1）
- 作品 50%（到達目標2）

### ●留意事項：

- ・ML 教室で鍵盤楽器を使用する。
- ・五線紙を用意すること。
- ・オフィスアワー 授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 授業内容の説明  
楽典の知識の確認
- 2 和音の機能
- 3 三和音 基本位置（和音指定）
- 4 三和音 基本位置（和音選択）
- 5 三和音 第1転回位置（和音指定）
- 6 三和音 第1転回位置（和音選択）
- 7 三和音 第2転回位置（和音指定）
- 8 三和音 第2転回位置（和音選択）
- 9 三和音 総合問題
- 10 V7の和音 基本位置（和音指定）
- 11 V7の和音 基本位置（和音選択）
- 12 V7の和音 第1・2転回位置（和音指定）
- 13 V7の和音 第1・2転回位置（和音選択）
- 14 歌曲の作曲（旋律）
- 15 歌曲の作曲（伴奏）

作品提出

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

課題を繰り返しピアノで弾いて、手の感覚と耳で和声感を養ってほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
 『伴奏づけと即興演奏』熊澤住子著、大学教育出版（授業中に販売）

＜参考書等＞  
 プリントを配付

作曲演習Ⅱ

〔担 当 者〕熊澤 住子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

●本授業の概要：

「作曲演習Ⅰ」に引き続き、使用することのできる和音の種類を増やし、色彩豊かな鍵盤楽器による伴奏法を習得する。またその知識と技術を活用し、クリスマス・コンサートにおける音楽劇の挿入曲を作曲する。

●到達目標：

1. 与えられた旋律に、洗練された和声感覚に基づく伴奏付けができる。
2. 音楽劇の場面に応じた曲を作ることができる。
3. 作った曲を、楽譜作成ソフト Finale を使用し楽譜にすることができる。

●成績評価の基準：

課題の達成度 50%（到達目標1）  
作品 50%（到達目標2, 3）

●留意事項：

- ・ML 教室で鍵盤楽器を使用する。
- ・五線紙を用意すること。
- ・オフィシアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 授業内容の説明  
「作曲演習Ⅰ」の知識の確認
- 2 V7の和音（転回形を含む）
- 3 準固有和音（説明・実施）
- 4 準固有和音（実施）
- 5 ドッペルドミナントの和音（説明・実施）
- 6 ドッペルドミナントの和音（実施）
- 7 その他のサブドミナント和音
- 8 借用和音（説明・実施）
- 9 借用和音1（実施）
- 10 借用和音2（実施）
- 11 クリスマス・コンサート挿入曲1の作詩
- 12 クリスマス・コンサート挿入曲1の作曲
- 13 クリスマス・コンサート挿入曲2の作詩
- 14 クリスマス・コンサート挿入曲2の作曲
- 15 クリスマス・コンサート挿入曲の発表  
作品提出

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・課題を繰り返しピアノで弾いて、手の感覚と耳で和声感を養ってほしい。
- ・クリスマス・コンサートの挿入曲の作曲については、Finale を使用して、授業時間外でも取り組んでほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
『伴奏づけと即興演奏』熊澤住子著、大学教育出版

＜参考書等＞  
プリントを配付

音楽特別演習Ⅰ [a]

〔担 当 者〕藤掛 絢子  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽式に基づいた楽曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献を見つけ、その内容について順序立てて説明することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

●留意事項：

オフィシアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、変奏（和声音）、調査・研究の進め方
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、変奏（刺繍音・経過音）、文献の調べ方
- 3 課題曲 1（譜読み）、変奏（倚音・逸音）、研究テーマの設定
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、変奏の実際、文献の紹介（幼児期における音楽教育について）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、変奏の実際（アーティキュレーションの工夫）、文献の紹介（児童期における音楽教育について）
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、小楽節（モチーフ操作）、文献の紹介（音・音環境について）
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、大楽節（一つの動機による構成）、文献講読（課題①）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、大楽節（二つの動機による構成）、文献講読（課題②）
- 9 課題曲 2（譜読み）、大楽節（三つの動機による構成）、文献講読（課題③）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、二部形式（前楽節、後楽節の反復）、文献講読（課題④）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、二部形式（前楽節、後楽節の対照）、文章表現について
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、二部形式（借用和音の検討）、発表原稿の作成
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、三部形式（中楽節）、発表とディスカッション（構想する）
- 14 ワンポイントレッスン、三部形式（中楽節の転調）、発表とディスカッション（共有する）
- 15 リハーサル、まとめ、発表とディスカッション（振り返る）
- 16 定期試験（発表）・レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次回の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
各自の進度に応じて随時指定する。

## 音楽特別演習 I [b]

〔担 当 者〕池田 尚子  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽式に基づいた楽曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献を見つけ、その内容について順序立てて説明することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

## ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、変奏（和声音）、調査・研究の進め方
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、変奏（刺繍音・経過音）、文献の調べ方
- 3 課題曲 1（譜読み）、変奏（倚音・逸音）、研究テーマの設定
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、変奏の実際、文献の紹介（幼児期における音楽教育について）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、変奏の実際（アーティキュレーションの工夫）、文献の紹介（児童期における音楽教育について）
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、小楽節（モチーフ操作）、文献の紹介（音・音環境について）
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、大楽節（一つの動機による構成）、文献講読（課題①）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、大楽節（二つの動機による構成）、文献講読（課題②）
- 9 課題曲 2（譜読み）、大楽節（三つの動機による構成）、文献講読（課題③）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、二部形式（前楽節、後楽節の反復）、文献講読（課題④）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、二部形式（前楽節、後楽節の対照）、文章表現について
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、二部形式（借用和音の検討）、発表原稿の作成
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、三部形式（中楽節）、発表とディスカッション（構想する）
- 14 ワンポイントレッスン、三部形式（中楽節の転調）、発表とディスカッション（共有する）
- 15 リハーサル、まとめ、発表とディスカッション（振り返る）
- 16 定期試験（発表）・レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 各自の進度に応じて随時指定する。

## 音楽特別演習 I [c]

〔担 当 者〕池田 尚子  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽式に基づいた楽曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献を見つけ、その内容について順序立てて説明することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

## ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、変奏（和声音）、調査・研究の進め方
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、変奏（刺繍音・経過音）、文献の調べ方
- 3 課題曲 1（譜読み）、変奏（倚音・逸音）、研究テーマの設定
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、変奏の実際、文献の紹介（幼児期における音楽教育について）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、変奏の実際（アーティキュレーションの工夫）、文献の紹介（児童期における音楽教育について）
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、小楽節（モチーフ操作）、文献の紹介（音・音環境について）
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、大楽節（一つの動機による構成）、文献講読（課題①）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、大楽節（二つの動機による構成）、文献講読（課題②）
- 9 課題曲 2（譜読み）、大楽節（三つの動機による構成）、文献講読（課題③）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、二部形式（前楽節、後楽節の反復）、文献講読（課題④）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、二部形式（前楽節、後楽節の対照）、文章表現について
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、二部形式（借用和音の検討）、発表原稿の作成
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、三部形式（中楽節）、発表とディスカッション（構想する）
- 14 ワンポイントレッスン、三部形式（中楽節の転調）、発表とディスカッション（共有する）
- 15 リハーサル、まとめ、発表とディスカッション（振り返る）
- 16 定期試験（発表）・レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 各自の進度に応じて随時指定する。

## 音楽特別演習 I [d]

〔担 当 者〕熊澤 住子  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

### ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽式に基づいた楽曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献を見つけ、その内容について順序立てて説明することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

### ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

### ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、変奏（和声音）、調査・研究の進め方
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、変奏（刺繍音・経過音）、文献の調べ方
- 3 課題曲 1（譜読み）、変奏（倚音・逸音）、研究テーマの設定
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、変奏の実際、文献の紹介（幼児期における音楽教育について）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、変奏の実際（アーティキュレーションの工夫）、文献の紹介（児童期における音楽教育について）
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、小楽節（モチーフ操作）、文献の紹介（音・音環境について）
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、大楽節（一つの動機による構成）、文献講読（課題①）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、大楽節（二つの動機による構成）、文献講読（課題②）
- 9 課題曲 2（譜読み）、大楽節（三つの動機による構成）、文献講読（課題③）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、二部形式（前楽節、後楽節の反復）、文献講読（課題④）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、二部形式（前楽節、後楽節の対照）、文章表現について
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、二部形式（借用和音の検討）、発表原稿の作成
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、三部形式（中楽節）、発表とディスカッション（構想する）
- 14 ワンポイントレッスン、三部形式（中楽節の転調）、発表とディスカッション（共有する）
- 15 リハーサル、まとめ、発表とディスカッション（振り返る）
- 16 定期試験（発表）・レポート

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

## 音楽特別演習 I [e]

〔担 当 者〕藤掛 絢子  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

### ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、演奏することができる。
2. 楽式に基づいた楽曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献を見つけ、その内容について順序立てて説明することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

### ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

### ●留意事項：

・オフィスアワー 授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、変奏（和声音）、調査・研究の進め方
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、変奏（刺繍音・経過音）、文献の調べ方
- 3 課題曲 1（譜読み）、変奏（倚音・逸音）、研究テーマの設定
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、変奏の実際、文献の紹介（幼児期における音楽教育について）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、変奏の実際（アーティキュレーションの工夫）、文献の紹介（児童期における音楽教育について）
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、小楽節（モチーフ操作）、文献の紹介（音・音環境について）
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、大楽節（一つの動機による構成）、文献講読（課題①）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、大楽節（二つの動機による構成）、文献講読（課題②）
- 9 課題曲 2（譜読み）、大楽節（三つの動機による構成）、文献講読（課題③）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、二部形式（前楽節、後楽節の反復）、文献講読（課題④）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、二部形式（前楽節、後楽節の対照）、文章表現について
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、二部形式（借用和音の検討）、発表原稿の作成
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、三部形式（中楽節）、発表とディスカッション（構想する）
- 14 ワンポイントレッスン、三部形式（中楽節の転調）、発表とディスカッション（共有する）
- 15 リハーサル、まとめ、発表とディスカッション（振り返る）
- 16 定期試験（発表）・レポート

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。



## 音楽特別演習Ⅱ [a]

〔担 当 者〕熊澤 住子  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-4000-a2

## ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ⅰ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については、各自が選択した編成・形式による曲を、楽譜作成ソフト「Finale」を用いて音を確認しながら作曲する。「論文」については、各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ、掘り下げる。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。
2. 各楽器の特性を活かし、自分の表現したい題材に基づき曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献の中から、自らの研究テーマに沿ったものを選びとり、参照することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

## ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、楽器の選択、研究内容について
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、楽器の特性の研究、文献講読（課題①）
- 3 課題曲 1（譜読み）、楽曲分析（課題曲 1）、文献講読（課題②）
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、楽曲分析（課題曲 2）、文献講読（課題③）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、楽曲分析（課題曲 3）、調査・研究の方法
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、曲の題材と形式の検討、研究計画書・調査依頼書の書き方
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、作曲（編成、形式によって各自進める）、発表とディスカッション（構想する）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、作曲、発表とディスカッション（共有する）
- 9 課題曲 2（譜読み）、作曲、発表とディスカッション（振り返る）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、楽譜の作成（Finale）、論文作成に向けて（構成について）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、作曲、論文作成に向けて（内容について）
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、作曲、論文作成に向けて（まとめ）
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、作曲、論文要旨の作成
- 14 ワンポイントレッスン、楽譜の作成（Finale）と確認、口頭発表の方法
- 15 リハーサル、まとめ、口頭発表の実践
- 16 定期試験（発表）・レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

## 音楽特別演習Ⅱ [b]

〔担 当 者〕藤掛 絢子  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-4000-b2

## ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ⅰ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については、各自が選択した編成・形式による曲を、楽譜作成ソフト「Finale」を用いて音を確認しながら作曲する。「論文」については、各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ、掘り下げる。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。
2. 各楽器の特性を活かし、自分の表現したい題材に基づき曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献の中から、自らの研究テーマに沿ったものを選びとり、参照することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

## ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、楽器の選択、研究内容について
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、楽器の特性の研究、文献講読（課題①）
- 3 課題曲 1（譜読み）、楽曲分析（課題曲 1）、文献講読（課題②）
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、楽曲分析（課題曲 2）、文献講読（課題③）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、楽曲分析（課題曲 3）、調査・研究の方法
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、曲の題材と形式の検討、研究計画書・調査依頼書の書き方
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、作曲（編成、形式によって各自進める）、発表とディスカッション（構想する）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、作曲、発表とディスカッション（共有する）
- 9 課題曲 2（譜読み）、作曲、発表とディスカッション（振り返る）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、楽譜の作成（Finale）、論文作成に向けて（構成について）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、作曲、論文作成に向けて（内容について）
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、作曲、論文作成に向けて（まとめ）
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、作曲、論文要旨の作成
- 14 ワンポイントレッスン、楽譜の作成（Finale）と確認、口頭発表の方法
- 15 リハーサル、まとめ、口頭発表の実践
- 16 定期試験（発表）・レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

音楽特別演習Ⅱ [c]

〔担 当 者〕 藤掛 絢子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「音楽特別演習Ⅰ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については、各自が選択した編成・形式による曲を、楽譜作成ソフト「Finale」を用いて音を確認しながら作曲する。「論文」については、各自が選択した研究テーマについて関連する文献を調べ、掘り下げる。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。
2. 各楽器の特性を活かし、自分の表現したい題材に基づき曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献の中から、自らの研究テーマに沿ったものを選びとり、参照することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、楽器の選択、研究内容について
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、楽器の特性の研究、文献講読（課題①）
- 3 課題曲 1（譜読み）、楽曲分析（課題曲 1）、文献講読（課題②）
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、楽曲分析（課題曲 2）、文献講読（課題③）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、楽曲分析（課題曲 3）、調査・研究の方法
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、曲の題材と形式の検討、研究計画書・調査依頼書の書き方
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、作曲（編成、形式によって各自進める）、発表とディスカッション（構想する）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、作曲、発表とディスカッション（共有する）
- 9 課題曲 2（譜読み）、作曲、発表とディスカッション（振り返る）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、楽譜の作成（Finale）、論文作成に向けて（構成について）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、作曲、論文作成に向けて（内容について）
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、作曲、論文作成に向けて（まとめ）
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、作曲、論文要旨の作成
- 14 ワンポイントレッスン、楽譜の作成（Finale）と確認、口頭発表の方法
- 15 リハーサル、まとめ、口頭発表の実践
- 16 定期試験（発表）・レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

音楽特別演習Ⅱ [d]

〔担 当 者〕 池田 尚子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。
2. 各楽器の特性を活かし、自分の表現したい題材に基づき曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献の中から、自らの研究テーマに沿ったものを選びとり、参照することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、楽器の選択、研究内容について
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、楽器の特性の研究、文献講読（課題①）
- 3 課題曲 1（譜読み）、楽曲分析（課題曲 1）、文献講読（課題②）
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、楽曲分析（課題曲 2）、文献講読（課題③）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、楽曲分析（課題曲 3）、調査・研究の方法
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、曲の題材と形式の検討、研究計画書・調査依頼書の書き方
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、作曲（編成、形式によって各自進める）、発表とディスカッション（構想する）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、作曲、発表とディスカッション（共有する）
- 9 課題曲 2（譜読み）、作曲、発表とディスカッション（振り返る）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、楽譜の作成（Finale）、論文作成に向けて（構成について）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、作曲、論文作成に向けて（内容について）
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、作曲、論文作成に向けて（まとめ）
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、作曲、論文要旨の作成
- 14 ワンポイントレッスン、楽譜の作成（Finale）と確認、口頭発表の方法
- 15 リハーサル、まとめ、口頭発表の実践
- 16 定期試験（発表）・レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

## 音楽特別演習Ⅱ [e]

〔担 当 者〕 池田 尚子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

## ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。
2. 各楽器の特性を活かし、自分の表現したい題材に基づき曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献の中から、自らの研究テーマに沿ったものを選びとり、参照することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

## ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、楽器の選択、研究内容について
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、楽器の特性の研究、文献講読（課題①）
- 3 課題曲 1（譜読み）、楽曲分析（課題曲 1）、文献講読（課題②）
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、楽曲分析（課題曲 2）、文献講読（課題③）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、楽曲分析（課題曲 3）、調査・研究の方法
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、曲の題材と形式の検討、研究計画書・調査依頼書の書き方
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、作曲（編成、形式によって各自進める）、発表とディスカッション（構想する）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、作曲、発表とディスカッション（共有する）
- 9 課題曲 2（譜読み）、作曲、発表とディスカッション（振り返る）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、楽譜の作成（Finale）、論文作成に向けて（構成について）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、作曲、論文作成に向けて（内容について）
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、作曲、論文作成に向けて（まとめ）
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、作曲、論文要旨の作成
- 14 ワンポイントレッスン、楽譜の作成（Finale）と確認、口頭発表の方法
- 15 リハーサル、まとめ、口頭発表の実践
- 16 定期試験（発表）・レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

## 音楽特別演習Ⅱ [f]

〔担 当 者〕 池田 尚子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

## ●本授業の概要：

卒業研究として「音楽」を選択した人のための授業である。「ピアノ・声楽・作曲・論文」のそれぞれの領域で「演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだことを基に、より高度な技術を習得する。「ピアノ・声楽」の課題曲については、各自の個性や力量に応じて選択する。「作曲」については楽式について理解を深め、ピアノ曲を作曲する。「論文」については、音楽教育についての文献を調べ、適切にまとめる力を習得する。これらでは、自ら課題を設定し、発表や調べ学習を通して完成度の高いものに仕上げていく（課題解決型学習）。

## ●到達目標：

1. 楽譜を正確に読み、音楽的な要素を活かしながら演奏することができる。
2. 各楽器の特性を活かし、自分の表現したい題材に基づき曲を作ることができる。
3. 音・音楽に関する文献の中から、自らの研究テーマに沿ったものを選びとり、参照することができる。
4. その曲にふさわしい音楽的な表現ができる。

## ●成績評価の基準：

- ・受講態度および課題の達成度 50%（到達目標 1, 2, 3）
- ・定期試験・レポート 50%（到達目標 1, 2, 3, 4）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション、楽器の選択、研究内容について
- 2 課題曲 1（楽曲の選択）、楽器の特性の研究、文献講読（課題①）
- 3 課題曲 1（譜読み）、楽曲分析（課題曲 1）、文献講読（課題②）
- 4 課題曲 1（身体の使い方）、楽曲分析（課題曲 2）、文献講読（課題③）
- 5 課題曲 1（楽曲の構成）、楽曲分析（課題曲 3）、調査・研究の方法
- 6 課題曲 1（音楽的な要素の検討）、曲の題材と形式の検討、研究計画書・調査依頼書の書き方
- 7 課題曲 1（音楽的な表現の工夫）、作曲（編成、形式によって各自進める）、発表とディスカッション（構想する）
- 8 課題曲 2（楽曲の選択）、作曲、発表とディスカッション（共有する）
- 9 課題曲 2（譜読み）、作曲、発表とディスカッション（振り返る）
- 10 課題曲 2（身体の使い方）、楽譜の作成（Finale）、論文作成に向けて（構成について）
- 11 課題曲 2（楽曲の構成）、作曲、論文作成に向けて（内容について）
- 12 課題曲 2（音楽的な要素の検討）、作曲、論文作成に向けて（まとめ）
- 13 課題曲 2（音楽的な表現の工夫）、作曲、論文要旨の作成
- 14 ワンポイントレッスン、楽譜の作成（Finale）と確認、口頭発表の方法
- 15 リハーサル、まとめ、口頭発表の実践
- 16 定期試験（発表）・レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前学習として、毎回の授業で出された課題に取り組み、次の授業で発表してもらう。またその内容は、授業時に他の受講生や教員と意見をかわしながら深めていく。事後学習として、指摘のあった事項について、意見をまとめること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

各自の進度に応じて随時指定する。

## 絵画Ⅰ

〔担 当 者〕 片山 裕之  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 実技 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-1000-o1

### ●本授業の概要：

絵画（素描、油絵）の実技を通し、造形能力の基礎を身につけさせる。  
また、人間と美術との関係を考え、美しさとは何かを探るとともに各自の感性を養う。

### ●到達目標：

絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わわせるとともに技術の向上をはかる。

### ●成績評価の基準：

①風景画（油絵）F10号 ②静物画 F10号 ③木炭デッサン ④クロッキー

授業態度 30点

提出物（作品・課題）70点 平均点で評価

### ●留意事項：

提出作品は、課題も含め4点。課題も含め平均点で評価、出席は大切に扱います。  
オフィシアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導にあたる。絵画を通して、観察力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う

### ●授業予定一覧：

1. 授業の進め方と心得、油絵技法、風景画下書き
2. 風景画（油絵 F10号）制作①
3. 風景画（油絵 F10号）制作②
4. 風景画（油絵 F10号）制作③
5. 風景画（油絵 F10号）制作④
6. 風景画（油絵 F10号）⑤仕上げ・批評
7. 石膏デッサン（頭像）①
8. 石膏デッサン（頭像）②
9. 石膏デッサン（頭像）③
10. 石膏デッサン（頭像）④仕上げ・批評
11. 静物画（油絵 F10号）制作①
12. 静物画（油絵 F10号）制作②
13. 静物画（油絵 F10号）制作③
14. 静物画（油絵 F10号）制作④
15. 静物画（油絵 F10号）⑤仕上げ・批評
16. 作品提出 総合批評会

※風景画・静物画は木炭デッサン（素描）に変更可能です。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

油絵セット・木炭紙・キャンバス …… 個人で用意

## 絵画Ⅱ

〔担 当 者〕 片山 裕之  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 実技 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o1

### ●本授業の概要：

絵画Ⅰ・Ⅲに引き続き、風景画、自画像の実技を通して造形能力の基礎を身に付けさせる

### ●到達目標：

絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わわせるとともに技術の向上をはかる。

### ●成績評価の基準：

授業態度30点

作品70点

①風景画（油絵）F20号

②石膏デッサン

③自画像（油絵）F15号

④クロッキー

### ●留意事項：

各課題の作品提出によって総合的に評価する。  
授業態度は大切に扱います  
オフィシアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導にあたる。絵画を通して観察力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う。

### ●授業予定一覧：

1. 風景画（油絵 F20号）制作①
2. 風景画（油絵 F20号）制作②
3. 風景画（油絵 F20号）制作③
4. 風景画（油絵 F20号）制作④
5. 風景画（油絵 F20号）制作⑤
6. 風景画（油絵 F20号）制作⑥
7. 風景画（油絵 F20号）制作⑦・批評
8. 石膏デッサン①
9. 石膏デッサン②
10. 石膏デッサン③
11. 石膏デッサン④仕上げ・批評
12. 自画像（油絵 F15号）制作①
13. 自画像（油絵 F15号）制作②
14. 自画像（油絵 F15号）制作③
15. 自画像（油絵 F15号）制作④・批評
16. 作品提出 総合批評会

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

油絵セット、木炭紙・キャンバス …個人で用意



## 絵画Ⅲ

〔担 当 者〕 片山 裕之  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 実技 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2300-o1

### ●本授業の概要：

絵画（素描、油絵）の実技を通し、造形能力の基礎を身につけさせる。  
 また、人間と美術との関係を考え、美しさとは何かを探るとともに各自の感性を養う。

### ●到達目標：

絵画の基礎的な実習を通して表現することの楽しさを味わわせるとともに技術の向上をはかる。

### ●成績評価の基準：

①静物画（油絵）F20号 ②静物デッサン ③石膏デッサン ④クロッキー（50枚綴り）

授業態度 30点

提出物（作品、課題……etc）70点 平均点で評価

### ●留意事項：

提出作品は、課題も含め3点。課題も含め平均点で評価、授業態度は大切に扱います。

オフィスアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から絵画指導にあたる。絵画を通して、観察力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う。

### ●授業予定一覧：

1. 授業の進め方と心得
2. 石膏デッサン①
3. 石膏デッサン②
4. 石膏デッサン③
5. 石膏デッサン④仕上げ・批評
6. 静物デッサン①
7. 静物デッサン②
8. 静物デッサン③
9. 静物デッサン④仕上げ・批評
10. 静物画（油絵 F20号）制作①
11. 静物画（油絵 F20号）制作②
12. 静物画（油絵 F20号）制作③
13. 静物画（油絵 F20号）制作④
14. 静物画（油絵 F20号）制作⑤
15. 静物画（油絵 F20号）制作⑥
16. 作品提出 総合批評会

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

油絵セット・木炭紙・キャンパス・クロッキー帳……個人で用意

## 絵画Ⅳ

〔担 当 者〕 片山 裕之  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 実技 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o1

### ●本授業の概要：

絵は、作者の観たものの経験したことを心の中で、またキャンパスの上で複雑に再構築されて作品になる。これには多くの経験や段階を踏まえた造形の基礎を大切に学習する必要がある。

絵画Ⅳでは、絵画Ⅱを内容的にも大きさもアップし、一つのモチーフを深く追求し造形思考を高めていく。

### ●到達目標：

油絵、木炭デッサンを通して表現基礎を高める。また、作品制作を通して自分の目で観て考え表現することの大切さを学ぶ。

### ●成績評価の基準：

授業態度30点

作品70点

課題

①木炭デッサン ②風景画（油絵）F50号

### ●留意事項：

作品提出は2点。平均点で評価する。

授業態度は大切に扱います。

オフィスアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験を通して、絵画指導にあたる。絵画を通して、観察力、描写力を身につけるとともに美的感性も養う。

### ●授業予定一覧：

1. 風景画（木炭デッサン）①
2. 風景画（木炭デッサン）②
3. 風景画（木炭デッサン）③
4. 風景画（木炭デッサン）仕上げ・批評
5. 風景画（油絵 F50号）制作①
6. 風景画 制作②
7. 風景画 制作③
8. 風景画 制作④
9. 風景画 制作⑤
10. 風景画 制作⑥
11. 風景画 制作⑦
12. 風景画 制作⑧
13. 風景画 制作⑨
14. 風景画 制作⑩
15. 風景画 制作⑪
16. 作品提出・総合批評会

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実技科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

油絵セット、木炭紙・キャンパス…個人で用意

|                         |     |       |
|-------------------------|-----|-------|
|                         | 330 | 83350 |
| 絵画Ⅴ                     |     |       |
| 〔担 当 者〕片山 裕之・小田 久美子     |     |       |
| 〔開 講 期〕1 期              |     |       |
| 〔授 業 形 態〕実技・講義・実習 〔単位〕1 |     |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-4000-o1 |     |       |

●本授業の概要：

絵画表現と美術概論を通して美術を探究する者の基本的な姿勢を考える。

●到達目標：

美術鑑賞を通して日本美術に関する専門的な知識を深めるとともに、鑑賞する姿勢（見方・感じ方）を学ぶ。  
また、実技（人物画）を通して表現することの楽しさを味わわせるとともに、技術の向上をはかる。  
広い視野で芸術領域を俯瞰し、興味のある対象をみつけ学びを深める。

●成績評価の基準：

授業態度 30点  
作品提出・レポート 70点

●留意事項：

演習Ⅱで配布された資料を熟読しておくこと。  
片山 オフィスアワー 授業中に指示する  
小田 オフィスアワー 金曜日7・8時限

●実務経験の授業への活用方法：

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。表現活動（絵画）、鑑賞活動を通して、観察力、鑑賞力、描写力を身につけるとともに、美的感性も養う。

●授業予定一覧：

- オリエンテーション（片山・小田）
- 日本美術史研修（京都・奈良）（片山・小田）
  - 京都国立博物館見学
  - 奈良国立博物館見学
  - 京都、奈良の寺院見学
- 実技 絵画コース（片山）
  - 人物画（木炭デッサン・油絵 F20号）制作①
  - 人物画（木炭デッサン・油絵 F20号）制作②
  - 人物画（木炭デッサン・油絵 F20号）制作③
  - 人物画（木炭デッサン・油絵 F20号）制作④

講義 論文コース（小田）  
美術概論①  
美術概論②  
美術概論③  
美術概論④

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
画材 油絵セット、木炭紙、キャンバス…個人購入

|                         |     |       |
|-------------------------|-----|-------|
|                         | 330 | 83360 |
| 彫塑Ⅰ                     |     |       |
| 〔担 当 者〕前嶋 英輝            |     |       |
| 〔開 講 期〕1 期              |     |       |
| 〔授 業 形 態〕講義・実技 〔単位〕1    |     |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o1 |     |       |

●本授業の概要：

頭像制作を中心に彫塑の基礎基本を学ぶ。目的は、ものを見る力を高め、彫刻の美を構築できるようになることである。具体的には、塑像用粘土を用いて頭像を作りながら形態（フォルム）、量（マッサ）、動勢（ムーヴマン）などの要素を理解し、彫刻表現ができるようになることである。また彫刻史を学び、作品鑑賞を通して彫塑の意味を考える。同時に幼児教育における粘土造形の意味を考えながら彫塑造形の本質について考察する。

●到達目標：

- 頭像制作による造形表現を行い、石膏像として完成させることができる。
- 材料や道具の使い方や素材としての粘土や石膏について特質を理解し、状況に応じて正しく使用できる。
- 基本的な彫刻の歴史と造形要素を理解し応用できる。
- 幼児期の造形活動を学び、彫塑の本質的な意味について自分なりの考えを持つことができる。

●成績評価の基準：

小レポート 40%（到達目標2,3,4）  
作品提出 60%（到達目標1,2）  
彫塑に関する知識と技術を身につけることを目的としていることから、小レポートと到達目標達成度を見る作品提出によって評価を行う。詳しい評価内容については最初の授業で説明する。小レポートについては、評価すると同時に個々に結果を伝えながら指導を行い、スモールステップの授業成果をフィードバックしながら学習の積み重ねを行う。

●留意事項：

本授業を受講する学生は、粘土や石膏を使用する実技を行うため汚れても構わない服装、もしくはエプロンを持参すること。質問は随時受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

彫刻家としての岡山県内外の美術展の審査員の経験、ブロンズ像の制作経験、幼児の粘土造形指導などの実務経験を活かして、学生の作品が美術公募展へ出品できるレベルを目指すことで彫塑表現の理解を深める。

●授業予定一覧：

- 1 彫刻史と幼児の粘土遊び
- 2 塑像の心棒作りとデッサン（実技）
- 3 粘土の荒付と量の構築（実技）
- 4 塑像制作の進め方（実技）
- 5 彫刻の対話型鑑賞
- 6 マッサとヴォリューム（実技）
- 7 全体と部分の関係（実技）
- 8 写実と感情移入
- 9 彫刻の光と陰（実技）
- 10 石膏取り技法（実技）
- 11 中型の作り方（実技）
- 12 幼児教育の粘土遊び
- 13 割り出しの技法（実技）
- 14 石膏像の仕上げと台座（実技）
- 15 彫刻と幼児教育のまなざし  
作品提出

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

今回の授業内容を指示するので、予習を行うことが必要である。また授業外でもクロッキーやデッサンを行うことが必要である。最終課題は、到達目標の理解度を見るため積極的な取り組みが必要である。初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間が必要である。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
『芸術の意味』、ハーバート・リード、みすず書房  
I S B N：978-4622001089

## 造形 I [a]

〔担 当 者〕小田 久美子  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-1000-o2

## ●本授業の概要：

造形表現活動の現場で、適切な指導・援助のできる基礎的知識と技術を学んでいく。

## ●到達目標：

- ①多様な造形表現があることを知り、体験的学習として作品を制作することが出来る。
- ②技法遊びのための素材・用具の特徴と扱い方を知ることが出来る。
- ③幼児が扱うときの留意点、発達に合わせた援助の方法を考えることが出来る。

## ●成績評価の基準：

課題に取り組む姿勢50%（到達目標②③）、作品評価50%（到達目標①）による総合評定とする。

## ●留意事項：

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。  
 オフィスアワー 水曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術の獲得を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

## ●授業予定一覧：

1. 授業の進め方と評価について
2. 技法遊び：絵の具を使った課題①  
（吹き流し、糸引き絵、デカルコマニー、ドリップング）
3. 技法遊び：絵の具を使った課題②  
（ステンシル、指絵、はじき絵、紙染め）
4. 技法遊び：絵の具を使った課題③  
（ウォッシング、スタンピング）
5. 技法遊び：絵の具を使った課題④  
（テンペラ画）～卵の黄身で絵の具を作る～
6. 子どもの空間再現に関する課題
7. 技法遊び：パスを使った課題  
（スクラッチ、パスステンシル、フロッターージュ）
8. 技法遊び：折り紙を使った課題①（折り紙を折って）
9. 技法遊び：折り紙を使った課題②（ちぎり絵）
10. 技法遊び：はさみを使った課題（折り紙を切って）
11. 技法遊び：その他の課題（塗り絵・トレーシング）
12. 技法遊び：廃材を利用した課題①
13. 技法遊び：廃材を利用した課題②
14. 技法遊び：粘土を使った課題
15. 指導案の作成について
16. 定期試験、課題提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『幼稚園教育要領解説』『小学校指導要領解説（図画工作編）』スケッチブックと画材を利用。詳細は授業の中で伝達する。

## 造形 I [b]

〔担 当 者〕小田 久美子  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-1000-o2

## ●本授業の概要：

造形表現活動の現場で、適切な指導・援助のできる基礎的知識と技術を学んでいく。

## ●到達目標：

- ①多様な造形表現があることを知り、体験的学習として作品を制作することが出来る。
- ②技法遊びのための素材・用具の特徴と扱い方を知ることが出来る。
- ③幼児が扱うときの留意点、発達に合わせた援助の方法を考えることが出来る。

## ●成績評価の基準：

課題に取り組む姿勢50%（到達目標②③）、作品評価50%（到達目標①）による総合評定とする。

## ●留意事項：

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点は出ないので注意すること。  
 オフィスアワー 水曜日5・6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術の獲得を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

## ●授業予定一覧：

1. 授業の進め方と評価について
2. 技法遊び：絵の具を使った課題①  
（吹き流し、糸引き絵、デカルコマニー、ドリップング）
3. 技法遊び：絵の具を使った課題②  
（ステンシル、指絵、はじき絵、紙染め）
4. 技法遊び：絵の具を使った課題③  
（ウォッシング、スタンピング）
5. 技法遊び：絵の具を使った課題④  
（テンペラ画）～卵の黄身で絵の具を作る～
6. 子どもの空間再現に関する課題
7. 技法遊び：パスを使った課題  
（スクラッチ、パスステンシル、フロッターージュ）
8. 技法遊び：折り紙を使った課題①（折り紙を折って）
9. 技法遊び：折り紙を使った課題②（ちぎり絵）
10. 技法遊び：はさみを使った課題（折り紙を切って）
11. 技法遊び：その他の課題（塗り絵・トレーシング）
12. 技法遊び：廃材を利用した課題①
13. 技法遊び：廃材を利用した課題②
14. 技法遊び：粘土を使った課題
15. 指導案の作成について
16. 定期試験、課題提出

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『幼稚園教育要領解説』『小学校指導要領解説（図画工作編）』スケッチブックと画材を利用。詳細は授業の中で伝達する。

造形Ⅱ

〔担 当 者〕 片山 裕之  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

●本授業の概要：

小学校における造形内容を中心に造形教育の意義、内容について自ら体験することにより理解を深める。

●到達目標：

造形教育に関する知識を深めると共に、指導上必要な技術を習得する。

●成績評価の基準：

授業態度 30点  
提出物 70点  
①水彩画 ②紙工作 ③版画 ④スケッチブック

●留意事項：

各課題の作品提出によって、総合的に評価する。また、授業態度も評価の対象とする。  
オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

7年間の中学校（美術）教諭の経験を通して、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導、行事指導、委員会指導、公務分掌等）でおこなう様々な事象について解説する。また、新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、様々な造形指導にあたる。様々な造形（絵画、立体）指導、鑑賞指導を通して、観察力、鑑賞力、描写力、表現力を育てるとともに美的感性を育てる。

●授業予定一覧：

- 1 造形教育の意義
- 2 絵画制作Ⅰ（パチック、デカルコマニ、流し絵）
- 3 絵画制作Ⅱ（吹き絵、フロタージュ、指絵）
- 4 絵画制作Ⅲ（コラージュ、色流し、にじみ絵）、作品鑑賞
- 5 牛乳パックで作れる生き物①（廃材利用・発想、制作）
- 6 牛乳パックで作れる生き物②（廃材利用・制作、鑑賞）
- 7 版で表す①（紙版画・発想—画面構成—）
- 8 版で表す②（紙版画・制作）
- 9 版で表す③（紙版画・制作、鑑賞）
- 10 大型カルタ作り・カルタ取り大会
- 11 どんぐり笛、落ち葉のアルバム（自然物を使って制作）
- 12 お口パクパクの動物①（紙工作・発想、—画面構成・立体構成—）
- 13 お口パクパクの動物②（紙工作・制作）
- 14 お口パクパクの動物③（紙工作・制作）
- 15 お口パクパクの動物④（紙工作・鑑賞、講評）
- 16 作品提出・講義のまとめ

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実技、演習をとまなう科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜参考書等＞  
文部省「小学校指導要領解説・図画工作編」

家庭 [a]

〔担 当 者〕 岡 礼子  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義・実技・実習・実験 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

●本授業の概要：

家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。特に、小学校で学ぶ家庭科の内容が、その後の家庭生活の基礎になっている。そのことをしっかり踏まえて、家庭生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科を身に付けるとともに、小学校家庭科の主要内容である衣・食・住に関する基礎的・基本的な内容と知識・技能について学ぶ。

●到達目標：

家庭科教育の意義を理解し、家庭科に関心をもち、学んだことを生活に活かし、自分の生き方、生きる糧となる力を培い、自分の生活改善に役立てることができる。  
また、「家庭」は、小学校で指導しなければならない内容をほぼ網羅しているので、「家庭」の実践的・体験的な活動を通して、自分が家庭科を指導するとしたら、どの題材を用いて、どのように授業を行いたいかを考えながら受講し、前期の家庭科指導法に活用する。

●成績評価の基準：

定期試験・・・・・・・・・・・・・60％  
作品（基礎縫い・小物・エコバッグ等）・・・・・・30％  
課題レポート・・・・・・・・・・・・・10％

●留意事項：

基礎縫いやフェルトを用いての小物作り、ミシンを使つてのエコバッグ作り等の製作や、製図を書いて製作した住居模型を使つての通風・換気実験、日本の伝統食であるご飯とみそ汁の調理実習等を実施し、小学校で指導する衣・食・住の基礎的・基本的な内容を実践を通して身に付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

桑原洋裁学校で洋裁を学び、短大・大学の家政学部家政学科を卒業後は、高等学校、中学校、小学校で家庭科を指導した経験を活かし、指導過程で創意工夫して効果があった三つ折り用のさしや、工作用紙を用いて製作した住居模型を使って目に見えない空気や風の流れの実験、商品学で学んだ試薬を用いての発色剤検出やビタミンC検出実験等、大学で学んだことや実務経験で開発したこと等を授業に活用している。それらを学生に伝授することで、簡単に早く美しくできる方法や、理論に基づいた検証、安心・安全な食品選び等小学校の指導や実生活で役立つ実践力の構築を促す。

●授業予定一覧：

- 1 新学習指導要領の趣旨：家庭科のねらい及び方向性について
- 2 A 家族・家庭生活：生活の見直しと生活時間の記入・工夫
- 3 B 衣食住の生活：子供の学びを深めるICTの活用（コンピューター活用）
- 4 B 衣食住の生活：はじめてみようソーイング／基礎縫い
- 5 B 衣食住の生活：フェルトを使つての小物の製作（手縫い）
- 6 B 衣食住の生活：家の設計図の作成
- 7 B 衣食住の生活：住居模型作り
- 8 B 衣食住の生活・C 消費生活・環境：住居模型で通風・換気実験
- 9 B 衣食住の生活：卵と人参の実験・実習
- 10 B 衣食住の生活：ハラスのよい食事／朝食の献立を考える
- 11 B 衣食住の生活：朝食作り（ご飯とみそ汁ともう一品）
- 12 B 衣食住の生活・C 消費生活・環境：エコバッグ等（ミシン縫い）
- 13 〃 〃 ：エコバッグ等（ミシン縫い）
- 14 〃 〃 ：エコバッグ等（ミシン縫い）
- 15 〃 〃 ：エコバッグ等（ミシン縫い）
- 16 定期試験／レポート

※教材研究を通しての実践化と生活改善に役立つ作品を製作することによって、家庭科の基礎・基本が身に付く。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

講義予定表に、毎回の授業で学習する主要内容と該当する教科書のページを記載している。授業前に、予習として講義内容に該当する教科書の所を一読し、授業後に、復習として講義内容の確認を兼ねて、該当する小学校と中学校の教科書を再度見ておく。そうすることが、教員採用試験の勉強に繋がる。

【必携書（教科書販売）】

【新編 新しい技術・家庭 家庭分野】、佐藤文子・金子佳代子他、東京書籍  
【小学校学習指導要領解説 家庭編】、文部科学省、東洋館出版社  
【わたしたちの家庭科】、著作者代表 内野 紀子他、開隆堂

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書＞  
・『初等家庭科の研究』 大竹美登利・倉持清美 萌文書林  
・『平成29年改訂 小学校教育課程実践講座』 岡 陽子・鈴木明子 ぎょうせい



家庭 [b]

〔担 当 者〕岡 礼子

〔開 講 期〕2 期

〔授 業 形 態〕講義・実技・実習・実験 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。特に、小学校で学ぶ家庭科の内容が、その後の家庭生活の基礎になっている。そのことをしっかり踏まえて、家庭生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科を身に付けるとともに、小学校家庭科の主要内容である衣・食・住に関する基礎的・基本的な内容と知識・技能について学ぶ。

●到達目標：

家庭科教育の意義を理解し、家庭科に関心をもち、学んだことを生活に活かし、自分の生き方、生きる糧となる力を培い、自分の生活改善に役立てることができる。

また、「家庭」は、小学校で指導しなければならない内容をほぼ網羅しているので、「家庭」の実践的・体験的な活動を通して、自分が家庭科を指導するとしたら、どの題材を用いて、どのように授業を行いたいかを考えながら受講し、前期の家庭科指導法に活用する。

●成績評価の基準：

定期試験・・・・・・・・・ 60 %

作品 (基礎縫い・小物・エコバック等)・・・ 30 %

課題レポート・・・・・・・・・ 10 %

●留意事項：

基礎縫いやフェルトを用いての小物作り、ミシンを使つてのエコバック作り等の製作や、製図を書いて製作した住居模型を使つての通風・換気実験、日本の伝統食であるご飯とみそ汁の調理実習等を実施し、小学校で指導する衣・食・住の基礎的・基本的な内容を実践を通して身に付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

桑原洋裁学校で洋裁を学び、短大・大学の家政学部家政学科を卒業後は、高等学校、中学校、小学校で家庭科を指導した経験を活かし、指導過程で創意工夫して効果があった三つ折り用のさしや、工作用紙を用いて製作した住居模型を使つて目に見えない空気や風の流れの実験、商品学で学んだ試薬を用いての発色剤検出やビタミンC検出実験等、大学で学んだことや実務経験で開発したこと等を授業に活用している。それらを学生に伝授することで、簡単に早く美しくできる方法や、理論に基づいた検証、安心・安全な食品選び等小学校の指導や実生活で役立つ実践力の構築を促す。

●授業予定一覧：

- 1 新学習指導要領の趣旨：家庭科のねらい及び方向性について
- 2 A 家族・家庭生活：生活の見直しと生活時間の記入・工夫
- 3 B 衣食住の生活：子供の学びを深めるICTの活用（コンピューター活用）
- 4 B 衣食住の生活：はじめてみようソーイング／基礎縫い
- 5 B 衣食住の生活：フェルトを使つての小物の製作（手縫い）
- 6 B 衣食住の生活：家の設計図の作成
- 7 B 衣食住の生活：住居模型作り
- 8 B 衣食住の生活・C 消費生活・環境：住居模型で通風・換気実験
- 9 B 衣食住の生活：卵と人参の実験・実習
- 10 B 衣食住の生活：バランスのよい食事／朝食の献立を考える
- 11 B 衣食住の生活：朝食作り（ご飯とみそ汁ともう一品）
- 12 B 衣食住の生活・C 消費生活・環境：エコバック等（ミシン縫い）
- 13 〃 〃 ：エコバック等（ミシン縫い）
- 14 〃 〃 ：エコバック等（ミシン縫い）
- 15 〃 〃 ：エコバック等（ミシン縫い）
- 16 定期試験／レポート

※ 教材研究を通しての実践化と生活改善に役立つ作品を製作することによって、家庭科の基礎・基本が身に付く。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

講義予定表に、毎回の授業で学習する主な内容と該当する教科書のページを記載している。授業前に、予習として講義内容に該当する教科書の所を一読し、授業後に、復習として講義内容の確認を兼ねて、該当する小学校と中学校の教科書を再度見ておく。そうすることが、教員採用試験の勉強に繋がる。

【必携書（教科書販売）】

『小学校学習指導要領解説 家庭編』、文部科学省、東洋館出版社  
『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』、佐藤文子・金子佳代子他、東京書籍  
『わたしたちの家庭科』、著作代表者 内野紀子他、開隆堂

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書＞  
・『初等家庭の研究』 大竹美登利・倉持清美 萌文書林  
・『平成29年改訂 小学校教育課程実践講座 』 岡 陽子・鈴木明子 ぎょうせい

体育 [a]

〔担 当 者〕安江 美保

〔開 講 期〕1 期

〔授 業 形 態〕講義・実技 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

幼児期の子どもは、自然の中で、仲間との遊びの中で、豊かな感性と創造性を身に付け成長する。子どもの心身の発達には、バランスのとれた身体活動が大切である。子どもが遊びに没頭できるように、子どもの体と運動能力の発達に応じた適切な指導ができるよう、指導法を考察する。

●到達目標：

- 指導者としての視点を持ちつつ、意欲的に主体的に取り組むことができる。
- 幼児の発達特性を踏まえた指導計画を立て、模擬保育における運動遊びの指導の成果と課題を捉えることができる。
- 「保育の現場で目指したい運動遊びの指導」について、講義で学んだ理論、実技や模擬保育の内容に関連づけながら、考えを深めることができる。

●成績評価の基準：

- 授業後のリアクションペーパー 30%
- 小レポート 30%
- 最終レポート 40%

●留意事項：

- 保育の現場で指導することを常に想定しながら、運動遊びを指導する際に何が大切なのかを、意欲的に主体的に学ぶことを求める。
- 子ども達の運動欲求を満たすためには、指導者自身の体力・運動技能を高いレベルで維持することが求められる。生活の中に積極的に運動・スポーツを取り入れ、健康づくり、体力づくりを心がけて、自らの心身の調和的な発達と豊かな社会性を身につけてほしい。
- オフィシアワーは、木曜日 3,4限, 5, 6限。

●実務経験の授業への活用方法：

小学校教諭として教育現場に勤めていた際に、体育科の実践研究に専門的に取り組んできたため、その実務経験を元に、子どもと運動との関係の捉え方、運動遊びの内容、運動遊びの展開のさせ方などを本授業に活用する。

●授業予定一覧：

1. 子どもの発達と運動遊び
2. 健康に関する教育のねらいと内容
3. 体育科の目標と内容
4. 運動指導のポイント
5. 鬼ごっこ・走りっこ
6. ボールで遊ぶ
7. フープで遊ぶ
8. 縄で遊ぶ
9. 新聞紙で遊ぶ
10. マットで遊ぶ
11. 身近にあるもので遊ぶ
12. 運動遊びの模擬保育 (1)
13. 運動遊びの模擬保育 (2)
14. 運動遊びの模擬保育 (3)
15. 運動遊びの模擬保育 (4)

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

第1回～第4回の授業では、子どもと運動遊びの関係についての理論的な内容を中心とし、第5回～15回の授業では、多様な素材を使つての運動遊びの実技を中心に学ぶ。理論的な内容と実技を関連させながら学びを深めていくことを重視するため、授業で使う必携書「保育と幼児期の運動あそび」をもとに、授業の予習・復習を十分に行ってほしい。

【必携書（教科書販売）】

「保育と幼児期の運動あそび」、岩崎洋子、萌文書林

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

（必携書）  
・「保育所保育指針解説書」（平成29年告示）、厚生労働省  
・「幼稚園教育要領解説」（平成29年告示）、文部科学省  
・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成26年告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省  
・「小学校学習指導要領解説・体育編」（平成29年告示）、文部科学省

体育 [b]

〔担 当 者〕 安江 美保  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・実技 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

●本授業の概要：

子どもは自然の中で、仲間との遊びの中で、豊かな感性と創造性を身に付け成長する。子どもの心身の発達には、バランスのとれた身体活動が大切である。子どもが遊びに没頭できるように、子どもの体と運動能力の発達に応じた適切な指導ができるよう、指導法を考察する。

●到達目標：

- 指導者としての視点を持ちつつ、意欲的に主体的に取り組むことができる。
- 幼児の発達特性を踏まえた指導計画を立て、模擬保育における運動遊びの指導の成果と課題を捉えることができる。
- 「保育の現場で目指したい運動遊びの指導」について、講義で学んだ理論、実技や模擬保育の内容を関連づけながら、考えを深めることができる。

●成績評価の基準：

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ○授業後のリアクションペーパー                 | 30% |
| ○小レポート「模擬保育における運動遊びの指導の課題と成果」   | 30% |
| ○最終レポート「保育の現場で目指したい運動遊びの指導について」 | 40% |

●留意事項：

- 保育の現場で指導することを常に想定しながら、運動遊びを指導する際に何が大切なのかを、意欲的に主体的に学ぶことを求める。
- 子ども達の運動欲求を満たすためには、指導者自身の体力・運動技能を高いレベルで維持することが求められる。生活の中に積極的に運動・スポーツを取り入れ、健康づくり、体力づくりを心がけて、自らの心身の調和的な発達と豊かな社会性を身につけてほしい。
- オフィスアワーは、木曜日 34限、5、6限。

●実務経験の授業への活用方法：

小学校教諭として教育現場に勤めていた際に、体育科の実践研究に専門的に取り組んできたため、その実務経験を元に、子どもと運動との関係の捉え方、運動遊びの内容、運動遊びの展開のさせ方などを本授業に活用する。

●授業予定一覧：

1. 子どもの発達と運動遊び
2. 健康に関する教育のねらいと内容
3. 体育科の目標と内容
4. 運動指導のポイント
5. 鬼ごっこ・走りっこ
6. ボールで遊ぶ
7. フープで遊ぶ
8. 縄で遊ぶ
9. 新聞紙で遊ぶ
10. マットで遊ぶ
11. 身近にあるもので遊ぶ
12. 運動遊びの模擬保育 (1)
13. 運動遊びの模擬保育 (2)
14. 運動遊びの模擬保育 (3)
15. 運動遊びの模擬保育 (4)

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

第1回～第4回の授業では、子どもと運動遊びの関係についての理論的な内容を中心とし、第5回～15回の授業では、多様な素材を使っている運動遊びの実技を中心に学ぶ。理論的な内容と実技を関連させながら学びを深めていくことを重視するため、授業で使う必携書「保育と幼児期の運動あそび」をもとに、授業の予習・復習を十分に行ってほしい。

【必携書（教科書販売）】

「保育と幼児期の運動あそび」、岩崎洋子、萌文書林

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉

- ・「幼稚園教育要領解説」（平成29年告示）、文部科学省
- ・「保育所保育指針解説書」（平成29年告示）、厚生労働省
- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成26年告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省
- ・「小学校学習指導要領解説・体育編」（平成29年3月告示、文部科学省

体育 [c]

〔担 当 者〕 安江 美保  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・実技 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

●本授業の概要：

子どもは自然の中で、仲間との遊びの中で、豊かな感性と創造性を身に付け成長する。子どもの心身の発達には、バランスのとれた身体活動が大切である。子どもが遊びに没頭できるように、子どもの体と運動能力の発達に応じた適切な指導ができるよう、指導法を考察する。

●到達目標：

- 毎回の授業において、指導者としての視点を持ちつつ、意欲的に主体的に取り組むことができる。
- 運動領域や児童の発達段階に応じた授業の大まかな流れを捉え、「体育科学習では何を学ぶのか」についての考えを深めることができる。
- 「教育現場で目指したい体育科学習の指導について」の考えを深めることができる。

●成績評価の基準：

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| ○授業後のリアクションペーパー | 30% |
| ○小レポート          | 30% |
| ○最終レポート         | 40% |

●留意事項：

- 教育現場で指導することを常に想定しながら、運動遊びを指導する際に何が大切なのかを、意欲的に主体的に学ぶことを求める。
- 子ども達の運動欲求を満たすためには、指導者自身の体力・運動技能を高いレベルで維持することが求められる。生活の中に積極的に運動・スポーツを取り入れ、健康づくり、体力づくりを心がけて、自らの心身の調和的な発達と豊かな社会性を身につけてほしい。
- オフィスアワーは、木曜日 34限、5、6限。

●実務経験の授業への活用方法：

小学校教諭として教育現場に勤めていた際に、体育科の実践研究に専門的に取り組んできたため、その実務経験を元に、子どもと運動との関係の捉え方、運動遊びの内容、運動遊びの展開のさせ方などを本授業に活用する。

●授業予定一覧：

1. 子どもの発達と運動遊び
2. 体育科の目標
3. 体育科の内容
4. 運動指導のポイント
5. 体育の授業開きについて
6. 体づくり運動系の学習内容と「用具を操作する運動遊び」の進め方について
7. 多様な動きをつくる運動遊び「力試しの運動遊び」の進め方について
8. 多様な動きをつくる運動「基本的な動きを組み合わせる運動」の進め方について
9. 表現運動系の学習内容と「リズムダンス」の学習の進め方について
10. 表現運動「表現」即興表現を中心とした学習の進め方について
11. 表現運動「表現」ひとまとまりの動きへ発展させる学習の進め方について
12. 陸上運動系の学習内容と「走・跳の運動遊び」の学習の進め方について
13. 器械運動系の学習内容と「マット遊び」の学習の進め方について
14. ボール運動系の学習内容と「ブレルボール」の学習の進め方について
15. ボール運動「キャッチバレーボール」の学習の進め方について

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

第1回～第4回の授業では、子どもの発達と運動遊び、小学校体育科の目標と内容などの理論的な内容を中心とし、第5回～15回の授業では、多様な動きをつくる運動遊び、表現運動、ボール運動の実技を通して指導のポイントを学ぶ。幼稚園・保育園での運動遊びから、小学校体育科への接続を含めて、幼児期・児童期の運動の重要性をしっかりととらえていてほしい。そのために、毎時間、授業内容、指導のポイントを記録することを行っていく。また、授業の必携書「保育と幼児期の運動あそび」、「小学校体育科学習指導要領」による授業の予習・復習を行うことで、学びをより確かなものにしていくことを目指す。

【必携書（教科書販売）】

「保育と幼児期の運動あそび」、岩崎洋子、萌文書林

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉

- ・「小学校学習指導要領解説・体育編」（平成29年3月告示）、文部科学省
- ・「保育所保育指針解説書」（平成29年告示）、厚生労働省
- ・「幼稚園教育要領解説」（平成29年告示）、文部科学省
- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成26年告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省

## 教職基礎論

〔担 当 者〕赤木 雅宣・三宅 一恵

〔開 講 期〕1 期

〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕330B1-1000-x2

### ●本授業の概要：

教職員としての必要な資質や遵守すべき服務、職務の内容、仕事の手順等、日々の教育実践に必要な基本的な事項について、そのねらいを理解する。観察実習や模擬授業体験等を通して、自らの適性を判断すると共に、教職に対する意欲と自覚を高める。

### ●到達目標：

- ・教職の意義、教職の役割、教員の役割、資質能力、職務内容等について身に付けることができる。
- ・教職の実務について観察体験することで、教職を志す意欲を高めることができる。
- ・自らの適性を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解することができる。

### ●成績評価の基準：

- ・授業中の活動の様子（取組み方・意欲等） 30点
- ・課 題 30点
- ・（授業後）小レポート、最終レポート 40点

### ●留意事項：

- ・先輩教師の授業や学級づくりを体験することを通して、授業観や学級づくりについての考えを高めること。
- ・学んだことをきちんと整理して体得するように努め、教育実習校での実践活動に活かせるようにすること。
- ・附属小学校・附属幼稚園での観察・体験型実習を含む。

オフィスアワー 授業の中で伝える

### ●実務経験の授業への活用方法：

公立幼稚園、あるいは公立小学校の教員として勤務した経験をもとに、学校園の教育目標、教育課程、研修、評価等のテーマについて、実践に即して取り上げる。学生は、テーマに沿って問題解決する中で、その意義や役割等について学校園の実態に沿った理解を深めて、実践的な指導力を高めることができる。

### ●授業予定一覧：

1. 期待される教師像（公教育の目的、教員の存在意義）（担当：三宅）
2. 学校（園）の教育目標と教育課程（小学校学習指導要領、幼稚園教育要領の概略）（担当：赤木、三宅）
3. 勤務と服務（教職の職業的特徴とやりがい）（担当：三宅）
4. 人権に配慮した指導の進め方（教育観の変遷と教員の役割）（担当：三宅）
5. 校務分掌、職員会議（チーム学校運営への対応①）（担当：赤木）
6. 研修のあり方①（教員研修の意義と制度上の位置付け）（担当：赤木）
7. 人間関係づくり（附属学校園での子どもとの関わり体験から）（担当：赤木）
8. 学級事務（模擬実践と効果的な運用）（担当：赤木）
9. 指導計画（保育計画）の立て方（模擬実践）（担当：赤木、三宅）
10. 附属小学校での観察実習（朝の会から授業参観、小学校教育の特徴について）（担当：赤木）
11. 附属幼稚園での観察実習（自由保育から集団保育、幼稚園教育の特徴について）（担当：三宅）
12. 教員の職務内容と服務上・身分上の義務（法律と観察したことをつないで）（担当：三宅）
13. 評価のあり方（指導と評価の一体化）（担当：赤木）
14. 内外専門家等との連携・分担した学校運営（チーム学校運営への対応②）（担当：赤木）
15. 研修のあり方②（学び続ける教師であるために、年代別の目指す教師像について）（担当：赤木、三宅）

定期試験は実施しない

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回授業の終わりに小レポートを書く。レジュメやレポートに書いたことをもとにして、毎回の内容をきちんとまとめておくこと。途中の数回のレポート課題や最終レポート試験では、毎回の内容を蓄積したうえでの自分の考えを表現することになる。授業内容を整理して、自分なりの分析を加えていってほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省  
幼稚園教育要領（平成29年3月告示）文部科学省

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
授業の中で紹介し、必要に応じて配布する。

## 教育思想史

〔担 当 者〕尾上 雅信

〔開 講 期〕1 期

〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2

〔科目ナンバリング〕330B1-4000-x2

### ●本授業の概要：

教育の思想と学校の歴史を扱う。おもに初等教育（現在の小学校段階の教育）を中心に、その歴史のなかで、「教える」ということについての思想（史）的な展開、広くは「教授」から「学習指導・学習支援」へと展開する過程を、具体的な思想家・実践家の理論や実践の解説を通して概観すること、さらに「教える」ための専門的な場としての「学校」の誕生、その時、何が期待されたのか、そしてそれは制度としてどのように発展してきたのか、その歴史を概観すること、これら二つのテーマを中心に、授業を行なう。

### ●到達目標：

学校を中心とする教育の歴史、それを支えてきた教育思想の展開を取り上げる。「教育」の広い概念の中でもとくに「教える」という行為に注目し、それについての思索や工夫の歴史、そのための専門の場としての「学校」の登場と変遷を取扱う。これらの歴史を学ぶことを通して、教育及び学校教育の基本概念、学校教育史と教育思想に関する基礎的な知識を身につけることをめざす。

### ●成績評価の基準：

授業中に課す小レポート…30%  
最終試験の結果…70%  
上記により総合的に評価します。

### ●留意事項：

教育、学校教育に関心をもつ方、広く教職をめざす方を対象とした内容となります。みなさんの積極的な参加を期待しております。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 第1回：オリエンテーション―授業の目的、概要、計画、方法など
- 第2回：教育とは何か：語義や語源、意義と定義をめぐって
- 第3回：コメニウスの教育思想：「教える」ことの思索と工夫
- 第4回：ルソーの教育思想：その1：「子どもの発見」について
- 第5回：ルソーの教育思想：その2：「教授」から「学び」の支援へ
- 第6回：ペスタロッチの思想と実践：ルソーからの継承：開発主義の教育思想
- 第7回：ヘルバルトの教育思想：「教える」ことの科学・体系化
- 第8回：デューイの思想と実践：問題解決学習、現代学習指導法の根本として
- 第9回：教育と社会：私的な子育てから公的な営みへ
- 第10回：「学校」の誕生：古代ローマ時代を事例に：学校存在理由を考える
- 第11回：学校制度の成立過程：その1：ヨーロッパの下構型の歴史
- 第12回：学校制度の成立過程：その2：日本の寺子屋・藩校などから
- 第13回：義務教育の思想と制度：その1：現代の理念と仕組み
- 第14回：義務教育の思想と制度：その2：思想の起源、制度の発展
- 第15回：現代学校教育の諸問題：現状と改革の動向
- 第16回：定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）事前に配布するプリントをよく読んで、要点をあらかじめつかんでおいてください。

（復習）授業プリントの空白部分（記入欄）を埋め、全体を読み直すことで、授業のポイントを整理してください。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
教科書は、とくに指定しません。参考書は、授業中に適宜、紹介します。授業は、プリントを準備・配布して行なう予定です。

### <参考書等>

参考書は、適宜授業中に紹介します。



## 教育心理学

〔担 当 者〕 湯澤 美紀  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2340-x2

### ●本授業の概要：

教育心理学は、教育の場において生じている事態を心理学的な観点から理解し、教育実践に生かしていく学問である。本授業では、教育心理学の領域で明らかとなっている知見を踏まえつつ、教師として、子どもの学習・発達をいかに援助しうるのかといった点について具体的な実践例を示していくとともに、今日的な課題について、教育者としていかに取り組んでいくかといった点について、考える材料を提示する。

### ●到達目標：

教育心理学に関する基礎的な理解を通じて、教育者としての子どもとのかかわりについて、各自の考察を深める。

### ●成績評価の基準：

課題レポート（40％） 定期試験（60％）

### ●留意事項：

オフィスアワー 水曜日 12時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

教育現場における指導・助言を行う実務経験（岡山県専門家チーム等）を通して、現在の学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

### ●授業予定一覧：

第1回：学ぶことの意味を問う：幼児の学びと児童の学び  
第2回：発達と育ちの意味を問う：乳幼児期から青年期にわたる身体・運動・心理的発達と一人の人格としての育ち  
第3回：認知発達と学習理論  
第4回：教室場面での動機づけ  
第5回：学習を支えるメタ認知  
第6回：子どもの主体的な学習を支える様々な学習スタイルと新しい学習評価（ポートフォリオ評価・パフォーマンス評価・ルーブリック評価）  
第7回：学習を支える記憶のメカニズム  
第8回：学習に遅れのある子ども・発達障害のある子どもの理解  
第9回：学習に遅れのある子ども・発達障害のある子どもへの支援  
第10回：子どもの主体的な学習を支えるユニバーサルデザイン  
第11回：素朴概念と科学の学び  
第12回：言葉を育む教育  
第13回：社会化と道徳性の発達  
第14回：自己の形成と職業選択  
第15回：授業分析を通したわかりやすい授業づくりの実際とこれからの教育のあり方：目標と評価の再考  
第16回：定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）授業の理解を支える深めるために、推薦図書一覧を、授業初回時に配布する。授業前までに、授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい。（復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。また、第1回～5回、第6回～10回において各1回、授業に関連するテーマを各自で焦点化し、主体的に考察を深め、レポートとしてまとめる。レポート作成には、関連領域の図書の精読が必須である。余裕をもって臨んでほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

教師教育講座 第3巻 子どもの発達と教育、湯澤正通、協同出版

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

窓ぎわのトットちゃん（黒柳徹子著、講談社）

<参考書等>

ワーキングメモリと特別な支援（湯澤美紀他編著、北大路書房）

ワーキングメモリと英語入門（湯澤美紀他編著、北大路書房）

## 発達心理学 I

〔担 当 者〕 湯澤 美紀  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-1234-x2

### ●本授業の概要：

人間の健やかな成長・発達を生命の誕生から老年期にいたるまでの長いスパンで紐解いていく。子の育ち、また、親の育ちを冒頭で述べ、親子の絆の在り方について考えた後、幼少期の人の成長を言語・社会性・自己意識・遊びの観点から考察する。その後、成長に伴う発達課題を概観していきながら、人がより良く生きるための成長の姿を考える。

### ●到達目標：

授業を通して、心の発達のメカニズムを多面的に理解していきながら、学生は、自らの成長のプロセスと照らし合わせながらこれまでの人生を振り返るとともに、自らのこれからの育ちを見通しつつ、明日への成長に繋がるための実践的な学びを目指す。

### ●成績評価の基準：

課題レポート（40％） 定期試験（60％）

### ●留意事項：

オフィスアワー 水曜日 12時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

保育・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して（岡山県専門家チーム等）、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

### ●授業予定一覧：

第1回：人の育ちについて考える  
第2回：生命の誕生  
第3回：赤ちゃんから見た世界  
第4回：親としての育ち  
第5回：コミュニケーションと人間関係の発達  
第6回：言語と遊びの発達  
第7回：自己の発見  
第8回：仲間の中での育ち  
第9回：発達と教育  
第10回：思春期を生きる  
第11回：職業選択  
第12回：関わりの中で成熟する  
第13回：中年期のアイデンティティ  
第14回：ライフストーリー（人生の振り返り）  
第15回：人の個性をどのように理解し、そして、ともに手と手を取りあうか  
第16回：定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）授業の理解を支える深めるために、推薦図書一覧を、授業初回時に配布する。授業前までに、授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい。（復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。また、第1回～5回、第6回～10回において各1回、授業に関連するテーマを各自で焦点化し、主体的に考察を深め、レポートとしてまとめる。レポート作成には、関連領域の図書の精読が必須である。余裕をもって臨んでほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

教師教育講座 第3巻 子どもの発達と教育（湯澤正通編著、協同出版）

問いからはじめる発達心理学－生涯にわたる育ちの科学（坂上裕子他編著、有斐閣）

やさしく学ぶ発達心理学－出会いと別れの心理学（浜崎隆司・田村 隆宏編著、ナカニシヤ出版）



## 発達心理学Ⅱ

〔担 当 者〕湯澤 美紀  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-1234-x2

## ●本授業の概要：

保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。生涯発達の観点から、発達プロセスの概要を学ぶとともに、個人差の実在について理解する。また、子ども理解を深めるために、感情・身体・認知・社会性の観点から、多面的に発達をとらえる。

## ●到達目標：

子ども理解を深め、保育者・教師としての力量形成を行う。

## ●成績評価の基準：

課題レポート（40％） 試験（60％）

## ●留意事項：

オフィスアワー 水曜日 1,2時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

保育・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して（岡山県専門家チーム等）、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

## ●授業予定一覧：

第1回：乳児期～老年期（発達の土台としての乳幼児期）  
 第2回：脳の発達（発達の変化）  
 第3回：愛着理論  
 第4回：乳児の驚くべき能力  
 第5回：ことばの発達Ⅰ（母語の習得のプロセス）  
 第6回：ことばの発達Ⅱ（母語の習得を支えるわらべうた）  
 第7回：ことばの発達Ⅲ（協同するからだのことば）  
 第8回：幼児期の心の成長Ⅰ（自分を通して世界をつかむ）  
 第9回：幼児期の心の成長Ⅱ（感情のコントロール）  
 第10回：幼児期の心の成長Ⅲ（自己回復力と自己成長力）  
 第11回：遊びⅠ（子どもは小さな科学者）  
 第12回：遊びⅡ（森の幼稚園で何が育つか？）  
 第13回：遊びⅢ（保育の質と子どもの発達）  
 第14回：子ども一人ひとりの個性としての発達障碍の理解  
 第15回：保護者理解と支援  
 第16回：定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）授業の理解を支える深めるために、推薦図書一覧を、授業初回時に配布する。授業前までに、授業に関連する図書を読み進めたうえで参加してほしい。

（復習）授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」を作成する。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げる。また、第1回～5回、第6回～10回において各1回、授業に関連するテーマを各自で焦点化し、主体的に考察を深め、レポートとしてまとめる。レポート作成には、関連領域の図書の精読が必須である。余裕をもって臨んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

子どもも大人も絵本で育つ（湯澤美紀・脇明子、柏書房）

<参考書等>

やさしく学ぶ発達心理学－出会いと別れの心理学（浜崎隆司・田村 隆宏編著、ナカニシヤ出版）

## 青少年問題

〔担 当 者〕西 隆太郎  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-1234-x2

## ●本授業の概要：

この授業では、これからの世界を創っていく新しい世代の人達のことを扱います。教育学・保育学・臨床心理学など、幅広い観点から、人間の成長について理解を深め、とくに新しい世代とかわる教育者・保育者のあり方を学びます。新しい世代のことを考える上では、その出発点である保育の世界も取り上げます。タイトルには「問題」とありますが、「問題だ!」という悪い意味ではなく、「青少年をテーマにしている」という意味だと思ってください。

## ●到達目標：

青少年 ― 新しい世代の人達を理解し、支援のあり方を考える上で必要な視点について、主として教育学・保育学・臨床心理学の立場から学び、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についての理解を深めます。各領域における基本的な文献を読み解くことを学ぶとともに、レポート等を通じて青少年について自分自身の理解・考察を深めることを目指します。

## ●成績評価の基準：

小レポート・小テスト（計5回実施） 80％  
 授業後のリアクションペーパー 20％

## ●留意事項：

毎回の授業後に、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。その他の課題は、授業中に指示します。  
 オフィスアワー 金曜日 3,4時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士、スクールカウンセラー等の経験を生かし、子ども・若者についての実践的理解を深めます。

## ●授業予定一覧：

第1回：「青少年問題」― 新しい世代と出会うこと  
 第2回：ライフサイクル ― 人生の四季  
 第3回：幼児、児童及び生徒の心身の発達 (1)―人間の発達を捉える視点  
 第4回：幼児、児童及び生徒の心身の発達 (2)―子ども達とかわる経験から  
 第5回：幼児、児童及び生徒の心身の発達 (3)―青少年とカウンセリング  
 第6回：幼児、児童及び生徒の心身の発達 (4)―自立とアイデンティティ  
 第7回：不登校 ― 「内閉」の意味  
 第8回：報道に見る青少年  
 第9回：いじめと差別の問題  
 第10回：幼児、児童及び生徒の学習の過程 (1)―学びとコミュニティ  
 第11回：幼児、児童及び生徒の学習の過程 (2)―学びの意味とアイデンティティ  
 第12回：教師のかかわりと省察の過程  
 第13回：かかわりの事例を読み解く  
 第14回：人間学的保育学・教育学からみる人間の成長  
 第15回：人間の成長を研究するために  
 定期試験は実施しない。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業に関する連絡を manaba folio で行い、授業内容に関連する資料等、予習・復習についても連絡します。

受講者は必ず「リマインダ機能」を ON にし、連絡メールが受け取れるようにしてください。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

渡部真『ユースカルチャーの現在』、津守眞『子どもの世界をどうみるか』、山中康裕『少年期の心』、レイヴ&ウエンガー『状況に埋め込まれた学習』をはじめ、青少年を理解するための教育学・保育学・臨床心理学の基礎的文献を授業中に紹介し、ともに読み解いていきます。

学校経営論

〔担 当 者〕 赤木 雅宣・三宅 一恵  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3400-x2

●本授業の概要：

学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から課題を見つけて探求していく中で、理解を深める。また、学校と地域との連携や協働、学校の危機管理と学校安全について、具体的な取り組み事例を踏まえて理解する。

●到達目標：

- 学校経営の基礎的な知識を身に付けて、それに関連する課題について理解することができる。
- 学校と地域との連携の大切さについて理解することができる。
- 学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付けることができる。

●成績評価の基準：

- ・授業中の活動の様子（取組み方・意欲等） 30点
- ・グループ発表 30点
- ・（授業後）小レポート・最終レポート 40点

●留意事項：

- ・幼稚園・小学校の校種の異なる教育について幅広く学習し、様々な教育課題に対する関心を高めること。

オフィスアワー 授業の中で伝える

●実務経験の授業への活用方法：

公立学校園、公立小学校の園長、あるいは教員として勤務した経験をもとに、学校園の経営、危機管理等の諸問題について、実践に即して取り上げる。学生は、学校園の諸課題について現実に沿った問題解決をして、発表や話し合い等の活動に活かしていく。

●授業予定一覧：

- 1. 学校（小学校・幼稚園）教育の目的と目標（望ましい学校経営の姿）（担当：三宅）
  - 2. 学校（園）経営とは（教育活動の年間の流れとPDCAを含んだ学校評価）（担当：赤木）
  - 3. 学校経営の仕組みと効果的な方法（教職員の協働）（担当：赤木）
  - 4. 学校外の関係者・関係機関との連携・協働のあり方（担当：三宅）
  - 5. 教育行政、財政の制度（公教育の目的実現に向けた姿）（担当：三宅）
  - 6. 開かれた学校づくりのあり方（地域共同学校の取り組みの成果と課題）（担当：三宅）
  - 7. 学校園における危機管理①（事件、事故、災害の実情から対応策を検討する）（担当：三宅）
  - 8. 学校園における危機管理②（具体的な取り組みから分かる安全管理と安全教育）（担当：赤木）
  - 9. グループ発表Ⅰ（子どもの安全・安心を大切にしたい学校経営の諸課題について）（担当：赤木、三宅）
  - 10. 学校（園）における子どもの人権Ⅰ「一人一人を大切にしたい」とは（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）（担当：赤木）
  - 11. 学校（園）における子どもの人権Ⅱ「子どもが身に付けるべき人権感覚」（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）（担当：赤木）
  - 12. グループ発表Ⅱ（一人一人の人権を意識した学校経営の諸課題について）（担当：赤木、三宅）
  - 13. 特別支援教育の現状と取組（特別支援教育の視点を活かした学校経営）（担当：赤木）
  - 14. 学校経営プランの作成と課題の把握（担当：赤木、三宅）
  - 15. グループ発表Ⅲ（学校経営の成果と今後に向けた課題）（担当：赤木、三宅）
- 定期試験は実施しない

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）我が国の教育制度は、日本国憲法から文部科学省令にいたるまでの階層的な法令体系のなかで維持されています。学校教育に関する基本的な法令については、自主的に把握した上で出席しましょう。

（復習）毎回の授業内容を整理するとともに、学校現場へ主体的に向き、観察や実践を通して学びを確かなものにしてください。そのことが、最終課題（レポート）にもつながります。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
幼稚園教育要領（平成29年3月告示）、文部科学省  
小学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省
- <参考書等>  
必要に応じて紹介する。

教育法規

〔担 当 者〕 松沢 克彦  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3400-x2

●本授業の概要：

我が国の教育行政、学校教育、学校運営、教職員の在り方等のほとんどが教育法規を根拠として成り立っていることを体系的に学び、教育に関する法規の重要性を理解する。また、今日的な教育上の諸問題について判断し対処していくためのリーガルマインドを養う。

●到達目標：

- 我が国の教育の根拠となっている法規について、基礎的知識を身に付け、教育の社会的、制度的仕組みを理解することができる。
- 教育に関する法的思考の重要性を理解し、教育の在り方について、法規を通して体系的に理解できる。
- 現実の教育上の諸課題について、教育法規的な観点からも考察し、判断できる。

●成績評価の基準：

- 授業や課題（基礎問題）への取り組み度……40%
- 筆記試験……………60%

●留意事項：

主な教育法規の条文や判例等を読みこなしながら、教育法規の独特な表現や概念、他の法規との関連などについても理解を深め、学校教育等に対するリーガルマインドを養ってもらいたい。

●実務経験の授業への活用方法：

公立高校や県教育研修機関の職員および管理職としての経験を踏まえ、教育法規と学校教育との関係、あるいは学校での法令遵守の重要性などについて、具体例をあげて説明し、学生の理解を深める。また、学校が抱える実際のな課題や問題をどのように捉え、解決するかをともに考察する。

●授業予定一覧：

- 1. オリエンテーション  
ー受講上の注意 教育法規を学ぶための基礎知識ー
- 2. 日本国憲法における教育条項
- 3. 教育基本法Ⅰー教育の理念及び目的・目標ー
- 4. 教育基本法Ⅱー教育及び教育行政ー
- 5. 学校のしくみⅠー学校の設置ー
- 6. 学校のしくみⅡー学校の管理運営ー
- 7. 教職員Ⅰー身分及び服務ー
- 8. 教職員Ⅱー分限と懲戒ー
- 9. 教職員Ⅲー教職員の研修ー
- 10. 教育課程Ⅰー教育課程の編成ー
- 11. 教育課程Ⅱー教科書及び学校教育と著作権ー
- 12. 児童・生徒Ⅰー就学及び指導要録ー
- 13. 児童・生徒Ⅱー生徒指導と懲戒ー
- 14. 学校保健・学校安全
- 15. 教育行政、その他
- 16. 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業は授業プリントに従って進めていきます。馴染みのない法規や条文が続々と出てきますが、授業プリントにある条文等を「教職六法」で確認し、まずは法規や条文に慣れ親しんでください。授業で配布する基礎問題で復習を行い、解き終えた基礎問題は基本的には次の授業時に提出してください。

教育法規はとにかく「難しく、めんどろである。」と思われがちですが、予習、授業の解説、復習のサイクルを通して条文を繰り返し読み、また、各法規に関連してみていくことで理解も増していきます。なお、予習・復習において、「教職六法」の巻末にある資料や事項別解説を活用してください。

【必携書（教科書販売）】

『必携 教職六法』、協同出版

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 家庭教育

〔担 当 者〕 福原 史子  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-x2

## ●本授業の概要：

自立への教育・心の教育を踏まえ、少子化、核家族化、情報化等の時代に合った家庭教育の在り方や親子間のコミュニケーションについて考える。さらに、家庭と保育所・幼稚園・認定こども園・小中学校、地域の役割や連携について理解し、岡山県内の最新の実践活動例から具体的な取り組みを学ぶ。

## ●到達目標：

・現代社会における家庭教育に関する問題意識を高める。  
 ・家族のニーズに応じた多様な支援活動についての理解を深める。  
 ・子どもを愛することと甘やかすことの違いを知り、愛が伝わるコミュニケーションを学び、よい人間関係の構築に活かすことができるようにする。

## ●成績評価の基準：

レポート試験 40%  
 授業への取り組み度 30%  
 小レポート 30%

## ●留意事項：

オフィシアワー 月曜日7,8時限 水曜日5,6時限  
 質問は随時電子メールで受け付ける（アドレスは初回授業にて提示する）  
 本授業では、教育（保育）者として、社会人として、次代の親として等、様々な角度から家庭教育を考える。

## ●実務経験の授業への活用方法：

担当者は小学校教諭として学級担任をした経験から、学校・家庭・地域の連携の在り方と課題について多角的に取り上げ、その背景にある家庭の教育力低下とコミュニケーションの問題点を、学生が明確化し解決への道筋を思索することを促す。その上で、心理カウンセラーとして親子間のコミュニケーションの問題に長年取り組んできた特別講義講師により、具体的な事例と実践を基に学生のコミュニケーションスキル向上を促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 家庭の意義と本質
  - 2 子どもの自立と家庭・学校・地域の役割
  - 3 保育所・幼稚園・小中学校の現状と家庭の責任
  - 4 子どもの成長と伝達行事
  - 5 基本的生活習慣の育成としつけ
  - 6 子どもの食生活と食育
  - 7 男女共同参画社会と共働き時代の家庭教育
  - 8 仕事と家庭－ワークライフバランスを考える－
  - 9 情報化社会と家庭教育
  - 10 日本と世界の家庭教育
  - 11 次世代育成推進事業
  - 12 家庭と福祉・教育活動との連携
  - 13 親子間のコミュニケーション1－聞くこと－（特別講義講師）
  - 14 親子間のコミュニケーション2－伝えること－（特別講義講師）
  - 15 子どもを取り巻く環境と今後の家庭教育（まとめ）
- 定期試験は実施しない

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）毎回次時の資料とワークシートを配付するので、資料を熟読しテーマについて自分なりの考えをワークシートに記入し、授業に臨むことを求める（1時間）。授業では、討論や討議、質疑応答、意見交換などを通してそれぞれのテーマを深めていく。  
 （復習）授業後は、授業の振り返りをし、それぞれのテーマに関する内容をまとめておくこと（45分）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 自作資料を配布

## &lt;参考書・参考資料等&gt;

『親育ち応援学習プログラム』、岡山県地域家庭教育推進協議会・岡山県教育委員会

## 特別支援教育基礎論

〔担 当 者〕 青山 新吾  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-1000-x2

## ●本授業の概要：

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の有する困難性、障害特性やその対応について、及び特別支援の視点を取り入れた保育、教育の現状や基礎的事項からインクルーシブ教育システムの今後について解説する。

## ●到達目標：

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解すると共に、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を理解することを目標とする。

## ●成績評価の基準：

レポート（期間中に2度提出） 30%  
 学期末試験 70%

## ●留意事項：

電子メール等による質問、相談は随時受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

小学校教員時代に経験した実践及び、現在指導・助言の立場でかかわっている幼稚園、小・中・高等学校や特別支援学校における具体的なエピソードや最新の知見を講義中に積極的に紹介し、特別支援教育について具体的なイメージを伴って学習を進められるように展開する。

## ●授業予定一覧：

- 第1回：「障害」とは何か：「障害」の捉え方
- 第2回：特別支援教育とは何か：特別支援教育コーディネーターを軸とする支援体制の構築
- 第3回：特別な支援を必要とする子どもとは（1）自閉症スペクトラムのある子どもと教育
- 第4回：特別な支援を必要とする子どもとは（2）LD、ADHDのある子どもと教育
- 第5回：特別な支援を必要とする子どもとは（3）言語障害、場面緘黙のある子どもと教育
- 第6回：特別な支援を必要とする子どもとは（4）知的障害のある子どもと教育
- 第7回：特別な支援を必要とする子どもとは（5）視覚障害、聴覚障害のある子どもと教育
- 第8回：特別な支援を必要とする子どもとは（6）病弱・身体虚弱、肢体不自由のある子どもと教育
- 第9回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（1）幼稚園等における取組
- 第10回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（2）小学校における取組
- 第11回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（3）中学校、高等学校等における取組
- 第12回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（4）外国語の指導と特別支援教育
- 第13回：キャリア教育と特別支援教育：関係機関との連携による将来につなげるための指導の実践
- 第14回：特別支援教育における家族との協働：保護者のお話から学ぶ
- 第15回：インクルーシブ教育システムと共生社会の構築：特別支援教育の今後 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の講義で、その日の講義内容に関連した参考文献や参考URLを紹介する。また、manabaを活用し、講義内容に関連する情報や、更に発展的な内容についても適宜発信する。これらを参考にしながら、講義内容への関心を高め、理解や思索を進められるよう、講義外での学習に取り組んで欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

『特別支援教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、廣瀬由美子・石塚謙二、ミネルヴァ書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『特別支援教育を創る』青山新吾著 明治図書  
 『インクルーシブ教育ってどんな教育？』青山新吾他編著 学事出版



## 教育課程論

〔担当 者〕 下山 俊子  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-x2

### ●本授業の概要：

「教育課程」の意義を理解し、その根拠となる法令や学習指導要領について基礎的知識を習得すると共に、教育課程編成の制度やプロセスについて理解する。また、教育課程に沿った個々の教育活動について、その今日的課題に気付くと共に、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

### ●到達目標：

・教育課程の意義、学習指導要領改訂の経過を理解し、教育実践との関連について考察する  
・教育課程の編成・実施について、現場での実践例やディベート等を通して考察を深める  
・各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する

### ●成績評価の基準：

・授業への取組度（含小レポート） 3 0 %  
・演習・発表態度 3 0 %  
・定期テスト 4 0 %

### ●留意事項：

・自分たちで課題について考え、発表等する機会があるので、積極的によりよいプレゼンテーションを目指すこと。  
・学校支援ボランティア、インターンシップ等に積極的に参加して、多様な現場体験の機会をもつよう心がけること。

### ●実務経験の授業への活用方法：

小学校教諭・教頭・校長として勤務の経験から、教育課程編成、実施、運営上の配慮事項等について、現場での具体例を示しながら講義をし、演習をさせていくことで、学生により実践的な理解を促す。

### ●授業予定一覧：

授業計画

- 第1回：教育課程とは、授業の目的と内容、授業の進め方・受け方、評価の仕方  
第2回：教育課程が果たす役割と教育課程に関する法令  
第3回：学習指導要領の改訂経過  
第4回：教育課程編成の手順と学校教育目標の設定  
第5回：教育課程編成における合科的・関連的指導  
第6回：教育課程編成におけるカリキュラム・マネジメントの意義  
第7回：児童の実態に即した教育課程の編成（障害のある児童）  
第8回：児童・学校の実態に即した指導計画の作成（帰国児童・外国人児童）  
第9回：家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携  
第10回：カリキュラム評価と改善  
第11回：教育課程の実施（教科 外国語）  
第12回：教育課程の実施（教科外 学級経営）  
第13回：学習した内容についてのディベート実践  
第14回：今日的教育課題についてのディベート実践  
第15回：学校運営上の留意事項・振り返りとまとめ  
定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

・毎時間印象に残った新聞記事をスクラップし感想を書くことを宿題とします。（15回目にスクラップノートの提出があります。）また、スクラップした記事について毎時間グループ内では全員が、全体の間では数名ずつが、1分間スピーチを行います。教育課題を含む社会事象に関心を持ち、意見をもって、スピーチができるよう努力しましょう。また、教育課題についてのディベートを行いますので、普段から情報収集しておきましょう。

### 【必携書（教科書販売）】

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月）、文部科学省

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省

<参考書等>

授業中に、プリント、資料を配付する。

<参考書等>

小学校外国語活動研修ガイドブック、文部科学省、旺文社

## 特別活動の指導法

〔担当 者〕 守田 暁美  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-x2

### ●本授業の概要：

学習指導要領に示された特別活動の内容について理解し、指導者としての必要な知識や指導方法について学ぶ。講義及びグループ学習、演習、模擬授業などを通して、学校教育における特別活動の教育的意義や役割、効果的な指導の在り方について修得する。

### ●到達目標：

・特別活動の教育的意義や学習指導要領に示された特別活動の目標・内容について理解する。  
・特別活動の特質、指導原理について理解し、指導方法について理解を深める。  
・学級活動の指導計画や指導案を作成することができる。

### ●成績評価の基準：

・授業への取組み 50%（レポート、態度）  
・定期試験 50%

### ●留意事項：

・これまでの学校生活を振り返り、心に残る特別活動の体験を具体的に語ることができるようにしておく。  
・大学での学校行事をはじめ、地域や社会での様々な行事に積極的に参加し、自らの実践を通して望ましい集団活動の意義を体得するように努める。

### ●実務経験の授業への活用方法：

学校現場で教師歴38年。特別活動の指導原理を踏まえ、共に成長する喜びのある学級・学校集団の指導の在り方を研究、実践を積み上げてきた。この学びを基に、学生の特別活動指導の視点や実践的指導力を養う。

### ●授業予定一覧：

1. 特別活動の意義（子どもの生活・発達上の課題と学校教育における特別活動の教育的意義）
  2. 特別活動の目標と特質（学習指導要領における変遷、望ましい集団の姿、集団活動の条件）
  3. 特別活動全体指導計画（特色ある学校教育の創造～学校・家庭・地域社会との連携と意義）
  4. 学級活動と学級経営（学級集団づくりと子ども理解～道徳・生徒指導との関連、家庭との連携～）
  5. 学級活動の目標と内容（学級活動(1)(2)の特質の違い及び活動形態、議題例など）
  6. 学級活動(1) 話し合い活動の指導①（授業の実際 V T R 視聴、計画委員会について）
  7. 学級活動(1) 話し合い活動の指導②（話し合いの過程・板書、助言の在り方など）
  8. 学級活動(1) 話し合い活動の指導③（学習指導計画の作成の仕方、評価と指導の一体化について）
  9. 模擬授業実践と考察①（学級活動(1) 話し合い活動 ～合意形成に向けて～）
  10. 模擬授業実践と考察②（学級活動(1) 話し合い活動 ～助言のタイミングと集団決定する際の配慮～）
  11. 学級活動(2) 適応指導の授業（事例に学ぶ、エンカウンターを取り入れた人間関係づくりの演習）
  12. 児童会活動の指導（特質、内容、指導計画、活動の V T R 視聴を通して教師の役割を考える）
  13. クラブ活動の指導（特質、内容、指導計画 ～学校の実態や公共施設・地域人材を生かす工夫～）
  14. 学校行事の指導（特質、内容、指導計画～多様な他者との交流や地域の良さ・特性を生かす工夫～）
  15. 特別活動の理論と指導法のまとめ（レポートをもとに学びの交流）
- 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習） 次回の学習場面についてテキストを読み、要点をつかんで授業に参加する。  
（復習） 授業の振り返りと共に、配付されたワークシートや資料等をファイルに整理して授業に生かすようにする。

### 【必携書（教科書販売）】

みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編、文部科学省国立教育政策研究所、文溪堂  
小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年6月）、文部科学省

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

・小学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省

<参考書等>

・ワークシートの活用（自作によるものを毎回配付）



| 330                     | 84260 |
|-------------------------|-------|
| 教育課程の理論と方法              |       |
| 〔担 当 者〕伊藤 美保子 他 2 名     |       |
| 〔開 講 期〕1 期              |       |
| 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2       |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-2000-x2 |       |

●**本授業の概要：**  
幼児教育の基本を踏まえ、目的・目標に向かってどのような筋道をたどって教育・保育を進めていくかを学び、教育課程等の編成の基本原理を理解する。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の学びを念頭におきながら、幼稚園等における「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性についての学びを深める。

●**到達目標：**  
・幼児教育における望ましい教育課程等の編成の在り方や内容について理解する。  
・教育課程等と指導計画の関係や内容について理解する。  
・幼稚園等における「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。

●**成績評価の基準：**  
・課題テスト 30点  
・学期末テスト 50点  
・受講態度 20点

●**留意事項：**  
幼稚園教育について理解を深めるとともに、保育園、こども園についても理解を深める。

オフィスアワー それぞれの担当教員が授業中に指示をする

●**実務経験の授業への活用方法：**  
伊藤は保育園、久山・三宅は幼稚園に勤務し、実際に各園の子どもの実態に応じた教育課程・指導計画等を作成した経験から、望ましい教育課程や指導計画等の在り方や内容、またその関係性について、学生の理解を深めるように促す。

●**授業予定一覧：**  
第1回：乳幼児期の特性と保育・教育課程の果たす役割（改訂の変遷と改訂内容）（担当：伊藤、三宅）  
第2回：幼稚園教育の基本（教育課程の機能）（担当：久山）  
第3回：幼稚園教育の目標（法規との関連）（担当：久山）  
第4回：教育課程の意義と特徴（担当：久山）  
第5回：保育課程の意義と特徴（担当：伊藤）  
第6回：幼保連携型認定こども園の意義と特徴（担当：三宅）  
第7回：教育課程編成の方法（担当：久山）  
第8回：幼稚園における指導計画の意義と役割（担当：久山）  
第9回：保育園における指導計画の意義と役割（担当：伊藤）  
第10回：長期の指導計画と短期の指導計画の関連（担当：三宅）  
第11回：指導計画の実際（担当：伊藤）  
第12回：指導計画作成上の留意点（担当：伊藤）  
第13回：カリキュラム・マネジメントの意義（担当：三宅）  
第14回：カリキュラム評価の基礎（担当：三宅）  
第15回：反省・評価と指導計画・教育課程の改善（担当：三宅）  
定期試験

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説書』等の該当箇所をよく読んでおくこと。また、毎回の授業で、その日の内容に関して資料を配布する。授業後に自主学修を行い、理解を深めるよう努力してほしい。

【**必携書（教科書販売）**】  
幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」、文部科学省、フレーベル館  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月）、内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

【**必携書・参考書等（教科書販売以外）**】  
＜必携＞  
『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）  
『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）、文部科学省、フレーベル館  
『保育所保育指針』（平成29年3月告示）  
『保育所保育指針解説』（平成30年3月）、厚生労働省、フレーベル館  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）

＜参考書等＞  
随時資料を配布する。

| 330                     | 84300 |
|-------------------------|-------|
| 国語科指導法 [a]              |       |
| 〔担 当 者〕赤木 雅宣            |       |
| 〔開 講 期〕2 期              |       |
| 〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2    |       |
| 〔科目ナンバリング〕330B1-2300-x2 |       |

●**本授業の概要：**  
小学校国語科の目標・指導内容を理解するとともに、指導の基盤となる学習指導理論について理解を深める。また、具体的な教材について指導案の作成や模擬授業実践を通して、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

●**到達目標：**  
・学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。  
・国語科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。  
・具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、指導案に記すことができる。

●**成績評価の基準：**  
・授業での意欲・態度（活動の様子） 20点  
・課 題 20点  
・授業ノート作成 20点  
・（授業後）小レポート、最終レポート 40点

●**留意事項：**  
・教育実習等に活かすことができるように、意欲をもって取り組むこと。  
・学習指導案を作成することが複数回ある。よりよい案になるように粘り強く取り組むこと。  
・模擬授業の形態をとることがあるので、授業者として、あるいは、子ども役として、積極的に参加すること。

オフィスアワー 授業中に指示する

●**実務経験の授業への活用方法：**  
公立小学校の教員として授業実践してきた経験を活かして、自らが学生を子ども役にした模擬授業を展開して、教材研究を授業づくりに繋ぐ。児童の実態に即した学習活動の展開等を観点として、具体的な問題提起をする。学生は、よりよい授業づくりについて考えをもち、指導案作成や模擬授業実践に活かしていく。

●**授業予定一覧：**  
1 国語科の目標と指導内容（学習指導要領が求める資質・能力）  
2 A領域「話すこと・聞くこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）  
3 A領域「話すこと・聞くこと」の授業づくり①（子どもの音声言語の発達段階とその指導）  
4 A領域「話すこと・聞くこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）  
5 B領域「書くこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）  
6 B領域「書くこと」の授業づくり①（表現過程の理解と指導方法の検討）  
7 B領域「書くこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）  
8 C領域「読むこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）  
9 C領域「読むこと」の授業づくり①（読みの学習指導理論の理解と指導方法の検討）  
10 C領域「読むこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）  
11 言語事項の授業づくり①（書写を課題解決型授業にする意義・指導案作成と模擬授業実践）  
12 言語事項の授業づくり②（新出漢字を課題解決型授業にする意義・指導案作成と模擬授業実践）  
13 3領域1事項の授業づくりのまとめ（指導上の留意点の検討と評価のあり方について）  
14 情報機器を活用した授業づくりの実際（デジタル教科書・デジタル黒板の活用）  
15 発問・板書などの指導技術とノート指導のあり方  
定期試験は実施しない

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
・「国語Ⅰ」の授業で扱った内容について、実際に授業として構想していく方策を学ぶ。「国語Ⅰ」のレジュメ、ノートなどを整理して見直し、復習して臨むこと。  
・授業ノートを作成し、毎回の内容をまとめていくことになる。授業中に配布した資料やメモしておいたことを次回までにまとめておく。ノートはポートフォリオの役割をもち、評価の対象にもなる。  
・学習指導案を作成することが複数回ある。それをもとにして模擬授業を実践する機会もある。そのために作成した案や資料も授業ノートに貼付してまとめ、成果と課題を含めた整理を重ねていくこと。

【**必携書（教科書販売）**】  
小学校国語教科書「1年上」「3年上」「5年」光村図書版  
教科書指定：文部科学省『小学校学習指導要領解説』国語編（平成29年7月）  
基本を大切にした国語科授業づくり、赤木雅宣、大学教育出版

【**必携書・参考書等（教科書販売以外）**】  
＜参考書等＞  
「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）

国語科指導法 [b]

[担 当 者] 赤木 雅宣  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2300-x2

●本授業の概要：

小学校国語科の目標・指導内容を理解するとともに、指導の基盤となる学習指導理論について理解を深める。また、具体的な教材について指導案の作成や模擬授業実践を通して、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

●到達目標：

- ・学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解する。
- ・国語科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。
- ・具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、指導案に記すことができる。

●成績評価の基準：

- ・授業での意欲・態度（活動の様子） 20点
- ・課 題 20点
- ・授業ノート作成 20点
- ・（授業後）小レポート、最終レポート 40点

●留意事項：

- ・教育実習等に活かすことができるように、意欲をもって取り組むこと。
- ・学習指導案を作成することが複数回ある。よりよい案になるように粘り強く取り組むこと。
- ・模擬授業の形態をとることがあるので、授業者として、あるいは、子ども役として、積極的に参加すること。

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

公立小学校の教員として授業実践してきた経験を活かして、自らが学生を子ども役にした模擬授業を展開して、教材研究を授業づくりに繋ぐ。児童の実態に即した学習活動の展開等を観点として、具体的な問題提起をする。学生は、よりよい授業づくりについて考えをもち、指導案作成や模擬授業実践に活かしていく。

●授業予定一覧：

- 1 国語科の目標と指導内容（学習指導要領が求める資質・能力）
  - 2 A 領域「話すこと・聞くこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）
  - 3 A 領域「話すこと・聞くこと」の授業づくり①（子どもの音声言語の発達段階とその指導）
  - 4 A 領域「話すこと・聞くこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）
  - 5 B 領域「書くこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）
  - 6 B 領域「書くこと」の授業づくり①（表現過程の理解と指導方法の検討）
  - 7 B 領域「書くこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）
  - 8 C 領域「読むこと」の目標と指導内容（指導要領の検討）
  - 9 C 領域「読むこと」の授業づくり①（読みの学習指導理論の理解と指導方法の検討）
  - 10 C 領域「読むこと」の授業づくり②（指導案作成と模擬授業の実践）
  - 11 言語事項の授業づくり①（書写を課題解決型授業にする意義・指導案作成と模擬授業実践）
  - 12 言語事項の授業づくり②（新出漢字を課題解決型授業にする意義・指導案作成と模擬授業実践）
  - 13 3 領域1 事項の授業づくりのまとめ（指導上の留意点の検討と評価のあり方について）
  - 14 情報機器を活用した授業づくりの実践（デジタル教科書・デジタル黒板の活用）
  - 15 発問・板書などの指導技術とノート指導のあり方
- 定期試験は実施しない

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・「国語Ⅰ」の授業で扱った内容について、実際に授業として構想していく方策を学ぶ。「国語Ⅰ」のレジュメ、ノートなどを整理して見直し、復習して臨むこと。
- ・授業ノートを作成し、毎回の内容をまとめていくことになる。授業中に配布した資料やメモしておいたことを次回までにまとめておく。ノートはポートフォリオの役割をもち、評価の対象にもなる。
- ・学習指導案を作成することが複数回ある。それをもとにして模擬授業を実践する機会もある。そのために作成した案や資料も授業ノートに貼付してまとめ、成果と課題を含めた整理を重ねていくこと。

【必携書（教科書販売）】

小学校国語教科書「1年上」「3年上」「5年」光村図書版  
文部科学省「小学校学習指導要領解説」国語編（平成29年7月）  
基本を大切にした国語科授業づくり、赤木雅宣、大学教育出版

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示）、文部科学省

社会科指導法

[担 当 者] 浅井 宏史  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-3000-x2

●本授業の概要：

小学校社会科の目標・指導内容を理解するとともに、指導の基盤となる学習指導理論について理解を深める。また、具体的な教材について学習指導案の作成や模擬授業実践を通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

●到達目標：

- ・学習指導要領に示された社会科の目標や内容を理解する。
- ・社会科の学習内容とその背景となる学習理論について理解を深める。
- ・具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、学習指導案に記すことができる。

●成績評価の基準：

- ・毎回提出のレポート及び試験 60%
- ・指導細案の作成及び模擬授業 40%

●留意事項：

- ・小学校学習指導要領解説社会編と教科書を事前に読んで受講すること。
- ・事後もそれらを活用して学習内容の理解に努めること。

●実務経験の授業への活用方法：

岡山市立の小学校教諭、教頭、校長職として小学校教育に携わっていた経験から、学生に指導要領に基づいて小学校社会科の指導内容を具体的に研究することで、社会科指導法について理解させたり、学習指導案の作成や模擬授業を実施することで、実践的な指導力を身に付けさせたりする。

●授業予定一覧：

- 1 社会科の目標と指導内容（学習指導要領が求める資質・能力）
  - 2 第3学年の単元構成とその展開（1）  
学区探検の仕方（指導要領の検討・見学の指導）
  - 3 第3学年の単元構成とその展開（2）  
見学のまとめ方（見学・調査のまとめ方とその指導）
  - 4 第4学年の単元構成とその展開（1）  
副読本の活用の仕方（指導要領の検討・教科書以外の教材の指導）
  - 5 第4学年の単元構成とその展開（2）  
学習活動の工夫（具体的活動の理解と指導方法の検討）
  - 6 第5学年の単元構成とその展開（1）  
資料の活用の仕方（指導要領の検討・資料検討とその指導）
  - 7 第5学年の単元構成とその展開（2）  
教科書の活用の仕方（教科書教材の検討とその指導）
  - 8 第6学年の単元構成とその展開（1）  
指導過程の工夫（指導要領の検討・問題解決型授業の意義）
  - 9 第6学年の単元構成とその展開（2）  
ノート指導の工夫（表現過程の理解と指導方法の検討）
  - 10 指導細案の作成（発問・板書・情報機器の活用などの指導技術と指導上の留意点の検討と評価のあり方）
  - 11 学習シートの作成（学習支援の仕方の検討と学習シートの作成）
  - 12 模擬授業（1）  
第3学年（生活科からの接続を考慮した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）
  - 13 模擬授業（2）  
第4学年（体験的活動を重視した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）
  - 14 模擬授業（3）  
第5学年（資料の活用を重視した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）
  - 15 模擬授業（4）  
第6学年（中学校への接続を考慮した指導案作成と模擬授業実践、振り返りと授業改善）
- 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）学年別教材内容や指導法について具体的に学ぶので、該当学年・単元の小学校学習指導要領解説社会編と教科書を事前に読んで受講すること。  
（復習）毎回提出するレポートが返却された後、内容が一層充実するよう指導要領解説と教科書を参考にして補足し、授業実践の参考資料となるよう努めること。

【必携書（教科書販売）】

文部科学省検定「小学校社会科教科書3・4年、5年、6年」、東京書籍  
文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年7月）、東洋館出版

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

算数科指導法 [a]

〔担 当 者〕杉能 道明  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2300-x2

●本授業の概要：

小学校算数科の目標と学習内容を理解すると共に、数学と関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。また、具体的な授業場面を想定し、学習指導案作成や模擬授業実践を通して、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

●到達目標：

・学習指導要領に示された算数科の目標と学習内容を理解する。  
・算数科の学習内容とその背景となる学問・数学とを関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。  
・具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

●成績評価の基準：

・学習指導案の作成・模擬授業 60％  
・レポート 20％  
・授業に取り組む態度 20％

●留意事項：

オフィスアワー 月曜日 1・2時限 3・4時限

●実務経験の授業への活用方法：

国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年の現場経験、小1～中3までの算数・数学の指導経験を持つ。この実務経験を活かして、算数科の授業づくりに向けた教材研究、具体的な子どもの姿の想定、具体的な指導方法の工夫に助言する。また、模擬授業の振り返りで授業改善に向けた助言を行う。

●授業予定一覧：

第1回：算数科の目標と学習内容（教科の目標と内容、子どもの学力の実態）  
第2回：授業づくりのための教材研究（数学と関連した教材研究）  
第3回：算数科における単元の目標と指導計画（授業設計の仕方）  
第4回：算数科における評価 評価規準と評価基準（学習評価の考え方）  
第5回：数学的活動のねらい（学習指導理論に基づく学習活動）  
第6回：算数科で扱う教具の指導 用語・記号等の指導（情報機器及び教材の効果的な活用）  
第7回：学習指導案作成のポイント（学習指導案の作成、授業改善の3つの視点「主体的・対話的で深い学び」）  
第8回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「数と計算」領域 下学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第9回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「数と計算」領域 上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第10回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「図形」領域 下学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第11回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「図形」領域 上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第12回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「測定」領域 下学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第13回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「変化と関係」領域 上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第14回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「データの活用」 下学年・上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第15回：個に応じた指導（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）  
定期試験は実施しない

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

模擬授業の準備に際しては、よりよい授業づくりに向けて班のメンバーで考えを出し合い、協力して取り組むこと。  
講義の内容や模擬授業を振り返り、自分の考えをまとめてA4・1枚程度のレポートを作成し、翌週の授業の際に提出していただきます。

【必携書（教科書販売）】

○わかる算数科指導法改訂版、赤井利行、東洋館出版社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
小学校学習指導要領（平成29年告示）  
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編  
小学校算数教科書「1年」「2年上下」「3年上下」、啓林館

<参考書等>

自作プリント

<参考書等>

小学校算数教科書「4年上下」「5年」「6年」、啓林館

算数科指導法 [b]

〔担 当 者〕杉能 道明  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2300-x2

●本授業の概要：

小学校算数科の目標と学習内容を理解すると共に、数学と関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。また、具体的な授業場面を想定し、学習指導案作成や模擬授業実践を通して、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

●到達目標：

・学習指導要領に示された算数科の目標と学習内容を理解する。  
・算数科の学習内容とその背景となる学問・数学とを関連付けて教材研究を行い、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。  
・具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

●成績評価の基準：

・学習指導案の作成・模擬授業 60％  
・レポート 20％  
・授業に取り組む態度 20％

●留意事項：

オフィスアワー 月曜日 1・2時限 3・4時限

●実務経験の授業への活用方法：

国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年の現場経験、小1～中3までの算数・数学の指導経験を持つ。この実務経験を活かして、算数科の授業づくりに向けた教材研究、具体的な子どもの姿の想定、具体的な指導方法の工夫に助言する。また、模擬授業の振り返りで授業改善に向けた助言を行う。

●授業予定一覧：

第1回：算数科の目標と学習内容（教科の目標と内容、子どもの学力の実態）  
第2回：授業づくりのための教材研究（数学と関連した教材研究）  
第3回：算数科における単元の目標と指導計画（授業設計の仕方）  
第4回：算数科における評価 評価規準と評価基準（学習評価の考え方）  
第5回：数学的活動のねらい（学習指導理論に基づく学習活動）  
第6回：算数科で扱う教具の指導 用語・記号等の指導（情報機器及び教材の効果的な活用）  
第7回：学習指導案作成のポイント（学習指導案の作成、授業改善の3つの視点「主体的・対話的で深い学び」）  
第8回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「数と計算」領域 下学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第9回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「数と計算」領域 上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第10回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「図形」領域 下学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第11回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「図形」領域 上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第12回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「測定」領域 下学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第13回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「変化と関係」領域 上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第14回：学習指導案の作成と模擬授業の実践「データの活用」 下学年・上学年（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第15回：個に応じた指導（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）  
定期試験は実施しない

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

模擬授業の準備に際しては、よりよい授業づくりに向けて班のメンバーで考えを出し合い、協力して取り組むこと。  
講義の内容や模擬授業を振り返り、自分の考えをまとめてA4・1枚程度のレポートを作成し、翌週の授業の際に提出していただきます。

【必携書（教科書販売）】

○わかる算数科指導法改訂版、赤井利行、東洋館出版社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
小学校学習指導要領（平成29年告示）  
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編  
小学校算数教科書「1年」「2年上下」「3年上下」、啓林館

<参考書等>

自作プリント

<参考書等>

小学校算数教科書「4年上下」「5年」「6年」、啓林館



## 理科指導法 [a]

[担 当 者] 大木 進  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 講義・演習・実験 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-3000-x2

### ●本授業の概要：

小学校学習指導要領解説理科編の学年別の目標や内容を理解し、各学年の指導計画や学習指導案を作成する。さらに、教材・教具の開発や製作を行い、模擬授業の実践や植物の成長の継続観察等を通して、授業づくりや指導技術の向上を目指す基盤を整えることができる。

### ●到達目標：

学習指導要領に示されている小学校理科の目標や内容、教材研究の視点等を理解し、模擬授業を行うことを通して、指導技術の基礎・基本を身に付けることができる。

### ●成績評価の基準：

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 授業への関心・意欲・態度及び模擬授業  | 40% |
| 授業後に提出する感想や小レポート・宿題 | 30% |
| 定期試験                | 30% |

### ●留意事項：

・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）を繰り返し読むこと。

### ●実務経験の授業への活用方法：

小学校で担任や理科専科（現在も附属小学校6年生の理科専科）を通して理科を教えていた経験から、授業を行うまでの過程を取り上げ、学習指導案の作成を通して、学習指導要領や教科書の内容の解釈の仕方、教材研究の在り方等、授業を行う基礎を構築させる。

### ●授業予定一覧：

- 1 学習指導要領の理科の目標と内容の特徴について読み解き、学年ごとの特色について考える。
  - 2 各学年の内容を読み解き、学年ごとの児童の発達段階を考慮した授業設計や学習指導案の書き方を考える。
  - 3 理科の授業の参観 (VTR) をして、情報機器の活用法や教師の支援のあり方と評価について考える。
  - 4 第3学年の内容を読み解き、一つの単元を決め授業の展開を考え、学習指導案を考える。
  - 5 第3学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 6 第5回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、各班で振り返りを行い、修正案の作成を行う。
  - 7 第6回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点を考える。
  - 8 第4学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 9 第8回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、各班で振り返りを行い、修正案の作成を行う。
  - 10 第9回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点を考える。
  - 11 第5学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 12 第11回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、各班で振り返りを行い、修正案の作成を行う。
  - 13 第12回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点を考える。
  - 14 第6学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 15 第14回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点について考える。
- 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・小学校の教職に就くことを前提とした講義である。教育実習に活かすことができるよう意欲をもって取り組みましょう。
- ・模擬授業に備えて、予め決めた学年や単元の学習指導案やワークシート、板書計画、教材・教具等を作成してきます。
- ・班の中で授業を行い、反省した後、修正案を作成してきます。
- ・再度授業を行い、反省した後、最終の学習指導案を作成して、学習指導案集を完成させます。

### 【必携書（教科書販売）】

- ・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）、東洋館出版社
- ・小学校教科書 理科3年4年5年6年 文部科学省検定、東京書籍

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
- ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- <参考書・参考資料>
- ・授業に必要な資料等は、その都度配布又は紹介する。

## 理科指導法 [b]

[担 当 者] 大木 進  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 講義・演習・実験 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-3000-x2

### ●本授業の概要：

小学校学習指導要領解説理科編の学年別の目標や内容を理解し、各学年の指導計画や学習指導案を作成する。さらに、教材・教具の開発や製作を行い、模擬授業の実践や植物の成長の継続観察等を通して、授業づくりや指導技術の向上を目指す基盤を整えることができる。

### ●到達目標：

学習指導要領に示されている小学校理科の目標や内容、教材研究の視点等を理解し、模擬授業を行うことを通して、指導技術の基礎・基本を身に付けることができる。

### ●成績評価の基準：

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 授業への関心・意欲・態度及び模擬授業  | 40% |
| 授業後に提出する感想や小レポート・宿題 | 30% |
| 定期試験                | 30% |

### ●留意事項：

- ・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）を繰り返し読むこと。

### ●実務経験の授業への活用方法：

小学校で担任や理科専科（現在も附属小学校6年生の理科専科）を通して理科を教えていた経験から、授業を行うまでの過程を取り上げ、学習指導案の作成を通して、学習指導要領や教科書の内容の解釈の仕方、教材研究の在り方等、授業を行う基礎を構築させる。

### ●授業予定一覧：

- 1 学習指導要領の理科の目標と内容の特徴について読み解き、学年ごとの特色について考える。
  - 2 各学年の内容を読み解き、学年ごとの児童の発達段階を考慮した授業設計や学習指導案の書き方を考える。
  - 3 理科の授業の参観 (VTR) をして、情報機器の活用法や教師の支援のあり方と評価について考える。
  - 4 第3学年の内容を読み解き、一つの単元を決め授業の展開を考え、学習指導案を考える。
  - 5 第3学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 6 第5回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、各班で振り返りを行い、修正案の作成を行う。
  - 7 第6回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点を考える。
  - 8 第4学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 9 第8回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、各班で振り返りを行い、修正案の作成を行う。
  - 10 第9回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点を考える。
  - 11 第5学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 12 第11回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、各班で振り返りを行い、修正案の作成を行う。
  - 13 第12回で作成した修正案で代表の班による全体での模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点を考える。
  - 14 第6学年の学習指導案を作成し、各班で発表するとともに教材研究を行う。
  - 15 第14回で作成した各班での教案をもとに模擬授業を行い、全体で振り返りを行い、指導上の留意点について考える。
- 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・小学校の教職に就くことを前提とした講義である。教育実習に活かすことができるよう意欲をもって取り組みましょう。
- ・模擬授業に備えて、予め決めた学年や単元の学習指導案やワークシート、板書計画、教材・教具等を作成してきます。
- ・班の中で授業を行い、反省した後、修正案を作成してきます。
- ・再度授業を行い、反省した後、最終の学習指導案を作成して、学習指導案集を完成させます。

### 【必携書（教科書販売）】

- ・小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）、東洋館出版社
- ・文部科学省検定『小学校教科書 理科3年4年5年6年』、東京書籍

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
- ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- <参考書・参考資料>
- ・授業に必要な資料等は、その都度配布又は紹介する。



## 生活科指導法 [a]

[担 当 者] 杉能 道明

[開 講 期] 1 期

[授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 330B1-2300-x2

## ●本授業の概要：

小学校生活科の目標と学習内容を理解すると共に、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。また、具体的な授業場面を想定し、学習指導案作成や模擬授業実践を通して、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

## ●到達目標：

- ・学習指導要領に示された生活科の目標と学習内容を理解する。
- ・生活科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。
- ・具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

## ●成績評価の基準：

- |                |     |
|----------------|-----|
| ○学習指導案の作成・模擬授業 | 60% |
| ○レポート          | 20% |
| ○授業に取り組む態度     | 20% |

## ●留意事項：

オフィスアワー 金曜日 1・2時限 3・4時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立大学附属小学校、公立小学校の勤務経験と小1・小2の担任経験を持つ。この実務経験を活かし、生活科の授業づくりに向けた教材研究、具体的な子どもの姿の想定、具体的な指導方法の工夫に助言する。また、模擬授業の振り返りで授業改善に向けた助言を行う。

## ●授業予定一覧：

- 第1回：生活科の目標と学習内容（教科の目標と内容、子どもの発達段階）  
第2回：環境マップ、人材マップ、生活科暦の作成（教科の特性に沿った教材研究）  
第3回：指導計画の作成と情報機器及び教材の活用（授業設計の仕方、情報機器及び教材の活用）  
第4回：児童の気付きの質を高める工夫（学習指導理論に基づく学習活動）  
第5回：生活科の評価（学習評価の考え方）  
第6回：学習指導案作成のポイント（学習指導案の作成、授業改善の3つの視点「主体的・対話的で深い学び」）  
第7回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 学校と生活（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第8回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 家庭と生活 地域と生活（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第9回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 公共物や公共施設の利用（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第10回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 季節の変化と生活（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第11回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 自然や物を使った遊び（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第12回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 動植物の飼育・栽培（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第13回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 生活や出来事との交流（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第14回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 自分の成長（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第15回：個に応じた指導（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）  
定期試験は実施しない

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

模擬授業の準備に際しては、よりよい授業づくりに向けて班のメンバーで考えを出し合い、協力して取り組むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

&lt;必携書&gt;

小学校学習指導要領（平成29年告示）、文部科学省

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編、文部科学省

小学校生活科教科書「上」「下」東京書籍

&lt;参考書等&gt;

自作プリント

## 生活科指導法 [b]

[担 当 者] 杉能 道明

[開 講 期] 1 期

[授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 330B1-2300-x2

## ●本授業の概要：

小学校生活科の目標と学習内容を理解すると共に、学習指導理論を踏まえて授業づくりについての理解を深める。また、具体的な授業場面を想定し、学習指導案作成や模擬授業実践を通して、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

## ●到達目標：

- ・学習指導要領に示された生活科の目標と学習内容を理解する。
- ・生活科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。
- ・具体的な授業場面を想定して学習指導案を作成し模擬授業を行い振り返る中で、よりよい授業づくりの方法を身に付けることができる。

## ●成績評価の基準：

- |                |     |
|----------------|-----|
| ○学習指導案の作成・模擬授業 | 60% |
| ○レポート          | 20% |
| ○授業に取り組む態度     | 20% |

## ●留意事項：

オフィスアワー 金曜日 1・2時限 3・4時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

国立大学附属小学校、公立小学校の勤務経験と小1・小2の担任経験を持つ。この実務経験を活かし、生活科の授業づくりに向けた教材研究、具体的な子どもの姿の想定、具体的な指導方法の工夫に助言する。また、模擬授業の振り返りで授業改善に向けた助言を行う。

## ●授業予定一覧：

- 第1回：生活科の目標と学習内容（教科の目標と内容、子どもの発達段階）  
第2回：環境マップ、人材マップ、生活科暦の作成（教科の特性に沿った教材研究）  
第3回：指導計画の作成と情報機器及び教材の活用（授業設計の仕方、情報機器及び教材の活用）  
第4回：児童の気付きの質を高める工夫（学習指導理論に基づく学習活動）  
第5回：生活科の評価（学習評価の考え方）  
第6回：学習指導案作成のポイント（学習指導案の作成、授業改善の3つの視点「主体的・対話的で深い学び」）  
第7回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 学校と生活（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第8回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 家庭と生活 地域と生活（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第9回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 公共物や公共施設の利用（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第10回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 季節の変化と生活（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第11回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 自然や物を使った遊び（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第12回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 動植物の飼育・栽培（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第13回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 生活や出来事との交流（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第14回：学習指導案の作成と模擬授業の実践 自分の成長（模擬授業の実施と授業改善の3つの視点での振り返り）  
第15回：個に応じた指導（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）  
定期試験は実施しない

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

模擬授業の準備に際しては、よりよい授業づくりに向けて班のメンバーで考えを出し合い、協力して取り組むこと。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

&lt;必携書&gt;

小学校学習指導要領（平成29年告示）、文部科学省

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編、文部科学省

小学校生活科教科書「上」「下」東京書籍

&lt;参考書等&gt;

自作プリント

音楽科指導法

〔担 当 者〕 藤掛 絢子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-x2

●本授業の概要：

小学校音楽科における目標と内容を理解するとともに、子どもの発達にふさわしい授業づくり、指導法について学ぶ。また、指導案作成や模擬授業実践を通して、具体的な音楽授業場面を想定した授業設計の方法を理解する。

●到達目標：

- ・小学校音楽科の目標や内容を理解する。
- ・子どもの発達過程を考慮した、教材の効果的な活用法と学習指導理論について理解する。
- ・具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践することができる。

●成績評価の基準：

受講態度、発表・討論への参加（40％）  
レポート（30％）  
期末試験（30％）

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、子どもの音楽的発達の過程や連続性を考慮した授業づくりの在り方を示すとともに、具体的な授業場面を想定した活動を通して、学生の音楽実践力や指導力を高める。

●授業予定一覧：

授業計画  
第1回：児童期における子どもの音楽的発達と授業実践（音楽科が求める資質・能力）  
第2回：就学前教育と小学校との連携、音楽の役割り（子どもの思考の実態や音楽経験の理解）  
第3回：常時活動と音楽遊び（音楽科の特性に応じた教材の活用法）  
第4回：学習指導要領の目標と内容（音楽科が求める資質・能力）  
第5回：小学校音楽科の教育内容「歌唱」（歌唱指導の方法と教材研究）  
第6回：小学校音楽科の教育内容「器楽」（主にリコーダーの指導方法と教材研究）  
第7回：小学校音楽科の教育内容「音楽づくり」（音楽づくりの具体的内容と教材研究）  
第8回：小学校音楽科の教育内容「鑑賞」（学校教育における鑑賞の指導方法と教材研究）  
第9回：子どもと音文化（子どもの認識や思考の実態の理解）  
第10回：授業の実際（情報機器や教材の効果的な活用法）  
第11回：指導案作成と評価（音楽科における指導案作成の方法と評価の理解）  
第12回：「歌唱」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）  
第13回：「器楽」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）  
第14回：「音楽づくり」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）  
第15回：「鑑賞」の授業づくり（模擬授業実践と振り返り）  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業内容の復習や模擬授業等のための時間外準備が必要です。本授業では、歌唱・器楽（リコーダー）、音楽づくり等の表現活動や、子どもの発達にふさわしい実践・授業づくりについて学びます。日頃から個人練習を行い、自分自身の音楽能力を高めるようにしてください。

【必携書（教科書販売）】

小学校学習指導要領解説音楽編（平成29年7月）、文部科学省  
小学生の音楽1～6、教育芸術社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書等>  
・リコーダーを各自必ず購入すること。  
・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）  
詳しくは、授業中に指示する。

<参考書等>

授業中に、必要に応じてプリントを配布する。

図画工作科指導法 [a]

〔担 当 者〕 片山 裕之  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-x2

●本授業の概要：

小学校図画工作科の目標と指導内容を理解するとともに基盤となる指導理論について理解を深める。また、具体的な教材・教具についての実践体験を通して、学習場面の理解と自らの技術の向上に努める。様々な授業場面を想定した学習指導案を作成する。

●到達目標：

- ・学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する
- ・図画工作科の学習内容のその背景となる学習指導理論の理解と内容の実践体験を味わう。
- ・授業内容を想定した授業計画をおこない、指導案を記すことができる。

●成績評価の基準：

・提出物としては  
①水彩画 ②紙工作 ③版画 ④スケッチブック一冊 ⑤学習指導案 ⑥小レポート  
提出物 70％ 授業態度・発表等 30％

●留意事項：

各課題の作品提出によって、総合的に評価する。また、授業態度も評価の対象とする。  
オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

7年間の中学校（美術）教諭の経験を通して、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導、行事指導、委員会指導、公務分掌等）でおこなう様々な事象について解説する。また、新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、図画工作指導にあたる。様々な図画工作（絵画、立体、工作、造形、鑑賞）指導を通して、観察力、描写力、鑑賞力、表現力を育てるとともに美的感性も養う。

●授業予定一覧：

第1回：図画工作科教育の史的意義（図画工作科が求める資質・能力）  
第2回：学習指導要領「図画工作」の第1・2・3学年の目標及び内容の理解  
第3回：学習指導要領「図画工作」の第4・5・6学年の目標及び内容の理解  
第4回：学習指導案の作成と模擬授業の実践方法の検討（指導上の留意点と授業設計の重要性の理解）  
第5回：A 表現「色をつくる（水彩画・画面構成、制作）」（教材・教具の理解と構想）  
第6回：B 鑑賞「色をつくる（水彩画・制作、鑑賞）」（教材・教具の理解と実践、評価）  
第7回：A 表現「消える絵本（紙工作・画面構成 制作）」（教材・教具の理解と構想）  
第8回：B 鑑賞「消える絵本（紙工作・制作、鑑賞）」（教材・教具の理解と実践及び指導案の作成と評価）  
第9回：中学年・模擬授業の実践と振り返りによる授業改善「消える絵本」  
第10回：A 表現「開くと立つ家（紙工作・画面構成・制作）」（教材・教具の理解と構想）  
第11回：B 鑑賞「開くと立つ家（紙工作・制作・鑑賞）」（教材・教具の理解と実践及び指導案の作成と評価）  
第12回：高学年・模擬授業の実践と振り返りによる授業改善「開くと立つ家」  
第13回：A 表現「版で表す（木版画・画面構成・制作）」（教材・教具の理解と構想）  
第14回：B 鑑賞「版で表す（木版画・制作・鑑賞）」（教材・教具の理解と実践、評価）  
第15回：情報機器を活用した授業づくり（デジタル黒板の活用）  
第16回：まとめ（作品提出 総合批評会）  
定期試験は実施しない

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実技、演習をとまな科目なので、授業計画に従った円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。授業時に通知する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年7月）、文部科学省  
小学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省

図画工作科指導法 [b]

〔担 当 者〕片山 裕之  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-x2

●本授業の概要：

小学校図画工作科の目標と指導内容を理解するとともに基盤となる指導理論について理解を深める。また、具体的な教材・教具についての実践体験を通して、学習場面の理解と自らの技術の向上に努める。様々な授業場面を想定した学習指導案を作成する。

●到達目標：

- ・学習指導要領に示された図画工作科の目標と内容を理解する
- ・図画工作科の学習内容のその背景となる学習指導理論の理解と内容の実践体験を味わう。
- ・授業内容を想定した授業計画をおこない、指導案を記すことが出来る。

●成績評価の基準：

- ・提出物としては  
①水彩画 ②紙工作 ③版画 ④スケッチブック一冊 ⑤学習指導案 ⑥小レポート  
提出物 70% 授業態度・発表等 30%

●留意事項：

各課題の作品提出によって、総合的に評価する。また、授業態度も評価の対象とする。  
オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

7年間の中学校（美術）教諭の経験を通して、学校現場（学級経営、教科指導、生徒指導、行事指導、委員会指導、公務分掌等）でおこる様々な事象について解説する。また、新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、図画工作指導にあたる。様々な図画工作（絵画、立体、工作、造形、鑑賞）の指導を通して、観察力、描写力、鑑賞力、表現力を育てるとともに、美的感性も養う。

●授業予定一覧：

- 第1回：図画工作科教育の史的意義（図画工作科が求める資質・能力）
  - 第2回：学習指導要領「図画工作」の第1・2・3学年の目標及び内容の理解
  - 第3回：学習指導要領「図画工作」の第4・5・6学年の目標及び内容の理解
  - 第4回：学習指導案の作成と模擬授業の実践方法の検討（指導上の留意点と授業設計の重要性の理解）
  - 第5回：A 表現「色をつくる（水彩画・画面構成、制作）」（教材・教具の理解と構想）
  - 第6回：B 鑑賞「色をつくる（水彩画・制作、鑑賞）」（教材・教具の理解と実践、評価）
  - 第7回：A 表現「消える絵本（紙工作・画面構成 制作）」（教材・教具の理解と構想）
  - 第8回：B 鑑賞「消える絵本（紙工作・制作、鑑賞）」（教材・教具の理解と実践及び指導案の作成と評価）
  - 第9回：中学年・模擬授業の実践と振り返りによる授業改善「消える絵本」
  - 第10回：A 表現「開くと立つ家（紙工作・画面構成・制作）」（教材・教具の理解と構想）
  - 第11回：B 鑑賞「開くと立つ家（紙工作・制作・鑑賞）」（教材・教具の理解と実践及び指導案の作成と評価）
  - 第12回：高学年・模擬授業の実践と振り返りによる授業改善「開くと立つ家」
  - 第13回：A 表現「版で表す（木版画・画面構成・制作）」（教材・教具の理解と構想）
  - 第14回：B 鑑賞「版で表す（木版画・制作・鑑賞）」（教材・教具の理解と実践、評価）
  - 第15回：情報機器を活用した授業づくり（デジタル黒板の活用）
  - 第16回：まとめ（作品提出 総合批評会）
- 定期試験は実施しない

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実技、演習をともなう科目なので、授業計画に従った制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業時に通知する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年7月）、文部科学省  
小学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省

家庭科指導法 [a]

〔担 当 者〕岡 礼子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習・実習・実験 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-x2

●本授業の概要：

家庭科教育の意義について理解し、実際に家庭科学習指導案を作成して模擬授業を行う。具体的には、教材観、児童観、教材の系統観、指導観等について理解し、新学習指導要領に示されている家庭科に求められる適切な題材の設定ができる力を養うこと、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画が立てられること、評価の観点から明らかにする力を養うこと等、模擬授業を通して教師としての資質を育成する。  
また、自ら立てた授業計画がより適切であったか等についても探求し、自己改善のために授業におけるPDCAを実施する。

●到達目標：

教材研究の深さが授業を成功させる要であり、児童の学習意欲とも深く関連している。家庭の授業で学んだ衣・食・住の内容を基盤に授業構想を考え、指導案を作成して模擬授業を実施し、教師としての資質を身に付ける。

●成績評価の基準：

- ミニテスト……………10%
- 課題レポート……………10%
- 模擬授業……………20%
- 定期試験……………60%

●留意事項：

指導案の作成と模擬授業の実践を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度等の授業実践力を身に付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

長年、小学校の教師として多くの指導案を書いて研究授業を重ねてきた経験や、家庭科部役員として、各小学校や附属小学校の家庭科研究会に携わってきた実績を踏まえ、授業を行うためには、何が必要か、どのように教材研究を行えば良いのか、板書計画や教師の発問、アクティブ・ラーニングの授業（主体的・対話的で深い学び）は、どのように行えば良いのか等について、模擬授業を通して具体的に身に付けさせる。  
また、模擬授業後に指導講評することで、授業についてフィードバックし、更に高次な授業へと高めていく。

●授業予定一覧：

- 1 家庭科の歴史と新しい学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて
- 2 家庭科の題材指導計画／年間指導計画の工夫と学習評価
- 3 家庭科学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目
- 4 「A 家族・家庭生活」領域の内容（ICT活用）と指導計画作成
- 5 「B 衣食住の生活」領域の内容と指導計画作成 /ICT を活用して1食分の献立作成
- 6 「B 衣食住の生活」／1食分の調理実習
- 7 「C 消費生活・環境」領域の内容（ICT活用）と指導計画作成
- 8 「C 消費生活・環境」／洗剤の働きと食品添加物の実験
- 9 模擬授業実施と振り返り（1）（2）「A 家族・家庭生活」5年生
- 10 模擬授業実施と振り返り（3）（4）「B 衣食住の生活」5年生
- 11 模擬授業実施と振り返り（5）（6）「C 消費生活・環境」5年生
- 12 模擬授業実施と振り返り（7）（8）「A 家族・家庭生活」6年生
- 13 模擬授業実施と振り返り（9）（10）「B 衣食住の生活」6年生
- 14 模擬授業実施と振り返り（11）（12）「C 消費生活・環境」6年生
- 15 模擬授業の総括／模擬授業全体の振り返りと授業改善
- 16 定期試験

※ 教材研究の後、作成した学習指導案でグループごとに模擬授業を行い、授業実践力を高める。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

指導案を作成して実施する模擬授業は、事前に、グループでしっかり話し合い、板書計画や細案を作成して練習して臨むことが大切である。練習を重ねると、他のグループの模擬授業について、良い点や改善点などを見つけることができ、的確な意見を述べるができるし、自分の授業改善に活かすことができる。

【必携書（教科書販売）】

新編 新しい技術・家庭 家庭分野、佐藤文子・金子佳代子他、東京書籍  
小学校学習指導要領解説 家庭編、文部科学省、東洋館出版社  
わたしたちの家庭科、著作者代表 内野 紀子他、開隆堂  
小学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月告示、文部科学省、東洋館出版社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説」総則編 平成29年7月 文部科学省  
「初等家庭科の研究」 大竹美登利・倉持清美 南文書林  
「平成29年改訂 小学校教育課程実践講座」 岡 陽子・鈴木明子 きょうせい



|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 330                          | 84660 |
| 家庭科指導法 [b]                   |       |
| [担 当 者] 岡 礼子                 |       |
| [開 講 期] 1 期                  |       |
| [授 業 形 態] 講義・演習・実習・実験 [単位] 2 |       |
| [科目ナンバリング] 330B1-3000-x2     |       |

●**本授業の概要：**  
家庭科教育の意義について理解し、実際に家庭科学習指導案を作成して模擬授業を行う。  
具体的には、教材観、児童観、教材の系統観、指導観等について理解し、新学習指導要領に示されている家庭科に求められる適切な題材の設定ができる力を養うこと、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画が立てられること、評価の観点を明らかにする力を養うこと等、模擬授業を通して教師としての資質を育成する。  
また、自ら立てた授業計画がより適切であったか等についても探求し、自己改善のために授業における P D C A を実施する。

●**到達目標：**  
教材研究の深さが授業を成功させる要であり、児童の学習意欲とも深く関連している。家庭の授業で学んだ衣・食・住の内容を基盤に授業構想を考え、指導案を作成して模擬授業を実施し、教師としての資質を身に付ける。

●**成績評価の基準：**  
ミニテスト・・・・・・・・・・1 0 %  
課題レポート・・・・・・・・・・1 0 %  
模擬授業・・・・・・・・・・2 0 %  
定期試験・・・・・・・・・・6 0 %

●**留意事項：**  
指導案の作成と模擬授業の実践を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度等の授業実践力を身に付ける。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
長年、小学校の教師として多くの指導案を書いて研究授業を重ねてきた経験や、家庭科部役員として、各小学校や附属小学校の家庭科研究会に携わってきた実績を踏まえ、授業を行うためには、何が必要か、どのように教材研究を行えば良いのか、板書計画や教師の発問、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）は、どのように行えば良いのか等について、模擬授業を通して具体的に身に付けさせる。  
また、模擬授業後に指導講評することで、授業についてフィードバックし、更に高次の授業へと高めていく。

●**授業予定一覧：**  
1 家庭科の歴史と新しい学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて  
2 家庭科の題材指導計画／年間指導計画の工夫と学習評価  
3 家庭科学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目  
4 「A 家族・家庭生活」領域の内容（ICT 活用）と指導計画作成  
5 「B 衣食住の生活」領域の内容と指導計画作成／ICT を活用して1 食分の献立作成  
6 「B 衣食住の生活」／1 食分の調理実習  
7 「C 消費生活・環境」領域の内容（ICT 活用）と指導計画作成  
8 「C 消費生活・環境」／洗剤の働きと食品添加物の実験  
9 模擬授業実施と振り返り（1）(2)「A 家族・家庭生活」5 年生  
10 模擬授業実施と振り返り（3）(4)「B 衣食住の生活」5 年生  
11 模擬授業実施と振り返り（5）(6)「C 消費生活・環境」5 年生  
12 模擬授業実施と振り返り（7）(8)「A 家族・家庭生活」6 年生  
13 模擬授業実施と振り返り（9）(10)「B 衣食住の生活」6 年生  
14 模擬授業実施と振り返り（11）(12)「C 消費生活・環境」6 年生  
15 模擬授業の総括／模擬授業全体の振り返りと授業改善  
16 定期試験  
※ 教材研究の後、作成した学習指導案でグループごとに模擬授業を行い、授業実践力を高める。

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
指導案を作成して実施する模擬授業は、事前に、グループでしっかり話し合い、板書計画や細案を作成して練習して臨むことが大切である。練習を重ねると、他のグループの模擬授業について、良い点や改善点などを見つけることができ、的確な意見を述べることができるし、自分の授業改善に活かすことができる。

【**必携書（教科書販売）**】  
新編 新しい技術・家庭 家庭分野、佐藤文子・金子佳代子ほか、東京書籍  
わたしたちの家庭科、著作代表者 内野 紀子他、開隆堂  
小学校学習指導要領解説 家庭編、文部科学省、東洋館出版社  
小学校学習指導要領（平成2 9 年告示） 平成2 9 年3 月告示、文部科学省、東洋館出版社

【**必携書・参考書等（教科書販売以外）**】  
＜参考書等＞  
「小学校学習指導要領（平成2 9 年告示）解説 総則編」平成2 9 年7 月 文部科学省  
「初等家庭科の研究」 大竹美登利・倉持清美 萌文書林  
「平成29 年改訂 小学校教育課程実践講座」 岡 陽子・鈴木明子 ぎょうせい

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 330                      | 84700 |
| 体育科指導法                   |       |
| [担 当 者] 安江 美保            |       |
| [開 講 期] 1 期              |       |
| [授 業 形 態] 講義・実技 [単位] 2   |       |
| [科目ナンバリング] 330B1-3000-x2 |       |

●**本授業の概要：**  
小学校体育科の目標と指導内容を理解するとともに、指導の基盤となる学習指導理論について理解を深める。また、具体的な教材について指導案作成や模擬授業を通して、授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

●**到達目標：**  
○学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解する。  
○体育科の学習内容とその背景となる学習指導理論について理解を深める。  
○具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、指導案を作成することができる。

●**成績評価の基準：**  
○授業での意欲・態度・・・・・・・・20 %  
○授業後の小レポート・・・・・・・・40 %  
○最終レポート・・・・・・・・40 %

●**留意事項：**  
○「生涯にわたって運動に親しむ」子どもの姿を描いて授業を行っていく指導者自身が、その実践家であり続けることができるように、自分の生活の中に積極的に運動、スポーツを取り入れ、明るく健康な生活を営んでいくことを望む。  
○オフィスアワーは、木曜日の3、4 限と5、6 限。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
体育科の授業研究を専門的な分野としていた小学校教諭の実務経験を元に、体育科の授業づくりにおいて、児童の発達特性を考慮した指導計画の立て方、授業の中で体育科学習ならではの配慮事項、児童とのやり取りの仕方のポイント、授業の準備・片付けを効率よく行うためのコツ、場づくりのポイントなど、学生がすぐに現場で役立つ内容を取り混ぜながら授業を進める。

●**授業予定一覧：**  
1. 体育科の目標と指導内容及び内容構成の考え方（体育科が求める資質・能力）  
2. 第1 学年・第2 学年の目標と内容（指導要領の検討と低学年の発達段階の特徴）  
3. 第3 学年・第4 学年の目標と内容（指導要領の検討と中学年の発達段階の特徴）  
4. 第5 学年・第6 学年の目標と内容（指導要領の検討と高学年の発達段階の特徴）  
5. 習得・活用・探究の考えに基づいた学習過程の考え方（理論的背景と実践との関連）  
6. 体育学習における評価の考え方と指導案の書き方（学習指導と評価の一体化）  
7. 「体づくり運動」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成）  
8. 「器械運動系領域」「水泳系領域」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成、及び児童の課題解決にむけた情報機器や教材の効果的な活用法）  
9. 「陸上運動系領域」「ボール運動系領域」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成、及び児童の課題解決にむけた情報機器や教材の効果的な活用法）  
10. 「表現運動系領域」における学習過程と教材研究の方策（実技を交えた教材研究と指導案作成、及び児童の課題解決にむけた情報機器や教材の効果的な活用法）  
11. 「保健領域」における学習過程と教材研究の方策（指導案作成及び、児童の課題解決に向けた情報機器や教材の効果的な活用法）  
12. 模擬授業（1）「体づくり運動」（模擬授業実践と振り返り）  
13. 模擬授業（2）「器械運動系領域」「水泳系領域」（模擬授業実践と振り返り）  
14. 模擬授業（3）「陸上運動系領域」「ボール運動系領域」（模擬授業実践と振り返り）  
15. 模擬授業（4）「表現運動系領域」「保健領域」（模擬授業実践と振り返り）  
16. レポート作成とまとめ

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
体育科の学習は、教室で行う他教科の授業のような指定席がなく、児童が学習に対する「めあて」を明確にもち、活動の仕方を十分に理解できていないと、活動があっても学びのない授業となりやすい。そのため、「小学校学習指導要領解説・体育編」に示されている目標と内容について、「小学校体育における習得・活用・探究の学習―やってみる・ひろげる・ふかめる―」に示されている授業の進め方についての予習・復習を十分にを行い、学びをより確かなものにしていく欲しい。

【**必携書（教科書販売）**】  
小学校体育における習得・活用・探究の学習 ―やってみる ひろげる ふかめる― 細江文利・他、光文書院  
小学校学習指導要領解説・体育編（平成29 年7 月）、文部科学省、東洋館出版社

【**必携書・参考書等（教科書販売以外）**】  
・小学校学習指導要領（平成29 年3 月告示）、文部科学省



## 道徳教育の理論と方法 [a]

〔担 当 者〕 菅 京子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-x2

## ●本授業の概要：

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

## ●到達目標：

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

## ●成績評価の基準：

- ・毎回のレポート提出 3 5 %
- ・内容項目の発表及び模擬授業 1 5 %
- ・定期試験 5 0 %

## ●留意事項：

## ●実務経験の授業への活用方法：

小学校教員として38年間従事。その間、特に道徳教育及び道徳科の指導の在り方を研究し、道徳教育を大切にしたい指導を重ねてきた。その経験を活かし、将来、教職に就く学生に、道徳教育の実践現場での具体的な指導の在り方を伝えるとともに、実践的な指導力を育てていきたいと考える。

## ●授業予定一覧：

- 1 道徳の本質及び道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題
- 2 道徳教育と道徳科
- 3 内容項目「真理の探究」・「感謝」等（内容項目1～8）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
- 4 内容項目「礼儀」・「友情、信頼」等（内容項目9～15）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
- 5 内容項目「生命の尊さ」・「自然愛護」等（内容項目16～22）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
- 6 学校における道徳教育の指導計画（道徳教育全体計画 年間指導計画 学習指導案）
- 7 道徳科の特質及び指導の在り方
- 8 道徳科の学習指導案の作成（内容項目の分析 児童の実態 ねらいの明確化）
- 9 道徳科の学習指導案の作成（教材の分析 発問の組み立て）
- 10 道徳科の学習指導案の作成（導入、展開、終末の活動の工夫）
- 11 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：授業の雰囲気づくり）
- 12 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：教材提示及び学習活動の工夫）
- 13 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：板書の工夫及び学習活動の工夫）
- 14 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：児童の反応への対応）
- 15 授業改善の視点及び道徳教育の評価
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で学習したことを課題にそってまとめて、提出する。  
 内容項目の発表についての準備、指導案の作成は、主に課外となる。

## 【必携書（教科書販売）】

小学どうとく 生きる力 4、日本文教出版  
 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年6月 文部科学省）、廣済堂あかつき

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

（必携書）  
 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

## 道徳教育の理論と方法 [b]

〔担 当 者〕 菅 京子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-x2

## ●本授業の概要：

道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

## ●到達目標：

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

## ●成績評価の基準：

- ・毎回のレポート提出 3 5 %
- ・内容項目の発表及び模擬授業 1 5 %
- ・定期試験 5 0 %

## ●留意事項：

## ●実務経験の授業への活用方法：

小学校教員として38年間従事。その間、特に道徳教育及び道徳科の指導の在り方を研究し、道徳教育を大切にしたい指導を重ねてきた。その経験を活かし、将来、教職に就く学生に、道徳教育の実践現場での具体的な指導の在り方を伝えるとともに、実践的な指導力を育てていきたいと考える。

## ●授業予定一覧：

- 1 道徳の本質及び道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題
- 2 道徳教育と道徳科
- 3 内容項目「真理の探究」・「感謝」等（内容項目1～8）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
- 4 内容項目「礼儀」・「友情、信頼」等（内容項目9～15）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
- 5 内容項目「生命の尊さ」・「自然愛護」等（内容項目16～22）の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点
- 6 学校における道徳教育の指導計画（道徳教育全体計画 年間指導計画 学習指導案）
- 7 道徳科の特質及び指導の在り方
- 8 道徳科の学習指導案の作成（内容項目の分析 児童の実態 ねらいの明確化）
- 9 道徳科の学習指導案の作成（教材の分析 発問の組み立て）
- 10 道徳科の学習指導案の作成（導入、展開、終末の活動の工夫）
- 11 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：授業の雰囲気づくり）
- 12 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：教材提示及び学習活動の工夫）
- 13 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：板書の工夫及び学習活動の工夫）
- 14 模擬授業及びその振り返り（授業改善の視点：児童の反応への対応）
- 15 授業改善の視点及び道徳教育の評価
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で学習したことを課題にそってまとめて、提出する。  
 内容項目の発表についての準備、指導案の作成は、主に課外となる。

## 【必携書（教科書販売）】

小学どうとく 生きる力 4、日本文教出版  
 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年6月 文部科学省）、廣済堂あかつき

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

（必携書）  
 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

## 教育方法論

[担 当 者] 杉能 道明  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-3000-x2

●本授業の概要：

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、教師として必要な教育方法、教育技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。学校教育における学習指導にもより、給付指導、清掃指導、始業前・休業時・放課後の指導等の生活指導を含めた学校における教育活動全般についての教師の指導方法のあり方について、理論と実践を結び付け、具体的な実践事例をもとに検討し、教職に就く者として必要な指導技術を身に付けることができる。

●到達目標：

- ・子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
- ・教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。
- ・情報機器や教材の効果的な活用の仕方について基礎的な知識・技能を身に付ける。

●成績評価の基準：

- ・定期試験およびレポート 70%
- ・授業中の態度 30%

●留意事項：

オフィスアワー 金曜日 1・2時限 3・4時限

●実務経験の授業への活用方法：

国立大学附属小学校、県立盲学校、公立小学校の通算22年間の勤務経験を持ち、小1～中3までを担当した経験がある。この実務経験をもとに、子どもの具体的な姿を知らせ、学校現場が求める理論と実践を結び付けた実践的な指導の大切さを伝える。

●授業予定一覧：

第1回：「教育の目的」達成のための教育方法（育成すべき資質・能力、教育方法の理論と実践）

第2回：期待される教師像 教師の1日（教師に求められる資質・能力）

第3回：学級経営（学級づくり、学校と家庭の連携）

- ・学級経営の計画と内容、環境づくり
- ・学級事務、保護者との連携

第4回：児童・生徒理解（児童理解の仕方）

- ・児童理解の方法、内容、対応
- ・コンピュータを用いたデータの管理（整理と処理、個人情報保護）

第5回：学習評価（学習評価の考え方と方法）

第6回：学習指導（1） インターネットを用いた情報の収集と活用及びモラル（情報モラル）

第7回：学習指導（2） Word、Excel、Power Pointを用いた表現及び技術（教材の作成・提示）

第8回：学習指導（3） 各教科（確かな学力の育成、主体的・対話的で深い学びの実現）

第9回：学習指導（4） 各教科（基礎的な指導技術と学習指導案の作成）

第10回：学習指導（5） 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間（現代的課題としての環境・食育・国際理解等）（目標、内容、方法、計画等）

第11回：学習指導（6） 特別活動（集団づくり）

第12回：学習指導（7） 家庭学習（学習習慣の定着）、学習規律（資質・能力を育成する方法）

第13回：生活指導（1） 学校内における日常生活の指導（給食・清掃・休息等）（学校生活）

第14回：生活指導（2） 学校外における日常生活の指導（子どもの安全）

第15回：教育方法の今日的課題（ユニバーサルデザイン、個に応じた支援）

定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

自分なりの教育観をもつために、日頃から教育問題に関心をもち、本や雑誌、新聞やテレビなどのメディアから情報を得ておいてください。

【必携書（教科書販売）】

新・教職課程シリーズ「教育方法論」，広石英記，一藝社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
小学校学習指導要領（平成29年告示）

＜参考書等＞  
自作プリント

## 指導法の理論と方法

[担 当 者] 福原 史子  
 [開 講 期] 1 期  
 [授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
 [科目ナンバリング] 330B1-2000-x2

●本授業の概要：

これらの子どもたちにも求められる資質・能力や、それらを育成するための環境を通して行われる保育の在り方について、講義やディスカッションを通して考える。また、保育現場との交流を図りながら、幼児理解の基本となる子ども観・保育観とそれに基づく指導方法の在り方を考え、子どもの遊びを中心とした指導実践力を身に付ける。さらに、家庭・地域との連携や小学校との接続を通して理解し、自身の情報活用能力と情報スキルを高め、生涯学び続ける保育者となる土台を築く。

●到達目標：

- ・ これらの子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、環境を通して行う保育の具体的内容や方法について理解する。
- ・ 保育現場等における実践にふれ、子どもを観る目を養い、環境構成及び子どもも主体的な活動を促す関わり方や発達に応じて支援する力を身に付ける。
- ・ 情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示できるようにするとともに、保育者自身の情報モラルの向上と、子どもの情報活用能力を育成する方法を修得する。

●成績評価の基準：

|           |     |
|-----------|-----|
| 定期試験      | 40% |
| 授業への取り組み度 | 30% |
| 小レポート     | 30% |

●留意事項：

オフィスアワー 月曜日7,8限 水曜日5,6限  
質問は随時電子メールで受け付ける（アドレスは初回授業にて提示する）  
教育（保育）実習に生かすことができるよう、意欲をもって主体的に取り組むこと。

●実務経験の授業への活用方法：

担当者は小学校教諭として公立小学校に勤務後、私立幼稚園で非常勤講師をした経験から、小学校への接続を意識した幼児の指導について、学生に具体例を示しながら課題の明確化と自己省察を促す。また、幼稚園教諭として30年以上の経験をもつ特別講義講師により、幼児を観察する視点と発達段階による指導の違いについて理論と実践を結び付けた思考を促す。

●授業予定一覧：

- 1 幼児期に求められる資質・能力とは
- 2 幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿
- 3 子どもを観る目を養う (1) 観察から物的環境を創造する
- 4 子どもを観る目を養う (2) 人的環境の在り方を考える
- 5 自発的な活動のサイクルと指導方法
- 6 特別な支援の必要な子どもの保育
- 7 安全教育
- 8 教育方法の変遷
- 9 自己肯定感を大切にする保育とはー海外の幼児教育ー
- 10 環境を通した保育の実践 (幼稚園教諭による特別講義)
- 11 情報機器を活用した保育教材の開発
- 12 情報モラルの向上と情報活用能力の育成
- 13 保育指導の計画と評価、PDCA サイクル
- 14 指導案の作成と検討
- 15 家庭・地域との連携と子育て支援、小学校への接続  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

(予習) 毎回の授業の終わりに、次時の内容についてテキストのページ等を知らせるので、よく読んで、意見や疑問をまとめて授業に臨むこと(1時間)。授業では、学生間の意見交換や質疑応答の機会を設ける。

(復習) 授業後は現場での実践に役立てることができるよう、知識やアイデアを整理すること(45分)。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
 ＜必携書＞  
 『幼稚園教育要領』，平成29年3月告示，文部科学省

＜参考書等＞

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領〕、平成29年3月告示、内閣府・文部科学省・厚生労働省  
〔保育所保育指針〕、平成29年3月告示、厚生労働省

| 330                      | 84900 |
|--------------------------|-------|
| 健康の指導法 [a]               |       |
| [担 当 者] 菅田 桂子            |       |
| [開 講 期] 1 期              |       |
| [授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2   |       |
| [科目ナンバリング] 330B1-2000-x2 |       |

●本授業の概要：

幼児期は、心と体が相互に関連し合いながら急速に成長していく時期であり、環境からの影響を大きく受ける時期でもある。幼児期の心と体の健康について講義や演習を通して保育を構想する力を身に付けるとともに、保育者の役割について考える。運動遊びや伝承遊びなどの模擬保育や討議などを通して、幼児の味わう充実感や達成感などを考察し、幼児期の遊びや発達段階に応じた指導について考える。

●到達目標：

- 幼児期の個人差が大きい心と体の育ちを教育要領に基づいて理解する。
- 運動遊びや伝承遊びなどの遊びを通して子どもが味わう楽しさを理解し、幼児期に必要な遊びについて構想するとともに、発達段階に応じた指導法を習得する。
- 子どもの健康な生活と安全管理における教師の役割を理解する。

●成績評価の基準：

|           |     |
|-----------|-----|
| 授業への取り組み度 | 30点 |
| レポート      | 30点 |
| 定期試験      | 40点 |

●留意事項：

- ・日常の生活の中で、子どもを取り巻く環境や社会状況、身近な乳幼児の姿に関心をもち心身の発達について考えるよう心がける。
- ・自身の遊びの経験を振り返りながら、運動遊びや伝承遊びなどを積極的に演習する。

●実務経験の授業への活用方法：

- ・幼児教育に従事していた経験から、幼児の発達段階における興味や関心と遊びや生活の中で味わう充実感・達成感の関係性と考え、幼児の実態に即した保育の構想を促す。また、保育する楽しさや喜びを伝える。
- ・遊びの中での一人一人の幼児の育ちや集団としての育ちを取り上げ、多角的に検証していくことで、幼児の主体的な活動となる実践的構築を促す。

●授業予定一覧：

- 1 子どもの心と体の健康（幼児期の発達の過程と教師の資質・能力）
- 2 領域「健康」のねらい及び内容（情緒の安定と教師の役割）
- 3 領域「健康」のねらい及び内容（身体諸機能の調和的発達）
- 4 領域「健康」のねらい及び内容（生活に必要な習慣や態度）
- 5 体を動かして遊ぶとはⅠ（乳児・3歳児の発達の特性と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
- 6 体を動かして遊ぶとはⅡ（4歳児の発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
- 7 体を動かして遊ぶとはⅢ（5歳児・就学に向けた発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
- 8 保育の構想Ⅰ（道具や用具を使った遊びの模擬保育と振り返り）小学校教科等のつながりと評価
- 9 保育の構想Ⅱ（自然の中で体を動かして遊ぶ）
- 10 心身の発達に応じた伝承遊びⅠ（模擬保育から道徳性・規範意識の芽生えと協同性を考える）
- 11 心身の発達に応じた伝承遊びⅡ（言葉と社会性）情報機器及び教材活用法の理解
- 12 子どもの運動遊びを育む行事Ⅰ（保育の構想と実践・小学校教科とのつながりから保育の改善）
- 13 子どもの運動遊びを育む行事Ⅱ（指導法の検討・評価）
- 14 基本的生活習慣と生活リズム（指導案の作成と模擬保育の振り返りから改善の視点）
- 15 安全な生活（教育要領に基づいた安全教育と安全管理）
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業の終わりに、次回の授業内容を伝えるので、課題をもって授業に臨んでほしい。演習には、積極的に体を動かしたり発言をしたりして、学びあう姿勢をもって臨んでほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）、文部科学省、フレーベル館  
「幼稚園教育要領解説」（平成29年3月告示）、文部科学省、フレーベル館  
「保育所保育指針」（平成29年3月告示）、厚生労働省、フレーベル館  
「保育所保育指針解説書」（平成29年3月告示）、厚生労働省、フレーベル館  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」（平成29年3月告示）、フレーベル館

| 330                      | 84910 |
|--------------------------|-------|
| 健康の指導法 [b]               |       |
| [担 当 者] 菅田 桂子            |       |
| [開 講 期] 1 期              |       |
| [授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2   |       |
| [科目ナンバリング] 330B1-2000-x2 |       |

●本授業の概要：

幼児期は、心と体が相互に関連し合いながら急速に成長していく時期であり、環境からの影響を大きく受ける時期でもある。幼児期の心と体の健康について講義や演習を通して保育を構想する力を身に付けるとともに、保育者の役割について考える。運動遊びや伝承遊びなどの模擬保育や討議などを通して、幼児の味わう充実感や達成感などを考察し、幼児期の遊びや発達段階に応じた指導について考える。

●到達目標：

- 幼児期の個人差が大きい心と体の育ちを教育要領に基づいて理解する。
- 運動遊びや伝承遊びなどの遊びを通して子どもが味わう楽しさを理解し、幼児期に必要な遊びについて考えるとともに発達段階に応じた指導法を習得する。
- 子どもの健康な生活と安全管理における教師の役割を理解する。

●成績評価の基準：

|           |     |
|-----------|-----|
| 授業への取り組み度 | 30点 |
| レポート      | 30点 |
| 定期試験      | 40点 |

●留意事項：

- ・日常の生活の中で、子どもを取り巻く環境や社会状況、身近な乳幼児の姿に関心をもち心身の発達について考えるよう心がける。
- ・自身の遊びの経験を振り返りながら、運動遊びや伝承遊びなどを積極的に演習する。

●実務経験の授業への活用方法：

- ・幼児教育に従事していた経験から、幼児の発達段階における興味や関心と遊びや生活の中で味わう充実感・達成感の関係性と考え、幼児の実態に即した保育の構想を促す。また、保育する楽しさや喜びを伝える。
- ・遊びの中での一人一人の幼児の育ちや集団としての育ちを取り上げ、多角的に検証していくことで、幼児の主体的な活動となる実践的構築を促す。

●授業予定一覧：

- 1 子どもの心と体の健康（幼児期の発達の過程と教師の資質・能力）
- 2 領域「健康」のねらい及び内容（情緒の安定と教師の役割）
- 3 領域「健康」のねらい及び内容（身体諸機能の調和的発達）
- 4 領域「健康」のねらい及び内容（生活に必要な習慣や態度）
- 5 体を動かして遊ぶとはⅠ（乳児・3歳児の発達の特性と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
- 6 体を動かして遊ぶとはⅡ（4歳児の発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
- 7 体を動かして遊ぶとはⅢ（5歳児・就学に向けた発達課題と遊びの意義）情報機器及び教材の活用法の理解
- 8 保育の構想Ⅰ（道具や用具を使った遊びの模擬保育と振り返り）小学校教科等のつながりと評価
- 9 保育の構想Ⅱ（自然の中で体を動かして遊ぶ）
- 10 心身の発達に応じた伝承遊びⅠ（模擬保育から道徳性・規範意識の芽生えと協同性を考える）
- 11 心身の発達に応じた伝承遊びⅡ（言葉と社会性）情報機器及び教材活用法の理解
- 12 子どもの運動遊びを育む行事Ⅰ（保育の構想と実践・小学校教科とのつながりから保育の改善）
- 13 子どもの運動遊びを育む行事Ⅱ（指導法の検討・評価）
- 14 基本的生活習慣と生活リズム（指導案の作成と模擬保育の振り返りから改善の視点）
- 15 安全な生活（教育要領に基づいた安全教育と安全管理）
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業の終わりに、次回の授業内容を伝えるので、課題をもって授業に臨んでほしい。演習には、積極的に体を動かしたり発言をしたりして、学びあう姿勢をもって臨んでほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）、文部科学省、フレーベル館  
「幼稚園教育要領解説」（平成29年3月告示）、文部科学省、フレーベル館  
「保育所保育指針」（平成29年3月告示）、厚生労働省、フレーベル館  
「保育所保育指針解説書」（平成29年3月告示）、厚生労働省、フレーベル館  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」（平成29年3月告示）、フレーベル館

人間関係の指導法 [a]

〔担 当 者〕三宅 一恵  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-x2

●本授業の概要：

教育要領等に示されている領域「人間関係」におけるねらい及び内容、指導上の留意点等について理解を深める。また、具体的な事例をもとに、幼児が人と関わる中で育っていく過程を理解し、保育を構想する力を身に付けるとともに、協同的に活動する姿を目指すための指導案の作成方法を学ぶ。

●到達目標：

・領域「人間関係」の目指すものを踏まえ、そのねらい及び内容等を理解する。  
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、領域「人間関係」に関係の深い項目内容について、具体的な事例をもとに考え、その重要性を理解する。  
・幼児の実態から、具体的な保育の構想をもとに、指導案を作成する方法を理解する。

●成績評価の基準：

|             |     |
|-------------|-----|
| 授業での意欲・態度   | 20点 |
| 課題レポート・小テスト | 40点 |
| 定期試験        | 40点 |

●留意事項：

○積極的に人とかかわることを楽しみ、自らの人間関係力を高めること。  
○課題レポート・小テストなどの配点が多いため、特別な事情を除き、欠席をしないように気を付けること。

オフィスアワー 木曜日5.6限 金曜日3.4限

●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園勤務の経験から、子どもが人と関わる力を身につけていく過程を具体的に伝え、学生が領域「人間関係」のねらいや内容について理解を深めるとともに、幼児の実態をふまえた指導計画の作成方法を学ぶことができるよう促す。

●授業予定一覧：

第1回：幼児教育の基本と人とのかかわり（現代的課題）  
第2回：領域「人間関係」が育むものⅠ（ねらい及び内容）  
第3回：領域「人間関係」が育むものⅡ（指導上の留意点等）  
第4回：人とかかわる力の発達Ⅰ  
（0・1・2歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第5回：人とかかわる力の発達Ⅱ（3歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第6回：人とかかわる力の発達Ⅲ（4歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第7回：人とかかわる力の発達Ⅳ（5歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第8回：保育の構想と指導案の作成  
（ねらい、内容、環境構成、教師の援助、評価の観点及び情報機器や教材の活用）  
第9回：指導の実際Ⅰ（個を生かした集団づくり）  
第10回：指導の実際Ⅱ（遊びを深める仲間づくり）  
第11回：指導の実際Ⅲ（規範意識の芽生え）  
第12回：指導の実際Ⅳ（協同的な遊びを支えるクラスづくり）  
第13回：指導案の作成Ⅰ（模擬保育の実践）  
第14回：指導案の作成Ⅱ（模擬保育の振り返りと評価）  
第15回：人間関係を育む教師の役割  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業では、毎回小テストまたは小レポートを実施する。そのために毎回の授業を大切にするとともに授業内容を整理しておくことが望ましい。  
また、様々な保育事例を基にグループで討論する機会を多く取り入れる。したがって、日ごろから対話力を高め、仲間との学び合いによる考察・理解を深めてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）、文部科学省  
『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）、文部科学省、フレーベル館  
『保育所保育指針』（平成29年3月告示）、厚生労働省  
『保育所保育指針解説』（平成30年3月）、厚生労働省、フレーベル館  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月）、内閣府、文部科学省、厚生労働省  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>  
・必要に応じて紹介する。

人間関係の指導法 [b]

〔担 当 者〕三宅 一恵  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-x2

●本授業の概要：

教育要領等に示されている領域「人間関係」におけるねらい及び内容、指導上の留意点等について理解を深める。また、具体的な事例をもとに、幼児が人と関わる中で育っていく過程を理解し、保育を構想する力を身に付けるとともに、協同的に活動する姿を目指すための指導案の作成方法を学ぶ。

●到達目標：

・領域「人間関係」の目指すものを踏まえ、そのねらい及び内容等を理解する。  
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、領域「人間関係」に関係の深い項目内容について、具体的な事例をもとに考え、その重要性を理解する。  
・幼児の実態から、具体的な保育の構想をもとに、指導案を作成する方法を理解する。

●成績評価の基準：

|             |     |
|-------------|-----|
| 授業での意欲・態度   | 20点 |
| 課題レポート・小テスト | 40点 |
| 定期試験        | 40点 |

●留意事項：

○積極的に人とかかわることを楽しみ、自らの人間関係力を高めること。  
○課題レポート・小テストなどの配点が多いため、特別な事情を除き、欠席をしないように気を付けること。

オフィスアワー 木曜日5.6限 金曜日3.4限

●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園勤務の経験から、子どもが人と関わる力を身につけていく過程を具体的に伝え、学生が領域「人間関係」のねらいや内容について理解を深めるとともに、幼児の実態をふまえた指導計画の作成方法を学ぶことができるよう促す。

●授業予定一覧：

第1回：幼児教育の基本と人とのかかわり（現代的課題）  
第2回：領域「人間関係」が育むものⅠ（ねらい及び内容）  
第3回：領域「人間関係」が育むものⅡ（指導上の留意点等）  
第4回：人とかかわる力の発達Ⅰ  
（0・1・2歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第5回：人とかかわる力の発達Ⅱ（3歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第6回：人とかかわる力の発達Ⅲ（4歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第7回：人とかかわる力の発達Ⅳ（5歳児を対象とした情報機器や教材の活用法の理解）  
第8回：保育の構想と指導案の作成  
（ねらい、内容、環境構成、教師の援助、評価の観点及び情報機器や教材の活用）  
第9回：指導の実際Ⅰ（個を生かした集団づくり）  
第10回：指導の実際Ⅱ（遊びを深める仲間づくり）  
第11回：指導の実際Ⅲ（規範意識の芽生え）  
第12回：指導の実際Ⅳ（協同的な遊びを支えるクラスづくり）  
第13回：指導案の作成Ⅰ（模擬保育の実践）  
第14回：指導案の作成Ⅱ（模擬保育の振り返りと評価）  
第15回：人間関係を育む教師の役割  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業では、毎回小テストまたは小レポートを実施する。そのために毎回の授業を大切にするとともに授業内容を整理しておくことが望ましい。  
また、様々な保育事例を基にグループで討論する機会を多く取り入れる。したがって、日ごろから対話力を高め、仲間との学び合いによる考察・理解を深めてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）、文部科学省  
『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）、文部科学省、フレーベル館  
『保育所保育指針』（平成29年3月告示）、厚生労働省  
『保育所保育指針解説』（平成30年3月）、厚生労働省、フレーベル館  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月）、内閣府、文部科学省、厚生労働省  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>  
・必要に応じて紹介する。



## 環境の指導法 [a]

〔担 当 者〕 久山 訓子  
〔開 講 期〕 通年  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-x2

## ●本授業の概要：

幼児にとって環境とは何か、環境とのかかわりで育つものは何か、幼児が育つために教師はどうあればよいかを、身の回りの様々な「もの・こと・人」とのかかわりを考える中で学ぶようにする。

また、具体的な指導場面を想定した指導計画や模擬保育の実践を通して、保育を構想する方法を身に付けるようにする。

## ●到達目標：

- ・幼稚園教育の基本は、「環境を通して行う教育」であり、幼児の身の回りの環境が幼児にとって重要な体験の場・学びの場であることを理解する。
- ・領域の意味と考え方、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・具体的な指導場面を想定して、環境構成や教師の援助を考えることができる。

## ●成績評価の基準：

- ・授業への取り組み度 20%
- ・課題レポート 30%
- ・定期試験 50%

## ●留意事項：

日頃から身近な人、もの、植物、生き物、自然の事象、社会の事象などに興味や関心をもったり、幼稚園や保育園の環境に実際に触れる機会をもったりするよう心がける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園に勤務し、各国の環境や幼児の実態に応じて環境構成をし指導に当たった経験から、環境が幼児にとって重要な学びの場であることを理解し、領域「環境」のねらいと内容を達成するための環境構成と教師の援助など具体的に保育を構想することができるよう促す。

## ●授業予定一覧：

1. 幼児期の発達の特性と幼稚園教育の基本
2. 領域「環境」のねらいと内容
3. 植物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
4. 指導の実際Ⅰ－栽培計画の作成－
5. 生き物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
6. 自然の事物・事象とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
7. 友だちや教師とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
8. 指導の実際Ⅱ－模擬保育「月見会」－
9. 模擬保育の反省・改善と幼児理解に基づく評価の実際
10. 物や遊具とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
11. 用具や材料とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
12. 数量や図形、標識や文字とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
13. 情報や出来事、行事や園外環境とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
14. 指導の実際Ⅲ－情報機器や視覚教材の活用－
15. 指導の実際Ⅳ－保育室の環境構成－
16. 定期試験とまとめ

※原則として隔週開講

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業の最後に、次の授業内容を伝えるので、全体の流れや疑問点などを把握した上で出席してほしい。また、授業の中で、授業外で体験してほしいことや調べ学習の内容などの課題を提示し、レポートや口頭で発表したりグループで協議したりするので、毎回の授業に真剣に取り組むと共に、意欲を持って授業外学習にも取り組んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）

保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

<参考書等>

必要に応じて配付

## 環境の指導法 [b]

〔担 当 者〕 久山 訓子  
〔開 講 期〕 通年  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-x2

## ●本授業の概要：

幼児にとって環境とは何か、環境とのかかわりで育つものは何か、幼児が育つために教師はどうあればよいかを、身の回りの様々な「もの・こと・人」とのかかわりを考える中で学ぶようにする。

また、具体的な指導場面を想定した指導計画や模擬保育の実践を通して、保育を構想する方法を身に付ける。

## ●到達目標：

- ・幼稚園教育の基本は、「環境を通して行う教育」であり、幼児の身の回りの環境が幼児にとって重要な体験の場・学びの場であることを理解する。
- ・領域の意味と考え方、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・具体的な指導場面を想定して、環境構成や援助を考えることができる。

## ●成績評価の基準：

- ・授業への取り組み度 20%
- ・課題レポート 30%
- ・定期試験 50%

## ●留意事項：

日頃から身近な人、もの、植物、生き物、自然の事象、社会の事象などに興味や関心をもったり、幼稚園や保育園の環境に触れるような機会をもったりするよう心がける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園に勤務し、各国の環境や幼児の実態に応じて環境構成をし指導に当たった経験から、環境が幼児にとって重要な学びの場であることを理解し、領域「環境」のねらいと内容を達成するための環境構成や教師の援助など具体的に保育を構想することができるよう促す。

## ●授業予定一覧：

1. 幼児期の発達の特性と幼稚園教育の基本
2. 領域「環境」のねらいと内容
3. 植物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
4. 指導の実際Ⅰ－栽培計画の作成－
5. 生き物とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
6. 自然の事物・事象とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
7. 友だちや教師とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
8. 指導の実際Ⅱ－模擬保育「月見会」－
9. 模擬保育の反省・改善と幼児理解に基づく評価の実際
10. 物や遊具とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
11. 用具や材料とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
12. 数量や図形、標識や文字とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
13. 情報や出来事、行事や園外環境とのかかわりを通して育つ力と指導の方法
14. 指導の実際Ⅲ－情報機器や視覚教材の活用－
15. 指導の実際Ⅳ－保育室の環境構成－
16. 定期試験とまとめ

※原則として隔週開講

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業の最後に、次の授業内容を伝えるので、全体の流れや疑問点などを把握した上で出席してほしい。また、授業の中で、授業外で体験してほしいことや調べ学習の内容などの課題を提示し、レポートや口頭で発表したりグループで協議したりするので、毎回の授業に真剣に取り組むと共に、意欲を持って授業外学習にも取り組んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）

保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

<参考書等>

必要に応じて配付

言葉の指導法 [a]

〔担 当 者〕片平 朋世  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-x2

●本授業の概要：

言葉の発達における集団生活の意義や望ましい環境，活動における情報機器の活用，小学校の教科とのつながり，保育者の役割等について，幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の内容に即して学習し，指導場面を想定した保育を構想することができる。また，言葉の発達に関する今日的課題についても映像資料等を活用し，具体的な事例を通して考える。

●到達目標：

1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針等のねらいや内容，小学校の教科とのつながりを理解する。
2. 乳幼児の言葉の発達について理解し，集団生活の意義や保育者の役割について探究する。
3. 絵本の読み聞かせやわらべうた遊び等の意義を理解し，実践を通して指導技術を習得する。
4. 演習を通して自らのコミュニケーション能力を磨く。

●成績評価の基準：

- ・演習課題、小テスト、提出物 50%
- ・定期試験 50%

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

保育園での保育経験を元に，学生が実態に即した乳幼児の言葉の発達や保育者の役割に対する理解を深めることができるよう解説し，演習を通して指導技術も習得するよう促す。

●授業予定一覧：

1. 幼児教育の基本と領域「言葉」がめざすもの
2. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（0・1歳児）
3. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（2歳児）
4. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（3歳児）
5. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（4歳児）
6. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導・評価のあり方（就学前までの「言葉による伝え合いの姿」を理解し、小学校へのつながりを考える）
7. 領域「言葉」と指導の実践（わらべうた）（特別講師）
8. 保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（乳児編）
9. 保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（幼児編）
10. 幼児教育の現代的課題と領域「言葉」（映像資料等をもとに教育のあり方を検討する）
11. 領域「言葉」と指導の実践①（絵本の読み聞かせ演習）
12. 領域「言葉」と指導の実践②（わらべうたを取り入れた模擬保育）
13. 領域「言葉」と指導の実践③（演習と模擬保育の振り返りによる指導上の留意点の検討）
14. 領域「言葉」と指導の実践④（行事や劇遊び等（活動における情報機器の活用を含む））
15. 言葉を育てる環境と保育者の役割
16. 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・乳幼児の特性を理解し，言語環境や言語教材について，進んで研究してほしい。
- 紹介した参考図書に目を通したり，授業内で紹介したわらべうたを，ボランティア等で実践するなど，自分のものにする努力をしてほしい。
- ・1年時に配布した推薦絵本リストを参考に，大学図書館等で実際に絵本を手に取り，子どもに読む前に，じっくり読んでおいてほしい。

【必携書（教科書販売）】

『子どもの育ちを支える絵本』，脇山子編著，岩波書店

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

- ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示，文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成29年3月告示，厚生労働省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）
- ・『メディアにむしばまれる子どもたち』田澤雄著作，教文館

<参考書等>

- ・『本・子ども・絵本』中川李枝子著，大和書房
- その他は必要に応じて紹介する。

言葉の指導法 [b]

〔担 当 者〕片平 朋世  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-x2

●本授業の概要：

言葉の発達における集団生活の意義や望ましい環境，活動における情報機器の活用，小学校の教科とのつながり，保育者の役割等について，幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の内容に即して学習し，指導場面を想定した保育を構想することができる。また，言葉の発達に関する今日的課題についても映像資料等を活用し，具体的な事例を通して考える。

●到達目標：

- 幼稚園教育要領及び保育所保育指針等のねらいや内容，小学校の教科とのつながりを理解する。
- 乳幼児の言葉の発達について理解し，集団生活の意義や保育者の役割について探究する。
- 絵本の読み聞かせやわらべうた遊び等の意義を理解し，実践を通して指導技術を習得する。
- 演習を通して自らのコミュニケーション能力を磨く。

●成績評価の基準：

- ・演習課題、小テスト、提出物 50%
- ・定期試験 50%

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

保育園での保育経験を元に，学生が実態に即した乳幼児の言葉の発達や保育者の役割に対する理解を深めることができるよう解説し，演習を通して指導技術も習得するよう促す。

●授業予定一覧：

1. 幼児教育の基本と領域「言葉」がめざすもの
2. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（0・1歳児）
3. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（2歳児）
4. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（3歳児）
5. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導のあり方（4歳児）
6. 子どもの発達と領域「言葉」に関わる指導・評価のあり方（就学前までの「言葉による伝え合いの姿」を理解し、小学校へのつながりを考える）
7. 領域「言葉」と指導の実践（わらべうた）（特別講師）
8. 保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（乳児編）
9. 保育をより豊かにするための絵本選びと指導案作成（幼児編）
10. 幼児教育の現代的課題と領域「言葉」（映像資料等をもとに教育のあり方を検討する）
11. 領域「言葉」と指導の実践①（絵本の読み聞かせ演習）
12. 領域「言葉」と指導の実践②（わらべうたを取り入れた模擬保育）
13. 領域「言葉」と指導の実践③（演習と模擬保育の振り返りによる指導上の留意点の検討）
14. 領域「言葉」と指導の実践④（行事や劇遊び等（活動における情報機器の活用を含む））
15. 言葉を育てる環境と保育者の役割
16. 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・乳幼児の特性を理解し，言語環境や言語教材について，進んで研究してほしい。
- 紹介した参考図書に目を通したり，授業内で紹介したわらべうたを，ボランティア等で実践するなど，自分のものにする努力をしてほしい。
- ・1年時に配布した推薦絵本リストを参考に，大学図書館等で実際に絵本を手に取り，子どもに読む前に，じっくり読んでおいてほしい。

【必携書（教科書販売）】

『子どもの育ちを支える絵本』，脇山子編著，岩波書店

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

- ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示，文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成29年3月告示，厚生労働省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）
- ・『メディアにむしばまれる子どもたち』田澤雄著作，教文館

<参考書等>

- ・『本・子ども・絵本』中川李枝子著，大和書房
- その他は必要に応じて紹介する。

| 330                                                                             | 85100 |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 音楽表現の指導法 [a]                                                                    |       |
| [担 当 者] 藤掛 絢子<br>[開 講 期] 2 期<br>[授 業 形 態] 演習 [単位] 2<br>[科目ナンバリング] 330B1-2000-x2 |       |

●**本授業の概要：**  
乳幼児期の音楽的成長と発達についての知見をふまえたうえで、幼稚園・保育所・認定こども園におけるさまざまな音楽教材や教育方法、および実践事例などに対応させながら、乳幼児期の音楽表現とその援助や環境構成について考える。

●**到達目標：**  
・子どもの音楽的成長と発達について理解する。  
・子どもの感性を育むための音楽の役割について探求する。  
・生活や遊び場面における、子どもの音楽的表現や育ちをみとり、理解する力を身につける。  
・幼稚園・保育所・認定こども園において、音楽実践を構想する力を習得する。

●**成績評価の基準：**  
模擬保育案の作成と発表（50%）  
小レポート（10%）  
レポート（40%）

●**留意事項：**  
保育全体から子どもの音楽表現とその援助の方法を捉え、実習やボランティアでの体験と結びつけながら理解するように努めること。  
オフィスアワー 授業中に指示する。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、映像教材等を用いて実際の保育場面を想定した具体的な音楽実践の内容や方法を示す。さらに、表現領域における音楽実践づくりの活動を行う過程で、子どもたちの姿や保育者の援助について考えることを通して、学生の保育実践力を育む。

●**授業予定一覧：**  
授業計画  
第1回： 保育と音楽：幼稚園教育要領・保育所保育指針等から学ぶ（要領や指針の理解）  
第2回： 子どもの音楽的発達と表現（内容と指導上の留意点の理解）  
第3回： わらべうたや遊び歌（幼児の認識等を視野に入れた保育の構想）  
第4回： 音楽教育メソッド（教材の活用法の理解）  
第5回： 小学校との連携における音楽の役割（小学校音楽科とのつながり）  
第6回： 楽器と奏法①：園で行われている楽器遊び（教材の活用法の理解）  
第7回： 楽器と奏法②：豊かな音楽表現を育むさまざまな奏法（教材の活用法の理解）  
第8回： 幼稚園や保育所等での音楽表現①：事例の検討と分析（保育実践の動向の理解）  
第9回： 幼稚園や保育所等での音楽表現②：ねらい（指導案の作成）  
第10回： 幼稚園や保育所等での音楽表現③：教材研究（情報機器や教材の活用法の理解）  
第11回： 子どもと音のかかわり①：子どもを取りまく音・音環境（保育実践の動向の理解）  
第12回： 子どもと音のかかわり②：音楽遊びの援助と環境構成  
第13回： 音楽表現実践のデザイン①：模擬保育の構想（評価の考え方の理解）  
第14回： 音楽表現実践のデザイン②：模擬保育の共有  
第15回： 音楽表現実践のデザイン③：模擬保育のふり返り  
定期試験は実施しない。

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
・小人数でのグループ活動を行うので、授業外で計画・練習して授業に臨むことが必要である。  
・レポート課題や実技等では、授業で学習した内容を、文献研究、実習やボランティアでの子どもたちとの実践的なかかわりと関連させて理解し、自分の意見を持つことを求める。そのため、日ごろから、授業の内容を整理して理解するとともに、現場での体験と結びつけながら考えを深めるようにすること。

【必携書（教科書販売）】  
青井みかんと一緒に考える「幼児の音楽表現」, 保育音楽研究プロジェクト編, 大学図書出版

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜参考書等＞  
・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）  
・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）  
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）  
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）  
授業中に適宜資料を配布する。

| 330                                                                             | 85110 |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 音楽表現の指導法 [b]                                                                    |       |
| [担 当 者] 藤掛 絢子<br>[開 講 期] 2 期<br>[授 業 形 態] 演習 [単位] 2<br>[科目ナンバリング] 330B1-2000-x2 |       |

●**本授業の概要：**  
乳幼児期の音楽的成長と発達についての知見をふまえたうえで、幼稚園・保育所・認定こども園におけるさまざまな音楽教材や教育方法、および実践事例などに対応させながら、乳幼児期の音楽表現とその援助や環境構成について考える。

●**到達目標：**  
・子どもの音楽的成長と発達について理解する。  
・子どもの感性を育むための音楽の役割について探求する。  
・生活や遊び場面における、子どもの音楽的表現や育ちをみとり、理解する力を身につける。  
・幼稚園・保育所・認定こども園において、音楽実践を構想する力を習得する。

●**成績評価の基準：**  
模擬保育案の作成と発表（50%）  
小レポート（10%）  
レポート（40%）

●**留意事項：**  
保育全体から子どもの音楽表現とその援助の方法を捉え、実習やボランティアでの体験と結びつけながら理解するように努めること。  
オフィスアワー 授業中に指示する。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
幼稚園での担任としての勤務経験を活かし、映像教材等を用いて実際の保育場面を想定した具体的な音楽実践の内容や方法を示す。さらに、表現領域における音楽実践づくりの活動を行う過程で、子どもたちの姿や保育者の援助について考えることを通して、学生の保育実践力を育む。

●**授業予定一覧：**  
授業計画  
第1回： 保育と音楽：幼稚園教育要領・保育所保育指針等から学ぶ（要領や指針の理解）  
第2回： 子どもの音楽的発達と表現（内容と指導上の留意点の理解）  
第3回： わらべうたや遊び歌（幼児の認識等を視野に入れた保育の構想）  
第4回： 音楽教育メソッド（教材の活用法の理解）  
第5回： 小学校との連携における音楽の役割（小学校音楽科とのつながり）  
第6回： 楽器と奏法①：園で行われている楽器遊び（教材の活用法の理解）  
第7回： 楽器と奏法②：豊かな音楽表現を育むさまざまな奏法（教材の活用法の理解）  
第8回： 幼稚園や保育所等での音楽表現①：事例の検討と分析（保育実践の動向の理解）  
第9回： 幼稚園や保育所等での音楽表現②：ねらい（指導案の作成）  
第10回： 幼稚園や保育所等での音楽表現③：教材研究（情報機器や教材の活用法の理解）  
第11回： 子どもと音のかかわり①：子どもを取りまく音・音環境（保育実践の動向の理解）  
第12回： 子どもと音のかかわり②：音楽遊びの援助と環境構成  
第13回： 音楽表現実践のデザイン①：模擬保育の構想（評価の考え方の理解）  
第14回： 音楽表現実践のデザイン②：模擬保育の共有  
第15回： 音楽表現実践のデザイン③：模擬保育のふり返り  
定期試験は実施しない。

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
・小人数でのグループ活動を行うので、授業外で計画・練習して授業に臨むことが必要である。  
・レポート課題や実技等では、授業で学習した内容を、文献研究、実習やボランティアでの子どもたちとの実践的なかかわりと関連させて理解し、自分の意見を持つことを求める。そのため、日ごろから、授業の内容を整理して理解するとともに、現場での体験と結びつけながら考えを深めるようにすること。

【必携書（教科書販売）】  
青井みかんと一緒に考える「幼児の音楽表現」, 保育音楽研究プロジェクト編, 大学図書出版

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
＜参考書等＞  
・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）  
・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）  
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）  
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）  
授業中に適宜資料を配布する。



造形表現の指導法 [a]

〔担 当 者〕小田 久美子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-x2

●本授業の概要：

子どもの造形における発達段階を理解しながら、実技を通して表現のあり方を体得し、幼児の創造性を養う幅広い活動の展開について学ぶ。

●到達目標：

幼稚園教育要領・表現の目標と内容について理解する。制作では、適切な素材・使用方法を用いながら現場で役立つ作品を作ること。題材や素材の知識領域を広め、造形能力を高めること。

また、適切な造形環境を設定する視点を考察し様々な場面での配慮を想定することで、保育実践力を身につけること。

●成績評価の基準：

課題に取り組む姿勢、作品評価、定期試験による総合評定とする。

●留意事項：

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点はないので注意すること。  
オフィスアワー 水曜日5・6時限

●実務経験の授業への活用方法：

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術の獲得を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

●授業予定一覧：

第1回： 授業の進め方と評価について（目標と指導内容：保育者に求められる資質と能力）  
第2回： 壁画構成①（テーマ：発達段階の想定と指導上の留意点）  
第3回： 壁画構成②（デザイン：幼児の認知と動線の想定）  
第4回： 壁画構成③（素材 texture の工夫：教材研究）  
第5回： 廃材を用いた制作①（指導案作成：具体的な指導場面を想定した指導案の作成）  
第6回： 廃材を用いた制作②（指導案作成：楽器の作成と保育の構想）  
第7回： ペープサート制作（教材研究と模擬保育の検討）  
第8回： 理論（世界における幼児の描画研究、描画発達理論解説、幼稚園教育要領・保育所保育指針「表現」造形領域でのねらい・内容・留意点：視聴覚機材を用いた教材研究）  
第9回： 絵本制作①（ストーリー創作：指導要領の検討と教材研究）  
第10回： 絵本制作②（構図・素材の工夫：造形能力の獲得と模擬保育の想定）  
第11回： 絵本制作③（下絵、習作の制作：造形能力の獲得と模擬保育の想定）  
第12回： 絵本制作④（習作の検討、制作にむけての準備：造形能力の獲得と模擬保育の想定）  
第13回： 絵本制作⑤（制作、完成）  
第14回： 発表①（模擬保育の実践と評価に関する検討）  
第15回： 発表②（模擬保育の実践と適切な支援についての検討）  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示，文部科学省）  
『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月，文部科学省）  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）  
そのほか必要に応じて講義時に紹介する。

造形表現の指導法 [b]

〔担 当 者〕小田 久美子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-x2

●本授業の概要：

子どもの造形における発達段階を理解しながら、実技を通して表現のあり方を体得し、幼児の創造性を養う幅広い活動の展開について学ぶ。

●到達目標：

幼稚園教育要領・表現の目標と内容について理解する。制作では、適切な素材・使用方法を用いながら現場で役立つ作品を作ること。題材や素材の知識領域を広め、造形能力を高めること。

また、適切な造形環境を設定する視点を考察し様々な場面での配慮を想定することで、保育実践力を身につけること。

●成績評価の基準：

課題に取り組む姿勢、作品評価、定期試験による総合評定とする。

●留意事項：

開講回数の3分の2以上出席している者に、作品提出の資格を与える。提出期限内に作品の提出がない場合、単位認定の合格点はないので注意すること。  
オフィスアワー 水曜日5・6時限

●実務経験の授業への活用方法：

子どもたちの豊かな育ちを支えるために必要な保育者の表現力とその背景となる技術の獲得を、造形指導講師として幼稚園・保育園、および高等学校で培った現場経験をもとに展開していく。

●授業予定一覧：

第1回： 授業の進め方と評価について（目標と指導内容：保育者に求められる資質と能力）  
第2回： 壁画構成①（テーマ：発達段階の想定と指導上の留意点）  
第3回： 壁画構成②（デザイン：幼児の認知と動線の想定）  
第4回： 壁画構成③（素材 texture の工夫：教材研究）  
第5回： 廃材を用いた制作①（指導案作成：具体的な指導場面を想定した指導案の作成）  
第6回： 廃材を用いた制作②（指導案作成：楽器の作成と保育の構想）  
第7回： ペープサート制作（教材研究と模擬保育の検討）  
第8回： 理論（世界における幼児の描画研究、描画発達理論解説、幼稚園教育要領・保育所保育指針「表現」造形領域でのねらい・内容・留意点：視聴覚機材を用いた教材研究）  
第9回： 絵本制作①（ストーリー創作：指導要領の検討と教材研究）  
第10回： 絵本制作②（構図・素材の工夫：造形能力の獲得と模擬保育の想定）  
第11回： 絵本制作③（下絵、習作の制作：造形能力の獲得と模擬保育の想定）  
第12回： 絵本制作④（習作の検討、制作にむけての準備：造形能力の獲得と模擬保育の想定）  
第13回： 絵本制作⑤（制作、完成）  
第14回： 発表①（模擬保育の実践と評価に関する検討）  
第15回： 発表②（模擬保育の実践と適切な支援についての検討）  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始後の、計画にしたがった円滑な制作進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、制作課題ごとに通知する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示，文部科学省）  
『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月，文部科学省）  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）  
そのほか必要に応じて講義時に紹介する。



## 身体表現の指導法 [b]

[担 当 者] 安江 美保

[開 講 期] 2 期

[授 業 形 態] 実技・講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 330B1-2000-x2

## ●本授業の概要：

表現領域のねらい及び内容を理解するとともに、身体表現の教育的意義や特性（面白さや魅力）について理解を深める。また、具体的な表現教材について、実技を交えて指導のポイントを抑えるとともに、指導案作成や模擬保育を通して、保育場面を想定した保育設計を行うことができる。

## ●到達目標：

○幼稚園教育要領に示された「表現領域」のねらい及び内容を理解することができる。  
○幼児の身体表現の内容とその背景となる理論について理解を深めることができる。  
○幼児の発達段階に応じた多様な表現教材を取り上げ、それぞれの特色ある表現の指導方法を、実技を通して習得することができる。

## ●成績評価の基準：

○授業での意欲・態度 20%  
○毎時間の授業記録 40%  
○身体表現の技能（即興表現・作品創作） 40%

## ●留意事項：

・第1回、第16回は指定された教室で行う。  
・第2回～第15回は実技のできる服装で参加のこと。  
・授業後、決められた期日までに授業記録を書いて提出。  
・オフィスアワーは、火曜日の3,4限、水曜日の1,2限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 表現領域のねらいと内容、及び身体表現の教育的意義や特性について  
2. 幼児の発達に応じた身体表現の保育の流れと指導案の書き方  
3. リズム遊び「リズムに乗って踊ろう」いろいろな音楽のリズムに乗って踊ろう  
4. 多様な表現教材 (1)「だるまさんが転んだ」「ポーズ遊び」遊びから表現への発展  
5. 多様な表現教材 (2)「ミラー遊び」相手に対応した動きの探求と模擬保育  
6. 多様な表現教材 (3)「わたしは新聞紙」多様な質感の動きの探求と模擬保育  
7. 多様な表現教材 (4)「からだで粘土」見たこともないユニークな形の探求と模擬保育  
8. 多様な表現教材 (5)「からだで絵日記」日常生活の動きを誇張した動きの探求と模擬保育  
9. 多様な表現教材 (6)「忍者でござる」相手と対立・対応した動きの探求と模擬保育  
10. 多様な表現教材 (7)「ジャングル探検」多様な場面をつないだ動きの探求と模擬保育  
11. 模擬保育の成果と課題 オリジナルダンスを創ろう①  
12. 身体表現における評価の考え方 オリジナルダンスを創ろう②  
13. 身体表現における情報機器の活用の仕方 オリジナルダンスを創ろう③  
14. 小学校体育科へのつながり オリジナルダンスを創ろう④  
15. 発表会  
16. ビデオによる鑑賞会、まとめ  
定期試験は実施しない

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

第2回～第10回までの実技では、多様な表現教材から即興表現力を中心とした豊かな身体表現力を身に付けていってほしい。授業は基本的に2～6人組でリーダーを交代しながら進められる。リーダーとなって行う時には、指導者として模擬保育を行っている状況と捉え、豊かに動きを発信していけるようになっていくことを求める。毎時間の授業後提出する授業記録には、指導のポイントと学んだことをしっかりと記録していってほしい。ストレッチなどを継続し、多様な動きに対応できる体づくりを心がけること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉

・「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月）、文部科学省  
・「保育所保育指針解説書」（平成30年3月）、厚生労働省  
・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月）、内閣府・文部科学省・厚生労働省  
・「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）、文部科学省

〈参考書〉

・西洋子、本山益子・著「子どもと身体表現」（市村出版）  
・池田裕恵、猪崎弥生・編著「保育内容『表現』－からだで感じる・表す・伝える－」（杏林書院）

## 身体表現の指導法 [a]

[担 当 者] 安江 美保

[開 講 期] 2 期

[授 業 形 態] 実技・講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 330B1-2000-x2

## ●本授業の概要：

表現領域のねらい及び内容を理解するとともに、身体表現の教育的意義や特性（面白さや魅力）について理解を深める。また、具体的な表現教材について、実技を交えて指導のポイントを抑えるとともに、指導案作成や模擬保育を通して、保育場面を想定した保育設計を行うことができる。

## ●到達目標：

○幼稚園教育要領に示された「表現領域」のねらい及び内容を理解することができる。  
○幼児の身体表現の内容とその背景となる理論について理解を深めることができる。  
○幼児の発達段階に応じた多様な表現教材を取り上げ、それぞれの特色ある表現の指導方法を、実技を通して習得することができる。

## ●成績評価の基準：

○授業での意欲・態度…20%  
○毎時間の授業記録…40%  
○身体表現の技能（即興表現・作品創作）…40%

## ●留意事項：

・第1回と第16回は指定された教室で行う。  
・第2回～第15回は実技のできる服装で参加のこと。  
・授業後、決められた期日までに授業記録を書いて提出。  
・オフィスアワーは、火曜日の3,4限、水曜日の1,2限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 表現領域のねらいと内容、及び身体表現の教育的意義や特性について  
2. 幼児の発達に応じた身体表現の保育の流れと指導案の書き方  
3. リズム遊び「リズムに乗って踊ろう」いろいろな音楽のリズムに乗って踊ろう  
4. 多様な表現教材 (1)「だるまさんが転んだ」「ポーズ遊び」遊びから表現への発展  
5. 多様な表現教材 (2)「ミラー遊び」相手に対応した動きの探求と模擬保育  
6. 多様な表現教材 (3)「わたしは新聞紙」多様な質感の動きの探求と模擬保育  
7. 多様な表現教材 (4)「からだで粘土」見たこともないユニークな形の探求と模擬保育  
8. 多様な表現教材 (5)「からだで絵日記」日常生活の動きを誇張した動きの探求と模擬保育  
9. 多様な表現教材 (6)「忍者でござる」相手と対立・対応した動きの探求と模擬保育  
10. 多様な表現教材 (7)「ジャングル探検」多様な場面をつないだ動きの探求と模擬保育  
11. 模擬保育の成果と課題 オリジナルダンスを創ろう①  
12. 身体表現における評価の考え方 オリジナルダンスを創ろう②  
13. 身体表現における情報機器の活用の仕方 オリジナルダンスを創ろう③  
14. 小学校体育科へのつながり オリジナルダンスを創ろう④  
15. 発表会  
16. ビデオによる鑑賞会、まとめ  
定期試験は実施しない

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

第2回～第10回までの実技では、多様な表現教材から即興表現力を中心とした豊かな身体表現力を身に付けていってほしい。授業は基本的に2～6人組でリーダーを交代しながら進められる。リーダーとなって行う時には、指導者として模擬保育を行っている状況と捉え、豊かに動きを発信していけるようになっていくことを求める。毎時間の授業後提出する授業記録には、指導のポイントと学んだことをしっかりと記録していってほしい。ストレッチなどを継続し、多様な動きに対応できる体づくりを心がけること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉

・「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月）、文部科学省  
・「保育所保育指針解説書」（平成30年3月）、厚生労働省  
・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月）、内閣府・文部科学省・厚生労働省  
・「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）、文部科学省

〈参考書〉

・西洋子、本山益子・著「子どもと身体表現」（市村出版）  
・池田裕恵、猪崎弥生・編著「保育内容『表現』－からだで感じる・表す・伝える－」（杏林書院）

## 生徒指導の理論と方法

〔担 当 者〕 平松 清志  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-x2

### ●本授業の概要：

小学校における生徒指導の意義と課題を学び、中学校への関連性を視野に入れ、具体的な事例を交えながら、現代小学校教育における生徒指導のあり方を考える。

### ●到達目標：

生徒指導の教育的意義を積極的な面からとらえ、一人一人の子どもにとって学校生活を有意義かつ充実したものとするための生徒指導のあり方を理解する。校内の組織を活用し、また関係機関との連携を密にして、総合的な生徒指導を推進していくための素養を身に付ける。

### ●成績評価の基準：

定期試験：80％ 小テスト・発表：20％

### ●留意事項：

オフィスアワー 火曜日 9・10 限

### ●実務経験の授業への活用方法：

担当者自身が小学校教員として実践してきた生徒指導の経験を、随時活用する。

### ●授業予定一覧：

- 1 生徒指導の意義と原理
- 2 教育課程と生徒指導、保健室（養護教諭等）との連携
- 3 児童生徒の心理と児童生徒理解
- 4 発達課題と不適応行動
- 5 学校における生徒指導体制
- 6 教育相談 1：教育相談の意義と進め方
- 7 教育相談 2：表現療法的技法の意味
- 8 生徒指導の進め方 1：児童生徒全体への指導
- 9 生徒指導の進め方 2：問題行動とは何か
- 10 生徒指導の進め方 3：反社会的行動
- 11 生徒指導の進め方 4：非社会的行動
- 12 生徒指導の進め方 5：不登校
- 13 生徒指導の進め方 6：いじめ
- 14 生徒指導の進め方 7：発達障害
- 15 生徒指導に関する法制度等、関係機関との連携
- 16 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

生徒指導を全人格教育としてとらえ、受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な授業参加を望む。

### 【必携書（教科書販売）】

「生徒指導提要」、文部科学省、教育図書

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）

＜参考書等＞

文部省「生徒指導の手引（改訂版）」大蔵省印刷局、

文部省「小学校生徒指導資料 1 児童の理解と指導」大蔵省印刷局

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「生徒指導資料第 1 集：生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導」ぎょうせい

## 教育相談の理論と方法

〔担 当 者〕 日下 紀子  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-x2

### ●本授業の概要：

問題行動・逸脱行動、あるいは大きな悩みや苦痛を抱えた児童生徒を前にしたとき、教師は、彼らがどのような気持ちを抱きながら困っているのかという心理的メカニズムを理解することが重要である。またそのようなときには保護者も困難感を抱えており、こうした保護者の心理的理解も同時に必要である。学校現場にて教育相談を進める際には、子どもの個々の心理的特質や教育課題を適切に捉え、カウンセリングマインドによって受容・傾聴、共感的理解等の姿勢と技法が必要になる。それは、進路指導・キャリア教育の視点に立ったガイダンスやカウンセリングの充実にも必要な素養であり、それに基づいた指導の考え方や在り方を理解する。さらには、教育相談及び、進路指導・キャリア教育における組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、スクールカウンセラーを有効に活用しながら、教師が児童生徒と保護者の支援を行っていく道筋を具体例を通しながら学んでいく。

### ●到達目標：

教育相談ならびに進路指導・キャリア教育の意義と課題を理解し、学校現場に生じる問題に対処するための心理学的基礎理論ならびに知識と心理力動的な理解力、これを活用した働きかけの方法を身に付ける。さらに、全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。そして個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うために、また教育相談を進め、展開していくために、その際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を理解する。

### ●成績評価の基準：

講義への参加の積極性と学習の工夫 15％  
リアクションペーパー・課題 15％  
期末試験 70％

### ●留意事項：

この科目は教職課程の必修科目であるが、最終学年の最終学期に配置されている。間もなく教育現場に出ていく履修者にとっては、きわめて切実な問題に触れ、考える授業ともいえる。積極的に学び取ろうという意欲を持って授業に臨んでもらいたい。

オフィスアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士として医療機関や民間の心理相談専門機関にて心理相談ならびに教育相談、心理療法、心理検査に携わっていた経験から、学校現場に生じる問題について臨床的に取り上げ、多角的、多面的に理解していく。さらに家庭、地域、専門機関との連携についても、事例を通して具体的に、実践的に理解し、自ら考え、実行できるような基盤を作っていく。

### ●授業予定一覧：

- 第 1 回：教育相談の意義と課題  
第 2 回：進路指導・キャリア教育の意義と原理  
第 3 回：子どもたち（幼児・児童・思春期・青年期）の発達課題と心の問題  
第 4 回：校内ニーズの把握（子ども・保護者・教師）-心の問題と進路指導・キャリア教育の視点  
第 5 回：心の問題とそのシグナルに気づき、発達課題、関係性を理解する  
第 6 回：職業に関する体験活動を核としたキャリア教育の視点とカリキュラム・マネジメントの意義  
第 7 回：学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性  
第 8 回：受容・傾聴・共感的理解  
第 9 回：不登校現象の今日的意味と個々の発達課題の理解－教育相談の目標  
第10回：保護者とともに子どもとの関係性を理解する－教育相談の進め方  
第11回：問題行動（不登校、いじめ、虐待、非行等）に向き合う－教育相談の計画と進め方  
第12回：問題行動の心理と意義の理解－教育相談の展開  
第13回：キャリアアカウンセリングとポートフォリオの活用－カウンセリングとしての指導  
第14回：学校内外の組織的指導体制と取り組み  
第15回：家庭や地域、専門機関との連携  
定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業後はリアクションペーパーに疑問点、感想を記載して提出する。その質問については、できるだけ次の講義の振り返りとして取り上げる。積極的な質問ができるよう授業に主体的に取り組むこと。

毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考 URL を紹介する。授業内容を定着させるためにも、興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書・参考資料等＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）、文部科学省

学校臨床に役立つ精神分析（平井正三・上田順一編、誠信書房）

学校現場に生かす精神分析【実践編】（ビディ・ヨーエル著 平井正三監訳・鈴木誠訳 岩崎学術出版社）

その他の参考文献・資料などは必要に応じて紹介する

## 幼児理解の理論と方法

〔担 当 者〕 三宅 一恵  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-x2

### ●本授業の概要：

幼児理解は、幼稚園・保育園等の教育、保育のあらゆる営みの基本となるものであることを踏まえ、幼児理解に対する知識を身に付けるとともに、幼稚園・保育所等での様々な事例を参考にしながら、具体的な幼児理解の方法について理解を深める。また、教育相談の重要性について学び、親や子どもの育ちを支える保育者の専門性を磨く。

### ●到達目標：

- ・幼児理解の知識と、幼児理解を深めるための基礎的な態度を身に付ける。
- ・幼児を理解するための具体的な方法について知る。
- ・教育相談の意義と理論を学び、保育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解する。

### ●成績評価の基準：

- |            |     |
|------------|-----|
| ・授業での意欲・態度 | 20点 |
| ・レポート・小テスト | 30点 |
| ・定期試験      | 50点 |

### ●留意事項：

オフィシアワー 木曜日（7・8限）、金曜日（7・8限）

### ●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園勤務の経験から、幼児理解が保育の基本であることを具体例を通して伝えながら、学生が幼児理解を行うための、基礎的な態度や方法を学ぶことができるように促す。

### ●授業予定一覧：

- 第1回：幼児理解の意義と原理  
 第2回：乳児期の成長の特性と発達課題  
 第3回：幼児期前半の成長の特性と発達課題  
 第4回：幼児期後半の成長の特性と発達課題  
 第5回：保育者の自己理解（子ども観・保育観）と他者理解  
 第6回：幼児の主体的な生活を基盤とする保育  
 第7回：保育記録から見る幼児理解  
 第8回：個と集団の関係から見る幼児理解  
 第9回：幼児理解と評価  
 第10回：幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度  
 第11回：受け入れがたい幼児の行動理解とその援助  
 第12回：教育相談の意義と課題  
 第13回：カウンセリングマインドを生かした幼児理解・保護者理解  
 第14回：教育相談の実際に学ぶ幼児理解・保護者理解  
 第15回：集団教育と家庭教育の連携－保護者や各専門機関との連携－  
 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前に必携書や参考資料の課題を示し、授業内容を含めた小テスト、小レポートを実施するため、予習に力を入れることが望ましい。  
 積極的に保育現場にでかけ、保育観察・保育参加などの実体験を通して、幼児への理解を深めてほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

- 幼稚園教育指導資料第3集『幼児理解と評価』、文部科学省、ぎょうせい
- 『メディアにむしばまれる子どもたち－小児科医からのメッセージ』、田澤雄作、教文館

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）、文部科学省  
 ・『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）、文部科学省、フレーベル館  
 ・『保育所保育指針』（平成29年3月告示）、厚生労働省  
 ・『保育所保育指針解説書』（平成30年3月）、厚生労働省、フレーベル館  
 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省  
 <参考書等>  
 必要に応じて紹介する。

## 初等教育実習事前事後指導 [a]

〔担 当 者〕 本保 恭子 他5名  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-x1

### ●本授業の概要：

教育実習の目的や内容を明らかにし、実践に必要な心構え、教材研究、指導計画案作成、学級経営、指導技術等について、具体例を通して学ぶ。  
 教育実習後に、自分の実習の成果と課題を明らかにし、今後の学びについて計画をもつ。

### ●到達目標：

- ・教育実習の意義を理解し、幼稚園実習に積極的に向き合うことができる。
- ・教育実習生として園の教育活動に参画する意識をもつことができる。
- ・指導計画作成の意義について理解を深め、保育を構想することができる。
- ・教育実習を経て得られた成果と課題等を省察し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について明確にすることができる。

### ●成績評価の基準：

- |             |     |
|-------------|-----|
| 授業中の活動の様子   | 30% |
| 感想・反省・討論の内容 | 30% |
| 体験活動の課題レポート | 40% |

### ●留意事項：

- ・提出物は期限を厳守する。
- ・実習参加の準備として、毎回の出席が必要である。
- ・積極的に情熱をもって取り組む。
- ・各担当教員のオフィシアワーは、授業初回時に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園園長や担任として、実習生を担当した経験をもとに、教育実習生としてあるべき姿勢を学生に伝える。また、幼稚園生活の流れや幼児の実態など、具体的な事例を紹介しながら、指導計画案の作成や模擬保育を行い、学生自身が保育を構想することができるように促す。

### ●授業予定一覧：

- [事前指導]  
 Iオリエンテーション  
 1～2 教育実習の概要と準備について  
 3 教育者の目指すべき姿  
 4～5 教育実習の心構えと教師の職務  
 II教育実習の実務練習  
 6～8 実習記録の書き方Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ  
 9～10 観察実習、遊び実習ほか  
 11～12 参加実習、模擬保育ほか  
 III教育実習の直前準備  
 13～14 教育実習体験談（4年生から）・直前打合せ  
 15 実習校園オリエンテーション

### [事後指導]

- IV教育実習の反省と課題  
 16～17 教育実習の振り返り（個人と各園別）  
 18 教育実習報告会  
 19～20 教育実習のまとめ（実習記録等の整理とレポート作成）  
 V教育現場との連携  
 21～22 人権・同和問題（人権意識を育てる教育活動の理論と実践）  
 23 教員採用試験合格体験談（現役合格者から）  
 24～ ボランティア・インターンシップによる現場体験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習） 授業初回時に配布する『教育実習の手引き 2019』を熟読し、授業テーマに応じて、関連する箇所の予習を欠かさず行うこと。また、「指導案」作成に向けた教材研究は、各自目的をもって取り組むこと  
 （復習） 授業の内容を踏まえ、「観察記録」「指導の記録」「指導案作成」の課題に取り組むこと。また、特別講義に際しては、特に、心に残った点について「感想文」としてまとめる。各課題の提出日については、授業内で指示する。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>  
 ・『教育実習の手引き 2019』 ・『教育実習日誌』  
 （本授業オリエンテーションにて配付する。）

### <参考書等>

- ・必要に応じて資料を配付する。



初等教育実習事前事後指導 [b]

[担 当 者] 杉能 道明 他 3 名  
[開 講 期] 通年  
[授 業 形 態] 講義・演習・実習 [単位] 1  
[科目ナンバリング] 330B1-3000-x1

●本授業の概要：

教育実習の目的や内容を明らかにし、実践に必要な心構え、教材研究、指導計画案作成、学級経営、指導技術等について、具体例を通して学ぶ。

教育実習後に、自分の実習の成果と課題を明らかにし、今後の学びについて計画をもつ。

●到達目標：

- ・事前指導では、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。
- ・事後指導では、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。
- ・事前・事後指導を通して、教育実習の意義を理解し、学校現場の指導に対して感謝の念をもつ。

●成績評価の基準：

授業中の活動の様子 30%  
課題・レポート 40%  
指導案・実習日誌 30%

●留意事項：

- ・提出物は期限を守る。
- ・実習参加の準備として、毎回の出席が必要である。
- ・積極的に情熱をもって取り組む。
- ・オフィスアワーについては、授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

担当教員は全員小学校に勤務した経験を持つ。この実務経験をもとに、教育実習を受け入れる学校の視点・先輩教師としての視点から、学生に細やかな指導助言を行う。教育実習の意義やねらいを伝え、実習に向けての心構え、実習中の勤務の仕方、観察・参加の仕方、態度・身なり等について、教育実習生としてどうあるべきかを自覚できるようにする。

●授業予定一覧：

[事前指導]

- 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で、意欲的に実習に参加できるようにする。
  - I オリエンテーション
  - 1～2 教育実習の概要と準備について
  - 3 教育者の目指すべき姿
  - 4～5 教育実習の心構えと教師の服務
  - II 教育実習の実務練習
  - 6～8 実習記録・日誌の書き方 I・II・III
  - 9 観察実習、当番活動の構想と記録
  - 10～11 参加実習、当番活動の実践
  - 12 模擬授業とその振り返り
  - III 教育実習の直前準備
  - 13～14 教育実習体験談（4年生から）・直前打合せ
  - 15 実習校オリエンテーション

[事後指導]

- 教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能、心構え等について整理する。
  - IV 教育実習の反省と課題
  - 16～17 教育実習の振り返り（個人と各校別）
  - 18 教育実習報告会（各校別）
  - 19～20 教育実習のまとめ（実習記録等の整理とレポート作成）
  - V 教育現場との連携
  - 21 若手教員（本学 OG 教員）との意見交換
  - 22 教員採用試験合格体験談（現役合格者から）
  - 23～ インターンシップによる現場体験とその振り返り（合同カンファレンス）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（事前指導）

- ・教育実習に向けての具体的な準備が進んでいく。毎回の内容をきちんと復習し、手引きや日誌も参考にまとめていくこと。
- ・指導法の授業で学ぶ指導案の書き方や模擬授業の実践、インターンシップでの体験等と連携させ、教育実習に臨む自分の姿をしっかりイメージして取り組むこと。
- （事後指導）
  - ・教育実習で学んだことを想起し、成果と課題を明らかにする中で、新たな課題を見出す。そのために、教師になった自分を想定して、授業力向上のための方策、よりよい学級経営のための方策などを考え、話し合っていく。その後、自分のことばで表現し、まとめていく。このことが、最終レポートにつながっていく。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
  - ・教育実習の手引き 2019 教育実習日誌
- <参考書等>
  - ・学習指導案例集 2019

初等教育実習 [a]

[担 当 者] 本保 恭子 他 4 名  
[開 講 期] 通年  
[授 業 形 態] 実習 [単位] 4  
[科目ナンバリング] 330B1-3000-x4

●本授業の概要：

大学での理論を幼稚園教育現場で実証・研究するとともに、自らの子どもも観、発達観、教育観をより確かなものにする。

●到達目標：

1. 実習日誌の記述を通して、日々の保育を適切に振り返ることができる。
2. 幼稚園現場の組織や運営の在り方、幼児理解や人間関係づくり、学級経営や環境整備、教材研究の在り方などを学び、保育を構想し実践することができる。
3. 教師としての豊かな資質と力量を身につけ、積極的に子どもと関わる事ができる。

●成績評価の基準：

教育実習記録 20%（到達目標 1）  
教育実習の評価 60%（到達目標 1, 2, 3）  
教育実習の様子（態度・技能等）20%（到達目標 2, 3）

●留意事項：

- 日ごろより生活リズムを整え、健康維持に努め、自己の体調管理を十分行い実習に臨むこと。
- 教育実習生であるという立場を意識して、教職員、幼児に接すること。
- 教育実習生であっても、教師の服務を厳正に守ること。
- 各担当教員のオフィスアワーは、「初等教育実習事前事後指導 a」の授業初回時に、指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

現場の教師が幼児に関わる姿や声掛けの具体、また、指導計画案の作成にあたり、活動内容およびねらいや内容、環境構成や指導上の留意点などの実践場面を想定した指導が可能となる。

●授業予定一覧：

[第 1 週 … 観察と部分参加]

- ・園長講話と担任との懇談
- ・保育活動・1 日の流れ観察と参加実習・当番活動
- ・保育・授業の自主立案と実践 I

[第 2 週 … 幼児・児童理解と保育・授業立案]

- ・幼児・児童理解と保育・当番活動
- ・保育・授業の指導計画案作成と実践 II
- ・振り返りと今後の課題（中間まとめ）

[第 3 週 … 保育・授業の実践と当番活動]

- ・保育・授業の指導計画案作成と実践 III
- ・保育環境の整備・構成
- ・当番活動案の作成と実践

[第 4 週 … 全日保育・半日経営とまとめ]

- ・半日保育・全日保育・半日経営
- ・幼児・児童理解の深化とまとめ（成果と課題）
- ・教育実習の反省と評価

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

『教育実習日誌』を活用し、日々の実習の予習（保育計画）・復習（振り返り）を行う。各実習園のオリエンテーション時に配布された資料を精読し、実習に臨む。実習時に行う指導に関しては「部分指導案」「半日指導案」「全日指導案」に、指導の計画を記入する。また、実習で学んだことを「観察記録」「指導の記録」にまとめるとともに、日々の振り返りを「考察」に記入する。また、実習全体の振り返りとして、「教育実習の感想・反省」に実習を総括し、心に残った出来事等の思いを書く。実習の体験を自覚化するうえで、実習そのものはもちろんのこと、実習の事前・事後の予習・復習にも力をいれてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
  - 『教育実習の手引き 2019』 『教育実習日誌』
- 「教育実習事前事後指導 a」の授業にて配布する。



## 初等教育実習 [b]

〔担 当 者〕 杉能 道明 他 3 名  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 4  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-x4

### ●本授業の概要：

大学で学んだ教科・領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、学習指導や学級経営の場面で実践するための基礎を修得する。

### ●到達目標：

- ・児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校現場での実務に対する補助的な役割を担う。
- ・教育実習校の児童の実態を踏まえた学習指導、学級経営等を理解し実践する。

### ●成績評価の基準：

- 教育実習の評価（実習校からの評価を吟味したもの） 60%
- 教育実習中の教育活動の様子（実習校からの情報、実習中指導をもとに） 10%
- 教育実習の記録（実習中の様子、成果、担当教員とのやりとり等） 20%
- 教育実習後レポート（今後の目標設定等を中心に） 10%

### ●留意事項：

- あくまで教育実習生であるという立場を十分に意識して、教職員・児童に接すること。
- 教育実習生であっても、教師としての服務を厳正に守ること。
- オフィスアワーについては、授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

担当教員は全員小学校に勤務した経験を持つ。この実務経験をもとに、教育実習を受け入れる学校の視点・先輩教師としての視点から、学生に細やかな指導助言を行う。教育実習中の授業づくりに向けての学習指導案作成の相談に乗ったり、教育実習中の学生の様子を観察し必要に応じて指導助言を行ったり、教育実習校からの報告・連絡・相談に対応し必要に応じて学生に連絡したりする。これらの関わりを通して、教職の魅力と実習校や実習担当の先生方への感謝の気持ちを持つべきことを伝えたい。

### ●授業予定一覧：

- 〔第1週 … 観察と部分参加〕
- 学習指導要領及び児童の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、授業を実践する。
  - ・校長講話と担任との懇談
  - ・授業実践①（自主立案授業）
  - ・1日の流れ観察と当番活動①
- 〔第2週 … 児童理解と授業立案〕
- 学習指導に必要な基礎的技術を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用する体験をする。
  - ・児童理解と当番活動②
  - ・授業の指導計画案作成と授業実践②（共同立案授業）
  - ・振り返りと今後の課題（中間まとめ）
- 〔第3週 … 授業の実践と当番活動〕
- 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。
  - ・授業の指導計画案作成と授業実践③（選択教科等の授業）
  - ・教育環境の整備と構成
  - ・当番活動案の作成と実践③
- 〔第4週 … 半日経営とまとめ〕
- 様々な場面を想定して、適切に児童と関わる事ができる。
  - ・授業の指導計画案作成と授業実践④（半日経営授業）
  - ・半日経営の実施
  - ・児童理解の深化とまとめ（成果と課題）
  - ・教育実習の反省と評価

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・学習指導案、当番活動の記録でプランを立て（P）、実際にやってみて（D）、振り返り（C）、次の実践をよりよくする（A）というPDCAのサイクルをきちんと通って、意図的な実践を積み重ねること。
- ・「今、自分ができることは何か」を考え、実行に移すこと。その時「報告・連絡・相談（ホウレンソウ）」を大切に、学校（教師集団）の一員であることを常に意識して行動したい。
- ・毎日の日誌は、実習の成果と課題を明らかにしていくうえで大切な蓄積になる。自らの取り組み、児童とのかかわりなどを想起して、一定の時間で書き切ること。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
- ・教育実習の手引き 2019 教育実習日誌
- <参考書等>
- ・学習指導案例集 2019

## 教職実践演習（幼・小）[a]

〔担 当 者〕 三宅 一恵 他 4 名  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-x2

### ●本授業の概要：

- ・学校現場で即役立つことを中核に、実践力を高めることを目的とする。
- ・それぞれの内容項目について、グループで実際にロールプレイすることなどの取り組みを中心とする。

### ●到達目標：

- ・大学4年間で学んだ学習知と教育実習、基礎実習・インターンシップなどで得られた実践知とを総合して考えることができる。
- ・使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的な指導力をもった教員としての自覚をもつことができる。

### ●成績評価の基準：

- ・演習での発表 50%程度
- ・レポート 50%程度 を基準に総合的に評価する。

### ●留意事項：

教職を目指すうえでの最終段階の授業である。4月から学校園の現場に就くことを前提に、具体的な実践力を高めていくので、積極的に取り組むこと。オフィスアワーは、授業の中で指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

幼稚園園長や担任として、園経営・学級経営を行なった経験をもとに、学生が4月からそれぞれの保育現場で、保育者としての役割を果たすことができるように、実践的な学びを促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 場面に応じた話し方Ⅰ（保護者との関係をつくる・家庭訪問）
- 2 学級担任としての役割Ⅰ（学級懇談会）
- 3 学級経営における教師の対応Ⅰ（登園・降園指導）
- 4 学級担任としての役割Ⅱ（危機管理・地震訓練）
- 5 学級担任としての役割Ⅲ（担任としての一日）
- 6 学級経営における教師の対応Ⅱ（組活動）
- 7 授業者としての研鑽Ⅰ（カンファレンスの重要性）
- 8 学級担任としての役割Ⅳ（園外保育の理論）
- 9 学級担任としての役割Ⅴ（園外保育の実践）
- 10 学校園の一員としての役割（職員連携）
- 11 授業者としての研鑽Ⅱ（個別支援）
- 12 学級経営における教師の対応Ⅲ（生活指導）
- 13 場面に応じた話し方Ⅱ（子どもと心を通わせる関わり）
- 14 場面に応じた話し方Ⅲ（環境を通した指導）
- 15 学級経営における教師の対応Ⅳ（保護者に対する連携・支援）
- 16 レポート作成

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業は、毎回テーマを決めて、教育現場での実践力を高めていくことを目的にしている。ノートやファイルを作成して、レジュメや資料、ロールプレイ等の反省などをもとにして、毎回の内容をきちんとまとめていくことを求める。このまとめが、学校現場に出たときの「実践マニュアル集」になる。最終レポートでは、毎回の蓄積を総動員して、自分なりの実践プランを考えることになる。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <参考書等>
- 授業の中で紹介する。

## 教職実践演習（幼・小）[b]

[担 当 者] 赤木 雅宣 他 5 名  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-4000-x2

### ●本授業の概要：

- ・学校現場で即役立つことを中核に、実践的指導力を高めることを目的とする。
- ・それぞれの内容項目について、グループで実際にロールプレイをすることなどの取り組みを中心とする。
- ・課題についてロールプレイ等を通して解決していく中で、それぞれの内容項目の理論と実践を身に付ける。

### ●到達目標：

- ・大学 4 年間で学んだ学習知と教育実習。基礎実習・インターンシップなどで得られた実践知との統合を図る。
- ・使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力身に付けて、4 月からの学校現場での勤務に備える。

### ●成績評価の基準：

- ・演習での発表 50％程度
- ・レポート 50％程度 を基準に総合的に評価する。

### ●留意事項：

教職を目指すうえでの最終段階の授業である。4 月から学校園の現場に就くことを前提に、具体的な実践力を高めていくので、積極的に取り組むこと。

オフィスアワー 授業の中で伝える。

### ●実務経験の授業への活用方法：

全ての担当者が、公立小学校の教員として勤務した経験をもつ。これをもとに、これから学校現場で担任として勤務する際の課題を実践に即して取り上げ、解説を加える。学生は、テーマに沿って問題解決する中で、実践の理論や方法を再確認し、実践的な指導力を高めることができる。

### ●授業予定一覧：

- 1 場面に応じた話し方Ⅰ（保護者との関係をつくる・家庭訪問）
- 2 学級担任としての役割Ⅰ（学級懇談会）
- 3 学級経営における教師の対応Ⅰ（朝の会、朝のあいさつ）
- 4 学級担任としての役割Ⅱ（危機管理・地震訓練）
- 5 学級担任としての役割Ⅲ（担任としての一日）
- 6 学級経営における教師の対応Ⅱ（係活動）
- 7 授業者としての研鑽Ⅰ（課題解決型の授業をつくる）
- 8 学級担任としての役割Ⅳ（校外学習の引率）
- 9 学校園の一員としての役割（職員会議）
- 10 授業者としての研鑽Ⅱ（安全な水泳指導）
- 11 学級経営における教師の対応Ⅲ（家庭学習のあり方）
- 12 場面に応じた話し方Ⅱ（子どもへの話し方①トラブルを起こした子どもへ）
- 13 場面に応じた話し方Ⅲ（子どもへの話し方②心に残る話・話し方）
- 14 学級経営における教師の対応Ⅳ（給食指導・清掃指導）
- 15 学級担任としての役割Ⅴ（保護者への連絡）
- 16 レポート作成（担任としての私）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業は、毎回テーマを決めて、教育現場での実践力を高めていくことを目的にしている。ノートやファイルを作成して、レジュメや資料、ロールプレイ等の反省などをもとにして、毎回の内容をきちんとまとめていくことを求める。このまとめが、学校現場へ出たときの「実践マニュアル集」になる。最終レポートでは、毎回の蓄積を総動員して、自分なりの実践プランを考えることになる。

#### 【必携書（教科書販売）】

#### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

「小学校学習指導要領」（平成 2 9 年 3 月告示）

## 総合的学習教育法

[担 当 者] 三宅 貴久子  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-3400-o2

### ●本授業の概要：

近年、グローバル化の進展、生産年齢人口の減少や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化しており、予測が困難な時代だと言われています。このような時代を生きていく上で必要となる資質・能力も変わろうとしています。知識の量だけではなく、様々な事象に対して何が問題なのか自ら課題を設定し、課題解決へ向けて様々な知識や情報を取り込みながら分析し、他者と協働的に解決していく力が不可欠となってきます。2000 年から段階的に小学校・中学校・高等学校に導入された総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たす学習です。

そこで、本講義では、総合的な学習の時間の創設の背景を概観し、総合的な学習の時間の目標や育てようとする資質・能力及び単元計画の基本的な考え方を学習します。また、探究的・協働的な学習における思考ツール、ルーブリック、ICT 活用等、様々な道具の活用に対する知識や技能を体験的に学習します。加えて、学生がチームを作り、協力して体験的な活動を通して、総合的な学習の時間についての理解を深めたり、プレゼンテーションスキルやライティングスキルの技能を習得したりします。

### ●到達目標：

- 総合的な学習の時間の意義と原理を捉えた上で、目標や育てようとする資質・能力及び内容と単元計画の基本的な考え方を理解することができる。
- 探究的・協働的な学習における学習指導のあり方について知り、体験を通して技能を習得することができる。
- グループのメンバーと協働し、プレゼンテーションスキルやレポートライティングのスキルを身につけることができる。
- 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。

### ●成績評価の基準：

- ・レポート及び試験 50％
- ・授業中の態度 20％
- ・グループ発表 30％

### ●留意事項：

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編を事前に読んで受講すること。

### ●実務経験の授業への活用方法：

長年、小学校の教師として総合的な学習の時間のカリキュラム開発に取り組んできた経験から、自身の総合的な学習の時間の実践の映像資料や児童のエピソードを基に、教師がどのように単元をデザインするのか事例を紹介することで、学生自身が考案する単元計画における探究プロセスの具体的なイメージを持つ支援とする。

### ●授業予定一覧：

1. オリエンテーション（授業計画についての説明）  
総合的な学習の時間の意義や教育課程において果たす役割
2. 年間計画の事例紹介を通して、各教科等との関連性を図りながら、総合的な学習の時間の年間計画を作成することの重要性
3. 総合的な学習の時間における探究課題の設定及び単元計画の基本的な考え方
4. 探究プロセスにおける主体的・対話的で深い学びを創るための教授方略（思考スキル、思考ツール、ルーブリック、ICT の活用等）
5. 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及び留意点
6. 総合的な学習の時間の単元づくりの演習についての説明  
グループ編成、テーマ決定のためのフィールド調査計画の立案
7. テーマを見つけるためのフィールドワークの実施
8. フィールドワークで収集した情報を整理・分析（思考ツールの活用）、ICT を活用して情報収集
9. テーマを決定し、単元計画の検討
10. 各グループの単元計画案の交流へ向けて、プレゼンテーションに関する基礎知識とその評価方法の理解
11. プレゼンテーションの作成、発表の練習
12. プレゼンテーション・相互評価
13. 単元計画作成についての振り返りと学校現場の単元計画の事例紹介
14. 総合的な学習の時間の意義についてディスカッション、総括
15. レポートライティングに関する基礎知識、レポート作成  
定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、manaba を利用します。可能な限り授業の前日までに、manaba を通じて授業に利用するプリントを閲覧し、全体の話の流れの確認や疑問点などを講義ノートにメモした上で出席してください。（manaba は履修登録後の次の日から利用できるようになります。）（復習）毎回の授業で、振り返りカードに自分の学びについて記述し、提出します。振り返りで、理解できなかった点については、資料等を読み、学んだことを再度、講義ノートにまとめておいてください。なお、振り返りカードを保管するクリアファイルを用意してください。最後のレポートを書く際に、振り返りの記述は重要な情報となります。この授業ではグループワークを実施します。グループ学習の間は、お互いの連絡を取りながら課題に取り組んでください。

### 【必携書（教科書販売）】

「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）」、文部科学省、東洋館出版社

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」、文部科学省、東洋館出版社

<参考書等>

「カリキュラムマネジメント入門―深い学びの授業デザイン、学びをつなぐ7つのミッション」、田村学、東洋館出版社

「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）」、文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月）」、文部科学省

| 330                                                                                                                                                                | 85530 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| <div> <div>外国語活動教育法</div> <div> <div>〔担 当 者〕 福原 史子</div> <div>〔開 講 期〕 通年</div> <div>〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 2</div> <div>〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2</div> </div> </div> |       |

●**本授業の概要：**  
 本授業のねらいは、小学校学習指導要領に基づいて、3・4年生での外国語活動及び5・6年生での外国語科の目標や内容について系統的に学ぶとともに、児童期の第二言語習得と学習指導理論を理解することである。その上で、具体的な教材を用いた学習指導案作成や模擬授業を通して、授業実践に必要な指導力を身に付ける。

●**到達目標：**  
 ・小学校外国語活動・外国語科導入の背景及び目標と内容について系統的に学ぶことを通して、児童がどのような資質・能力を身に付けることをねらった活動・教科であるのかを理解する。  
 ・児童期の第二言語習得の特徴と発達段階を踏まえた学習指導理論について理解する。  
 ・外国語活動・外国語科の実践に必要な指導技術及び授業づくりに必要な知識・技能を身に付ける。

●**成績評価の基準：**  
 レポート試験 40％  
 模擬授業の内容 30％  
 小レポート 30％

●**留意事項：**  
 オフィスアワー 月曜日7.8限 水曜日5.6限、  
 質問は随時電子メールで受け付ける（アドレスは初回授業にて提示する）  
 外国語活動・外国語科の指導力を身につけるために、積極的な態度で参加すること。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
 公立小学校及びアメリカの Montessori School での勤務経験を活かし、小学生の発達段階や興味・関心に応じた外国語の指導について具体例を示しながら伝え、実際の授業場面を意識した実演をする。そのことにより、学生に活動の楽しさと難しさを実感させ、よりよい外国語教育の在り方についての検討を促す。

●**授業予定一覧：**  
 1 外国語活動・外国語科導入の背景と目標、コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力  
 2 第二言語習得理論と児童期の特徴、英語教育全体における小学校の役割  
 3 外国語活動・外国語科の教材と指導計画  
 4 ティーム・ティーチングによる指導とクラスルーム・イングリッシュ  
 5 外国語活動または外国語科の授業参観  
 6 国際理解教育と英語教育  
 7 「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」の指導と授業づくり  
 8 「読むこと」「書くこと」の指導と授業づくり、国語教育との連携  
 9 ICTを活用した授業づくり、プロジェクト型の授業の展開  
 10 外国語活動・外国語科の評価  
 11 模擬授業 (1) 学級担任のみによる指導  
 12 模擬授業 (2) ティーム・ティーチングによる指導  
 13 模擬授業 (3) 文字言語への導入  
 14 模擬授業 (4) ICT を活用した授業・プロジェクト型の授業  
 15 まとめ・英語教育のこれからの課題  
 定期試験（レポート）

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
 （予習）毎回の授業で、内容や英語表現に関する資料を配布するとともに、参考文献や参考 URL を紹介するので、該当部分を熟読し、要点と疑問点をまとめておくこと（1時間）。  
 （復習）小学校で外国語活動を指導することを意識して、クラスルーム・イングリッシュやチャンツ、歌などは、毎日声に出して練習してほしい（1日15分）。

【**必携書（教科書販売）**】  
 小学校学習指導要領解説 外国語・外国語活動編，文部科学省，開隆堂  
 We can! 2，文部科学省  
 We can! 1，文部科学省

【**必携書・参考書等（教科書販売以外）**】  
 ＜必携書＞  
 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

＜参考書等＞  
 『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』，酒井英樹編著，三省堂  
 『"Hello" from Okayama 岡山から“ハロー”』，岡山ローバル英語研究会編，山陽新聞社

| 330                                                                                                                                                              | 85905 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| <div> <div>特別支援教育総論</div> <div> <div>〔担 当 者〕 青山 新吾</div> <div>〔開 講 期〕 2 期</div> <div>〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2</div> <div>〔科目ナンバリング〕 330B1-1000-o2</div> </div> </div> |       |

●**本授業の概要：**  
 特別支援教育の基本を踏まえ、その先に展開するインクルーシブな保育、教育の現状、意義等の基本及び今後の方向性について解説する。

●**到達目標：**  
 インクルーシブ教育体制の基礎的事項について理解しレポートにまとめられること。  
 インクルーシブな保育、教育を展開していく多様な学びの場について、その現状と意味について自分自身のことばで説明できること。  
 インクルーシブな保育、教育についての基礎的事項について理解し、それらを踏まえた上での自分自身の考えを記述できること。

●**成績評価の基準：**  
 授業への取組度（毎回の感想の記述） 1 0％  
 レポート（期間中に提出） 4 0％  
 学期末試験 5 0％

●**留意事項：**  
 オフィスアワーは講義中に指示する。電子メール等による質問、相談等は随時受け付ける。

●**実務経験の授業への活用方法：**  
 保育園、幼稚園、小・中・高等学校や特別支援学校への研究協力、指導助言を行う中で得られた最新の知見や具体的なエピソードを紹介することで、現場の実態に応じたりアルな状況を伝えと共に、理論と具体的な実践をつなぎ合わせた授業を展開する。また、研究協力等でコラボレーションしている方々を実際に招き、対話型講義を実施して、特別支援教育やインクルーシブな保育、教育の実践について学びを深められるような授業を展開する。

●**授業予定一覧：**  
 1 特別支援教育とインクルーシブな保育、教育概論  
 2 インクルーシブな保育、教育（1）合理的配慮  
 3 インクルーシブな保育、教育（2）学級経営の充実  
 4 インクルーシブな保育、教育（3）学び方を学ぶ授業の実践  
 5 インクルーシブな保育、教育（4）保育の充実とインクルーシブ  
 6 インクルーシブな保育、教育（5）こころの病気を学ぶ授業  
 7 多様な学びの場の充実（1）特別支援学級の意義と課題  
 8 多様な学びの場の充実（2）院内学級の意義と課題  
 9 多様な学びの場の充実（3）通級による指導の意義と課題  
 10 多様な学びの場の充実（4）夜間中学の意義と課題  
 11 将来に向けた教育（1）中学・高校における特別支援教育の実践と課題  
 12 将来に向けた教育（2）キャリア発達と人の成長  
 13 将来に向けた教育（3）就労支援の実践と課題  
 14 家族と協働する  
 15 まとめ「インクルーシブな保育、教育の今後」  
 16 テスト

●**準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**  
 毎回の講義で、その日の内容に関連した参考文献、参考 URL を紹介する。また、manabaを活用し、講義内容に関連する情報を適宜提供したり、講義内容について更に発展的な内容や事前の学習についてコメントを発信したりする。これらを参考にしながら、講義内容への関心を高め、理解や思索を進められるよう、講義外での学習に取り組んで欲しい。

【**必携書（教科書販売）**】  
 インクルーシブ教育ってどんな教育？，青山新吾・赤坂真二他，学事出版

【**必携書・参考書等（教科書販売以外）**】  
 ＜参考書＞  
 『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』，文部科学省，海文堂出版  
 『インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？』青山新吾・岩瀬直樹，学事出版  
 『現場発！ 知的・発達障害者の就労自立支援』高原浩，学事出版  
 『自閉症のきょうだいを育てたある家族の流儀』大石明美，学事出版



|                                                                                                                                             |       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 330                                                                                                                                         | 85950 |
| 知的障害児の心理・生理・病理                                                                                                                              |       |
| <div> <div> [担 当 者] 東 俊一・大野 繁 </div> <div> [開 講 期] 1 期 </div> <div> [授 業 形 態] 講義 [単位] 2 </div> <div> [科目ナンバリング] 330B1-2000-o2 </div> </div> |       |

●本授業の概要：

知的障害とは、ことば、認知、記憶、判断などの知的機能の発達に遅れがみられ、社会生活への適応が難しい状態をいう。本授業では、知的障害児の心理・生理・病理について学び、その行動特徴とそれらに応じた支援のあり方について述べる。

●到達目標：

- 知的障害の状態像を理解し説明することができる。
- 知的障害児を取り巻く環境について説明することができる。
- 一人ひとりの特性と生活環境との相互作用について理解し、その影響について説明できる。
- 個々の特徴に応じた支援に関する概要・方法を理解し、計画できる。

●成績評価の基準：

テスト（100％）

なお、本授業は担当教員が2名いるため、各々がテストを実施し、その点数をもとに評価する。評価割合は、前半10コマ分に2/3、後半5コマ分に1/3を充てる。

●留意事項：

オフィスアワー 金曜 12限

●実務経験の授業への活用方法：

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験から、特別支援教育現場における支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

●授業予定一覧：

|                           |         |
|---------------------------|---------|
| 1 オリエンテーションおよび脳の解剖と機能（総論） | 担当：東 大野 |
| 2 脳の解剖                    | 担当：大野   |
| 3 脳の機能の概論                 | 担当：大野   |
| 4 皮質の機能分布                 | 担当：大野   |
| 5 脳の発生                    | 担当：大野   |
| 6 知能について                  | 担当：大野   |
| 7 遺伝・染色体・胎生期異常            | 担当：大野   |
| 8 知的障害の病理                 | 担当：大野   |
| 9 知的障害の併存症                | 担当：大野   |
| 10 知的障害の病理のまとめ            | 担当：大野   |
| 11 知的障害とは                 | 担当：東    |
| 12 知的障害児のことばと運動機能の特徴      | 担当：東    |
| 13 知的障害児の認知の特徴            | 担当：東    |
| 14 知的障害児の記憶の特徴            | 担当：東    |
| 15 問題行動と行動問題              | 担当：東    |
| 16 テスト                    | 担当：東    |

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、各担当の授業1回目に資料を配布します。可能な限り授業の前日までに資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。

（復習）授業時に資料に書き込んだ内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するよう学習を進めてください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

知的障害児の教育－ゆたかな発達支援をめざして－ 大学教育出版  
適宜、文献紹介、資料配布を行う

|                                                                                                                                        |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 330                                                                                                                                    | 86000 |
| 肢体不自由児の心理・生理・病理                                                                                                                        |       |
| <div> <div> [担 当 者] 大野 繁 </div> <div> [開 講 期] 2 期 </div> <div> [授 業 形 態] 講義 [単位] 2 </div> <div> [科目ナンバリング] 330B1-2000-o2 </div> </div> |       |

●本授業の概要：

脳と神経系の基本的な理解を通して、発達していく過程である小児の全体像をみつつ、小児の定型発達の理解、肢体不自由児、知的障害児、病弱児の心理・生理・病理を現代という時代の育ちの環境の問題点も視野に入れ講義を進めていく。家庭環境や地域の育ちの環境においてこどもが育っていくという視点の大事さにも言及していきたい。さらに小児神経学としての障害というもののとらえ方について言及していきたい。

●到達目標：

障害児の心理・生理及び病理を理解し、教育・療育・地域の支援についての仕方の基本を知る。

●成績評価の基準：

レポート提出…30%

筆記テスト…70%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 序論
- 脳の構造
- 肢体不自由児及び知的障害児の脳の発達・脳の機能
- 発達障害とは
- 染色体異常
- 胎生期異常
- 周生期異常
- 後天性に発症する脳の病気・感染症、代謝疾患、変性疾患
- 脳性小児麻痺
- 肢体不自由と合併する神経疾患（1）-精神遅滞・広汎性発達障害
- 肢体不自由と合併する神経疾患（2）-てんかん
- 身体所見・画像検査・脳波検査・誘発電位（1）-EEG 所見を中心に
- 知能検査・心理検査
- 肢体不自由児の理解と社会との関わり合いと支援（1）
- 肢体不自由児の理解と社会との関わり合いと支援（2）
- 定期テスト

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】



## 病弱児の心理・生理・病理

〔担 当 者〕 中内 みさ  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

病弱（虚弱を含む）とは、内部障害、健康障害ともいい、疾患（disease）により継続的に医療や生活規制を必要とする状態をいう。本授業では、病氣と共に生きる子どもたちやその家族を支援できるように、主な基礎疾患の生理や病理、日常生活上の留意点などを学ぶ。そして、それを基に、病氣と共に生きる子どもやその家族の心理について理解を深め、多角的な視点で子どもを見る態度および、彼らの life(生命、生活、人生)を支援する方法を習得することを目指す。

## ●到達目標：

1. 主な基礎疾患の症状や日常生活上の留意点を述べることができる。
2. 病氣と共に生きる子どもたちの心理を、発達の・心理社会的観点に立って説明できる。
3. 病氣と共に生きる子どもの家族の心理を説明できる。
4. 病氣と共に生きる子どもたちの生活や人生を支援する方法を提案できる。
5. 病氣と共に生きる子どもの家族を支援する方法を提案できる。

## ●成績評価の基準：

積極的授業態度 20%（到達目標 1、2、3）  
・授業後のリアクションペーパーで評価する。  
・評価の観点などに関しては、最初の授業時に説明する。  
レポート 20%（到達目標 1）  
試験 60%（到達目標 1、2、3、4、5）

## ●留意事項：

- ・積極的に誠意ある受講態度を望む。課題意識をもって授業に臨んでください。
- ・意見や質問などは積極的にリアクションペーパーに書いてください。質問には次の授業で答えます。（自分で調べることができる資料等があれば教示しますので、もっと詳しく知りたい方は、ぜひ積極的に調べてみてください。）
- ・なお、オフィスアワーは月曜日の 3・4 時間および 5・6 時間です。

## ●実務経験の授業への活用方法：

病弱養護学校（現・特別支援学校）の中学部・高等部の教員として、またカウンセラーとしての体験から、病氣と共に生きるとはどういうことかー症状や生活の様子だけでなく、子どもたちや家族の気持ちや悩みなどを伝えていきたいと考える。学生には、疾患のみに注目するのではなく、発達段階や家庭環境、生活体験などを絡めて一人一人の子どもの全体像を見ることができると多角的な視点をもってほしい。

## ●授業予定一覧：

- 1 健康とは何か
- 2 病弱（身体虚弱を含む）の生理と病理
  - 2-1 慢性腎疾患、心臓疾患
  - 2-2 呼吸器疾患、消化器疾患
  - 2-3 アレルギー疾患
  - 2-4 内分泌・代謝性疾患、血液疾患
  - 2-5 精神・神経系疾患（1）てんかんなど
  - 2-6 精神・神経系疾患（2）大うつ病性障害など
  - 2-7 心身症など
  - 2-8 悪性新生物など
- 3 病弱児の心理と支援
  - 3-1 病氣になる／であるということ
  - 3-2 家族と支援
  - 3-3 発達における課題と支援
  - 3-4 QOL と病氣の受容
- 4 病弱児への支援にあたって
- 5 定期試験
- 6 試験解説、まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、参考図書を紹介する。その図書は病弱児や特別支援教育関連にとどまらず、子どもと関わるあるいは子どもの問題を考える上で参考になる本も含むので、ぜひ読んでほしい。授業の前半は生理・病理分野で、医学的知識が必要とされる。似たような症状の疾患も多い。必ず復習すること。その際、医学関連の本や学会・病院のホームページ（随時授業で紹介する）なども参考にしておくとわかりやすいと思う。諸連絡およびレポートは manaba を利用する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
プリントを配布する。

<参考書等>  
『病弱児の心理的支援に関する研究－病氣の受容の観点から－』中内みさ著、現代図書  
その他、授業中に随時、紹介する。

## 知的障害児教育

〔担 当 者〕 青山 新吾  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

知的障害のある子どもの捉え方について考察すると同時に、具体的な子どもの様子を記述する練習を行う。また、知的障害特別支援学校や特別支援学級の授業プランを構想したり、教材づくりを行ったりしながら、模擬授業を実施する。加えて、知的障害特別支援学校での授業参観とその振り返りも行う。これらの総合的な学習により、知的障害のある子どもはもちろんのこと、特別な支援を必要としている子ども全体に対する授業の目標、内容、構成、支援等について実践的、理論的に理解、省察を進める講義である。

## ●到達目標：

- ・障害のある子どものつまづきを捉え、その背景要因を検討した上で記述できること。
- ・保育、学校現場における子ども達の生活文脈の中で、多面的な視点から子ども達を捉え、それを具体的なエピソードとして語ったり記述したりできること。
- ・障害のある子どもの様子を想像しながら、そのつまづきに対する教材の工夫や支援の手立てを検討し、模擬授業、模擬保育案を作成できること。また、それを元に、模擬保育、模擬授業を行い、その振り返りによる学びや課題の内容をレポートに記述できること。
- ・これらの学びの内容を総合的に理解し、多面的な視点から「知的な障害のある子どもの保育、教育」についてレポートを作成できること。

## ●成績評価の基準：

|                      |     |
|----------------------|-----|
| エピソード記述レポート          | 10% |
| 模擬保育案または模擬授業案の作成     | 20% |
| 模擬保育または模擬授業の振り返りレポート | 20% |
| 総合レポート               | 50% |

## ●留意事項：

オフィスアワーは講義中に指示する。電子メールによる質問、相談は適宜受け付ける。この講義では、支援を要する幼児、児童への保育や教育全般に共通する内容を取り扱っていくので、免許取得の有無にかかわらず、特別支援について実践的に学びたい方の受講を歓迎する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

学校現場における勤務経験を活かして、指導案の作成や模擬授業についての目標設定や指導技術等の具体的な指導を行う。また、現在、指導・助言でかかわっている特別支援学校や特別支援学級での最新の知見や具体的なエピソードを紹介することで、できるだけ現場の実態に応じたりリアルな状況を伝えると共に、理論と具体的な実践をつなぎ合わせた授業を展開する。

## ●授業予定一覧：

- 1 特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育（1）基本的な考え方
- 2 特別支援教育の視点を取り入れた保育・教育（2）指導の実際
- 3 子どもをとらえる（1）子どものつまづきと背景要因の分析
- 4 子どもをとらえる（2）エピソードの記述と分析その1
- 5 子どもをとらえる（3）エピソード記述と分析その2
- 6 知的障害のある子どもへの指導の実際（1）授業の基本、指導案作成の基本
- 7 知的障害のある子どもへの指導の実際（2）指導案の修正
- 8 知的障害のある子どもへの教科等の指導（1）模擬授業とグループ検討
- 9 知的障害のある子どもへの教科等の指導（2）模擬授業の修正
- 10 知的障害のある子どもへの教科等の指導（3）全体模擬授業
- 11 特別講義「保護者の視点から見た特別支援教育」
- 12 各教科等を合わせた指導（1）特別支援学校における授業の実際
- 13 各教科等を合わせた指導（2）特別支援学校における授業の検討
- 14 知的障害のある子どもの暮らしの充実
- 15 まとめ～知的障害のある子どもへの教育とは～
- 16 学期末レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

指導案の作成、模擬授業の準備及び修正を授業外の課題とする。それらは、受講者各自によってなされるとともに、次のステップとして、グループによって練り上げる活動も課す。また、manaba を活用し、講義内容に関連する情報を適宜発信するので、それらを参考に、講義内容への理解や思索を深めて欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
資料は必要に応じて講義内で配布する。  
<参考書等>  
特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚園・小学部・中学部）  
特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編  
『自閉症の子どもへのコミュニケーション指導』青山新吾著、明治図書  
『個別の指導における子どもとの関係づくり』青山新吾著、明治図書  
その他参考になるものを授業中に紹介する。

## 肢体不自由児教育

〔担 当 者〕篠田 千枝  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

本授業は、肢体不自由児教育についての歴史や教育理念、多様な教育課程に対応した指導内容や指導支援の工夫等の知識、技能を学ぶことで、肢体不自由教育の基礎的知識を理解し、指導支援の方法を修得することを目的とする。授業では、疑似体験や演習など体験的な機会やグループワークによる協議を通して生活や教育上の実態を把握・分析したり課題解決の方法を考察したりする機会を持つ。

### ●到達目標：

- 1 肢体不自由教育の歴史や教育的意義、障害特性等について説明できる。
- 2 多様な教育課程における指導支援や実態に応じた工夫について記述することができる。
- 3 授業づくりにおいて、児童生徒の実態に応じた教材の工夫を実行できる。

### ●成績評価の基準：

小テスト（到達目標 1） 20％  
課題発表（到達目標 3） 20％  
レポート（到達目標 1, 2） 60％

### ●留意事項：

講義の中での説明等に疑問がある場合は遠慮なく途中でも尋ねること。  
可能な限り授業終了後に教室で質問を受け付ける。

### ●実務経験の授業への活用方法：

特別支援学校の教諭、管理職として指導・学校経営に携わったり、研修機関の指導者として研修指導や相談業務に携わったりしていた経験から肢体不自由教育に関する歴史や教育体制、今日的課題、適切な指導支援の実態など多角的に取り上げ、教育的ニーズに応じた指導支援の必要性や方法を演習やグループワークなどを通して体験的に学び実践への活用を促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 肢体不自由児者を理解するにあたって
- 2 肢体不自由児の理解 歴史と教育的意義（2－1）  
肢体不自由児の理解 児童生徒の実態（2－2）演習：困難さの体験、ワークシート  
肢体不自由児の理解 教育制度と今日的課題（2－3）  
肢体不自由児の理解 子どもを取り巻く生活環境と社会資源（2－4）
- 3 指導支援を進めるにあたって保護者理解と関係機関との連携（3－1）ワークシート  
指導支援を進めるにあたって 学校生活に求められる教育的支援（3－2）
- 4 教育課程について 編成の基準と学習指導要領の改訂のポイント（4－1）  
教育課程 1 準ずる教育（各教科の指導）の指導内容と指導支援の工夫（4－2）  
教育課程 2 知的障害者である生徒に対する教育（各教科等合わせた指導）の指導内容と指導支援の工夫（4－3）  
教育課程 3 自立活動を主とした教育の指導内容と指導支援の工夫（4－4）
- 5 授業づくりのポイント 実態に応じた教材教具の工夫 グループワークと課題発表
- 6 個別の指導計画と個別的教育支援計画 小テスト
- 7 キャリア教育の実際
- 8 肢体不自由特別支援学校における傾向と課題 重度重複障害児の増加と医療的ケア  
  
レポート

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業でその日や次回の内容に関する参考図書や資料を紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。また、肢体不自由児者に関する放送の視聴、特別支援学校の HP の閲覧、書籍、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説を読むことを通して広く情報収集をしておいてほしい。授業に際し、講義内容を元にワークシートなどの作業課題を作成します。授業後それを持ち帰り、紹介した資料も参考にしながら完成度の高いものに仕上げ、次回の授業開始時に提出してください。

### 【必携書（教科書販売）】

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園部・小学部・中学部・高等部）、文部科学省、海文堂出版株式会社

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

#### <必携書>

資料は必要に応じて配布する。

#### <参考書等>

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編「幼稚園部・小学部・中学部」 文部科学省  
「よくわかる肢体不自由教育」 安藤隆男・藤田継道 編著 ミネルヴァ書房

## 病弱児教育

〔担 当 者〕中内 みさ  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

疾患とともに生きる（live with disease）子どもたちに教育は何かできるか。本講義では、病弱教育の意義、歴史的変遷、病弱特別支援学校のエデュケーション、訪問学級・院内学級などの制度や現状等を概説し、病弱教育の展望と課題を検討する。さらに、疾患や心理的特徴を考慮した指導上の工夫や、病弱特別支援学校における生徒指導・キャリア教育および教育相談、医療機関や家庭との連携のあり方等に関して理解を深める。また、薬害エイズ事件など病気は常に社会の問題とつながっている（たとえば、病弱特別支援学校に在籍する子どもの疾患種は年代によって変化している）。病弱教育に携わる者として教育だけでなく、医療や福祉制度など社会に関心を持つ態度を養うことも目的とする。

### ●到達目標：

1. 病弱教育の意義や特徴について述べることができる。
2. 就学指導基準や訪問教育など病弱教育の制度や課題について説明できる。
3. 病弱教育のエデュケーションの特徴を述べるができる。
4. 子どもの疾患や課題に応じた教育的対応あるいは指導上の工夫を提案できる。
5. 病気と共に生きる子どもたちの心理や進路などの課題について説明できる。
6. 子どもに関わる教育や医療・福祉に関する問題やその背景について、自分の意見を述べるができる。

### ●成績評価の基準：

積極的授業態度：20％（1、2、3、5、6 ）  
・授業後のリアクションペーパーで評価する。  
・評価の観点は、最初の授業で説明する。  
レポート：30％（1、4、6 ）  
・授業中に行う。テーマは「病理・生理」「子どもあるいは子どもに関わる教育・医療・福祉に関する時事」「病弱教育」に関してである。  
テスト：50％（2、3、4、5）

### ●留意事項：

積極的に誠意ある態度を望む。普段から新聞や本をよく読み、また発達心理学や教育学など、あるいは実習などを通して学んだことに関して自分の意見をしっかりとって受講してほしい。何よりも子どもの人権を守るために学ぶという姿勢を持ってほしい。  
なお、オフィスアワーは月曜日の3・4時限および5・6時限である。

### ●実務経験の授業への活用方法：

病弱養護学校（現・特別支援学校）の中学部・高等部の教員として勤務し、県の就学指導委員・心身障害教育相談員などを務めた経験から、指導の工夫や医療機関・家庭との連携のとり方などの実践例を提示することで（個人を特定する事例は出さない）、現場をイメージしやすいようにしたい。また、小児医療から成人医療への移行の問題やターミナル期の子どもへの対応など、病弱教育は単に学校教育の範疇にとどまらない面がある。現場の悩みや社会問題への関心の必要性なども併せて伝えていきたい。

### ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション～病弱教育の歴史と意義
- 2 病弱児とは
  - 2－1 重複障害及び重度重複障害
  - 2－2 慢性疾患（1） 腎臓疾患、心臓疾患、アレルギー疾患など
  - 2－3 慢性疾患（2） 心身症、悪性新生物など
  - 2－4 病弱児の心理
- 3 エデュケーションと指導上の工夫
  - 3－1 病弱教育の編成（1） 根拠法令、教育の場、就学手続など
  - 3－2 エデュケーションの編成（2） 病弱教育の特徴など
  - 3－3 各教科の指導（個別的教育支援計画を含む）
  - 3－4 自立活動等
  - 3－5 訪問教育と院内学級
  - 3－6 通常学級に在籍の病弱養護児
  - 3－7 生徒指導およびキャリア教育
  - 3－8 学校教育相談（心理的支援）
- 4 家庭・医療機関および前籍校との連携
- 5 定期試験
- 6 試験解説、まとめ

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業の前半で、病弱教育の対象となる子どもたちの疾患や心理を概説するが、受講者は「病弱児の心理・生理・病理」を受講しておくことが望ましい（しかし、必修ではない）。エデュケーションに関しては、学習指導要領をよく読んでおくこと。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

#### <必携書>

「特別支援学校 幼稚園教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領」、文部科学省

#### <参考書等>

「病弱児の心理的支援に関する研究－病気の受容の観点から－」中内みさ、現代図書  
随時、紹介する。

## 知的障害児教育総論

〔担 当 者〕 青山 新吾  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

知的障害のある児童・生徒の心理・生理・病理の特性やその暮らしの実態、教育課程および指導法を中心に概説する。あわせて、具体的な実践例を参考にしたレポートの作成とグループ内での発表を行い、学校現場における指導の実際が具体的にイメージできるよう講義を展開する。また、進路指導や家族の思いにも触れ、一人一人の児童・生徒とその家族の生活までを包括した教育の在り方について、共に考えていく講義である。

## ●到達目標：

・知的障害のある児童・生徒の暮らしや教育に関心を持ち、その教育の基礎的事項について理解して小レポートにまとめた上でそれを発表できること。基礎的事項の中心は  
 ・教育課程編成の考え方  
 ・教科と領域を合わせた指導の意味とその代表的な実践例  
 ・自立活動の指導における考え方  
 である。  
 ・特別支援学級の指導の基礎的事項について知り、それを自分のことばで発表できること。  
 ・それらを総括的に自分自身のことばで記述できること。

## ●成績評価の基準：

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 小レポート（期間中に数回提出）    | 3 0 % |
| 授業内の発表を振り返った感想レポート | 2 0 % |
| 学期末試験              | 5 0 % |

## ●留意事項：

オフィスアワーは講義中に指示する。電子メールでの質問、相談は随時受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

学校現場での勤務経験や、現在、指導・助言でかかわっている特別支援学校や特別支援学級での具体的なエピソードや最新の知見を講義内で積極的に取り扱う。これにより、理解が難解な知的障害のある児童生徒への教育課程や自立活動の指導を、具体的な状況と重ねながら理解できるようにする。また、交流及び共同学習やキャリア教育についても、単に知識としての理解に終わらぬよう、具体的な実践と往還しながら授業を展開していく。

## ●授業予定一覧：

- 1 知的障害のある子どもの暮らし
- 2 知的障害のある子どもへの教育—その現状—
- 3 知的障害の特性
- 4 知的障害のある子どもへの学校教育
- 5 教育課程と指導形態
- 6 各教科等を合わせた指導（1）基本的な考え方
- 7 各教科等を合わせた指導（2）生活単元学習等
- 8 各教科等を合わせた指導（3）作業学習
- 9 自立活動の指導（1）基本的な考え方
- 10 自立活動の指導（2）指導の実際
- 11 各教科別の指導
- 12 特別支援学級における教育（1）教育課程と指導形態
- 13 特別支援学級における教育（2）交流及び共同学習
- 14 軽度な知的障害のある子どもの世界と暮らし
- 15 特別支援教育とキャリア教育
- 16 試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の講義で、その日の内容に関連した参考文献や、参考 URL を紹介する。また manaba を活用して講義に関連する情報を適宜発信する。これらを活用して、講義の内容について理解や思索を深めて欲しい。また、期間中に数本の小レポートを課すが、これは、講義内で他の受講生の作成したレポートと交流することによって、新たな気付きや学びを促す意図を持っている。各自、丁寧な事前学習によるレポート作成を行った上で講義に臨んで欲しい。また、ボランティア等の障害児者に直接出会う機会を作っていくことも大切である。

## 【必携書（教科書販売）】

『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省、文部科学省、海文堂出版  
 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』、文部科学省、開隆堂  
 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』総則編（幼稚園・小学部・中学部）、文部科学省、開隆堂

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
 資料は必要に応じて講義内で配布する。  
 ＜参考書等＞  
 『特別支援学級の異学年・小集団指導のポイント』青山新吾編著、学事出版  
 『気になる子のためのキャリア発達支援』菊地一文、学事出版

## 肢体不自由児教育総論

〔担 当 者〕 佐藤 暁  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

脳性まひ等をはじめとする肢体不自由のある子どもを対象とした、教育支援の理論と実践について講義をする。講義の前半では、標準的な運動発達の道筋を詳細に解説する。それを踏まえ、後半の講義では、脳性まひ児を中心とした動作不自由の特徴と特有の運動発達について詳しく説明するとともに、具体的な教育支援の手だてと教育課程について論ずる。あわせて、肢体不自由に重複する障害（知的障害・LD等）と、それに対応する教育支援についても触れたい。

## ●到達目標：

脳性まひ等をはじめとする肢体不自由のある子どもの理解を深めるとともに、教育支援及び教育課程に関する知識を得る。

## ●成績評価の基準：

小レポート50％、試験50％

## ●留意事項：

受講の条件はとくにありません。

なお、担当者が非常勤のため、オフィスアワーを設けることができませんが、可能な限り、授業の前後に時間をとりたいと思います。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション・授業計画の提示
  2. 運動発達の道筋① 総論
  3. 運動発達の道筋② 腹臥位の発達
  4. 運動発達の道筋③ 背臥位の発達
  5. 運動発達の道筋④ 坐位の発達
  6. 運動発達の道筋⑤ 立位・歩行の発達
  7. 動作不自由と動作発達① 脳性まひの類型
  8. 動作不自由と動作発達② 臥位における不自由と発達
  9. 動作不自由と動作発達③ 坐位における不自由と発達
  10. 動作不自由と動作発達④ 床上運動における不自由と発達
  11. 肢体不自由児の教育支援① 教育支援の実際
  12. 肢体不自由児の教育支援② 教育課程（総論）
  13. 肢体不自由児の教育支援③ 教育課程（自立活動）
  14. 肢体不自由児の教育支援④ 重複障害（知的障害・LD等）への対応
  15. 肢体不自由児の生活支援
- 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、その回の内容に関して参考図書等を紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

障がいのある子の保育・教育のための実践障がい学、ミネルヴァ書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 授業中に紹介する



## 重複障害児教育総論

〔担 当 者〕 本保 恭子  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義・実習 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o1

### ●本授業の概要：

重複障害児（言語障害を含む）の教育の場と教育内容・方法について、教育課程編成上の特例の必要性和内容や個別の指導計画について解説する。その後、重複障害児に実際に接する機会（重複障害児が在籍する特別支援学校の見学）を持つ。

### ●到達目標：

1. 重複のバリエーションや言語障害を個々の特徴として捉えることができる。
2. 重複障害の種類と教育の現場および教育課程について説明できる。
3. 個別の指導方法を柔軟な発想で工夫し考案できる。

### ●成績評価の基準：

- ・提出課題 4 0 %（到達目標 1, 2）
- ・レポート 6 0 %（到達目標 1, 2, 3）

### ●留意事項：

- ・10月1日（1～4時限）、8日（1～4時限）、15日（1～4時限）、29日（1～4時限：学外見 学実習）の4日間で完結、集中講義として実施する。
- ・特別支援教育の集大成という意識を持ち受講してほしい。
- ・オフィスアワー 火曜日 7、8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 重複障害の種類と教育の現場および教育課程
- 2 知的障害特別支援学校と肢体不自由特別支援学校における重複障害児の心理・生理・病理と指導
- 3 病弱者（身体虚弱者を含む）である児童又は生徒に対する教育を主として行う特別支援学校における重複障害児の心理・生理・病理と指導
- 4 療育施設と連携した支援
- 5 訪問教育における指導
- 6 肢体不自由特別支援学校における重複障害児への支援体験
- 7 肢体不自由特別支援学校における重複障害児への支援体験
- 8 まとめ

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）病弱・虚弱支援学校および死体不自由支援学校における重複障害児の現状（重複の種類や割合）を、授業開始までに調べておいてほしい。  
（復習）講述した教育課程の内容を元に「ワークシート」という作業課題を作成する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 視覚障害児教育総論

〔担 当 者〕 竹村 英一  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o1

### ●本授業の概要：

本授業は、視覚障害児教育の具体的な内容・方法について学ぶことで、視覚に障害があると生活や学習において多くの困難が生ずるが、触覚や聴覚等、視覚以外の感覚の活用や教材教具や指導方法・指導内容の工夫により困難さの軽減が可能であることを理解し、視覚障害児教育についての理解を深めるとともに、特別支援教育全般についての関心を高めることを目的とする。

### ●到達目標：

- 1 視覚障害児の定義、視覚機能（眼球）について理解し、説明ができる。
- 2 視覚障害児教育の歴史について知り、現在の就学制度や教育課程について説明できる。
- 3 全盲児、弱視児、重複障害児、それぞれの実態に応じた教材教具の活用や配慮事項について説明ができる。
- 4 視覚障害児の生活上や学習上の合理的配慮について説明できる。

### ●成績評価の基準：

授業後の振り返りシート 20%（到達目標1,2,3,4）  
定期試験 80%（到達目標1,2,3,4）

### ●留意事項：

本授業は授業実践の具体についてはDVDを活用するので、視聴しやすい座席に着くこと。

### ●実務経験の授業への活用方法：

盲学校の教諭として8年、校長として4年の勤務経験があることから、全盲児の指導については点字印刷物等、具体的な教材を活用し、視覚障害者への系統的な指導、個の実態に即した指導の有効性を実感させ、このことは視覚障害児教育のみならず、全ての教育の原点であることを気付かせる。

### ●授業予定一覧：

- 1 視覚障害児の生理・病理
- 2 視覚障害児教育の歴史及び教育課程
- 3 盲児への指導内容と支援
- 4 弱視児への指導内容と支援
- 5 視覚障害児の自立活動
- 6 自立活動の実際と留意事項
- 7 重複障害児教育
- 8 視覚障害児教育の現状と課題、定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、担当者の自作資料と文科省の特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編を使用する。該当部分に眼を通し、授業ごとの大まかなイメージをもって臨むこと。（20分程度）  
（復習）授業では盲学校の授業風景や具体的な教材等を取りあげるので、授業前のイメージと比較し、視覚障害児教育についての理解・認識を深める。（20分程度）

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

< 必携書 >

特別支援学校教育要領・学習指導要領自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）平成30年3月  
文部科学省  
< 参考書 >  
「視覚障害教育に携わる方のために」香川邦生（編）慶應義塾出版会  
授業時に、適宜資料を配布する。



## 聴覚障害児教育総論

〔担当者〕 國末 和也  
 〔開講期〕 2期  
 〔授業形態〕 講義 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o1

## ●本授業の概要：

聴覚障害の定義を確認し、聴覚障害児教育の指導内容や指導方法、自立活動、合理的配慮、コミュニケーション方法等を学ぶことにより、聴覚障害児教育の概要を理解することを目的とする。また、聴覚障害児教育の現状や特別支援学校（聴覚障害）のセンター的機能について考察し、聴覚障害児教育の課題や展望をディスカッションにより理解を深める。

## ●到達目標：

1. 聴覚障害児教育の基本概念とシステムについて説明することができる。
2. 聴覚障害児の特性、コミュニケーション方法、指導法について説明することができる。
3. ディスカッションを積極的に実行することができる。

## ●成績評価の基準：

授業態度（ディスカッション、コメントカード） 40%（到達目標1,2,3）  
 定期試験（レポート）60%（到達目標1,2）

## ●留意事項：

本授業を履修する学生は、時間厳守のうえ不要な私語を慎み、スマートフォン等の使用を控えること。  
 授業中での説明等に疑問がある場合には、遠慮せず尋ねること。  
 授業終了後に教室で質問を受け付ける。  
 コメントカードに授業の感想、質問等を記入し提出すること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

小学校や特別支援学校（聴覚障害）に勤務した経験から、聴覚障害のある子どもの実情や教育について、より具体的に話題提供を行う。学生自身の聴覚障害児・教育への理解・関心の高まりを促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 特別支援教育と聴覚障害児教育
- 2 聴覚障害の定義と心理・生理・病理
- 3 教育課程の編成
- 4 多様なコミュニケーション方法
- 5 早期教育と合理的配慮
- 6 教科指導と自立活動
- 7 障害の多様性と特別支援学校（聴覚障害）のセンター的機能
- 8 聴覚障害児教育の課題及び展望  
定期試験（レポート）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）授業予定のテーマに関してレジュメを熟読し、関連する話題について、新聞や放送（DVDの視聴を含む）及び書籍、文献研究等によりまとめておくこと。（40分）

（復習）授業前後の理解や認識を振り返る。（20分）

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## &lt;必携書&gt;

テキストは使用しないがレジュメを配布する。

## &lt;参考書等&gt;

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）」、文部科学省、開隆堂

「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」、文部科学省、開隆堂

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）」、文部科学省、開隆堂

## LD 児等教育総論

〔担当者〕 東 俊一  
 〔開講期〕 2期  
 〔授業形態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

限局性学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害等、発達障害の特徴について理解したうえで、それらの障害を持つ子どもへの特別支援、教育的配慮の理論と実践について述べる。また、「指導法の検討」では manaba において次回授業で検討する事例について事前に提示し学生が考察する機会を設定した上で、授業では事例についてアセスメントや支援方法についてディスカッション・ディベートを行う。

## ●到達目標：

1. 限局性学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害の状態像について説明できる。
2. 彼らの生活環境とその影響について説明できる。
3. 一人一人の特性と環境との相互作用から生じる問題について説明できる。
4. 個々の特徴に応じた支援計画を作成することができる。

## ●成績評価の基準：

期末テスト 40%  
 レポート・小テスト 60%

## ●留意事項：

授業進行に伴い、レポートを課す。  
 オフィスアワー 月曜 1,2限

## ●実務経験の授業への活用方法：

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験、及び岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、特別な支援を要する児童の教育現場における困難内容と支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 発達障害とは
- 2 限局性学習障害とは－生理・病理的背景と心理的特徴
- 3 注意欠陥多動性障害とは－生理・病理的背景と心理的特徴
- 4 自閉症スペクトラム障害とは－生理・病理的背景
- 5 自閉症スペクトラム障害とは－心理的特徴
- 6 個別教育支援計画の方法－目標設定
- 7 個別教育支援計画の方法－学習環境の理解
- 8 個別教育支援計画の方法－学習環境の整備
- 9 指導法の検討－“読み書き”に関する学習指導
- 10 指導法の検討－“計算・推論”に関する学習指導
- 11 指導法の検討－集団活動参加への支援
- 12 指導法の検討－行動問題への支援
- 13 指導法の検討－コミュニケーションへの支援
- 14 指導法の検討－二次障害の予防と支援
- 15 支援体制・連携のありかた
- 16 テスト

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、1回目に資料を配布します。可能な限り授業の前日までに資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。また、「指導法の検討」では manaba において次回授業で検討する事例について提示します。必ず、授業開始までに事例について考察した上で受講してください。（復習）授業時に資料に書き込んだ内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するよう学習を進めてください。また、「指導法の検討」では、授業内容をもとに具体的な目標設定や指導計画を作成して提出してもらいます。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

特別支援教育実習事前事後指導

〔担 当 者〕 青山 新吾・日下 紀子  
〔開 講 期〕 通年  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o1

●本授業の概要：

特別支援学校での実習の理解に努め、その準備を行う。また実習後、体験の報告・反省を行い、実習で得たものを確かな実りあるものにするとともに、自分の新たな課題を探る。

●到達目標：

・実習に臨む基礎的知識を修得して、それを自分のことばで表現できる。  
・特別支援学校での教育実習での自分自身の学びについて、テーマを1つ設定する。そのテーマについて、具体的なエピソードを取り上げながら、視覚的なプレゼンテーションの工夫を行って表現することができる。また、その学びの内容について、自分自身のことばで考察を行うことができる。  
・他の実習生の発表と自分の教育実習での学びを重ね合わせて考察し、その気付き等をレポートにまとめることができる。

●成績評価の基準：

・実習の反省と体験の発表 20%  
・レポート提出 「特別支援教育実習での私の学び」 80%

●留意事項：

・実習参加の準備や振り返りとして、毎回の出席が必要である。  
・オフィスアワーは、授業中に指示する。電子メール等での質問、相談は随時受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

特別支援学校に指導・助言としてかかわっている立場から得られた最新の知見を活用し、教育実習の事前指導において指導案の作成や具体的な児童生徒の実態把握、指導法の実践的な指導を行う。教育実習後の事後指導においては、受講生の具体的な体験を意味づけ、実践と理論を往還させながら、実習での学びを省察し、特別支援教育に携わる教員としての基礎的な力をつけられるように指導を行う。

●授業予定一覧：

- オリエンテーション
- 障害児教育実習の計画と心得
- 教職の服務
- 実習前特別講義 特別支援学校教員による基礎講義
- 実習前指導 知的障害児教育の教育課程
- 実習前指導 学習指導案作成
- 実習前指導 教材・教具の作成、活用
- 実習前指導 自閉症スペクトラムの児童生徒の理解
- 実 習
- 実習の報告・反省 (西備支援)
- 実習の報告・反省 (岡山西支援)
- 実習の報告・反省 (岡山南支援)
- 実習の報告・反省 (岡山東支援)
- 実習の報告・反省 (倉敷支援、東備支援)
- 実習の報告・反省 (岡山支援、岡山瀬戸高等支援)
- まとめ

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

教育実習前は、各自の実習校や配当クラスの実態に合わせて、授業構想や教材等について検討しながら、講義を受講して準備を行って欲しい。実習後は、それぞれの学びの省察を行って各自の報告・反省プレゼンテーションの準備をした上で講義に臨むこととする。また、なされた報告・反省については manaba を活用して担当教員のコメントを発信するので、それを参考に再度の振り返りを期待している。

【必携書(教科書販売)】

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省、海文堂出版  
『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』、文部科学省、開隆堂  
『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』総則編(幼稚園・小学部・中学部)、文部科学省、開隆堂

特別支援教育実習

〔担 当 者〕 青山 新吾・日下 紀子  
〔開 講 期〕 通年  
〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

●本授業の概要：

大学において学んだ特別支援教育の理論に基づいて特別支援学校において教育実習を行い、対象児の理解とそれに伴う指導・支援のあり方を学ぶ。

●到達目標：

障害のある児童・生徒に対する特別支援学校における教育のあり方を理解し、基本的技能を習得する。  
・教育実習での日々の実践を積み重ねて、そこで得た学び、気付き、課題等を実習担当教員に話したり、実習日誌に記述したりすることができる。  
・各教科もしくは教科と領域を合わせた指導の学習指導案を作成し、授業を実施することができる。

●成績評価の基準：

・実習校における評価 90%  
・実習日誌の作成・提出状況 等 10%

●留意事項：

・欠席と提出物の遅れは、基本的には認められない。  
・オフィスアワーは、授業中に指示する。電子メール等での質問は随時受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

各実習校で、実習の内容や方法は若干異なるが、2週間の主な実習内容は次の通りである。

開始式  
観察  
児童生徒への指導・支援等  
校長講話  
講義 (学習計画、学部方針、指導案の作成の仕方 等)  
学校行事への参加  
研究授業・教室運営  
学級・学年反省会  
お別れ会  
終了式

なお、2019年度の実習期間は、実習校によって異なり、以下の通りである。

西備支援学校 5月27日(月)～6月7日(金)  
岡山西支援学校 6月3日(月)～6月14日(金)  
岡山東支援学校 6月3日(月)～6月14日(金)  
岡山南支援学校 6月3日(月)～6月14日(金)  
東備支援学校 6月3日(月)～6月14日(金)  
倉敷支援学校 6月10日(月)～6月21日(金)  
岡山瀬戸高等支援学校 9月6日(金)～9月20日(金)  
岡山支援学校 9月12日(木)～9月27日(金)

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

各実習校の担当教員の指導、指示を受けながら、丁寧な準備と振り返りによって、積極的に実習に臨むことを期待している。

【必携書(教科書販売)】

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』文部科学省、海文堂出版  
『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』、文部科学省、開隆堂  
『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説』総則編(幼稚園・小学部・中学部)、文部科学省、開隆堂

## 社会福祉学

〔担 当 者〕 杉山 博昭  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2340-o2

### ●本授業の概要：

現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。特に、社会福祉と、児童福祉・児童の人権・家庭支援との関連性について把握する。また、社会福祉の制度や実施体制、財政等について考えていく。さらに、制度を活用した相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉が今後発展していくうえでの課題を検討する。

### ●到達目標：

1. 少子高齢化をはじめとした社会福祉の課題について理解し、解決策を提案することができる。
2. 生活を支えている福祉制度やサービスの仕組みを説明することができる。
3. 社会福祉全体のなかでの児童福祉の位置づけを把握し、児童をめぐる諸課題に対して、福祉の立場から援助していくことができる。
4. 専門職のあり方や、社会保障制度など関連領域について説明することができる。

### ●成績評価の基準：

レポート 20% (到達目標1,2)  
 授業中の課題への取り組み 20% (到達目標3)  
 定期試験 60% (到達目標1,2,3,4)

### ●留意事項：

社会福祉のサービスや制度改正について、新しい情報を把握すること。  
 少子高齢社会での諸問題について、主体的に考える姿勢をもって受講すること。  
 オフィスアワー 火曜日 1,2時限  
 質問は随時、電子メールで受け付ける（アドレスは第1回授業時に提示）。

### ●実務経験の授業への活用方法：

特別養護老人ホームの介護や、障害者作業所での障害者支援に携わっていた経験から、社会福祉の課題を福祉現場の現実を踏まえて提起していくことで、学生が理念にとどまらず人々の生活実態から実践的に問題を捉えていくことを促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 社会福祉の理念と概念
  - 2 社会福祉の歴史の変遷
  - 3 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
  - 4 児童の人権擁護と社会福祉
  - 5 家庭支援と社会福祉
  - 6 社会福祉の制度と法体系
  - 7 社会福祉行政と実施機関
  - 8 社会福祉施設などの福祉サービス
  - 9 社会福祉の専門職
  - 10 社会保障及び関連制度
  - 11 社会福祉における相談援助
  - 12 社会福祉の利用者保護
  - 13 少子高齢化社会への対応と諸外国の動向
  - 14 在宅福祉・地域福祉の推進
  - 15 関連領域との連携・ネットワーク
- 定期試験（筆記試験）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

教科書の各章の末尾に掲載されている参考文献を閲覧すること。教科書の各章における課題を列挙して、法律や制度を確認すること。これら事前・事後の学習を各1時間程度行うこと。

### 【必携書（教科書販売）】

『八訂 保育士をめざす人の社会福祉』, 相澤譲治・杉山博昭編, みらい

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 授業時に随時紹介する。

## 児童福祉学

〔担 当 者〕 八重樫 牧子  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-1000-o2

### ●本授業の概要：

高齢化、少子化が進行する中、これからの子ども家庭福祉は子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した子育て・子育て支援の展開が求められている。

本講義では、子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズ、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、そして子ども家庭福祉の動向と展望など子ども家庭福祉の基本的な知識について理解することを目的とする。授業外でも、前もって配布するサブノートを活用した授業の準備や、毎回、配布するリアクションペーパーに授業で学んだことの振り返りを行うなどの自主学習を行う。

### ●到達目標：

1. 子どもや家庭を取り巻く社会状況や福祉ニーズについて説明できる。
2. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できる。
3. 子どもの権利保障について説明できる。
4. 子ども・家庭福祉の相談援助活動において必要となる子ども・家庭福祉制度等について説明できる。
5. 子ども家庭福祉の現状と課題について説明できる。
6. 子ども家庭福祉の動向と展望について説明できる。

### ●成績評価の基準：

リアクションペーパー：20%（到達目標1,2,3,4,5,6）  
 定期試験：80%（到達目標1,2,3,4,5,6）

### ●留意事項：

子どもや子育て家庭にかかわる問題（子どもの貧困、児童虐待、障害児、子育て不安など）について掲載されている新聞記事や本を積極的に読んでほしい。  
 質問等がある場合は、授業中あるいは授業後に、遠慮なく尋ねてほしい。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

- 1 現代社会と子ども家庭福祉
- 2 子ども家庭福祉の理念と概念
- 3 子ども家庭福祉の歴史の変遷
- 4 子どもの権利保障
- 5 子ども家庭福祉の制度と法体系
- 6 子ども家庭福祉の実施機関・児童福祉施設
- 7 子ども家庭福祉の専門職
- 8 子ども家庭福祉の現状と課題①保育と地域子育て支援
- 9 子ども家庭福祉の現状と課題②母子保健と子どもの健全育成
- 10 子ども家庭福祉の現状と課題③子ども虐待・DVなどへの支援
- 11 子ども家庭福祉の現状と課題④ひとり親家庭への支援
- 12 子ども家庭福祉の現状と課題⑤社会的養護
- 13 子ども家庭福祉の現状と課題⑥子どもの非行や貧困などへの支援障
- 14 子ども家庭福祉の現状と課題⑦障害のある子どもへの支援
- 15 子ども家庭福祉の動向と展望
- 16 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

＜予習＞毎回授業前に、前もって配布したサブノートの該当箇所にキーワード等を記入して、授業に臨むこと。  
 ＜復習＞毎回、授業で配布するリアクションペーパーに、授業で学んだことを振り返り、気づいたこと等などを記入し、次の授業前に提出する。

### 【必携書（教科書販売）】

子ども家庭福祉論, 赤木正典・流王治郎編著, 建帛社

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 最初の授業に、サブノートを配付する。  
 毎回、リアクションペーパーを配布する。  
 必要に応じて資料プリントを配布する。  
 参考書は授業中に適宜紹介する。

## 保育原理

〔担 当 者〕 伊藤 美保子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-1000-o2

### ●本授業の概要：

保育とは何か、どのような保育者を目指すのかを常に根幹に置き、乳幼児期の子どもの遊びや発達の道すじと保育の内容を年齢別、領域別等の側面から捉え、総合的に発達していく子どもの様相を学ぶ。  
さらに、乳幼児の自ら育とうとする力や、保育者のあり方、援助の仕方等を探る。

### ●到達目標：

1. 乳幼児の発達や遊びについて総合的に捉える視点について、その基礎を理解し、説明することができる。
2. 保育士の専門性とその重要性を理解し、その基礎を説明することができる。

### ●成績評価の基準：

授業への取り組み度 20％  
課題提出 30％  
筆記試験 50％

### ●留意事項：

保育について、幅広い視野から、学習を進める意欲を持って参加すること。  
オフィスアワー 火曜日 7,8時限 金曜日7,8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

保育士としての経験を踏まえて、保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

### ●授業予定一覧：

1. 保育の意義と理念
2. 保育における「子ども理解」
3. 保育の制度と現状
4. 保育の歴史と思想
5. 保育の内容と方法（保育指針におけるねらいと内容）
6. 保育の内容と方法（環境および保育形態）
7. 乳幼児の遊びと生活（領域の捉え方と遊びの展開）
8. 保育計画と指導計画
9. 保育記録とその実際
10. 保育者の職務内容（組織の中の役割と連携）
11. 健康・安全と多様な子どもへの対応
12. 子育て支援と地域との連携
13. 保育士の任務と専門性
14. 保育の現状と今後の課題
15. まとめ
16. 筆記試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で配布する資料に目を通し、事後学修を深めること。授業で紹介する参考図書から、保育への関心を広げていってほしい。

### 【必携書（教科書販売）】

保育所保育指針解説（平成30年3月）、厚生労働省、フレーベル館  
幼稚園教育要領解説（平成30年3月）、文部科学省、フレーベル館  
保育所保育指針＜平成29年告示＞、厚生労働省、フレーベル館  
『保育原理』（新しい保育講座1）、渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀（編）、ミネルヴァ書房

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
授業中に紹介する。  
伊藤美保子ほか『保育の中の子ども達』大学教育出版  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領、内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館

## 相談援助 [a]

〔担 当 者〕 西 隆太郎  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3400-o1

### ●本授業の概要：

この授業では、相談援助の概要・方法・技術とその具体的展開について学ぶ。また、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。とくに、援助の対象となる子どもや家庭と、相談を通してどのように関係を築いていくかを重視する。

### ●到達目標：

1. 保育士に求められる相談援助者（ソーシャルワーカー）の視点を理解する。
2. 保育士に求められる相談援助の理論を理解する。
3. 保育士に求められる相談援助の技術を理解する。
4. 相談援助の理論・技術・視点について、ロールプレイを通じて体験的に理解する。

### ●成績評価の基準：

1. レポート 60％  
授業で学んだ相談援助の理論・技術を踏まえて、保育士に求められる相談援助者の視点について論じること。
2. 各授業ごとに提出する小レポート 30％  
各回の内容を踏まえて、相談援助の理論・技術・視点に関する自らの考えを述べること。
3. ロールプレイ等による授業への参加 10％  
授業で実施するロールプレイ等に参加し、相談援助の理論・技術・視点について理解する体験をすること。

### ●留意事項：

オフィスアワー 金曜日3・4限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 相談援助の理論・意義・機能
2. 保育における相談援助とソーシャルワーク
3. 相談援助の対象と過程
4. 相談援助の技術・アプローチ
5. 相談援助の計画・記録・評価
6. 多様な機関および社会資源の活用・連携
7. 事例分析 (1) 虐待の予防と障害の問題
8. 事例分析 (2) ロールプレイ

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業に関する連絡を manaba folio で行い、授業内容に関連する資料等、予習・復習についても連絡します。  
受講者は必ず「リマインダ機能」を ON にし、連絡メールが受け取れるようにしてください。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】



## 相談援助 [b]

〔担 当 者〕 西 隆太郎  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義・演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3400-o1

## ●本授業の概要：

この授業では、相談援助の概要・方法・技術とその具体的展開について学ぶ。また、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。とくに、援助の対象となる子どもや家庭と、相談を通してどのように関係を築いていくかを重視する。

## ●到達目標：

1. 保育士に求められる相談援助者（ソーシャルワーカー）の視点を理解する。
2. 保育士に求められる相談援助の理論を理解する。
3. 保育士に求められる相談援助の技術を理解する。
4. 相談援助の理論・技術・視点について、ロールプレイを通じて体験的に理解する。

## ●成績評価の基準：

1. レポート 60%  
授業で学んだ相談援助の理論・技術を踏まえて、保育士に求められる相談援助者の視点について論じること。
2. 各授業ごとに提出する小レポート 30%  
各回の内容を踏まえて、相談援助の理論・技術・視点に関する自らの考えを述べること。
3. ロールプレイ等による授業への参加 10%  
授業で実施するロールプレイ等に参加し、相談援助の理論・技術・視点について理解する体験をすること。

## ●留意事項：

オフィスアワー 金曜日3・4限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 相談援助の理論・意義・機能
2. 保育における相談援助とソーシャルワーク
3. 相談援助の対象と過程
4. 相談援助の技術・アプローチ
5. 相談援助の計画・記録・評価
6. 多様な機関および社会資源の活用・連携
7. 事例分析 (1) 虐待の予防と障碍の問題
8. 事例分析 (2) ロールプレイ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業に関する連絡をmanaba folioで行い、授業内容に関連する資料等、予習・復習についても連絡します。

受講者は必ず「リマインダ機能」をONにし、連絡メールが受け取れるようにしてください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 社会的養護

〔担 当 者〕 本保 恭子  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

社会的養護が必要となる養護問題の現代的背景と社会的養護の体系、原理、児童福祉施設の役割と実際を学び、児童福祉にたずさわる援助者の役割と専門性について考える。家庭養護の一つの手段である「里親」に関しては、里親経験者および児童相談所併の実践についてお話をうかがう機会を持つ。あわせて障害児・者の福祉についても概観する。

## ●到達目標：

1. 社会的養護の体系や実際について理解し、説明できる。
2. 援助者の役割を考えることができるようになる。
3. 社会的養護の支援の実際について、具体的にイメージすることができる。
4. 保育実習やボランティアの場面における社会的養護の理念に基づいた実践への姿勢が確認できる。

## ●成績評価の基準：

ワークシート・小テスト 40%（到達目標1, 2）  
 筆記試験 60%（到達目標1, 2, 3, 4）

## ●留意事項：

この授業では、予習・復習として施設の概要についてのワークシート作成が求められる。

また、記憶しなければならない内容が多いため小テストを実施する。

毎回授業を真剣に聞くとともに、復習に力を入れてほしい。

オフィスアワー 火曜日 7,8時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 家庭の役割と機能
2. 社会的養護の必要性
3. 児童養護の歴史
4. 児童養護の理論的な流れ
5. 児童養護の体系
6. 家庭的養護 里親
7. 家庭的養護 養子縁組
8. 施設養護の基本原則
9. 施設養護の実際 日常生活場面での支援・治療的養育
10. 施設養護の実際 被虐待児への支援 喪失体験への支援
11. 施設養護の実際 リービングケアとアフターケア
12. 自立支援計画
13. 施設養護、家庭的養護のこれからの課題
14. 児童福祉施設職員の資質と専門性
15. 障害児と社会的養護
16. 試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）近隣の福祉施設と、そこで生活する児童や障害者および職員に関心を持ち、関連新聞記事や書籍を読む。

（復習）福祉施設の設備、物理的環境、職員、ケアについてまとめるワークシートを作成する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 保育者論

〔担 当 者〕西 隆太郎  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-1000-o2

### ●本授業の概要：

1. 保育者の役割と倫理について理解する
2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。
3. 保育士の専門性について考察し、理解する。
4. 保育者の協働について理解する。
5. 保育者の専門職的成長について理解する。

### ●到達目標：

1. 保育者の専門性、保育士の制度的な位置づけなど、授業で学んだ内容を理解することができる。
2. 上記を踏まえて、保育者のあり方について自らの考えをもつことができる。

### ●成績評価の基準：

1. レポート 70 %  
保育者の専門性、保育士の制度的な位置づけなど、授業で学んだ内容についての理解を踏まえて、保育者のあり方について自らの考えをもち、関連する問題について論述する。
2. 各授業ごとに提出する小レポート 30 %  
各回の内容についての理解を踏まえて、保育者のあり方に関連する自らの考えを述べる。

### ●留意事項：

オフィスアワー 金曜日3・4限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 保育者の役割
2. 保育者の倫理
3. 保育士の資格・要件
4. 保育士の責務
5. 保育士の専門性 (1) 養護と教育
6. 保育士の専門性 (2) 保育士の資質・能力
7. 保育士の専門性 (3) 知識・技術及び判断
8. 保育士の専門性 (4) 保育の省察
9. 保育士の専門性 (5) 保育課程による保育の展開と自己評価
10. 保育者の協働 (1) 保育と保護者支援にかかわる協働
11. 保育者の協働 (2) 専門職間及び専門機関との連携
12. 保育者の協働 (3) 保護者及び地域社会との連携
13. 保育者の協働 (4) 家庭的保育者等との連携
14. 保育者の専門職的成長 (1) 専門性の発達
15. 保育者の専門職的成長 (2) 生涯発達とキャリア形成
16. レポート

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業に関する連絡を manaba folio で行い、授業内容に関連する資料等、予習・復習についても連絡します。

受講者は必ず「リマインダ機能」を ON にし、連絡メールが受け取れるようにしてください。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

・西 隆太郎『子どもと出会う保育学——思想と実践の融合をめざして』ミネルヴァ書房

授業中に販売します。初回の授業時に、一人2000円をご持参ください。

・『保育所保育指針』厚生労働省

・『幼稚園教育要領』文部科学省

・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省

## 児童臨床心理学 I

〔担 当 者〕東 俊一  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

### ●本授業の概要：

近年、児童は変化し続ける社会環境の中でそれらの影響を受けながら生活している。本授業では、それらの児童に対する臨床心理学のあり方と、子ども理解・援助の概要について述べる。

### ●到達目標：

1. 児童の臨床・発達の危機について説明できる。
2. 児童に現れる社会生活上の困難について説明できる。
3. 児童の心理・行動アセスメント方法を説明できる。
4. ストレスや怒りの生産的な活用方法について理解、実行できる。

### ●成績評価の基準：

レポート・小テスト 100%

### ●留意事項：

授業進行に伴い、数回の小テストまたはレポートを課すことがある。  
オフィスアワー 月曜 1,2限

### ●実務経験の授業への活用方法：

岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、近年の児童が抱える心理・行動上の問題やそのアセスメントのあり方、それに対する予防と早期発見・支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 臨床心理学とは
- 2 児童の臨床・発達の危機
- 3 児童の臨床心理学
- 4 児童に現れる社会生活上の困難
- 5 心理・行動アセスメントー目的
- 6 心理・行動アセスメントー機能分析
- 7 心理・行動アセスメントー課題分析
- 8 面接・観察・質問紙法
- 9 心理検査法
- 10 ストレスとは
- 11 児童がさらされるストレス
- 12 児童のためのストレスマネジメント
- 13 児童のためのアンガーマネジメント
- 14 児童の社会的スキル
- 15 児童のための社会的スキル訓練

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、1回目に資料を配布します。可能な限り授業の前日までに資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。

（復習）授業時に資料に書き込んだ内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するよう学習を進めてください。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 児童臨床心理学Ⅱ

〔担 当 者〕 日下 紀子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3400-o2

## ●本授業の概要：

乳幼児期から学童期にかけての心理・精神発達と親子関係・家族関係について事例をもとに考え、さらに現代の子どもを取り巻く精神保健上の緊急課題である児童虐待の問題を取り上げる。虐待に走る養育者の心理、傍観する人々の心理、長期にわたって被虐待状況の中に置かれた子どもたちが獲得してしまう精神保健上の問題等、心理臨床的な課題について理解するとともに、どのような心理的支援ができるのかのについて学ぶ。

## ●到達目標：

1. 家族・家庭の意義や機能を理解し、説明することができる。
2. 親子関係や家族関係等について発達の・心理臨床学的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉えた視点を習得し提示することができる。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、その心理的な支援について考えることができる。

## ●成績評価の基準：

講義への参加の積極性と学習の工夫 20%  
中間レポート 20%  
期末試験 60%

## ●留意事項：

事例を紹介し、これを軸にしなが講義を進めていく予定である。講義の内容に自分の経験と重ね合わせながら実感をもって理解しつつ授業に参加されたい。

オフィスアワー 授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士として医療機関や心理相談専門機関にて心理臨床業務に携わってきた経験から、事例や課題について臨床的に取り上げ、その背後にある心理力動や関係性について多面的・多角的に理解していく。また、臨床現場における連携の実際についても取り上げ、臨床的・実践的に考える基盤の構築を促す。

## ●授業予定一覧：

1. 虐待問題を傍観する社会の人々の心理
  2. 虐待事件の報道に見る社会の認識と虐待者の劣等感
  3. 支援対象はだれか
  4. 虐待事例について考える
  5. 虐待者の心理・何から逃れたくて虐待に走るか
  6. 虐待発生とその後の進行の心的メカニズム
  7. 虐待の予防とは
  8. 虐待支援になぜネットワークが重要か
  9. 被虐待児の心理
  10. アタッチメントの障害
  11. 情動制御の障害
  12. 解離性障害
  13. 乳児期の心の発達と頻出する心の問題
  14. 幼児期の心の発達と頻出する心の問題
  15. 学童期の心の発達と頻出する心の問題
- 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

虐待事件がマスコミ報道に取り上げられることは、残念ながら珍しいことではない。過去の事件あるいは受講期間に報道される関連事件を考察してまとめるワークシートを課する予定である。また、授業で取り上げたテーマについて興味ある内容に関して、問題意識をもって授業内で紹介した参考図書や参考 URL などをもとに理解を深めてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 小児医学

〔担 当 者〕 山下 美保  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

本授業は、小児の発育・発達、栄養、主要な病気、事故、社会制度などについて学ぶことで、小児の健やかな成育のために具体的にできることを修得することを目的とする。授業では毎回、小児医学・小児保健についての基本的な学習を元に、学生自身の考察を促す課題を提示する。課題の提出は manaba folio を用いて授業時間外に自主学習として行う。

## ●到達目標：

1. 母子保健、小児の発育・発達、栄養、主要な病気、安全教育などについて、基本的な知識を身につける。
2. 小児の特徴を理解して説明することができる。
3. 小児の健康を積極的に増進し、障害を理解し、病気や事故を予防することに取り組むことをめざす。

## ●成績評価の基準：

課題：60%  
定期試験：40%

## ●留意事項：

オフィスアワー 金曜日5,6時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

本授業の主担当（山下）は小児科専門医・指導医、子どもの心相談医の資格を有している。専門は小児内分泌学で、子どもの成長と深く関わる分野である。また、特別講義をご担当される相原彰子先生は、公認心理士の資格を有され、小児心身症、精神科診療におけるご経験を活かしたテーマで授業を行っていた。同じく特別講義を行っていただく林原愛先生は、保育士として岡山大学病院付属の病児保育ルームにご勤務されており、病児保育の1日の様子や保育における注意点等について取り上げていただく。

## ●授業予定一覧：

1. 母子保健
2. 発育・発達Ⅰ（身体発育）
3. 発育・発達Ⅱ（精神運動発達）
4. 特別講義：～心理検査から理解を深める子どもの発達障害～（相原）
5. 栄養Ⅰ（乳児期）
6. 栄養Ⅱ（幼児期・学童期・思春期）
7. 子どもによくみられる症状とその対応
8. 事故と安全教育
9. 感染症Ⅰ
10. 感染症Ⅱ
11. アレルギー疾患
12. 血液疾患
13. 先天性疾患
14. 予防接種
15. 特別講義：～病児保育ルームからの現場の声～（林原）
16. 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（復習）毎回の授業で、その日の内容に関して提示された課題を、期限までに manaba folio で提出すること。

【必携書（教科書販売）】

子どもの保健 第7版、巷野悟郎、診断と治療社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<授業資料>

授業開始時に資料配付

## 保育の心理学演習 [a]

〔担 当 者〕 湯澤 美紀  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o1

### ●本授業の概要：

保育実践において、実態に応じて子ども一人ひとりの心身の発達や子どもの遊びを通した学びの姿を理解する。また、実際のエピソードを読み解きながら、子どもを理解するための多面的な視点を得るとともに、エピソードの記述の方法を学ぶ。そして、子どもの理解を踏まえたうえで、個への関わりと援助のあり方を考察していく。

### ●到達目標：

・授業で紹介した保育事例にもとづきながら、子どもを多面的に理解し、そこでの解釈を他者に伝えることができる。

### ●成績評価の基準：

課題（70％） レポート（30％）

### ●留意事項：

オフィスアワー 水曜日 1,2時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

保育現場・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して（岡山県専門家チーム）、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

### ●授業予定一覧：

第1 回 愛着の形成  
第2 回 感情・身体の発達  
第3 回 自己の認識から自尊感情の発達  
第4 回 言葉の発達  
第5 回 道徳性の発達  
第6 回 言葉の発達  
第7 回 社会的サポート  
第8 回 総括：子どもの発達における遊びの意味自らの体験をもとに)

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）毎回の授業の最後に、次回の内容に関連する参考図書を紹介する。講読を通して、次回までに関連領域の理解を深めておいてほしい。  
（復習）授業中にワークシートや課題を配布する。次回の授業の際に提出するように。また、補足的な課題については、manaba を通して指示を出す。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 保育の心理学演習 [b]

〔担 当 者〕 湯澤 美紀  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o1

### ●本授業の概要：

保育実践において、実態に応じて子ども一人ひとりの心身の発達や子どもの遊びを通した学びの姿を理解する。また、実際のエピソードを読み解きながら、子どもを理解するための多面的な視点を得るとともに、エピソードの記述の方法を学ぶ。そして、子どもの理解を踏まえたうえで、個への関わりと援助のあり方を考察していく。

### ●到達目標：

・授業で紹介した保育事例にもとづきながら、子どもを多面的に理解し、そこでの解釈を他者に伝えることができる。

### ●成績評価の基準：

課題（70％） レポート（30％）

### ●留意事項：

オフィスアワー 水曜日 1,2時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

保育・教育現場における指導・助言を行う実務経験を通して（岡山県専門家チーム）、現在の保育・学校教育における今日的な課題と解決の方法に関する資料を授業内において提示する。

### ●授業予定一覧：

第1 回 愛着の形成  
第2 回 感情・身体の発達  
第3 回 自己の認識から自尊感情の発達  
第4 回 言葉の発達  
第5 回 道徳性の発達  
第6 回 言葉の発達  
第7 回 社会的サポート  
第8 回 総括：子どもの発達における遊びの意味

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）毎回の授業の最後に、次回の内容に関連する参考図書を紹介する。講読を通して、次回までに関連領域の理解を深めておいてほしい。  
（復習）授業中にワークシートや課題を配布する。次回の授業の際に提出するように。また、補足的な課題については、manaba を通して指示を出す。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】



## 子どもの保健演習 [a]

〔担 当 者〕 本保 恭子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o1

### ●本授業の概要：

授業予定に示したテーマについて、数人からなるグループで、主に指定図書を参考にして調べ、レジュメを作成し発表する。  
 また、5回の復習テストも発表者が作成し、採点も行い、知識を深める。

### ●到達目標：

1. 子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識を習得し、子どもや保護者に説明できる。
2. 注意子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識の習得にとどまらず、保育者として子どもの健康状態を見極める観点について理解する。
3. 生活場面において、子どもの健康に留意した保育環境について評価できる。

### ●成績評価の基準：

発表資料と発表内容 50%（到達目標 1、2）  
 復習テスト 50%（到達目標 1、2、3）

### ●留意事項：

子どもの健康と成長を見守る親や保育者・教育者として必要な知識を習得し、その背景にある家族関係、社会環境も考慮できる姿勢を身につけてほしい。

オフィスアワー 火曜日7,8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 子どもの健康状態の把握
2. 日常における養護の方法
3. 保育環境づくり
4. 子どもの生活習慣
5. よくかかる病気
6. いざというときの応急処置
7. 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育
8. まとめと試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等について調べ、子どもや保護者に説明ができる資料を準備する。  
 （復習）授業のはじめに毎回、前回の演習内容についての復習小テストを実施する。発表のための準備と復習テストのために十分な授業外学習が望まれる。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 子どもの保健演習 [b]

〔担 当 者〕 本保 恭子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o1

### ●本授業の概要：

授業予定に示したテーマについて、数人からなるグループで、主に指定図書を参考にして調べ、レジュメを作成し発表する。  
 また、6回の復習テストも発表者が作成し、採点も行い、知識を深める。

### ●到達目標：

1. 子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識を習得し、子どもや保護者に説明できる。
2. 注意子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等についての知識の習得にとどまらず、保育者として子どもの健康状態を見極める観点について理解する。
3. 生活場面において、子どもの健康に留意した保育環境について評価できる。

### ●成績評価の基準：

発表資料と発表内容 50%（到達目標 1、2）  
 復習テスト 50%（到達目標 1、2、3）

### ●留意事項：

子どもの健康と成長を見守る親や保育者・教育者として必要な知識を習得し、その背景にある家族関係、社会環境も考慮できる姿勢を身につけてほしい。

オフィスアワー 火曜日 7,8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 子どもの健康状態の把握
2. 日常における養護の方法
3. 保育環境づくり
4. 子どもの生活習慣
5. よくかかる病気
6. いざというときの応急処置
7. 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育
8. まとめと試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）子どものさまざまな生活場面における健康や病気・事故等について調べ、子どもや保護者に説明ができる資料を準備する。  
 （復習）授業のはじめに毎回、前回の演習内容についての復習小テストを実施する。発表のための準備と復習テストのために十分な授業外学習が望まれる。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

子どもの食と栄養 [a]

〔担 当 者〕逸見 眞理子・春名 かをり  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

本授業では、食生活の乱れ、肥満、やせ、アレルギーなど、食に関わる子どもの課題と、子どもの健やかな発育・発達の基本となる食と栄養、健康支援としての「食育」の必要性を学ぶことで、子どもや保護者に接する保育士に期待される役割を理解することを目的とする。

グループワーク・プレゼンテーション・演習などを通して、より具体的に子どもの食と栄養について保育者としてどう対応するかを学ぶ。

●到達目標：

- 1 子どもの発育・発達と食と栄養について説明することができる。
- 2 実習を通して、調乳・簡単な離乳食を調理することが出来る。
- 3 保育者として、食育を通して子ども・保護者へ正しい食生活の実践を助言できる。
- 4 自分の食生活についても見直し、健康的な食生活を実践できる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度：20％（到達目標1,2）  
課題：30％（到達目標1,2,3,4）  
学期末試験：50％（到達目標1,2,3）

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

岡山県において、保健所管理栄養士として公衆栄養業務・保育所給食指導業務に携わり、保育所・学校等と連携して地域で食育活動を展開していた経験に基づき、子どもや若年世代の健康課題・食生活の実態と食育のアプローチ方法を伝えることで、学生が保育者として、子どもが健やかに成長するための食生活について実践的に助言できるよう促す。

●授業予定一覧：

- 1 子どもの心身の健康と食生活（春名）
- 2 子どもの食生活をめぐる現状（逸見）
- 3 栄養に関する基礎知識（1）～栄養素の種類と機能～（春名）
- 4 栄養に関する基礎知識（2）～消化と吸収～（春名）
- 5 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（春名）
- 6 妊娠・授乳期の食生活（調乳実習）（春名）
- 7 乳児期の食生活（離乳食調理実習）（春名）
- 8 幼児期の食生活（グループワーク）（春名）
- 9 児童福祉施設における食生活と栄養（逸見）
- 10 食育の基本と内容（逸見）
- 11 食育のための環境・連携（春名）
- 12 学童期・思春期の食生活（春名）
- 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（春名）
- 14 健康づくりのための食事と栄養（グループワーク）（春名）
- 15 食育の実践・まとめ（プレゼンテーション）（春名）
- 16 学期末試験（筆記試験）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」という作業課題を作成します。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げ、翌週の授業の際に提出してください。

食育の実践では、グループでプレゼンテーションが出来るよう教育媒体を作成し、練習を行ったうえで、授業中に発表してください。

【必携書（教科書販売）】

よくわかる！保育士エクササイズ③ 「子どもの食と栄養 演習ブック」、松本峰雄 監修、ミネルヴァ書房

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

必要に応じて適宜参考資料を配付または紹介する。

子どもの食と栄養 [b]

〔担 当 者〕逸見 眞理子・春名 かをり  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

●本授業の概要：

本授業では、食生活の乱れ、肥満、やせ、アレルギーなど、食に関わる子どもの課題と、子どもの健やかな発育・発達の基本となる食と栄養、健康支援としての「食育」の必要性を学ぶことで、子どもや保護者に接する保育士に期待される役割を理解することを目的とする。

グループワーク・プレゼンテーション・演習などを通して、より具体的に子どもの食と栄養についてどう保育者として対応するかを学ぶ。

●到達目標：

- 1 子どもの発育・発達と食と栄養について説明することができる。
- 2 実習を通して、調乳・簡単な離乳食を調理することが出来る。
- 3 保育者として、食育を通して子ども・保護者へ正しい食生活の実践を助言できる。
- 4 自分の食生活についても見直し、健康的な食生活を実践できる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度：20％（到達目標1,2）  
課題：30％（到達目標1,2,3,4）  
学期末試験：50％（到達目標1,2,3）

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

岡山県において、保健所管理栄養士として公衆栄養業務・保育所給食指導業務に携わり、保育所・学校等と連携して地域で食育活動を展開していた経験に基づき、子どもや若年世代の健康課題・食生活の実態と食育のアプローチ方法を伝えることで、学生が保育者として、子どもが健やかに成長するための食生活について実践的に助言できるよう促す。

●授業予定一覧：

- 1 子どもの心身の健康と食生活（春名）
- 2 子どもの食生活をめぐる現状（逸見）
- 3 栄養に関する基礎知識（1）～栄養素の種類と機能～（春名）
- 4 栄養に関する基礎知識（2）～消化と吸収～（春名）
- 5 日本人の食事摂取基準と食事バランスガイド（春名）
- 6 妊娠・授乳期の食生活（調乳実習）（春名）
- 7 乳児期の食生活（離乳食調理実習）（春名）
- 8 幼児期の食生活（グループワーク）（春名）
- 9 児童福祉施設における食生活と栄養（逸見）
- 10 食育の基本と内容（逸見）
- 11 食育のための環境・連携（春名）
- 12 学童期・思春期の食生活（春名）
- 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（春名）
- 14 健康づくりのための食事と栄養（グループワーク）（春名）
- 15 食育の実践・まとめ（プレゼンテーション）（春名）
- 16 学期末試験（筆記試験）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業に際し、講述した内容を元に「ワークシート」という作業課題を作成します。授業後それを持ち帰り、授業中に紹介した資料などを参照してより完成度の高いものに仕上げ、翌週の授業の際に提出してください。

食育の実践では、グループでプレゼンテーションが出来るよう教育媒体を作成し、練習を行ったうえで、授業中に発表してください。

【必携書（教科書販売）】

よくわかる！保育士エクササイズ③ 「子どもの食と栄養 演習ブック」、松本峰雄 監修、ミネルヴァ書房

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

必要に応じて適宜参考資料を配付または紹介する。

## 保育内容総論 [a]

〔担 当 者〕 片平 朋世  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o1

## ●本授業の概要：

乳幼児の生活や遊びの様々な面から「保育内容」の実際を捉えていく目を養う。

「保育内容」とは何かという問いを意識しつつ「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」などに対する理解を深める。

## ●到達目標：

- ①乳幼児の生活や遊びが養護と教育の一体性により展開されていくことを説明できる  
 ②5領域が関連しあって総合的に展開されていくことを説明できる。  
 ③演習を通し、子どもにとって「遊びとは何か」ということを、説明できる。

## ●成績評価の基準：

授業への取り組み度（演習課題シートの記述・感想等） 50%（到達目標①②③）  
 筆記試験 50%（到達目標①②③）

## ●留意事項：

- ・保育について、幅広い視野から、学習を進める意識を持って参加すること。
- ・授業は隔週行う予定である。
- ・オフィスアワーは授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

保育園での保育経験を元に、園生活の中の様々な場面から「保育内容」がどのように展開されていくか解説し、演習を通して「遊びから学ぶこと」「5領域が関連し合うこと」等を理解できるよう促す。

## ●授業予定一覧：

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育内容の歴史の変遷
3. 保育内容と子ども理解
4. 教育課程・保育課程と指導計画
5. 保育内容の展開（養護と教育の一体性）
6. 保育内容の展開（環境と遊びの関連性）
7. 保育内容の総合性（5領域の関連）
8. まとめ・筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業内だけでなく、ボランティアや日常生活の中で、常に子どもの生活や遊びに関することにアンテナをはっておくこと。演習課題やグループでの話し合い等に活用する予定。
- ・その都度次回までの課題を提示する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 保育内容総論 [b]

〔担 当 者〕 片平 朋世  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-2000-o1

## ●本授業の概要：

乳幼児の生活や遊びの様々な面から「保育内容」の実際を捉えていく目を養う。

「保育内容」とは何かという問いを意識しつつ「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園保育・教育要領」などに対する理解を深める。

## ●到達目標：

- ①乳幼児の生活や遊びが養護と教育の一体性により展開されていくことを説明できる  
 ②5領域が関連しあって総合的に展開されていくことを説明できる。  
 ③演習を通し、子どもにとって「遊びとは何か」ということを、説明できる。

## ●成績評価の基準：

授業への取り組み度（演習課題シートの記述・感想等）50%（到達目標①②③）  
 筆記試験 50%（到達目標①②③）

## ●留意事項：

- ・保育について、幅広い視野から、学習を進める意識を持って参加すること。
- ・授業は隔週行う予定である。
- ・オフィスアワーは授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

保育園での保育経験を元に、園生活の中の様々な場面から「保育内容」がどのように展開されていくか解説し、演習を通して「遊びから学ぶこと」「5領域が関連し合うこと」等を理解できるよう促す。

## ●授業予定一覧：

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育内容の歴史の変遷
3. 保育内容と子ども理解
4. 教育課程・保育課程と指導計画
5. 保育内容の展開（養護と教育の一体性）
6. 保育内容の展開（環境と遊びの関連性）
7. 保育内容の総合性（5領域の関連）
8. まとめ・筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業内だけでなく、ボランティアや日常生活の中で、常に子どもの生活や遊びに関することにアンテナをはっておくこと。演習課題やグループでの話し合い等に活用する予定。
- ・その都度次回までの課題を提示する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 乳児保育Ⅰ

〔担 当 者〕伊藤 美保子  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

### ●本授業の概要：

乳幼児（0・1・2歳児）を対象とした保育の理論と実践を学ぶ。  
また、保育所保育を中心とする乳児保育の内容について学習し、0・1・2歳児の生活や遊びの実際と、保育者の具体的な関わり方や援助の方法について理解を深める。

### ●到達目標：

- 0・1・2歳児の保育について、保育所保育指針を踏まえて理解し、その基本を説明することができる。
- 0・1・2歳児の保育において、保育者に必要とされる専門性や資質について、保育所保育指針を踏まえた自分自身の考えを説明することができる。

### ●成績評価の基準：

|           |     |
|-----------|-----|
| 受講に取り組む態度 | 20% |
| レポート・課題   | 30% |
| 筆記試験      | 50% |

### ●留意事項：

日頃から0・1・2歳児に触れる機会を持ち、実態把握に努めるように心がける。  
ボランティア等で自主的に保育に参加し、子ども理解や保育士の職務内容に関心を持つようにする。  
オフィスアワー 火曜日7,8時限 金曜日7,8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

保育士としての経験を踏まえて、乳児保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

### ●授業予定一覧：

- 乳児保育の意義と基本
- 3歳未満児の発達の特徴と援助の基本
- 3歳未満児の保育における内容と方法（保育園の一日）
- 保育所以外の施設・家庭的保育等における乳児保育
- 3歳未満児と家庭を取り巻く環境・子育て支援
- 3歳未満児の生活と環境
- 3歳未満児の遊びと環境（0歳児）
- 3歳未満児の遊びと環境（1歳児）
- 3歳未満児の遊びと環境（2歳児）
- 3歳以上児への移行期の保育
- 発達や遊びに応じた保育者の配慮・関わり方
- 乳児保育の記録と計画・指導計画作成の視点
- 乳児保育担当者の実際と職務内容・連携のあり方
- 乳児保育における養護と教育（健康管理と安全を踏まえて）
- 家庭・地域との連携と今後の課題
- 筆記試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

0・1・2歳児の成長発達や保育者のあり方、乳児期の発達に即した遊び等について、日頃から関心を持って学習してもらいたい。

### 【必携書（教科書販売）】

『資料でわかる乳児の保育新時代』、乳児保育研究会、ひとなる書房

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
『保育所保育指針<平成29年告示>』、厚生労働省、フレーベル館  
『保育所保育指針解説（平成30年度版）』、厚生労働省、フレーベル館

## 乳児保育[a]

〔担 当 者〕伊藤 美保子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

### ●本授業の概要：

乳幼児（0・1・2歳児）を対象とした保育の理論と実践を学ぶ。  
また、保育所保育を中心とする乳児保育の内容について学習し、0・1・2歳児の生活や遊びの実際と、保育者の具体的な関わり方や援助の方法について理解を深める。  
乳児保育における援助の方法については、保育実習室を利用した体験的学習を取り入れ、理解を深める。

### ●到達目標：

- 0・1・2歳児の保育について、保育所保育指針を踏まえて理解し、その基本を説明することができる。
- 0・1・2歳児の保育において、保育者に必要とされる専門性や資質について、保育所保育指針を踏まえた自分自身の考えを説明することができる。
- 0・1・2歳児の保育の具体的な方法についての知識を踏まえ、模擬保育を行うことができる。

### ●成績評価の基準：

|           |     |
|-----------|-----|
| 受講に取り組む態度 | 20% |
| レポート・課題   | 30% |
| 筆記試験      | 50% |

### ●留意事項：

日頃から0・1・2歳児に触れる機会を持ち、実態把握に努めるように心がける。  
ボランティア等で自主的に保育に参加し、子ども理解や保育士の職務内容に関心を持つようにする。  
オフィスアワー 火曜日7,8時限 金曜日7,8時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

保育士としての経験を踏まえて、乳児保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

### ●授業予定一覧：

- 乳児保育の意義と基本（胎児期）
- 乳幼児の発達の特徴と援助の基本（0歳児）
- 乳幼児の生活と援助の基本（沐浴）
- 乳幼児の発達の特徴と援助の基本（1歳児）
- 乳幼児の発達の特徴と援助の基本（2歳児）
- 乳児保育の内容と方法（保育園の一日）
- 乳幼児の生活と遊びの実際（0歳児）
- 乳幼児の生活と遊びの実際（1歳児）
- 乳幼児の生活と遊びの実際（2歳児）
- 乳児保育担当者の実際と職務内容
- 環境・子どもの遊びを捉える視点
- 発達や遊びに応じた保育者の関わり方
- 乳児保育の記録と計画・指導計画作成の視点
- 乳幼児期の健康管理と安全
- 家庭・地域との連携と今後の課題
- 筆記試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

0・1・2歳児の成長発達や保育者のあり方、乳児期の発達に即した遊び等について、日頃から関心を持って学習してもらいたい。

### 【必携書（教科書販売）】

『資料でわかる乳児の保育新時代（改定5版）』、乳児保育研究会、ひとなる書房

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
『保育所保育指針<平成29年告示>』、厚生労働省、フレーベル館  
『保育所保育指針解説（平成30年度版）』、厚生労働省、フレーベル館



## 乳児保育 [b]

〔担 当 者〕伊藤 美保子  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o2

## ●本授業の概要：

乳幼児（0・1・2歳児）を対象とした保育の理論と実践を学ぶ。  
 また、保育所保育を中心とする乳児保育の内容について学習し、0・1・2歳児の生活や遊びの実際と、保育者の具体的な関わり方や援助の方法について理解を深める。  
 乳児保育における援助の方法については、保育実習室を利用した体験的学習を取り入れ、理解を深める。

## ●到達目標：

- 0・1・2歳児の保育について、保育所保育指針を踏まえて理解し、その基本を説明することができる。
- 0・1・2歳児の保育において、保育者に必要とされる専門性や資質について、保育所保育指針を踏まえた自分自身の考えを説明することができる。
- 0・1・2歳児の保育の具体的な方法についての知識を踏まえ、模擬保育を行うことができる。

## ●成績評価の基準：

受講に取り組む態度 20％  
 レポート・課題 30％  
 筆記試験 50％

## ●留意事項：

日頃から0・1・2歳児に触れる機会を持ち、実態把握に努めるように心がける。  
 ボランティア等で自主的に保育に参加し、子ども理解や保育士の職務内容に関心を持つようにする。  
 オフィスアワー 火曜日7,8時限 金曜日7,8時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

保育士としての経験を踏まえて、乳児保育の基本について理論と実践の両面から講義する。

## ●授業予定一覧：

- 乳児保育の意義と基本（胎児期）
- 乳幼児の発達の特徴と援助の基本（0歳児）
- 乳幼児の生活と援助の基本（沐浴）
- 乳幼児の発達の特徴と援助の基本（1歳児）
- 乳幼児の発達の特徴と援助の基本（2歳児）
- 乳児保育の内容と方法（保育園の一日）
- 乳幼児の生活と遊びの実際（0歳児）
- 乳幼児の生活と遊びの実際（1歳児）
- 乳幼児の生活と遊びの実際（2歳児）
- 乳児保育担当者の実際と職務内容
- 環境・子どもの遊びを捉える視点
- 発達や遊びに応じた保育者の関わり方
- 乳児保育の記録と計画・指導計画作成の視点
- 乳幼児期の健康管理と安全
- 家庭・地域との連携と今後の課題
- 筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

0・1・2歳児の成長発達や保育者のあり方、乳児期の発達に即した遊び等について、日頃から関心を持って学習してもらいたい。

## 【必携書（教科書販売）】

『資料でわかる乳児の保育新時代（改定5版）』、乳児保育研究会、ひとなる書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 『保育所保育指針<平成29年告示>』、厚生労働省、フレーベル館  
 『保育所保育指針解説（平成30年度版）』、厚生労働省、フレーベル館

## 障害児保育 [a]

〔担 当 者〕東 俊一  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕330B1-4000-o2

## ●本授業の概要：

現在の障害児を取り巻く状況や障害児保育の理念を理解し、子どもの成長・発達を保障、発展させていく上で必要な保育方法、知識や技術、問題の把握および個別の支援計画の作成を目的とする。また、保護者との連携の重要性などについても総合的に学習する。

## ●到達目標：

- 障害の概念と障害児を「保育する」ことについて説明できる。
- 肢体不自由、視覚・聴覚障害児の特性と援助方法について説明できる。
- 知的障害児の特性と援助方法について説明できる。
- 発達障害児の特性と援助方法について説明できる。
- 個別支援計画が作成できる。
- 保護者・現場・地域資源の活用による連携について説明できる。

## ●成績評価の基準：

期末テスト 100％

## ●留意事項：

授業進行に伴い、小テストまたはレポートを課すことがある。  
 オフィスアワー 金曜 1,2限

## ●実務経験の授業への活用方法：

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験から、特別な支援を要する子どものいる保育・教育現場における支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、保育園や幼稚園などの保育現場・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

## ●授業予定一覧：

- 障害の概念と障害児保育
- 障害児を「保育する」こと
- 肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と援助
- 知的障害児の理解と援助
- 発達障害児の理解と援助－限局性学習障害・注意欠陥多動性障害
- 発達障害児の理解と援助－自閉症スペクトラム障害
- 個別支援計画の理解と作成
- 子どもの成長・発達を促進する環境設定
- 子ども同士の相互作用の促進と保育者の対応
- 子どものコミュニケーション能力の成長へのアプローチ
- 子どもの成長を促す職員の連携
- 保護者・家族理解と支援
- 地域資源の活用と連携
- 保幼小連携と移行支援
- 障害児保育における保健・医療・福祉・教育の現状と課題
- テスト

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、1回目に資料を配布します。可能な限り授業の前日までに資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。（復習）授業時に資料に書き込んだ内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するよう学習を進めてください。

## 【必携書（教科書販売）】

コンパクト版 保育者養成シリーズ 新版 障害児保育、青木豊・藤田久美編、一藝社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 つながる・つなげる障害児保育 保育出版社  
 適宜、文献紹介、資料配布を行う

## 障害児保育 [b]

〔担 当 者〕東 俊一  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-4000-o2

### ●本授業の概要：

現在の障害児を取り巻く状況や障害児保育の理念を理解し、子どもの成長・発達を保障、発展させていく上で必要な保育方法、知識や技術、問題の把握および個別の支援計画の作成を目的とする。また、保護者との連携の重要性などについても総合的に学習する。

### ●到達目標：

1. 障害の概念と障害児を「保育する」ことについて説明できる。
2. 肢体不自由、視覚・聴覚障害児の特性と援助方法について説明できる。
3. 知的障害児の特性と援助方法について説明できる。
4. 発達障害児の特性と援助方法について説明できる。
5. 個別支援計画が作成できる。
6. 保護者・現場・地域資源の活用による連携について説明できる。

### ●成績評価の基準：

期末テスト 100%

### ●留意事項：

授業進行に伴い、小テストまたはレポートを課すことがある。  
オフィスアワー 金曜 1,2限

### ●実務経験の授業への活用方法：

岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験から、特別な支援を要する子どものいる保育・教育現場における支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、保育園や幼稚園などの保育現場・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 障害の概念と障害児保育
- 2 障害児を「保育する」こと
- 3 肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と援助
- 4 知的障害児の理解と援助
- 5 発達障害児の理解と援助－限局性学習障害・注意欠陥多動性障害
- 6 発達障害児の理解と援助－自閉症スペクトラム障害
- 7 個別支援計画の理解と作成
- 8 子どもの成長・発達を促進する環境設定
- 9 子ども同士の相互作用の促進と保育者の対応
- 10 子どものコミュニケーション能力の成長へのアプローチ
- 11 子どもの成長を促す職員の連携
- 12 保護者・家族理解と支援
- 13 地域資源の活用と連携
- 14 保幼小連携と移行支援
- 15 障害児保育における保健・医療・福祉・教育の現状と課題
- 16 テスト

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、1回目に資料を配布します。可能な限り授業の前日までに資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。（復習）授業時に資料に書き込んだ内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するよう学習を進めてください。

### 【必携書（教科書販売）】

コンパクト版 保育者養成シリーズ 新版 障害児保育、青木豊・藤田久美編、一藝社

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

つながる・つなげる障害児保育 保育出版社  
適宜、文献紹介、資料配布を行う

## 社会的養護内容 [a]

〔担 当 者〕東 俊一・原田 通典  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

養護という概念を理解したうえで、「社会的養護」のあり方と実際について考察する。さらに、児童福祉施設を利用する児童の生活全般やそこの課題について、個別的問題、社会的問題、権利擁護の問題など、様々な側面から総合的に考察する。  
なお、小グループによるディスカッションや発表などの演習をとりいれて行う。

### ●到達目標：

1. 社会的養護の理念と体系について説明できる。
2. 支援計画を作成することができる。
3. 家庭養護のあり方について説明できる。
4. 養護を要する児童と施設養護について説明できる。
5. 心理治療を必要とする児童と施設養護について説明できる。
6. 非行行為のある児童と施設養護について説明できる。
7. 障害のある児童と施設養護について説明できる。

### ●成績評価の基準：

期末レポート 50%  
発表・レポート 50%

### ●留意事項：

保育士課程必修科目  
オフィスアワー 金曜 1,2限

### ●実務経験の授業への活用方法：

第一担当者は岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・児童福祉現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた。第二担当者は長年にわたり児童養護施設の現場で指導員として児童の権利擁護に携わっている。それらの経験から、特別な支援を要する児童や擁護問題を抱える児童に対する支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、社会的養護システムとして福祉現場・行政・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

### ●授業予定一覧：

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| 1 児童と児童を取り巻く社会的背景    | 担当：東 原田 |
| 2 児童の権利と児童養護の概念      | 担当：東 原田 |
| 3 社会的養護の理念と体系        | 担当：東 原田 |
| 4 支援計画の作成            | 担当：東 原田 |
| 5 社会的養護を必要とする児童と家庭養護 | 担当：東 原田 |
| 6 養護を要する児童と施設養護      | 担当：原田   |
| 7 心理治療を必要とする児童と施設養護  | 担当：原田   |
| 8 非行行為のある児童と施設養護     | 担当：原田   |
| 9 障害のある児童の理解と支援      | 担当：東    |
| 10 障害児入所支援           | 担当：東    |
| 11 障害児通所支援           | 担当：東    |
| 12 児童の自立支援           | 担当：東 原田 |
| 13 社会的養護と家庭支援の実際     | 担当：東 原田 |
| 14 地域連携による子育て支援の実際   | 担当：東 原田 |
| 15 社会的養護と子育て支援事業の連携  | 担当：東 原田 |

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、1回目に資料を配布します。可能な限り授業の前日までに資料および教科書を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。（復習）授業時に資料に書き込んだ内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するよう学習を進めてください。

### 【必携書（教科書販売）】

社会的養護の理念と実践 第2版、中野菜穂子 東俊一 大迫秀樹 編、(株)みらい

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

適宜、文献紹介、資料配布を行う

## 社会的養護内容 [b]

〔担 当 者〕 東 俊一・原田 通典  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

## ●本授業の概要：

養護という概念を理解したうえで、「社会的養護」のあり方と実際について考察する。さらに、児童福祉施設を利用する児童の生活全般やそこでの課題について、個別的問題、社会的問題、権利擁護の問題など、様々な側面から総合的に考察する。

なお、小グループによるディスカッションや発表などの演習をとりいれて行う。

## ●到達目標：

1. 社会的養護の理念と体系について説明できる。
2. 支援計画を作成することができる。
3. 家庭養護のあり方について説明できる。
4. 養護を要する児童と施設養護について説明できる。
5. 心理治療を必要とする児童と施設養護について説明できる。
6. 非行行為のある児童と施設養護について説明できる。
7. 障害のある児童と施設養護について説明できる。

## ●成績評価の基準：

期末レポート 50%  
 発表・レポート 50%

## ●留意事項：

保育士課程必修科目  
 オフィスアワー 金曜 1,2限

## ●実務経験の授業への活用方法：

第一担当者は岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・児童福祉現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた。第二担当者は長年にわたり児童養護施設の現場で指導員として児童の権利擁護に携わっている。それらの経験から、特別な支援を要する児童や擁護問題を抱える児童に対する支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、社会的養護システムとして福祉現場・行政・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。

## ●授業予定一覧：

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| 1 児童と児童を取り巻く社会的背景    | 担当：東 原田 |
| 2 児童の権利と児童養護の概念      | 担当：東 原田 |
| 3 社会的養護の理念と体系        | 担当：東 原田 |
| 4 支援計画の作成            | 担当：東 原田 |
| 5 社会的養護を必要とする児童と家庭養護 | 担当：東 原田 |
| 6 養護を要する児童と施設養護      | 担当：原田   |
| 7 心理治療を必要とする児童と施設養護  | 担当：原田   |
| 8 非行行為のある児童と施設養護     | 担当：原田   |
| 9 障害のある児童の理解と支援      | 担当：東    |
| 10 障害児入所支援           | 担当：東    |
| 11 障害児通所支援           | 担当：東    |
| 12 児童の自立支援           | 担当：東 原田 |
| 13 社会的養護と家庭支援の実践     | 担当：東 原田 |
| 14 地域連携による子育て支援の実践   | 担当：東 原田 |
| 15 社会的養護と子育て支援事業の連携  | 担当：東 原田 |

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、1回目に資料を配布します。可能な限り授業の前日までに資料および教科書を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。

（復習）授業時に資料に書き込んだ内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するよう学習を進めてください。

## 【必携書（教科書販売）】

社会的養護の理念と実践 第2版, 中野菜穂子 東俊一 大迫秀樹 編, (株)みらい

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
 適宜、文献紹介、資料配布を行う

## 保育相談支援 [a]

〔担 当 者〕 伊藤 美保子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-3400-o1

## ●本授業の概要：

保育士の専門性を生かした保護者支援である保育相談支援とは何かについて学ぶ。保育士の保育相談支援業務の基本的視点や内容についての理解を深める。さらに、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実践について理解する。

保育相談支援の実践問題については、具体例をもとにディスカッションを行い、事例理解や対応のあり方について共同で考えを深める（アクティブ・ラーニング）。

## ●到達目標：

1. 保育相談支援に必要な理論と技術を理解し、その基礎を説明することができる。
2. 保育相談支援の実践問題について、具体例をもとに自分自身の理解や対応のあり方を述べることができる。

## ●成績評価の基準：

レポート 70%  
 授業への取り組み 30%

## ●留意事項：

毎回課題があるので、積極的な態度で授業に臨むこと。  
 オフィスアワー 火曜日 7,8時限 金曜日 7,8時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

保育士としての経験を踏まえて、保育相談支援の基本について理論と実践の両面から講義する。

## ●授業予定一覧：

1. 保育相談支援の意義
  2. 保育相談支援の原則
  3. 保育相談支援の進め方
  4. 保育相談支援の技術と留意点
  5. 保育相談支援の技術を磨くために
  6. 保育相談支援の実践（事例を通して）
  7. 地域子育て支援事業への理解
  8. まとめ
- レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

テキストを事前に読むこと。

参考資料を配布するので、授業後に目を通し、理解しておくこと。

事例に関するディスカッションを踏まえて、授業後にも理解を深めること。

## 【必携書（教科書販売）】

演習 保育相談支援, 小林育子, 萌文書林

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

保育相談支援 [b]

[担 当 者] 伊藤 美保子  
[開 講 期] 1期  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 1  
[科目ナンバリング] 330B1-3400-o1

●本授業の概要：

保育士の専門性を生かした保護者支援である保育相談支援とは何かについて学ぶ。保育士の保育相談支援業務の基本的視点や内容についての理解を深める。さらに、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

保育相談支援の実際問題については、具体例をもとにディスカッションを行い、事例理解や対応のあり方について共同で考えを深める（アクティブ・ラーニング）。

●到達目標：

1. 保育相談支援に必要な理論と技術を理解し、その基礎を説明することができる。
2. 保育相談支援の実際問題について、具体例をもとに自分自身の理解や対応のあり方を述べることができる。

●成績評価の基準：

レポート 70％  
授業への取り組み 30％

●留意事項：

毎回課題があるので、積極的な態度で授業に臨むこと。  
オフィスアワー 火曜日 7,8時限 金曜日 7,8時限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 保育相談支援の意義
  2. 保育相談支援の原則
  3. 保育相談支援の進め方
  4. 保育相談支援の技術と留意点
  5. 保育相談支援の技術を磨くために
  6. 保育相談支援の実際（事例を通して）
  7. 地域子育て支援事業への理解
  8. まとめ
- レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

テキストを事前に読むこと。  
参考資料を配布するので、授業後に目を通し、理解しておくこと。  
事例に関するディスカッションを踏まえて、授業後にも理解を深めること。

【必携書（教科書販売）】

演習 保育相談支援，小林育子，萌文書林

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

保育実習指導 I [a]

[担 当 者] 本保 恭子 他7名  
[開 講 期] '19-2期～'20-1期  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2300-o2

●本授業の概要：

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。  
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。  
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

●到達目標：

1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。
2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べることができる。

●成績評価の基準：

受講態度 20％(到達目標1,2)  
課題 40％(到達目標1,2)  
レポート 40％(到達目標2)

●留意事項：

2016年度入学生対象  
良識的な生活態度を持ち、物事に積極的・意欲的な姿勢で取り組む。  
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。

●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

●授業予定一覧：

- ・保育実習における事前事後指導
1. 保育所実習オリエンテーション
  2. 保育実習に向けて（意義と目的）
  3. 実習段階の理解
  4. 事前訪問について
  5. 実習日誌の記入と課題作成
  6. 指導計画の理解
  7. 指導案の作成と教材研究
  8. 実習中の留意事項
  9. 実習反省（実習のまとめと感想）
  10. 報告会

・施設実習における事前事後指導

1. 施設実習オリエンテーション
2. 施設実習に向けて（意義と目標）
3. 施設実習に向けて（心得と諸準備）
4. 事前訪問について
5. 施設実習と講演
6. 実習日誌の記入と課題作成
7. 記録と実習日誌の記入法
8. 実習中の留意事項
9. 実習反省（実習のまとめと感想）
10. 報告会

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習に向けて、利用児（者）の発達状況や生活について理解を深め、教材研究・制作や支援を計画・実践する。実習後はレポート・課題を整理し、自らの振り返りを行うとともに、全員で学びを共有する。  
また、実習に向けて、日ごろから規則正しく健康的な生活を送り、自らの生活力を高め、社会人としてのマナーを身につけるよう努めてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
講義中に配布  
保育所実習の手引き，岡山県保育士養成協議会  
施設実習の手引き，岡山県保育士養成協議会  
保育所保育指針，厚生労働省，フレーベル館

<参考書等>  
保育所保育指針解説，厚生労働省，フレーベル館



## 保育実習指導 I [b]

〔担 当 者〕本保 恭子 他 7 名  
〔開 講 期〕' 19-2 期～' 20-1 期  
〔授 業 形 態〕演習 [単位] 2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2300-o2

## ●本授業の概要：

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。  
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。  
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

## ●到達目標：

1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。
2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べることができる。

## ●成績評価の基準：

受講態度 20% (到達目標 1)  
課題 40% (到達目標 1, 2)  
レポート 40% (到達目標 1, 2)

## ●留意事項：

2014年度入学生対象  
良識的な生活態度を持ち、物事に積極的・意欲的な姿勢で取り組む。  
授業時に各担当者のオフィシアワーを示す。

## ●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

## ●授業予定一覧：

- ・保育実習における事前事後指導
- 1. 保育所実習オリエンテーション
- 2. 保育実習に向けて（意義と目的）
- 3. 実習段階の理解
- 4. 事前訪問について
- 5. 実習日誌の記入と課題作成
- 6. 指導計画の理解
- 7. 指導案の作成と教材研究
- 8. 実習中の留意事項
- 9. 実習反省（実習のまとめと感想）
- 10. 報告会

- ・施設実習における事前事後指導
- 1. 施設実習オリエンテーション
- 2. 施設実習に向けて（意義と目標）
- 3. 施設実習に向けて（心得と諸準備）
- 4. 事前訪問について
- 5. 施設実習と講演
- 6. 実習日誌の記入と課題作成
- 7. 記録と実習日誌の記入法
- 8. 実習中の留意事項
- 9. 実習反省（実習のまとめと感想）
- 10. 報告会

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習に向けて、利用児（者）の発達状況や生活について理解を深め、教材研究・制作や支援を計画・実践する。実習後はレポート・課題を整理し、自らの振り返りを行うとともに、全員で学びを共有する。  
また、実習に向けて、日ごろから規則正しく健康的な生活を送り、自らの生活力を高め、社会人としてのマナーを身につけるよう努めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

講義中に配布

保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会

施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会

保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>

保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

## 保育実習指導 I [a]

〔担 当 者〕本保 恭子 他 7 名  
〔開 講 期〕' 18-2 期～' 19-1 期  
〔授 業 形 態〕演習 [単位] 2  
〔科目ナンバリング〕330B1-2300-o2

## ●本授業の概要：

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。  
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。  
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

## ●到達目標：

1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。
2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べることができる。

## ●成績評価の基準：

受講態度 20% (到達目標 1)  
課題 40% (到達目標 1, 2)  
レポート 40% (到達目標 1, 2)

## ●留意事項：

2017年度入学生対象  
良識的な生活態度を持ち、物事に積極的・意欲的な姿勢で取り組む。  
授業時に各担当者のオフィシアワーを示す。

## ●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

## ●授業予定一覧：

- ・保育実習における事前事後指導
- 1. 保育所実習オリエンテーション
- 2. 保育実習に向けて（意義と目的）
- 3. 実習段階の理解
- 4. 事前訪問について
- 5. 実習日誌の記入と課題作成
- 6. 指導計画の理解
- 7. 指導案の作成と教材研究
- 8. 実習中の留意事項
- 9. 実習反省（実習のまとめと感想）
- 10. 報告会

- ・施設実習における事前事後指導
- 1. 施設実習オリエンテーション
- 2. 施設実習に向けて（意義と目標）
- 3. 施設実習に向けて（心得と諸準備）
- 4. 事前訪問について
- 5. 施設実習と講演
- 6. 実習日誌の記入と課題作成
- 7. 記録と実習日誌の記入法
- 8. 実習中の留意事項
- 9. 実習反省（実習のまとめと感想）
- 10. 報告会

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習に向けて、利用児（者）の発達状況や生活について理解を深め、教材研究・制作や支援を計画・実践する。実習後はレポート・課題を整理し、自らの振り返りを行うとともに、全員で学びを共有する。  
また、実習に向けて、日ごろから規則正しく健康的な生活を送り、自らの生活力を高め、社会人としてのマナーを身につけるよう努めてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

講義中に配布

保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会

施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会

保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>

保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

保育実習指導Ⅰ [b]

[担 当 者] 本保 恭子 他 7 名  
[開 講 期] ' 18-2 期 ~ ' 19-1 期  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 330B1-2300-o2

●本授業の概要：

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。  
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。  
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

●到達目標：

1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。  
2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べることができる。

●成績評価の基準：

受講態度 20％（到達目標 1）  
課題 40％（到達目標 1, 2）  
レポート 40％（到達目標 1, 2）

●留意事項：

2014年度入学生対象  
良識的な生活態度を持ち、物事に積極的・意欲的な姿勢で取り組む。  
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。

●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

●授業予定一覧：

- ・保育実習における事前事後指導  
1. 保育所実習オリエンテーション  
2. 保育実習に向けて（意義と目的）  
3. 実習段階の理解  
4. 事前訪問について  
5. 実習日誌の記入と課題作成  
6. 指導計画の理解  
7. 指導案の作成と教材研究  
8. 実習中の留意事項  
9. 実習反省（実習のまとめと感想）  
10. 報告会

- ・施設実習における事前事後指導  
1. 施設実習オリエンテーション  
2. 施設実習に向けて（意義と目標）  
3. 施設実習に向けて（心得と諸準備）  
4. 事前訪問について  
5. 施設実習と講演  
6. 実習日誌の記入と課題作成  
7. 記録と実習日誌の記入法  
8. 実習中の留意事項  
9. 実習反省（実習のまとめと感想）  
10. 報告会

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習に向けて、利用児（者）の発達状況や生活について理解を深め、教材研究・制作や支援を計画・実践する。実習後はレポート・課題を整理し、自らの振り返りを行うとともに、全員で学びを共有する。  
また、実習に向けて、日ごろから規則正しく健康的な生活を送り、自らの生活力を高め、社会人としてのマナーを身につけるよう努めてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
講義中に配布  
保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>  
保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

保育実習指導Ⅱ [a]

[担 当 者] 本保 恭子 他 5 名  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 1  
[科目ナンバリング] 330B1-4000-o1

●本授業の概要：

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。  
実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。  
実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

●到達目標：

1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。  
2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べることができる。

●成績評価の基準：

受講態度 20％（到達目標 1）  
課題 40％（到達目標 1, 2）  
レポート 40％（到達目標 1, 2）

●留意事項：

留意事項 2015年度入学生対象  
良識的な生活態度を持ち、物事に積極的・意欲的な姿勢で取り組む。  
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。

●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

●授業予定一覧：

- 授業予定一覧・保育実習における事前事後指導  
1. 保育所実習オリエンテーション  
2. 保育実習に向けて（2年次の保育所実習を振り返って）  
3. 事前訪問について  
4. 実習日誌の記入と課題作成  
5. 指導計画の理解  
6. 指導案の作成と教材研究  
7. 実習反省（実習のまとめと感想）  
8. 報告会

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習内容を省察し明らかとなった今後の課題について、授業外学習としても真剣に向き合う生活を営んでほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
講義中に配布  
保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>  
保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

## 保育実習指導Ⅱ [b]

〔担 当 者〕 本保 恭子 他 5 名  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o1

## ●本授業の概要：

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。  
 実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。  
 実習グループごとのディスカッションや打ち合わせを通して実習の準備を進め、実習後の発表や省察を通して保育理解を深める（アクティブ・ラーニング）。

## ●到達目標：

1. 実習前に、自ら主体的に必要な準備を行うことができる。
2. 実習後に、自らの保育への省察を発表し、考察を述べるができる。

## ●成績評価の基準：

受講態度 20%（到達目標 1）  
 課題 40%（到達目標 1, 2）  
 レポート 40%（到達目標 1, 2）

## ●留意事項：

留意事項 2015年度入学生対象  
 良識的な生活態度を持ち、物事に積極的・意欲的な姿勢で取り組む。  
 授業時に各担当者のオフィスパワーを示す。

## ●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

## ●授業予定一覧：

授業予定一覧・保育実習における事前事後指導  
 1. 保育所実習オリエンテーション  
 2. 保育実習に向けて（2年次の保育所実習を振り返って）  
 3. 事前訪問について  
 4. 実習日誌の記入と課題作成  
 5. 指導計画の理解  
 6. 指導案の作成と教材研究  
 7. 実習反省（実習のまとめと感想）  
 8. 報告会

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習内容を省察し明らかとなった今後の課題について、授業外学習としても真剣に向き合う生活を営んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 講義中に配布  
 保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
 施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
 保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

## &lt;参考書等&gt;

保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

## 保育実習指導Ⅲ

〔担 当 者〕 本保 恭子 他 4 名  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o1

## ●本授業の概要：

実習を円滑に進めていく為の知識・技能を習得し、学習内容・事前学習・課題等を明確化すると共に、実習への意欲や意識を高める。  
 実習後の報告・反省会を通し、実習内容を省察し今後の研究課題を探る。

## ●到達目標：

1. 実習Ⅰの学び振り返り、さらに専門性の高い知識と技能について修得する。
2. 既習の知識・技能を基礎とし、総合的に実践した後省察し、今後の課題を明確にする。

## ●成績評価の基準：

受講態度 20%（到達目標 1）  
 課題 40%（到達目標 1, 2）  
 レポート 40%（到達目標 1, 2）

## ●留意事項：

留意事項 2015年度入学生対象  
 良識的な生活態度を持ち、物事に積極的・意欲的な姿勢で取り組む。  
 授業時に各担当者のオフィスパワーを示す。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

授業予定一覧 授業予定一覧・保育実習における事前事後指導  
 1. 施設実習オリエンテーション  
 2. 施設実習に向けて（3年次の施設実習を振り返って）  
 3. 事前訪問について  
 4. 実習日誌の記入と課題作成  
 5. 指導計画の理解  
 6. 指導案の作成と教材研究  
 7. 実習反省（実習のまとめと感想）  
 8. 報告会

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習内容を省察し明らかとなった今後の課題について、授業外学習としても真剣に向き合う生活を営んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 保育実習Ⅰ

〔担 当 者〕本保 恭子 他 8 名  
〔開 講 期〕'18-2 期～'19-1 期  
〔授 業 形 態〕実習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕330B1-2300-o4

### ●本授業の概要：

保育所および福祉施設における実習を通してそれぞれの園での保育・養護の内容や方法、乳幼児・児童、障害児・者との関わり、保育士の役割、勤務体制などあらゆることを実習の中で体験しながら学ぶ（アクティブ・ラーニング）。

### ●到達目標：

1. 保育所と福祉施設の生活に参加し、乳幼児・児童、障害児・者への理解を深めるとともに、実習生として自ら保育にあたることができる。
2. 日々の保育所と福祉施設の生活、乳幼児・児童、障害児・者の保育・支援について省察し、日誌に記述することができる。
3. それぞれの保育現場の現場の機能と、そこでの保育士の職務について理解し、実習生として連携をとりながら保育にあたることができる。

### ●成績評価の基準：

現場実習の評価 60%（到達目標 1, 2, 3）  
実習ノート 20%（到達目標 2）  
課題・レポート 20%（到達目標 1, 2, 3）

### ●留意事項：

2017年度入学制対象  
保育実習においては、良識的なマナーを身に付けておき、実習園に対する敬意と謙虚さを持って実習に臨み、居住型福祉施設での実習は宿泊を伴うため、共同生活におけるマナーに留意する。  
また、自らの健康管理に留意し、積極的に課題に取り組む。  
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。

### ●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平・篠田は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

### ●授業予定一覧：

1. 保育所における実習  
2018年11月の10日間
  - 1) 実習施設について理解する
  - 2) 保育の一日の流れを理解し、保育に参加する
  - 3) 観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する
  - 4) 保育計画・指導計画を理解する
  - 5) 生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する
  - 6) 職員間の役割分担と連携について理解する
  - 7) 記録や保護者との連絡や連携を通して、家庭・地域社会を理解する
  - 8) 子どもにとって最善の生活や遊びを具体化する方法について学ぶ
  - 9) 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ
  - 10) 安全及び疾病予防への配慮について理解する
2. 福祉施設における実習  
2019年 6 月の10日間
  - 1) 実習施設について理解する
  - 2) 支援に参加し、一日の流れを理解する
  - 3) 観察やかかわりを通して、利用者の実態とニーズを理解する
  - 4) 支援計画を理解する
  - 5) 支援の一部を担当し、支援技術を習得する
  - 6) 職員間の役割分担と連携について理解する
  - 7) 地域社会と施設のかかわりについて理解する
  - 8) 利用者にとって最善の生活を具体化する方法について学ぶ
  - 9) 保育士としての職業倫理を理解する
  - 10) 安全及び疾病予防への配慮について学ぶ

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前指導の授業を大切にし、自らの体調管理、生活管理を厳密に行う。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
講義中に配布  
保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>  
保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

## 保育実習Ⅰ

〔担 当 者〕本保 恭子 他 7 名  
〔開 講 期〕'19-2 期～'20-1 期  
〔授 業 形 態〕実習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕330B1-2300-o4

### ●本授業の概要：

保育所および福祉施設における実習を通してそれぞれの園での保育・養護の内容や方法、乳幼児・児童、障害児・者との関わり、保育士の役割、勤務体制などあらゆることを実習の中で体験しながら学ぶ（アクティブ・ラーニング）。

### ●到達目標：

1. 保育所と福祉施設の生活に参加し、乳幼児・児童、障害児・者への理解を深めるとともに、実習生として自ら保育にあたることができる。
2. 日々の保育所と福祉施設の生活、乳幼児・児童、障害児・者の保育・支援について省察し、日誌に記述することができる。
3. それぞれの保育現場の現場の機能と、そこでの保育士の職務について理解し、実習生として連携をとりながら保育にあたることができる。

### ●成績評価の基準：

現場実習の評価 60%（到達目標 1, 2, 3）  
実習ノート 20%（到達目標 2）  
課題・レポート 20%（到達目標 1, 2, 3）

### ●留意事項：

2016年度入学生対象  
保育所実習においては、良識的なマナーを身につけておき、実習園に対する敬意と謙虚さを持って、実習に臨み、居住型児童福祉施設での実習は宿泊を伴う為、共同生活におけるマナーに留意する。  
また、自らの健康管理に留意し、積極的に課題に取り組む。  
授業時に各担当者のオフィスアワーを示す。

### ●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平・篠田は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

### ●授業予定一覧：

1. 保育所における実習  
2019年11月の10日間
  - 1) 実習施設について理解する
  - 2) 保育の一日の流れを理解し、保育に参加する
  - 3) 観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する
  - 4) 保育計画・指導計画を理解する
  - 5) 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する
  - 6) 職員間の役割分担と連携について理解する
  - 7) 記録や保護者との連絡や連携を通して、家庭・地域社会を理解する
  - 8) 子どもにとって最善の生活や遊びを具体化する方法について学ぶ
  - 9) 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ
  - 10) 安全および疾病予防への配慮について理解する
2. 福祉施設における実習  
2020年6月の10日間
  - 1) 実習施設について理解する
  - 2) 養護に参加し、一日の流れを理解する
  - 3) 子どもの観察やかかわりを通して、子どものニーズを理解する
  - 4) 援助計画を理解する
  - 5) 生活や援助の一部分を担当し、養護技術を習得する
  - 6) 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
  - 7) 記録や保護者との連絡や連携を通して、家庭・地域社会を理解する
  - 8) 子どもにとって最善の生活や遊び、支援についての配慮を学ぶ
  - 9) 保育士としての職業倫理を理解する
  - 10) 安全および疾病予防への配慮について理解する

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

### 【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
<必携書>  
講義中に配布  
保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>  
保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

<参考書等>  
厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館



## 保育実習Ⅱ

〔担 当 者〕 本保 恭子 他 5 名  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

## ●本授業の概要：

既習した知識・技術や保育実習Ⅰで習得したことを基に、保育所実習を行い、乳幼児の保育について実習を通してより深く学ぶ（アクティブ・ラーニング）。

## ●到達目標：

1. 保育所と福祉施設の生活に参加し、乳幼児・児童、障害児・者への理解を深めるとともに、実習生として自ら保育にあたることができる。
2. 日々の保育所と福祉施設の生活、乳幼児・児童、障害児・者の保育・支援について省察し、日誌に記述することができる。
3. それぞれの保育現場の現場の機能と、そこでの保育士の職務について理解し、実習生として連携をとりながら保育にあたることができる。

## ●成績評価の基準：

現場実習の評価 60%（達成課題1, 2, 3）  
 実習ノート 20%（達成課題2）  
 課題・レポート 20%（達成課題1, 2, 3）

## ●留意事項：

健康管理に留意し、充実した実習を行うために積極的な準備や課題を持って取り組む。  
 授業時に各担当者のオフィシアワーを示す。

## ●実務経験の授業への活用方法：

伊藤・片平は保育士として、藤掛は幼稚園教諭としての経験を活かし、乳幼児期の子ども達へのかかわりや、保育現場での職務・連携についての指導を行う。

## ●授業予定一覧：

保育所における実習  
 2019年6月～7月の10日間  
 1) 保育全般に参加し、保育技術を習得する  
 2) 子どもの個人差の理解とその対応について学習する  
 3) 指導計画の立案、実践を理解する  
 4) 子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する  
 5) 地域社会への理解、連携の方法について具体的に学習する  
 6) 子どもにとって最善の生活や遊びを具体化する方法について学ぶ。  
 7) 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ  
 8) 保育所・保育士に求められる資質、能力、技術に照らして、自己の課題を知る

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

実習指導の授業を大切に、自らの体調管理、生活管理を厳密に行う。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
 講義中に配布  
 保育所実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
 施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会  
 保育所保育指針、厚生労働省、フレーベル館

## ＜参考書等＞

保育所保育指針解説、厚生労働省、フレーベル館

## 保育実習Ⅲ

〔担 当 者〕 本保 恭子 他 4 名  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

## ●本授業の概要：

保育実習Ⅰにおける経験や既習の知識や技能を基に、施設養護に携わる保育士として保育所以外の児童福祉施設で実習を行い、養護のあり方についてより深く学ぶ。

## ●到達目標：

1. 福祉施設の生活に参加し、乳幼児・児童、障害児・者への理解を深めるとともに、実習生として自ら保育にあたることができる。
2. 日々の福祉施設の生活、乳幼児・児童、障害児・者の保育・支援について省察し、日誌に記述することができる。
3. それぞれの現場の機能と、そこでの保育士の職務について理解し、実習生として連携をとりながら支援にあたることができる。適切な福祉ニーズについて判断できる。

## ●成績評価の基準：

現場実習の評価 60%（到達目標1, 2, 3）  
 実習ノート 20%（到達目標2）  
 課題・レポート 20%（到達目標1, 2, 3）

## ●留意事項：

2015年度入学生対象  
 健康管理に留意し、充実した実習を行うために準備や課題を持って取り組む。  
 授業時に各担当者のオフィシアワーを示す。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

福祉施設（保育所以外）における実習  
 2019年6月～7月の10日間  
 1) 養護全般に参加し、養護技術を習得する  
 2) 子どもの個人差への理解とその対応について学習する（特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズの理解と対応について）  
 3) 援助計画の立案、実践を理解する  
 4) 子どもと家族とのコミュニケーション方法を具体的に習得する  
 5) 地域社会に対する理解、連携の方法について具体的に学習する  
 6) 子どもにとって最善の生活や遊び、支援についての配慮を学ぶ。  
 7) 保育士としての職業倫理を具体的に理解する  
 8) 児童福祉施設の保育士に求められる資質、能力、技術に照らして、自己の課題を知る

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

講義中に配布  
 施設実習の手引き、岡山県保育士養成協議会

## モンテッソーリ教育理論

〔担 当 者〕 福原 史子  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

本授業は、モンテッソーリ教具やその底を流れる教育的意味を理解し、今日の幼児教育・学校教育・特別支援教育への適用と家庭での実践的な環境構成について検討することを目的とする。附属幼稚園の見学や先輩による体験談、教材制作を通して、実態と実践上の課題を把握する機会をもつ。その上で、モンテッソーリ教育の現代的意義と課題についてディスカッションをする。

### ●到達目標：

1. 「一人でできるよう手伝う」支援について説明することができる。
2. 子どもの思いや考えに焦点を当てて観察することができる。
3. モンテッソーリ教具に触れることにより、環境構成の要点をまとめることができる。
4. 子どもの発達段階を想定し、教材を制作することができる。
5. モンテッソーリ教育実践上の意義と課題を述べることができる。

### ●成績評価の基準：

|                |                |
|----------------|----------------|
| 授業への取り組み度      | 30%（到達目標1,3,5） |
| 見学レポート・ブックレポート | 20%（到達目標1,2,3） |
| 教材制作・発表        | 20%（到達目標4）     |
| 期末レポート         | 30%（到達目標1,5）   |

### ●留意事項：

オフィスアワー 月曜日7,8限 水曜日5,6限

質問は随時、電子メールで受け付ける（アドレスは初回に提示する）

本科目はモンテッソーリ教育の入門編であり、児童学科の3年生以上であれば誰でも受講が可能である。モンテッソーリ教育コースを履修するかどうかについては、本科目の受講後（1期の終わり）に決めることになる。本学が50年以上にわたって大切にしてきた教育理念について深く学んでほしい。

### ●実務経験の授業への活用方法：

小学校教諭として公立小学校に勤務後、アメリカの Montessori School 及び日本のモンテッソーリ教育実践園での勤務経験を活かし、学生にモンテッソーリ教育の国際性と現代性について具体例をもとに理解し、実践上の課題について議論するよう促す。

### ●授業予定一覧：

- 1 子どもが「一人でできるように手伝う」モンテッソーリ教育とは
- 2 マリア・モンテッソーリの生涯とその影響
- 3 環境を通しての教育－子どもの「敏感期」をキャッチする－
- 4 五感の洗練と知的発達の素地づくり－「吸収する心」のすばらしさ－
- 5 モンテッソーリ教具の紹介 (1) 日常生活の練習
- 6 モンテッソーリ教具の紹介 (2) 感覚
- 7 自発的な活動と集中現象
- 8 附属幼稚園「モンテッソーリ子どもの部屋」見学
- 9 モンテッソーリ教具の紹介 (3) 数
- 10 モンテッソーリ教具の紹介 (4) 言語
- 11 モンテッソーリ教具の紹介 (5) 文化
- 12 初等教育理論・方法の変遷とモンテッソーリ教育
- 13 平和と教育・コスミック教育
- 14 子どもの可能性を伸ばすために・モンテッソーリ教育の新しい展開
- 15 教材制作発表  
定期試験（レポート）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）毎回の授業の終わりに次時の資料を配付する。資料をよく読み、自らの意見や疑問点などを整理して授業に臨んでほしい（1時間）。授業では、討論や意見交換の機会を設け、それらの活動を通してモンテッソーリ教育への理解を促していく。  
（復習）自身の疑問について振り返りをするともに、さらに深く学びたい人のために参考文献や参考 URL を紹介するので、自主的な学びへとつなげてほしい（1時間）。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業中に自作資料を配布する。

<参考書等>

授業中に参考文献一覧を配布する。

## モンテッソーリ教育実習 I

〔担 当 者〕 福原 史子・蜂谷 里香  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 330B1-3000-o2

### ●本授業の概要：

本授業のねらいは、モンテッソーリ教育について「日常生活の練習」及び「感覚」の各領域別に、それぞれの教具の特徴と幼児への提示方法を習得することである。幼児の発達段階や興味に合わせて適切に提供できるように練習するとともに、学んだことを活かして現場での実習を行う。一人一人を大切にすると人格教育の実践をモンテッソーリ教育環境を通して体験し、子どもの示す集中力や達成感を認め、子どもと共に成長できる喜びを経験してほしい。manaba folio にアップロードされる資料を活用し、積極的に自主練習に努めてほしい。

### ●到達目標：

1. 「日常生活の練習」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。
2. 「感覚」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。
3. 自ら創意工夫し、環境を整えることができる。
4. 子ども一人一人の自己発展のプロセスに貢献しようとする。

### ●成績評価の基準：

|         |                  |
|---------|------------------|
| 実習・実習記録 | 40%（到達目標1,2,3,4） |
| 実技試験    | 30%（到達目標1,2,4）   |
| アルバム制作  | 30%（到達目標1,2,3）   |

### ●留意事項：

オフィスアワー 月曜日7,8時限 水曜日5,6時限

質問は随時電子メールで受け付ける（アドレスは初回授業にて提示する）

本学附属幼稚園「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習時間については、個別に相談して決定する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

主担当者はアメリカの Montessori School において教師を務めた経験から、モンテッソーリ教育の国際性と幼児の実態に合わせた教具提示の必要性とを伝えることで、学生にモンテッソーリ教育の深い理解を促す。副担当者は幼稚園での30年以上の教諭経験から、教育現場における幼児の見方を示し、学生がモンテッソーリ理論と実践上の課題とを結び付けるよう支援する。

### ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション／日常生活 (1-1) 基本の運動
- 2 日常生活 (1-2) 基本の運動：米・豆・水を使った教具
- 3 日常生活 (1-3) 基本の運動：身近な物を使った教具（担当／蜂谷）
- 4 日常生活 (1-4) 自己への配慮（特別講義講師／岡本）
- 5 日常生活 (1-5) 環境への配慮（担当／蜂谷）
- 6 日常生活 (1-6) 優雅さと礼儀／感覚 (1-1) 感覚教具とは・視覚教具1: 大きさ・色
- 7 日常生活 (1-7) 0から3歳児のモンテッソーリ教育（特別講義講師／倉田）
- 8 感覚 (1-2) 視覚教具2: 形・触覚教具
- 9 感覚 (1-3) 聴覚教具・味覚教具・嗅覚教具
- 10 感覚 (1-4) 立体感覚
- 11 言語 (1-1) 言語教育とは・話し言葉について（担当／蜂谷）
- 12 数 (1-1) 数教育とは・0～10までの数
- 13 「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習：日常生活練習中心
- 14 「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習：感覚教具中心
- 15 「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習：総合練習  
定期試験（実技試験）

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で学んだ教具についての資料を、manaba folio を利用して添付ファイルで送信する。それをもとに自分なりに加筆・修正するとともに、図を加えて A4 クリアファイルに綴じていくことを求める（3時間）。本授業では、「日常生活の練習」と「感覚教具」の二種類のアルバムを仕上げることになる。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業中に適宜資料を配布する。

<参考資料等>

授業中に参考文献一覧を配布する。

## モンテッソーリ教育実習Ⅱ

〔担 当 者〕 福原 史子・蜂谷 里香  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-4000-o2

## ●本授業の概要：

本授業のねらいは、モンテッソーリ教育について、「言語・文化」及び「数」の各領域別に、それぞれの教具の特徴と幼児への提示方法を習得することである。幼児の発達段階や興味に合わせて適切に提供できるように練習し、学んだことを活かして現場での実習を行う。一人一人を大切にする人格教育の実践をモンテッソーリの教育環境を通して体験し、子どもの示す集中力や達成感を認め、子どもと共に成長できる喜びを経験してほしい。manaba folio にアップロードされる資料を活用し、積極的に自主練習に努めてほしい。

## ●到達目標：

1. 「言語・文化」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。
2. 「数」の教具について理解し、幼児に分かりやすく提示できる。
3. 自ら創意工夫し、環境を整えることができる。
4. 子ども一人一人の自己発展のプロセスに貢献しようとする。
5. 個と集団のバランスを取りながら指導しようとする。

## ●成績評価の基準：

|         |     |                 |
|---------|-----|-----------------|
| 実習・実習記録 | 30% | (到達目標1,2,3,4,5) |
| 教具制作    | 10% | (到達目標3)         |
| 実技試験    | 30% | (到達目標1,2,4)     |
| アルバム制作  | 30% | (到達目標1,2,3)     |

## ●留意事項：

オフィスアワー 月曜日7,8時限 水曜日5,6時限  
 質問は随時電子メールで受け付ける（アドレスは初回授業にて提示する）  
 本学附属幼稚園「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習時間については、個別に相談して決定する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

主担当者はアメリカの Montessori School において教師を務めた経験から、モンテッソーリ教育の国際性と幼児の実態に合わせた教具提示の必要性とを伝えることで、学生にモンテッソーリ教育の深い理解を促す。副担当者は幼稚園での30年以上の教諭経験から、教育現場における幼児の見方を示し、学生がモンテッソーリ理論と実践上の課題とを結びつけるよう支援する。

## ●授業予定一覧：

- 1 感覚 (2-1) 視覚教具：発展 1
- 2 感覚 (2-1) 視覚教具：発展 2 / 言語 (2-1) 書くための準備
- 3 文化 (2-1) 地理 (特別講義講師 / 岡本)
- 4 言語 (2-2) 書き方の実際 (担当 / 蜂谷)
- 5 言語 (2-3) 特別な書き方と読み方・分類
- 6 モンテッソーリの教師論 (特別講義講師 / 高月)
- 7 言語 (2-4) 文法 / 文化 (2-2) コスミック教育
- 8 言語 (2-5) 言葉 / 文化 (2-3) 生物 (担当 / 蜂谷)
- 9 数 (2-1) 十進法：金ビーズ
- 10 数 (2-2) 十進法：スタンプゲーム
- 11 数 (2-3) 連続数
- 12 数 (2-4) 四則の計算へ
- 13 「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習：言語・文化教具中心
- 14 「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習：数教具中心
- 15 「モンテッソーリ子どもの部屋」での実習：総合練習  
定期試験（実技試験）・教具制作発表

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で学んだ教具についての資料を、manaba folio を利用して添付ファイルで送信する。それをもとに自分なりに加筆・修正するとともに、図を加えて A4 クリアファイルに綴じていくよう求める（3時間）。本授業では、「言語・文化」と「数」の二種類のアルバムを仕上げることになる。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業中に適宜資料を配布する。

<参考書等>

授業中に参考文献一覧を配布する。

## 保育・教育基礎実習Ⅰ

〔担 当 者〕 赤木 雅宣 他 14 名  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 1  
 〔科目ナンバリング〕 330B1-1200-o1

## ●本授業の概要：

保育職・教職を目指す学生の資質向上を図り、就業力を高めることを目的とする。原則として、教育実習前の段階での学校園現場でのボランティア実習を中心とする。自分で計画立案して、本学附属学校園や岡山市・倉敷市内の学校園に出向いて実体験（ボランティア実習）を行い、その成果を大学に戻ってまとめる中で、自分自身の成果と課題を明らかにしていく。就業力に直結したコミュニケーション力、コーディネート力、プレゼンテーション力、マネージメント力（C C P M 力）を培うことを目的とする。

## ●到達目標：

- ・自分で計画立案して、学校園の現場でボランティア実習の実践をすることができる。
- ・学校園現場で子どもの様子を観察し、先生方の多様な指導を体験して、それぞれの場に合った実践をすることができる。
- ・学校園現場で働く保育士・教師の指導の様子を観察し、実践的な指導観をもつことができる。
- ・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明らかにし、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を明らかにすることができる。

## ●成績評価の基準：

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| 参加の様子と参加記録の集積（ポートフォリオ・フォリオ） | 60% 程度 |
| カンファレンス、事前事後指導に参加とそこでの様子    | 20% 程度 |
| レポート                        | 20% 程度 |

## ●留意事項：

- ・学校園での実践的な体験が主となる授業なので、保育職・教職に就こうとする意欲のある人が履修すること。
  - ・事前事後指導、合同カンファレンスなどにきちんと参加し、それぞれの学校園での保育・教育の様子をよく理解すること。
  - ・学校園の保育・教育の役に立つように、周りの状況をよく見て考え、積極的に体験すること。
- ※この授業のことについての相談や問い合わせ、学校園との連絡調整等は、保幼小小学修支援センター・教職支援センターが応じてくれる。

オフィスアワー 授業の中で知らせる

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 事前指導①（大学・オリエンテーション）
- 2 事前指導②（連携学校園）
- 3 合同カンファレンス（意義ある学びにするために、ポートフォリオの作成）
- 4 ～ 15
  - 連携学校園でのボランティア実習
  - ポートフォリオの作成
  - カンファレンスへの参加（大学・連携学校園）
- 16 事後指導（ポートフォリオの振り返り、成果と課題）

※1 期終了時に中間のカンファレンス（振り返りの会）をもつので、必ず出席すること。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・当初のオリエンテーションの際に、それぞれの目標をもち、現時点での就業に直結した実践力の自己診断を行う。
  - ・毎回のボランティア実習が行き放しにならないよう、ポートフォリオに成果と課題を記して、教職支援センターに報告すること。（マナバフォリオの利用も可）
  - ・中間のカンファレンスで、目標の達成状況や実践力の成長を確かめて、新たな課題を見出す。
  - ・事後指導で、一年間のボランティア実習を振り返り、「できるようになったこと」と「達成できていないこと」を明らかにして、次年度に向けての目標を設定する。
- ※このように、単にボランティア実習に出かけるだけでなく、常に自分の取り組みを振り返って、次につながる課題を設定していくことを求める。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

保育・教育基礎実習Ⅱ

〔担 当 者〕赤木 雅宣 他 14 名  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕実習 〔単位〕1  
〔科目ナンバリング〕330B1-2000-o1

●本授業の概要：

保育職・教職を目指す学生の資質向上を図り、就業力を高めることを目的とする。原則として、教育実習前の段階での学校園現場でのボランティア実習を中心とする。  
自分で計画立案して、本学附属学校園や岡山市・倉敷市内の学校園に出向いて実体験（ボランティア実習）を行い、その成果を大学に戻ってまとめる中で、自分自身の成果と課題を明らかにしていく。就業力に直結したコミュニケーション力、コーディネート力、プレゼンテーション力、マネージメント力（ＣＣＰＭ力）を培うことを目的とする。

●到達目標：

到達目標  
・自分で計画立案して、学校園の現場でボランティア実習の実践をすることができる。  
・学校園現場で子どもの様子を観察し、先生方の多様な指導を体験して、それぞれの場に  
応じた実践をすることができる。  
・学校園現場で働く保育士・教師の指導の様子を観察し、実践的な指導観をもつこと  
ができる。  
・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明  
らかにして、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を見出すことができる。

●成績評価の基準：

成績評価の基準  
・参加の様子と参加記録の集積（ポートフォリオ） … 60%程度  
・カンファレンス、事前事後指導に参加とそこの様子 … 20%程度  
・レポート … 20%程度

●留意事項：

留意事項  
・「保育・教育基礎実習Ⅰ」を既に履修した人が、更に経験値を高め、自らの課題を追求  
するために履修する授業である。  
・学校園での実践的な体験が主となる授業なので、保育職・教職に就こうとする意欲のあ  
る人が履修すること。  
・事前事後指導、合同カンファレンスなどにきちんと参加し、それぞれの学校園での保育・  
教育の様子をよく理解すること。  
・学校園の保育・教育の役に立つように、周りの状況をよく見て考え、積極的に体験する  
こと。  
※この授業のことについての相談や問い合わせ、学校園との連絡調整等は、保幼小学修支  
援センター、教職支援センターが応じてくれる。

オフィスアワー 授業の中で知らせる

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

授業予定一覧  
1 事前指導①（大学・オリエンテーション）  
2 事前指導②（連携学校園）  
3 合同カンファレンス（意義ある学びにするために、ポートフォリオの作成）  
4 ～ 15  
○連携学校園でのボランティア実習  
○ポートフォリオの作成  
○カンファレンスへの参加（大学・連携学校園）  
16 事後指導（ポートフォリオの振り返り、成果と課題）

※1期終了時に中間のカンファレンス（振り返りの会）をもつので、必ず出席すること。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

・当初のオリエンテーションの際に、それぞれの目標をもち、現時点での就業に直結した  
実践力の自己診断を行う。  
・毎回のボランティア実習が行き放しにならないよう、ポートフォリオに自身の成長と課  
題を記して、教職支援センターに報告すること。（マナビフォリオの利用も可）  
・中間のカンファレンスで、自己の目標の達成状況や実践力の成長を確かめて、新たな課  
題を見出す。  
・事後指導で、一年間のボランティア実習を振り返り、「できるようになったこと」と「達  
成できていないこと」を明らかにして、次年度に向けての目標を設定する。  
※このように、単にボランティア実習に出かけるだけでなく、常に自分の取り組みを振り  
返って、次につながる課題を設定していくことを求める。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

保育・教育インターンシップⅠ

〔担 当 者〕赤木 雅宣 他 14 名  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕実習 〔単位〕1  
〔科目ナンバリング〕330B1-3400-o1

●本授業の概要：

保育職・教職を目指す学生の資質向上を図り、就業力を高めていくことを目的とする。  
教育実習を補充し発展させる実習である。  
本学附属学校園及び岡山・倉敷市内の学校園に出向いて実体験（インターンシップ）を  
行うことが主となる。自ら立案計画してインターンシップを実践し、その成果を大学に戻  
ってまとめたり、カンファレンスを通して指導観を高めたり、同じ志をもつ仲間と情報を共  
有したりすることで、コミュニケーション力、コーディネート力、プレゼンテーション力、  
マネージメント力（ＣＣＰＭ力）を育成する。

●到達目標：

・学校園現場の多様な指導を体験することで、それぞれの場に合った指導のあり方を考察  
することができる。  
・学校園の現場で体験したことを各自でポートフォリオにまとめ、指導体験を集積してい  
くことができる。  
・カンファレンスを通して体験を自己評価したり、体験を通して得た実践的な情報を仲間  
と共有したりすることができる。  
・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明  
らかにして、自分自身の今後の課題（取り組むべきこと）を見出すことができる。

●成績評価の基準：

成績評価の基準  
・実体験（インターンシップ）への参加の様子 40%程度  
・参加記録の集積（ポートフォリオ） 20%程度  
・カンファレンスへの参加やそこの様子 20%程度  
・レポート 20%程度  
などを参考に、総合的に評価する。

●留意事項：

留意事項  
・「保育・教育基礎実習Ⅰ」を履修し単位修得してからの履修が望ましい。  
・保育職・教職に就こうとする意欲がある人が履修すること。  
・発展実習の性格をもつので、週1回程度以上の継続的な実体験（インターンシップ）に  
することが望ましい。  
・カンファレンスの機会を積極的に活用し、自らの保育観・教育観を高めることに活用す  
ること。  
※この授業のことについての相談や問い合わせ、学校園との連絡調整等は、教職支援セン  
ターが応じてくれる。

オフィスアワー 授業の中で知らせる

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

授業予定一覧  
1 事前指導①（大学・オリエンテーション）  
2 事前指導②（連携学校園）  
3 事前指導③（ポートフォリオの作成の方策）  
4 ～ 15  
○連携学校園でのインターンシップ  
○実体験の振り返りとポートフォリオ作成（大学・自宅）  
○カンファレンスへの参加（大学・連携学校園）  
16 事後指導（ポートフォリオの振り返り、成果と課題）

※1期終了時に中間のカンファレンス（振り返りの会）をもつので、必ず出席すること。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

・当初のオリエンテーションの際に、それぞれの目標をもち、現時点での就業に直結した  
実践力の自己診断を行う。  
・毎回のボランティア実習が行き放しにならないよう、ポートフォリオに自身の成長と課  
題を記して、教職支援センターに報告すること。（マナビフォリオの利用も可）  
・中間のカンファレンスで、自己の目標の達成状況や実践力の成長を確かめて、新たな課  
題を見出す。  
・事後指導で、一年間のボランティア実習を振り返り、「できるようになったこと」と「達  
成できていないこと」を明らかにして、次年度に向けての目標を設定する。  
※このように、単にボランティア実習に出かけるだけでなく、常に自分の取り組みを振り  
返って、次につながる課題を設定していくことを求める。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】



## 保育・教育インターンシップⅡ

〔担 当 者〕赤木 雅宣 他 14 名  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕実習 〔単位〕1  
〔科目ナンバリング〕330B1-4000-o1

## ●本授業の概要：

保育職・教職を目指す学生の資質向上を図り、就業力を高めていくことを目的とする。原則として、教育実習後の段階の発展実習である。

本学附属学校園及び岡山・倉敷市内の学校園に向いて実体験（インターンシップ）を行うことが主となる。自ら立案計画してインターンシップを実践し、その成果を大学に戻ってまとめたり、カンファレンスを通して指導観を高めたり、同じ志をもつ仲間と情報を共有したりすることで、コミュニケーション力、コーディネート力、プレゼンテーション力、マネジメント力（CCPM力）を育成する。

## ●到達目標：

・学校園現場の多様な指導を体験することで、それぞれの場に合った指導のあり方を考察することができる。  
・学校園の現場で体験したことを各自でポートフォリオにまとめ、指導体験を集積していくことができる。  
・カンファレンスを通して体験を自己評価したり、体験を通して得た実践的な情報を仲間と共有したりすることができる。  
・事前事後指導、合同カンファレンス等に参加し、ボランティア実習の成果と課題を明らかにして、学校園の現場に出てからの自分自身の課題（取り組むべきこと）を見出すことができる。

## ●成績評価の基準：

成績評価の基準

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| ・実体験（インターンシップ）への参加の様子 | 40％程度 |
| ・参加記録の集積（ポートフォリオ）     | 20％程度 |
| ・カンファレンスへの参加やそこの様子    | 20％程度 |
| ・レポート                 | 20％程度 |

などを参考に、総合的に評価する。

## ●留意事項：

留意事項

・「保育・教育基礎実習」や「保育・教育インターンシップⅠ」を履修し単位修得してからの履修が望ましい。  
・保育職・教職に就こうとする意欲がある人が履修すること。  
・発展実習の性格をもつので、週1回程度以上の継続的な実体験（インターンシップ）にすることが望ましい。  
・カンファレンスの機会を積極的に活用し、自らの保育観・教育観を高めることに活用すること。

※この授業のことについての相談や問い合わせ、学校園との連絡調整等は、保幼小学校支援センター、教職支援センターが応じてくれる。

オフィスアワー 授業の中で知らせる

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

授業予定一覧

1 事前指導①（大学・オリエンテーション）  
2 事前指導②（連携学校園）  
3 事前指導③（ポートフォリオの作成の方策）  
4 ～ 15  
○連携学校園でのインターンシップ  
○実体験の振り返りとポートフォリオ作成（大学・自宅）  
○カンファレンスへの参加（大学・連携学校園）  
16 事後指導（ポートフォリオの振り返り、成果と課題）

※1期終了時に中間のカンファレンス（振り返りの会）をもつので、必ず出席すること。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

・当初のオリエンテーションの際に、それぞれの目標をもち、現時点での就業に直結した実践力の自己診断を行う。  
・毎回のボランティア実習が行き放しにならないよう、ポートフォリオに自身の成長と課題を記して、教職支援センターに報告すること。（マナパフォリオの利用可）  
・中間のカンファレンスで、自己の目標の達成状況や実践力の成長を確かめて、新たな課題を見出す。  
・事後指導で、一年間のボランティア実習を振り返り、「できるようになったこと」と「達成できていないこと」を明らかにして、4月から（学校園現場に出てから）の目標を設定する。「達成できていないこと」については、その改善策を見出す。  
※このように、単にボランティア実習に出かけるだけでなく、常に自分の取り組みを振り返って、次につながる課題を設定し、実践力をつけていくことを求める。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 卒業論文

〔担 当 者〕片山 裕之 他 22 名  
〔開 講 期〕'18-1 期～'19-2 期  
〔授 業 形 態〕演習・実技 〔単位〕6  
〔科目ナンバリング〕330B1-3400-o6

## ●本授業の概要：

担当教員の指導を踏まえて、論文または作品制作、演奏をおこなう。

## ●到達目標：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、心理学、治療教育学・児童福祉学、教育学、文化学、美術、音楽の諸研究領域のなかから研究主題を見出し、研究し、論文（作品、演奏）にまとめる。また、これを発表会において発表する。

## ●成績評価の基準：

研究内容（実証性、論理性、独創性、構成力、表現力等）、研究態度（授業への参加、演習内容等）、発表会での発表等の結果に基づいて評価する。

## ●留意事項：

研究領域によってそれぞれ、卒業論文の履修以前に履修しておくことが望ましい授業科目があるので、各学年の年度始めのオリエンテーション、履修指導等に留意すること。

毎年2月中旬には卒業論文抄録集がまとめられるので、履修以前の学年においてもこれを購入し、関心のある研究領域、あるいは関連領域の発表会に参加するなどして、準備をしておくことが望ましい。

オフィスアワー 授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

様々な専門分野の経験を生かし、論文指導、作品指導、演奏指導にあたる。卒論を通して豊かな感性、知性、技能を育てる。

## ●授業予定一覧：

2年次

12月 卒業論文オリエンテーション

2月 卒業論文発表会（3領域以上）参加  
「児童学演習」（研究領域）希望届提出（合研）

3年次

4月 所属する演習（研究領域）決定（学科掲示板）  
卒業論文 履修登録

7月 卒業論文研究主題案の提出（各演習内で指示）  
所属ゼミ（指導教員）決定（学科掲示板）

4年次

5月 卒業論文題目届提出（合研）

1月 卒業論文提出（教務係）  
副本・抄録集原稿提出（合研）

2月 卒業論文発表会（演奏会、制作展）で発表

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業計画に従った円滑な講義を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、授業中に通知する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 卒業論文

[担 当 者] 片山 裕之 他 22 名  
 [開 講 期] '19-1 期～'20-2 期  
 [授 業 形 態] 演習・実技 [単位] 6  
 [科目ナンバリング] 330B1-3400-o6

## ●本授業の概要：

担当教員の指導を踏まえて，論文または作品制作，演奏をおこなう。

## ●到達目標：

大学における4年間の学業生活の最終的な成果として，心理学，治療教育学・児童福祉学，教育学，文化学，美術，音楽の諸研究領域のなかから研究主題を見出し，研究し，論文（作品，演奏）にまとめる。また，これを発表会において発表する。

## ●成績評価の基準：

研究内容（実証性，論理性，独創性，構成力，表現力等），研究態度（授業への参加，演習内容等），発表会での発表等の結果に基づいて評価する。

## ●留意事項：

研究領域によってそれぞれ，卒業論文の履修以前に履修しておくことが望ましい授業科目があるので，各学年の年度始めのオリエンテーション，履修指導等に留意すること。

毎年2月中旬には卒業論文抄録集がまとめられるので，履修以前の学年においてもこれを購入し，関心のある研究領域，あるいは関連領域の発表会に参加するなどして，準備をしておくことが望ましい。

オフィスアワー 授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

様々な専門分野を生かし，論文指導，作品指導，演奏指導にあたる。卒論を通して，豊かな感性，知性，技能を育てる。

## ●授業予定一覧：

2年次

12月 卒業論文オリエンテーション

2月 卒業論文発表会（3 領域以上）参加  
 「児童学演習」（研究領域）希望届提出（合研）

3年次

4月 所属する演習（研究領域）決定（学科掲示板）  
 卒業論文 履修登録

7月 卒業論文研究主題案の提出（各演習内で指示）  
 所属ゼミ（指導教員）決定（学科掲示板）

4年次

5月 卒業論文題目届提出（合研）

1月 卒業論文提出（教務係）  
 副本・抄録集原稿提出（合研）

2月 卒業論文発表会（演奏会，制作展）で発表

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業計画に従った円滑な講義を可能にするために，十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は，授業中に通知する。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

児童学科「卒業論文抄録集」

児童学科「アカデミック・ラーニング」